志木市の文化財　第55集

西原大塚遺跡第174①地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１３

埼玉県志木市教育委員会

遺跡全景（南東より）

調査区全景

は　じ　め　に

志木市教育委員会
教育長　尾崎　健市

ここに刊行する『西原大塚遺跡第 174 ①地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、平成 23 年度に受託事業として、教育委員会が発掘調査を実施した成果をまとめたものです。

西原大塚遺跡については、今までの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時代にわたる複合遺跡であることが判明しています。

特に、縄文時代中期の住居跡が 180 軒以上、また弥生時代後期から古墳時代の住居跡が 590 軒以上も見つかっており、それぞれの時代の拠点的集落であったことがわかっています。

さて、今回報告する第 174 ①地点の調査内容ですが、縄文時代中期の住居跡 10 軒、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡 4 軒などが見つかりました。

特に、縄文時代の第 174 号住居跡は、その構造もさることながら、遺物出土状態や土層堆積状況と相俟って、住居の建替や拡張など、当時の人々の具体的な活動を知るための良好な資料を呈示しています。また、今回の調査範囲は縄文時代に営まれた集落の居住域と墓域の境目に位置していたことが判明し、当時のムラの様子を知る上で重要な手掛かりを得ることができました。

このような貴重な成果が得られ、志木市の歴史にまた新たな 1 ページを追加することができました。今後もこうした新発見が、郷土の歴史研究に、ひいては幅広い学術研究に役立てられることを切に願うものです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた土木工事主体者並びに土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

例　　言

1．本書は、平成23年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する西原大塚遺跡第174①地点の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、宅地造成工事に伴う記録保存のための発掘調査として、工事主体者である個人から委託を受け、志木市教育委員会が調査主体者として実施した。

3．発掘作業・整理作業・報告書刊行作業について、有限会社アルケーリサーチ（取締役　藤波　啓容）に支援業務を委託した。

4．本書の作成にあたり、尾形則敏・徳留彰紀が監修し、編集は藤波啓容・中村真理・松木綾子（有限会社アルケーリサーチ）が行った。執筆は下記のとおりに行った。

尾形則敏　第1章第1節
徳留彰紀　第1章第2節、第2章第1節、第4章第1節
松原賢治・伊庭彰一　第2章第2節
松木綾子　第3章、第4章第2節

5．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。

6．調査組織

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	白砂正明（平成20年4月～平成24年6月）
	尾崎健市（平成24年7月～）
教育政策部長	丸山秀幸（平成24年4月～平成24年6月）
教育政策部次長	丸山秀幸（平成23年4月～平成24年3月）
	菊原龍治（平成24年6月～）
生涯学習課長	土岐隆一（平成21年4月～平成24年3月）
	谷口　敬（平成24年4月～）
生涯学習課副課長	松井俊之（平成24年4月～）
生涯学習課主幹	松井俊之（平成23年1月～平成24年3月）
生涯学習課主査	尾形則敏（平成21年4月～）
〃	武井香代子（平成24年4月～）
生涯学習課主任	松永真知子（平成18年4月～）
〃	武井香代子（平成22年4月～平成24年3月）
生涯学習課主事	徳留彰紀（平成22年4月～）
生涯学習課主事補	大久保聡（平成24年4月～）
志木市文化財保護審議会	神山健吉・井上國夫・高橋長次・高橋　豊・内田正子・深瀬　克・上野守嘉

7．発掘作業及び整理作業・報告書刊行作業参加者

○発掘作業

調査担当者	尾形則敏・徳留彰紀
調査員	藤波啓容・伊庭彰一・松原賢治

作　　業　　員　　本山直子・松本雄三・中島良太・本山真一・須賀きみ子・細田昭彦・中山弘人・野村雅美・結城　真・宮本和野・清水広幸・藤代聖一・冨沢　由・内木小夜子・松澤　匡・万場　博・高森裕一・岩下啓祐・柏原康晴・酒井真之

○整理作業・報告書刊行作業

監　　修　　尾形則敏・徳留彰紀

編　　集　　藤波啓容・中村真理・松木綾子

作　　業　　員　　岩澤朋子・大賀秀実・加藤夏姫・小林佐恵子・田中　歩・田村久美子・中村いわね・中村智美・沼田厚子・長谷川大輔・本望礼子・松本和延・三上加奈子

8．発掘作業及び整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立埋蔵文化財センター・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

赤塚次郎・五十嵐睦・石川日出志・今福利恵・江原　順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・斉藤　純・齋藤欣延・佐野　隆・斯波　治・渋谷寛子・鈴木一郎・照林敏郎・時枝　努・野沢　均・橋本真紀夫・早坂廣人・堀　善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本典幸・山本　龍・和田晋治・綿田弘実・渡辺邦仁

9．本報告に係る文化財保護法に基づく各種通知については下記のとおりである。

○埋蔵文化財発掘調査の通知について／平成23年9月30日付　志教生学第325号

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）／平成23年11月8日付け　教生文第5－810号

○埋蔵物の文化財認定について／平成24年2月27日付け　教生文第7－290号

凡　　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図　　1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第2図　　1：2,500　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成15年8月発行　株式会社ゼンリン

2．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

3．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

4．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。遺物番号に不連続部分があるが、添付ディスク内のデータベースにのみ掲載している遺物に割り振られている。

5．遺構の略記号は、以下のとおりである。

Ｊ＝縄文時代住居跡　Ｙ＝弥生時代後期末葉～古墳時代前期の住居跡　Ｄ＝土坑　Ｐ＝ピット

6．本文中の記述「打製石斧系」や「剥片石器系」といった記載は、大まかな石材を表している。これによって「剥片」などの器種がどの種類の石器生産に関わるものであるかを区別する役割をもたせている。これらの細かな石材に関しては表「出土石器一覧」を参照されたい。

目　次

はじめに
例　言
凡　例
目　次
挿図目次
表 目 次
第１章　遺跡の立地と環境…… 1
　第１節　市域の地形と遺跡…… 1
　（１）地理的環境と遺跡分布 …… 1
　（２）歴史的環境 …… 3
　第２節　遺跡の概要…… 8
第２章　発掘調査の概要……12
　第１節　調査に至る経緯……12
　第２節　調査の方法と経過……13
第３章　検出された遺構と遺物……16
　第１節　縄文時代……16
　（１）概　要 ……17
　（２）住居跡 ……17
　（３）土　坑 …… 118
　（４）炉　跡 …… 141
　（５）ピット …… 143
　第２節　弥生時代後期から古墳時代前期…… 184
　（１）概　要 …… 184
　（２）住居跡 …… 185
　第３節　遺構外出土遺物…… 204
　（１）縄文時代遺物 …… 204
　（２）弥生時代後期から古墳時代前期遺物 …… 204
　（３）時期不明遺物 …… 204
第４章　調査のまとめ…… 213
　第１節　縄文時代中期の住居跡について…… 213
　第２節　174 号住居跡の遺物出土状態について　…… 215
参考文献…… 217
付編 西原大塚遺跡 174 ①地点 174 号住居跡出土骨の同定…… 221
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）…… 2
第 2 図　西原大塚遺跡の調査地点　(1／5,000)…… 9
第 3 図　確認調査時の遺構分布（1／500）…… 12
第 4 図　調査区位置図（1／500）…… 12
第 5 図　遺構分布図（1／300）…… 15
第 6 図　縄文時代遺構分布図（1／300）…… 16
第 7 図　90 号住居跡（1／60）…… 18
第 8 図　90 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 18
第 9 図　90 号住居跡土器出土状態（1／60）…… 18
第 10 図　90 号住居跡石器出土状態（1／60）…… 18
第 11 図　90 号住居跡出土遺物 1（1／3）…… 19
第 12 図　90 号住居跡出土遺物 2（1／3）…… 20
第 13 図　174 号住居跡 1（1／60）…… 21
第 14 図　174 号住居跡 2（1／60）…… 22
第 15 図　174 号住居跡 3（1／60）…… 23
第 16 図　174 号住居跡 4（1／60）…… 24
第 17 図　174 号住居跡炉（1／30）…… 25
第 18 図　174 号住居跡埋甕（1／30）…… 27
第 19 図　174 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 28
第 20 図　174 号住居跡土器出土状態 1（1／60）…… 29
第 21 図　174 号住居跡土器出土状態 2（1／60）…… 30
第 22 図　174 号住居跡土器出土状態 3（1／60）…… 31
第 23 図　174 号住居跡土器出土状態 4（1／60）…… 32
第 24 図　174 号住居跡土器出土状態 5（1／60）…… 33
第 25 図　174 号住居跡土製品出土状態（1／60）…… 34
第 26 図　174 号住居跡石器出土状態 1（1／60）…… 35
第 27 図　174 号住居跡石器出土状態 2（1／60）…… 36
第 28 図　174 号住居跡変遷図 1（1／120・1／60）…… 37
第 29 図　174 号住居跡変遷図 2（1／120・1／60）…… 38
第 30 図　174 号住居跡出土土器 1（1／3）…… 39
第 31 図　174 号住居跡出土土器 2（1／3）…… 40
第 32 図　174 号住居跡出土土器 3（1／3）…… 41
第 33 図　174 号住居跡出土土器 4（1／4・1／3）…… 42
第 34 図　174 号住居跡出土土器 5（1／4・1／3）…… 43
第 35 図　174 号住居跡出土土器 6（1／4・1／3）…… 44
第 36 図　174 号住居跡出土土器 7（1／3）…… 45
第 37 図　174 号住居跡出土土器 8（1／3）…… 46
第 38 図　174 号住居跡出土土器 9（1／4・1／3）…… 47
第 39 図　174 号住居跡出土土器 10（1／4・1／3）…… 48
第 40 図　174 号住居跡出土土器 11（1／3）…… 49

第 41 図　174 号住居跡出土土器 12（1／4・1／3）…… 50
第 42 図　174 号住居跡出土土器 13（1／3）…… 51
第 43 図　174 号住居跡出土土器 14（1／4・1／3）…… 52
第 44 図　174 号住居跡出土土器 15（1／4・1／3）…… 53
第 45 図　174 号住居跡出土土器 16（1／3）…… 54
第 46 図　174 号住居跡出土土器 17（1／4・1／3）…… 55
第 47 図　174 号住居跡出土土器 18（1／4・1／3）…… 56
第 48 図　174 号住居跡出土土器 19（1／3）…… 57
第 49 図　174 号住居跡出土土器 20（1／4・1／3）…… 58
第 50 図　174 号住居跡出土土器 21（1／4・1／3）…… 59
第 51 図　174 号住居跡出土土器 22（1／4）…… 60
第 52 図　174 号住居跡出土土器 23（1／4・1／3）…… 61
第 53 図　174 号住居跡出土土器 24（1／4・1／3）…… 62
第 54 図　174 号住居跡出土土器 25（1／3）…… 63
第 55 図　174 号住居跡出土土製品（1／3）…… 64
第 56 図　174 号住居跡出土石器 1（1／3・2／3）…… 65
第 57 図　174 号住居跡出土石器 2（1／3）…… 66
第 58 図　174 号住居跡出土石器 3（1／3）…… 67
第 59 図　174 号住居跡出土石器 4（1／3）…… 68
第 60 図　174 号住居跡出土石器 5（1／3）…… 69
第 61 図　175 号住居跡（1／60）…… 70
第 62 図　176 号住居跡 1（1／60）…… 71
第 63 図　176 号住居跡 2（1／60）…… 72
第 64 図　176 号住居跡 3（1／60）…… 73
第 65 図　176 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 74
第 66 図　176 号住居跡土器出土状態（1／60）…… 74
第 67 図　176 号住居跡石器出土状態（1／60）…… 75
第 68 図　176 号住居跡変遷図（1／120・1／60）…… 75
第 69 図　176 号住居跡出土遺物（1／3・2／3）…… 76
第 70 図　177 号住居跡 1（1／60）…… 78
第 71 図　177 号住居跡 2（1／60）…… 79
第 72 図　177 号住居跡炉（1／30）…… 81
第 73 図　177 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 81
第 74 図　177 号住居跡土器出土状態（1／60）…… 83
第 75 図　177 号住居跡石器出土状態（1／60）…… 84
第 76 図　177 号住居跡出土遺物 1（1／4・1／3）…… 85
第 77 図　177 号住居跡出土遺物 2（1／4・1／3）…… 86
第 78 図　177 号住居跡出土遺物 3（1／3・2／3）…… 87
第 79 図　178 号住居跡 1（1／60）…… 88
第 80 図　178 号住居跡 2（1／60）…… 89
第 81 図　178 号住居跡炉・P9（埋甕？）（1／30）…… 91
第 82 図　178 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 92
第 83 図　178 号住居跡土器出土状態（1／60）…… 93

第 84 図　178 号住居跡石器出土状態（1 ／ 60）…… 93
第 85 図　178 号住居跡変遷図（1 ／ 60）…… 94
第 86 図　178 号住居跡出土遺物 1 （1 ／ 3）…… 94
第 87 図　178 号住居跡出土遺物 2 （1 ／ 4）…… 95
第 88 図　178 号住居跡出土遺物 3 （1 ／ 4 ・ 1 ／ 3）…… 96
第 89 図　178 号住居跡出土遺物 4 （1 ／ 4 ・ 1 ／ 3）…… 97
第 90 図　178 号住居跡出土遺物 5 （1 ／ 4 ・ 1 ／ 3 ・ 2 ／ 3）…… 98
第 91 図　179 号住居跡 1 （1 ／ 60）…… 99
第 92 図　179 号住居跡 2 （1 ／ 60）…… 100
第 93 図　179 号住居跡炉（1 ／ 30）…… 101
第 94 図　179 号住居跡遺物出土状態（1 ／ 60）…… 102
第 95 図　179 号住居跡土器出土状態（1 ／ 60）…… 103
第 96 図　179 号住居跡石器出土状態（1 ／ 60）…… 104
第 97 図　179 号住居跡出土遺物 1 （1 ／ 3）…… 104
第 98 図　179 号住居跡出土遺物 2 （1 ／ 3 ・ 2 ／ 3）…… 105
第 99 図　180 号住居跡（1 /60）…… 106
第100 図　180 号住居跡炉（P 4）（1 ／ 30）…… 107
第101 図　180 号住居跡遺物出土状態（1 /60）…… 108
第102 図　180 号住居跡土器出土状態（1 /60）…… 108
第103 図　180 号住居跡石器出土状態（1 /60）…… 109
第104 図　180 号住居跡出土遺物 1 （1 ／ 4 ・ 1 ／ 3）…… 109
第105 図　180 号住居跡出土遺物 2 （1 ／ 4 ・ 1 ／ 3）…… 110
第106 図　181 号住居跡 1 （1 ／ 60）…… 111
第107 図　181 号住居跡 2 （1 ／ 60）…… 112
第108 図　181 号住居跡遺物出土状態（1 ／ 60）…… 113
第109 図　181 号住居跡土器出土状態（1 ／ 60）…… 113
第110 図　181 号住居跡石器出土状態（1 ／ 60）…… 114
第111 図　181 号住居跡出土遺物 1 （1 ／ 3）…… 114
第112 図　181 号住居跡出土遺物 2 （2 ／ 3 ・ 1 ／ 3）…… 115
第113 図　182 号住居跡 1 （1 ／ 60）…… 116
第114 図　182 号住居跡 2 （1 ／ 60）…… 117
第115 図　182 号住居跡土器出土状態（1 ／ 60）…… 118
第116 図　182 号住居跡出土遺物（1 ／ 3）…… 118
第117 図　650 号土坑（1 ／ 60）…… 119
第118 図　650 号土坑出土遺物（1 ／ 3）…… 119
第119 図　651 号土坑（1 ／ 60）…… 120
第120 図　651 号土坑出土遺物（1 ／ 3）…… 120
第121 図　652 号土坑（1 ／ 60）…… 120
第122 図　652 号土坑出土遺物（1 ／ 3）…… 120
第123 図　654 号土坑（1 ／ 60）…… 121
第124 図　654 号土坑出土遺物（1 ／ 3）…… 121
第125 図　655 号土坑（1 ／ 60）…… 122
第126 図　655 号土坑出土遺物（1 ／ 3）…… 122

第127図　656号土坑（1／60）…… 122
第128図　656号土坑出土遺物（1／3）…… 122
第129図　657号土坑（1／60）…… 123
第130図　657号土坑出土遺物（1／3）…… 123
第131図　659号土坑（1／60）…… 124
第132図　659号土坑出土遺物（1／3・2／3）…… 124
第133図　660・669号土坑（1／60）…… 125
第134図　660号土坑出土遺物（1／3）…… 125
第135図　669号土坑出土遺物（1／3）…… 125
第136図　665号土坑（1／60）…… 126
第137図　665号土坑出土遺物（1／3）…… 126
第138図　667号土坑（1／60）…… 127
第139図　667号土坑出土遺物（1／3）…… 127
第140図　668号土坑（1／60）…… 128
第141図　668号土坑出土遺物（1／3）…… 128
第142図　670・671号土坑（1／60）…… 129
第143図　670号土坑出土遺物（1／3）…… 129
第144図　671号土坑出土遺物（1／3）…… 129
第145図　672号土坑（1／60）…… 130
第146図　672号土坑出土遺物（1／3）…… 130
第147図　673号土坑（1／60）…… 131
第148図　673号土坑出土遺物（1／3）…… 131
第149図　674・693号土坑（1／60）…… 132
第150図　674号土坑出土遺物（1／3）…… 132
第151図　693号土坑出土遺物1（1／3）…… 132
第152図　693号土坑出土遺物2（1／3）…… 133
第153図　675号土坑（1／60）…… 133
第154図　675号土坑出土遺物（1／3）…… 133
第155図　676号土坑（1／60）…… 134
第156図　676号土坑出土遺物（1／3）…… 134
第157図　678号土坑（1／60）…… 135
第158図　678号土坑出土遺物（1／3）…… 135
第159図　680・681号土坑（1／60）…… 135
第160図　680号土坑出土遺物（1／3）…… 136
第161図　681号土坑出土遺物（1／3）…… 136
第162図　682号土坑（1／60）…… 137
第163図　682号土坑出土遺物（1／3）…… 137
第164図　684号土坑（1／60）…… 138
第165図　684号土坑出土遺物（1／3）…… 138
第166図　686号土坑（1／60）…… 138
第167図　686号土坑出土遺物（1／3）…… 138
第168図　687号土坑（1／60）…… 139
第169図　687号土坑出土遺物（1／3）…… 139

第170図　690号土坑（1／60）…… 140
第171図　690号土坑出土遺物（1／3）…… 140
第172図　691号土坑（1／60）…… 141
第173図　691号土坑出土遺物（1／3）…… 141
第174図　1号炉跡（1／30）…… 141
第175図　2号炉跡（1／30）…… 142
第176図　43号ピット（1／60）…… 143
第177図　43号ピット出土遺物（1／3）…… 143
第178図　55号ピット（1／60）…… 143
第179図　55号ピット出土遺物（1／3）…… 143
第180図　56・57号ピット（1／60）…… 144
第181図　56・57号ピット出土遺物（1／3）…… 144
第182図　69号ピット（1／60）…… 145
第183図　69号ピット出土遺物（1／3）…… 145
第184図　71号ピット（1／60）…… 145
第185図　71号ピット出土遺物（1／3）…… 145
第186図　87号ピット（1／60）…… 146
第187図　87号ピット出土遺物（2／3）…… 146
第188図　89号ピット（1／60）…… 146
第189図　89号ピット出土遺物（1／3）…… 146
第190図　98号ピット（1／60）…… 147
第191図　98号ピット出土遺物（1／3）…… 147
第192図　99号ピット（1／60）…… 147
第193図　99号ピット出土遺物（1／3）…… 148
第194図　102号ピット（1／60）…… 148
第195図　102号ピット出土遺物（1／3）…… 148
第196図　104・105号ピット（1／60）…… 149
第197図　104号ピット出土遺物（1／3）…… 149
第198図　105号ピット出土遺物（1／3）…… 149
第199図　106号ピット（1／60）…… 149
第200図　106号ピット出土遺物（1／3）…… 150
第201図　109号ピット（1／60）…… 150
第202図　109号ピット出土遺物（1／3）…… 150
第203図　弥生時代後期から古墳時代前期遺構分布図（1／300）…… 184
第204図　566号住居跡1（1／60）…… 185
第205図　566号住居跡2（1／60）…… 186
第206図　566号住居跡炉・貯蔵穴（1／30）…… 186
第207図　566号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 187
第208図　566号住居跡出土土器1（1／4・1／3）…… 191
第209図　566号住居跡出土土器2（1／4・1／3）…… 192
第210図　567号住居跡1・遺物出土状態（1／60）…… 193
第211図　567号住居跡2（1／60）…… 194
第212図　567号住居跡炉・貯蔵穴（1／30）…… 194

第213図　567号住居跡出土土器（1／3）…… 196
第214図　568・569号住居跡（1／60）…… 197
第215図　568・569号住居跡炉・遺物出土状態（1／60）…… 198
第216図　568号住居跡出土土器（1／4・1／3）…… 201
第217図　569号住居跡出土土器（1／3）…… 201
第218図　遺構外出土遺物1（1／3）…… 204
第219図　遺構外出土遺物2（1／3）…… 205
第220図　遺構外出土遺物3（1／1・1／3）…… 206
第221図　遺構外出土遺物4（1／2・1／3）…… 207
第222図　遺構外出土遺物5（1／1・1／3）…… 208
第223図　住居跡の層位的関係 …… 214
第224図　時期別住居跡・土器一覧 …… 214
第225図　174号住居跡セクション模式図 …… 216

表　目　次

第 1 表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第 2 表　西原大塚遺跡発掘調査一覧 …… 10
第 3 表　西原大塚遺跡発掘調査報告書一覧 …… 11
第 4 表　西原大塚遺跡第174①地点発掘調査工程表 …… 14
第 5 表　土坑一覧表 …… 151
第 6 表　ピット一覧表（1）…… 151
第 7 表　ピット一覧表（2）…… 152
第 8 表　ピット一覧表（3）…… 153
第 9 表　90号住居跡出土土器一覧 …… 153
第 10 表　174号住居跡出土土器一覧（1）…… 153
第 11 表　174号住居跡出土土器一覧（2）…… 154
第 12 表　174号住居跡出土土器一覧（3）…… 155
第 13 表　174号住居跡出土土器一覧（4）…… 156
第 14 表　174号住居跡出土土器一覧（5）…… 157
第 15 表　174号住居跡出土土器一覧（6）…… 158
第 16 表　174号住居跡出土土器一覧（7）…… 159
第 17 表　174号住居跡出土土器一覧（8）…… 160
第 18 表　174号住居跡出土土器一覧（9）…… 161
第 19 表　174号住居跡出土土器一覧（10）…… 162
第 20 表　174号住居跡出土土器一覧（11）…… 163
第 21 表　174号住居跡出土土器一覧（12）…… 164
第 22 表　174号住居跡出土土器一覧（13）…… 165
第 23 表　174号住居跡出土土器一覧（14）…… 166
第 24 表　174号住居跡出土土器一覧（15）…… 167
第 25 表　174号住居跡出土土器一覧（16）…… 168

第 26 表　176 号住居跡出土土器一覧 …… 168
第 27 表　177 号住居跡出土土器一覧（1）…… 169
第 28 表　177 号住居跡出土土器一覧（2）…… 170
第 29 表　178 号住居跡出土土器一覧（1）…… 170
第 30 表　178 号住居跡出土土器一覧（2）…… 171
第 31 表　179 号住居跡出土土器一覧（1）…… 171
第 32 表　179 号住居跡出土土器一覧（2）…… 172
第 33 表　180 号住居跡出土土器一覧（1）…… 172
第 34 表　180 号住居跡出土土器一覧（2）…… 173
第 35 表　181 号住居跡出土土器一覧（1）…… 173
第 36 表　181 号住居跡出土土器一覧（2）…… 174
第 37 表　182 号住居跡出土土器一覧 …… 174
第 38 表　土坑・ピット出土土器一覧（1）…… 174
第 39 表　土坑・ピット出土土器一覧（2）…… 175
第 40 表　土坑・ピット出土土器一覧（3）…… 176
第 41 表　土坑・ピット出土土器一覧（4）…… 177
第 42 表　出土土製品一覧（1）…… 177
第 43 表　出土土製品一覧（2）…… 178
第 44 表　出土石器一覧（1）…… 178
第 45 表　出土石器一覧（2）…… 179
第 46 表　出土石器一覧（3）…… 180
第 47 表　出土石器一覧（4）…… 181
第 48 表　出土石器一覧（5）…… 182
第 49 表　出土石器一覧（6）…… 183
第 50 表　566 号住居跡出土遺物一覧 …… 202
第 51 表　567 号住居跡出土遺物一覧 …… 202
第 52 表　568 号住居跡出土遺物一覧 …… 203
第 53 表　569 号住居跡出土遺物一覧 …… 203
第 54 表　遺構外出土縄文土器一覧（1）…… 209
第 55 表　遺構外出土縄文土器一覧（2）…… 210
第 56 表　遺構外出土土製品一覧 …… 211
第 57 表　遺構外出土弥生時代後期から古墳時代前期遺物一覧 …… 211
第 58 表　遺構外出土石器一覧（1）…… 211
第 59 表　遺構外出土石器一覧（2）…… 212
第 60 表　遺構外出土不明金属製品一覧 …… 212

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりをもち、面積は 9.06 ㎢、人口約７万２千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚（にしはらおおつか）遺跡（７）、新邸（あらやしき）遺跡（８）、中道（なかみち）遺跡（５）、城山（しろやま）遺跡（３）、中野（なかの）遺跡（２）、市場裏（いちばうら）遺跡（15）、田子山（たごやま）遺跡（10）、富士前（ふじまえ）遺跡（11）、大原（おおはら）遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場（ばんば）遺跡（12）、宿（しゅく）遺跡（14）、

No.	遺 跡 名	遺跡の規模	地　目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中　　野	63,370　㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）,弥（後）,古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城　　山	79,280　㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中　　道	50,500　㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）,弥（後）,古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器,須恵器,陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800　㎡	林	古　墳？	古　墳？	古　墳？	なし
7	西原大塚	163,930　㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新　　邸	20,080　㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900　㎡	林	貝　塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	65,000　㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器,須恵器,陶磁器、炭化種子等
11	富士前	7,100　㎡	宅　地	集落跡	弥（後）～古（前）	住居跡	弥生土器、土師器
12	馬　　場	2,800　㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900　㎡	グランド	館　跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700　㎡	田	館　跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800　㎡	宅　地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡・方形周溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大　　原	1,700　㎡	宅　地	不　明	近世以降？	溝跡	なし
合　　計		481,860　㎡					

平成 24 年 12 月 28 日　現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

平成 24 年 12 月 28 日現在

第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）

関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した 12 遺跡に塚の山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた 14 遺跡である（第１図）。

（２）歴史的環境

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和 62（1987）年の富士見･大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部･Ⅵ層･Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２ヶ所、平成７（1995）年度には１ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成 11 ～ 14(1999 ～ 2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点からも立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約 60 点出土している。

平成 13（2001）年に発掘調査が実施された城山遺跡第 42 地点では、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２ヶ所で石器集中地点が確認され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの抉入石器・剥片など 32 点が出土している。

平成 20・21（2009・2010）年度にかけては、城山遺跡第 62 地点の発掘調査が実施され、１ヶ所の石器ブロックが検出されている。

平成 22（2010）年３月～５月にかけて発掘調査が実施された城山遺跡第 63 地点では、５ヶ所の試掘坑を設定し調査を実施したところ、立川ローム層の第Ⅵ層を中心とする３ヶ所の石器集中地点が確認され、黒曜石の二次加工剥片・石核などが 20 点ほど出土している。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期中葉から後葉の遺構が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

草創期では、平成４（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第 16 地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年に発掘調査が実施された城山遺跡第 21 地点から多縄文系土器３点、第 22 地点から爪形文系土器１点、平成 10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 51 地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、平成 18（2007）年に発掘調査が実施された中道遺跡第 65 地点で検出された早期末葉（条痕文系）の 10 号住居跡１軒があげられる。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。また、富士前･新邸･城山遺跡からは、撚糸文系土器が数点出土し、条痕文系土器は、中野・田子山遺跡では炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で黒浜式期、城山遺跡では諸磯式期の住居跡が検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡や土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点（平成 24 年１月）で 170 軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が１軒確認されるのみである。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点で検出された土坑１基があげられる。下層から称名寺Ⅰ式期の土器、上層からⅡ式の特徴をもつ土器が出土している。西原大塚遺跡第 54 地点でも２基の土坑が検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行３Ｃ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点の 21 号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が 550 軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122 号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。

昭和 62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成 15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成 18（2006）年に実施された中道遺跡第 65 地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10 号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成 11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第 45 地点では、一辺 20 mを超える市内最大規模の 17 号方形周溝墓が発見されている。この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土器をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壺が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成 15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第 37 地点 19 号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に７世紀前半から中葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、７世紀前半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、3.0×3.5 mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後半から７世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で 200 軒を越え、次いで中野遺跡で約 50 軒、中道遺跡で約 15 軒、田子山遺跡で約 10 軒、新邸遺跡で１軒を数える。

住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 24 地点から、６世紀後半以降のものと考えられる 4.1×4.7 mの不整円形で２ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。

また、平成 14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第 81 地点の調査を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約 33 mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第 35 地点の 128 号住居跡から､印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例で貴重な資料である。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。最新では、平成 20 ～ 21（2008 ～ 2009）年の城山遺跡第 62 地点の調査により、平安時代の住居跡から皇朝十二銭の一つである「富壽神寶（ふじゅしんぽう）」が２枚出土しており、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第 24 地点から、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして 100 基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施

された第 31 地点の 44 号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群の前内出製品と鳩山製品の須恵器坏が 1 点ずつ出土し、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

6．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。

城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記』（註 1）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。最新では、『廻国雑記』（註 2）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

また、平成 7（1995）年に発掘調査が実施された第 29 地点の 127 号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成 8（1996）年度に発掘調査が実施された第 35 地点では、鋳造関連の遺構も検出されている。130 号土坑については鋳造遺構、134 号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。また平成 13（2001）年度の第 42 地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234 号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。戦国期の資料としては、平成 6（1994）年度に発掘調査が実施された第 21 地点から、当市では初めて、鎧の札である鉄製品 1 点と鉄鏃 1 点が出土している。出土した遺構は、19 世紀前半の 86 号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成 11 ～ 14（1999 ～ 2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点からは、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した 67 号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『舘村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和 62（1987）年の第 2 地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成 7（1995）年の中道遺跡第 37 地点からは、人骨と古銭 5 枚を出土した土坑墓 1 基と 13 世紀に比定される青磁盤 1 点を出土した道路状遺構 1 条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和 60（1985）年の第 1 地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成 15（2003）年の新邸遺跡第 8 地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓 2 基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『舘村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」関連遺構として、今後は体系的な究明が必要とされるであろう。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成 15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土している。

［註］

註１　『舘村旧記』は、舘村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒（なぬしみやはらなかえもんなかつね）が、享保 12 ～ 14（1727 ～ 1729）年にかけて執筆したものである。

註２　『廻国雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明 18 年（1486）６月から 10 ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1988　「廻国雑記」に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号
2002　「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第 31 号

第２節　遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町二～四丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西約１km に位置している。北東―南西方向に約 700m、北西―南東方向に約 150m の広がりをもち、遺跡面積 163,930 ㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は 10 ～ 18m と遺跡内で８m の比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高 14 ～ 16m に位置しており、概ね平坦である。遺跡西側中央、台地から低地へうつる斜面に湧水点が確認されており、そこを中心に括れている。

昭和 48 年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元年から平成 19 年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。また、近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。平成 25 年１月現在で、調査地点 189、面積約 53,000 ㎡（遺跡全体の約３割）に対して確認調査・発掘調査を実施している（第２図）。本遺跡で実施された調査地点のうち、発掘調査報告書が刊行された調査地点の概要を第２表に、本遺跡の発掘調査に係る文献については、第３表に示した。以下に平成 25 年１月現在の検出された遺構・遺物の概要について示す。

旧石器時代では、石器集中地点が 14 ヵ所確認されている。これまでにナイフ形石器 12 点、尖頭器３点、錘状石器１点、掻器１点、石核８点、剥片 149 点、砕片 349 点、礫 306 点が出土している。第５号石器集中地点で安山岩製のナイフ形石器が立川ロームⅧ層上部から出土している他は、Ⅲ層～Ⅴ層上部からの出土が大半を占める。また、第８･10･11Ａ･12 号石器集中地点では礫群が検出されている。

縄文時代草創期では、表面採集で長さ 11.9 ㎝の両面調整石器１点が確認されている。早期では、条痕文系土器を伴う炉穴 15 基が遺跡北西隅を中心に検出されている。前期では、黒浜式期の住居跡２軒、諸磯ｃ式期の土坑１基が遺跡南西隅に分布している。中期では、遺構数が増大し、勝坂式期から加曽利Ｅ式期の住居跡 181 軒が環状集落を形成している。後期では、堀之内式期の住居跡１軒、加曽利Ｂ式期の住居跡１軒が遺跡南西隅に検出されている。晩期では、遺構外遺物として安行３式土器が遺跡北西隅で出土しているが、遺構は検出されていない。遺物では、50 号住居跡出土の硬玉製大珠（文献№23）、108 号住居跡出土の顔面把手付土器（未報告）などが特筆される。

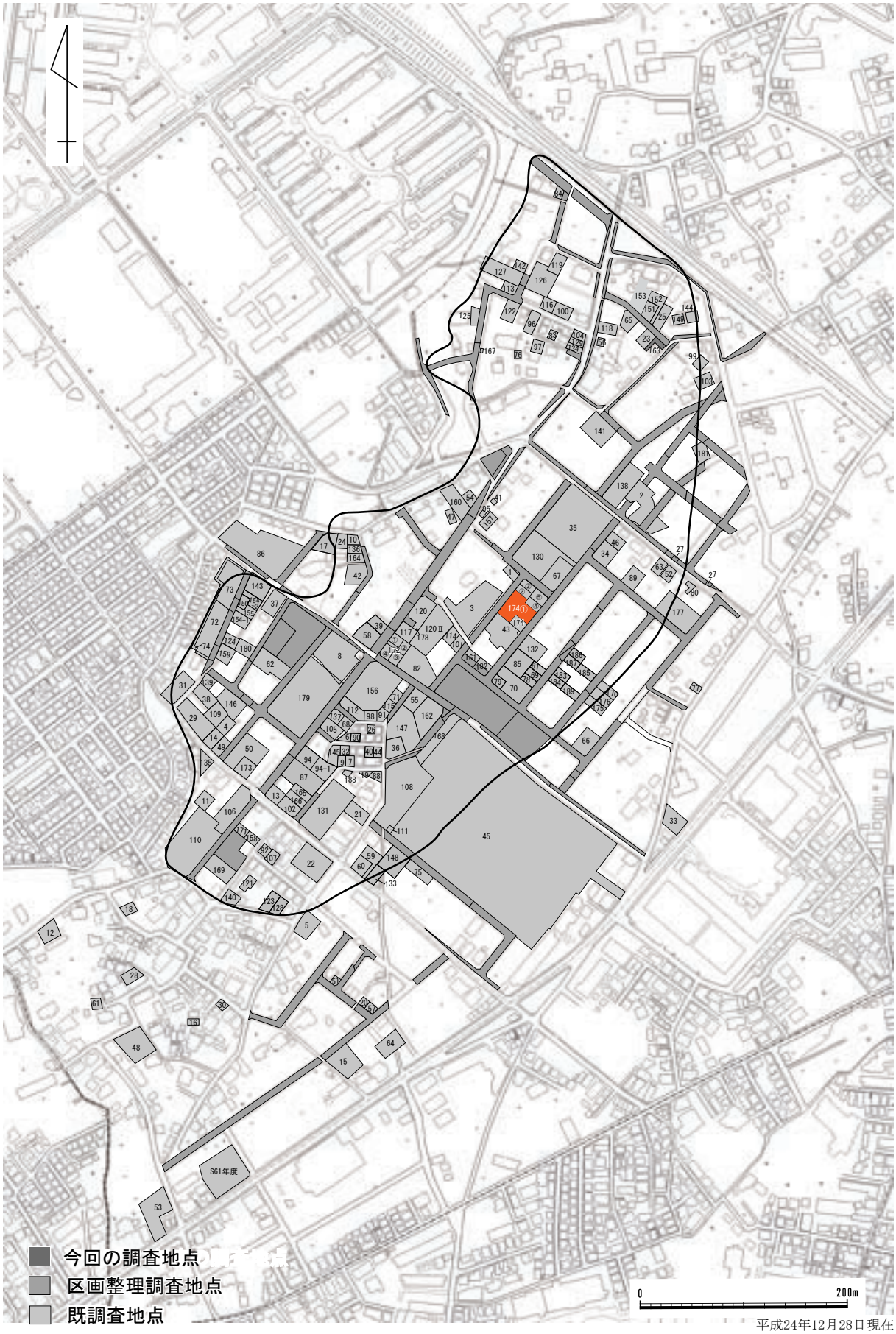
弥生時代では、前期から中期が空白期となり、後期から古墳時代前期では住居跡 568 軒、掘立柱建築遺構３棟、方形周溝墓 34 基が検出されており、大規模集落の様相を呈している。遺物では、122 号住居跡出土のイヌ形土製品（文献№23）、一辺 20 mを超える市内最大規模の 17 号方形周溝墓出土の鳥形土製品（文献№15）などが注目される。

古墳時代では、中期が空白期となり、後期で住居跡 10 軒が検出されている。また、本遺跡内北東に塚の山古墳が所在するが、近接する道路部分の調査でも周溝が不検出であるため、詳細は不明である。

奈良・平安時代では、住居跡 13 軒が検出されている。本遺跡では、８世紀前葉に比定される 154 地点 19 号住居跡が最古の資料となる。

中近世では、地下式坑を含む土坑 155 基、井戸跡７基、配石遺構１基が検出されている（文献№23）。

以上、本遺跡は旧石器時代から近世に至るまでの複合遺跡であることが判明している。



平成24年12月28日現在

第２図　西原大塚遺跡の調査地点（1 ／ 5,000）

調査地点	面積（㎡）	発掘調査期間	調査原因	遺　構　の　概　要	文献名 第３表文献No.
第１地点	112.50	昭和 48 年８月３日 ～12 日	学術調査	縄文中期（住居跡５軒、土坑８基）、弥生後期～古墳前期（住居跡１軒）	No. 1
第２地点	940.00	昭和 55 年７月 .20 日 ～８月 21 日	学術調査	弥生後期～古墳前期（住居跡３軒）	No. 2
第３地点	439.00	昭和 58 年８月 23 日 ～９月８日	共同住宅	縄文中期（住居跡５軒、土坑２基）	No. 3
第４地点	105.00	昭和 62 年１月５日 ～11 日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡３軒）	No. 4
第６地点	64.32	昭和 62 年 11 月 18 日 ～20 日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡１軒）	No. 5
第７地点	77.44	昭和 63 年１月 20 日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期（小竪穴状遺構１基）、時期不詳（土坑１基、溝跡１本）	No. 7
第８地点	1,227.00	昭和 63 年３月 16 日 ～８月６日	個人住宅建設	縄文中期（住居跡１軒、土坑 24 基）、弥生後期～古墳前期（住居跡 13 軒、方形周溝墓１基、掘建柱建築遺構１棟）	No. 6
第９地点	75.86	昭和 63 年８月 18 日 ～９月 10 日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡１軒）	
第 10 地点	80.54	昭和 63 年８月 27 日 ～10 月４日	個人住宅建設	縄文中期（土坑４基、遺物包含層）、弥生後期～古墳前期（住居跡１軒）	
第 11 地点	220.84	平成元年５月 16 日 ～25 日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（方形周溝墓１基）	No. 8
第 14 地点	129.00	平成２年５月 26 日 ～６月 11 日	共同住宅	弥生後期～古墳前期（住居跡４軒）	No. 10
第 21 地点	265.73	平成３年５月 28 日 ～29 日	事務所併用住宅	弥生後期～古墳前期（方形周溝墓１基）	No. 10
第 32 地点	60.11	平成６年４月７日 ～14 日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡２軒）	No. 9
第 34 地点	317.00	平成７年８月４日 ～９月１日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡３軒、土坑６基)、弥生後期～古墳前期(住居跡３軒)、奈良・平安(住居跡１軒)	No. 11
第 36 地点	248.05	平成８年 10 月 15 日 ～26 日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡４軒）	No. 13
第 37 地点	220.00	平成９年４月８日 ～６月５日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡７軒）、時期不詳（土坑４基）	No. 14
第 39 地点	63.76	平成９年８月５日 ～28 日	個人住宅建設	縄文中期（住居跡３軒）、弥生後期～古墳前期（住居跡１軒、方形周溝墓１基）	No. 14
第 43 地点	779.60	平成 12 年１月 11 日 ～３月 24 日	農地転用	縄文中期(住居跡 10 軒、土坑 22 基)、弥生後期～古墳前期(住居跡９軒)、古墳(１軒)	No. 16
第 45 地点	5,642.42	平成 11 年８月３日 ～12 月 24 日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡 72 軒、方形周溝墓１基）、古墳後期（住居跡２軒）	No. 15
第 47 地点	86.12	平成 12 年４月３日 ～４日	個人住宅建設	縄文中期（土坑１基）、弥生後期～古墳前期（溝跡１本）	No. 17
第 54 地点	90.74	平成 13 年９月 13 日 ～14 日	物置建設	縄文中期～後期（土坑７基）、弥生後期～古墳前期（方形周溝墓１基）	No. 18
第 65 地点	115.93	平成 14 年７月 25 日 ～８月９日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡３軒）	No. 19
第 67 地点	456.20	平成 14 年９月９日 ～11 月 29 日	個人住宅建設	縄文中期（住居跡８軒、土坑８基）、弥生後期～古墳前期（住居跡８軒、掘建柱建築遺構１棟、土坑１基）	No. 22
第 108 地点	684.60	平成 21 年２月 23 日 ～４月 14 日	ｺﾐｭﾆﾃｨ機能を持つ複合施設建設	縄文中期（住居跡１軒）、弥生後期～古墳前期（住居跡 15 軒）	No. 28
第 110 地点	500.00	平成 17 年２月７日 ～３月 10 日	集合住宅建設	旧石器（石器集中２カ所）、縄文中期（土坑１基、集石１基）、弥生後期～古墳前期（住居跡７軒）	No. 21
第 111 地点	80.00	平成 17 年１月 17 日 ～１月 21 日	消防車庫建設	古墳前期（住居跡１軒）	No. 20
第 113 地点	119.75	平成 17 年２月４日 ～15 日	個人住宅建設	縄文早期（炉穴１基）、近世以降（土坑 16 基）	No. 26
第 120-1 地点	460.56	平成 17 年６月 27 日 ～７月７日	保育園建設	縄文中期（住居跡１軒、土坑 62 基）、弥生後期～古墳前期（住居跡４軒、方形周溝墓１基）	No. 25
第 120-2 地点	566.55	平成 18 年５月 30 日 ～６月 28 日			
第 124 地点	150.02	平成 17 年 12 月 19 日 ～平成 18 年１月 13 日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡３軒）	No. 26
第 131 地点	472.21	平成 18 年８月 30 日 ～９月 20 日	集合住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡２軒、方形周溝墓５基）	No. 25
第 137 地点	100.00	平成 18 年 11 月９日 ～15 日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡１軒）、時期不詳（ピット５本）	No. 27
第 138 地点	20.00	平成 19 年２月５日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（溝跡１本）	No. 24
第 154 地点	120.02	平成 20 年３月 17 ～19 日	分譲住宅軒建設	弥生後期～古墳前期（住居跡１軒）、奈良・平安（住居跡１軒、ピット１本）、中世以降（土坑１基）	No. 24
第 155 地点	120.00	平成 19 年３月 18 日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡 1）	No. 27
区画整理	38,242.39	平成元年 12 月 20 日 ～平成 19 年１月 12 日	区画整理事業	旧石器(石器集中 12 カ所)、縄文早期(炉穴 13 基)、縄文前期(住居跡２軒、土坑１基)、縄文中期（住居跡 101 軒、土坑 233 基、集石 13 基）、縄文後期（住居跡２軒、土坑９基）、弥生後期～古墳前期（住居跡 362 軒、方形周溝墓 22 基）、古墳後期（住居跡６軒）、奈良・平安（住居跡７軒）、中近世（土坑 155 基、井戸跡６基）	No. 12 No. 23
第 169 地点	90.00	平成 22 年 10 月４日 ～13 日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡１軒、掘建柱建築遺構１棟）	No. 29
第 174 ①地点	627.54	平成 23 年 10 月 19 日 ～平成 24 年１月 13 日	宅地造成	縄文中期（住居跡 10 軒、炉跡２基、土坑 44 基）、弥生後期～古墳前期（住居跡４軒）	本報告

第２表　西原大塚遺跡発掘調査一覧

No.	書　名	刊行年	シリーズ名	発　刊　者	執　筆　者
1	西原・大塚遺跡 発掘調査報告	1975	志木市の文化財第４集	志木市教育委員会	井上國夫・落合静男・谷井　彪・宮野和明
2	志木市史　原始・古代資料編	1984	志木市史	志木市	宮野和明・井上国夫・小久保徹
3	西原大塚遺跡第３地点　中野遺跡第２地点 発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第１集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
4	新邸遺跡第２地点　西原大塚遺跡第４地点 発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第３集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
5	志木市遺跡群Ⅰ	1989	志木市の文化財第 13 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
6	志木市遺跡群Ⅱ	1990	志木市の文化財第 14 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
7	西原大塚遺跡第７地点　新邸遺跡第３地点　中野遺跡第７地点 中野遺跡第８地点　城山遺跡第６地点 発掘調査報告書	1991	志木市の文化財第 15 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
8	志木市遺跡群Ⅲ	1991	志木市の文化財第 16 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
9	志木市遺跡群Ⅶ	1996	志木市の文化財第 23 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏・深井恵子
10	城山遺跡第 12 地点　城山遺跡第 13 地点　西原大塚遺跡第 14 地点　中野遺跡第 11 地点　中野遺跡第 16 地点　市場裏遺跡第１地点　田子山遺跡第 10 地点　中道遺跡第 21 地点　田子山遺跡第 13 地点　西原大塚遺跡第 21 地点　市場裏遺跡第２地点　中道遺跡第 26 地点 発掘調査報告書	1996	志木市の文化財第 24 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
11	志木市遺跡群Ⅷ	1997	志木市の文化財第 25 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
12	西原大塚の遺跡　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査　概報	1998	―	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
13	志木市遺跡群９	1999	志木市の文化財第 27 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
14	志木市遺跡群 10	2000	志木市の文化財第 28 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
15	西原大塚遺跡第 45 地点 発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第６集	志木市遺跡調査会 小松ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ株式会社	佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳・上田 寛
16	志木市遺跡群 11	2001	志木市の文化財第 30 集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・内野美津江
17	志木市遺跡群 12	2002	志木市の文化財第 32 集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・深井恵子
18	志木市遺跡群 13	2003	志木市の文化財第 35 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
19	志木市遺跡群 14	2004	志木市の文化財第 36 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子・青木　修
20	西原大塚遺跡第 111 地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第８集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳
21	西原大塚遺跡第 110 地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第９集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳
22	志木市遺跡群 15	2006	志木市の文化財第 37 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
23	西原大塚遺跡 Ⅰ～Ⅲ　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書	2009	志木市遺跡調査会調査報告第 13 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・宮川佳幸
24	西原大塚遺跡第 138 地点　西原大塚遺跡第 154 地点　埋蔵文化財 発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 14 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・青木　修
25	西原大塚遺跡第 120 地点　西原大塚遺跡第 131 地点　田子山遺跡第 97 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 15 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳
26	志木市遺跡群 17	2008	志木市の文化財第 39 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
27	志木市遺跡群 18	2009	志木市の文化財第 41 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子・青木　修
28	西原大塚遺跡第 108 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市の文化財第 42 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏・坂上直嗣・青池紀子他
29	西原大塚遺跡第 169 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 47 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀
30	西原大塚遺跡第 174 ①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 55 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 藤波啓容・松木綾子

第３表　西原大塚遺跡発掘調査報告書一覧

第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

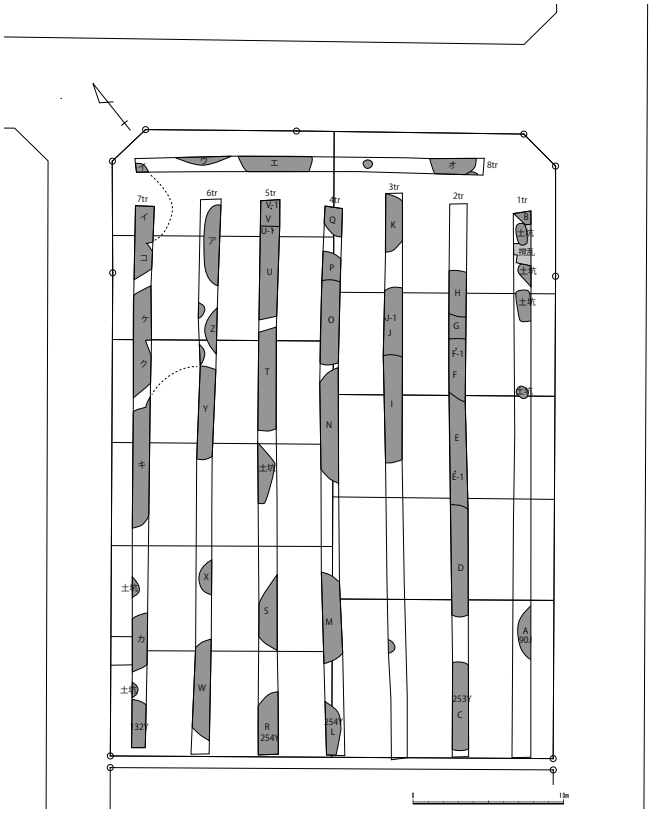
平成 23 年４月、土木工事主体者より志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ土木工事計画地内における埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。工事計画は志木市幸町３丁目 7204-3 の一部（面積 627.54 ㎡）に宅地造成工事を行うものである。

教育委員会は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード 11228-09-007）に該当するため、概ね下記のとおりに回答した。

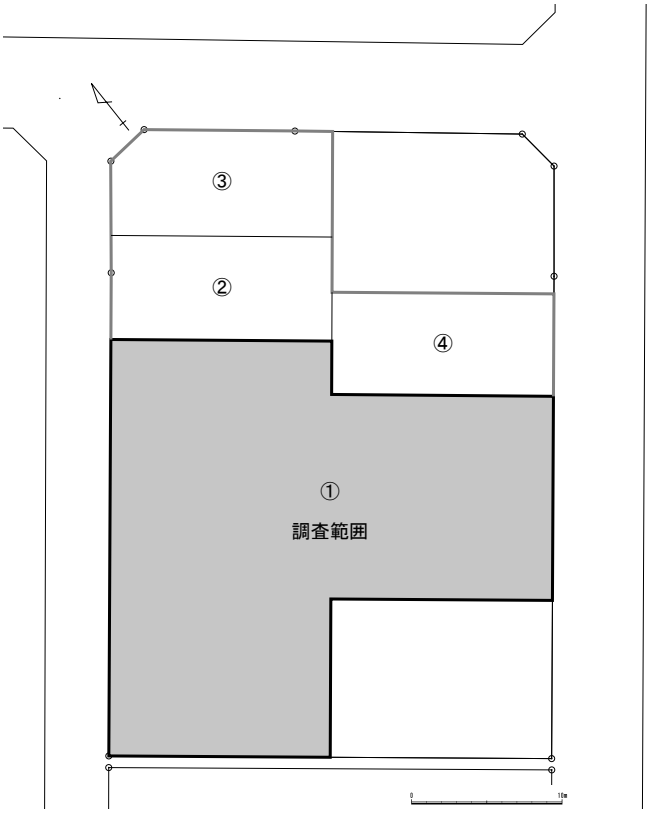
１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施した上で、当該地における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．確認調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、保存措置を講ずること。また、現状保存及び盛土保存が不可能である場合については、記録保存（発掘調査）を実施する必要があること。

平成 23 年６月、教育委員会は、工事主体者である個人から確認調査依頼書を受理し、６月 13 日から 15 日にかけて確認調査を実施した。長軸７本、短軸１本、計８本のトレンチを設定し、バックホーで表土を剥ぎ、遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代中期の住居跡 10 軒、土坑３基を確認した。（第３図）。教育委員会は、直ちに土木工事主体者に確認調査の結果を報告し、同時に埋蔵文化財の保存措置を要請した。保存措置に関する協議を行った結果、敷地全域において十分な保護層が確保できないため、記録保存（発掘調査）として取り扱うこととした。これを受けて教育委員会は、平成 23 年９月 29 日付で関係書類を埼玉県教育委員会に提出した。



第３図　確認調査時の遺構分布（１／500）



第４図　調査区位置図（１／500）

平成 23 年 10 月 12 日、志木市埋蔵文化財保存事業取扱要綱に基づき、志木市（市長　長沼　明）と工事主体者との間で協議書を取り交わし、委託契約を締結した。調査主体者となる教育委員会は、発掘調査の実施にあたり、有限会社アルケーリサーチ（取締役　藤波　啓容）と委託契約を締結し、支援業務を委託した。

以上、教育委員会を調査主体に、平成 23 年 10 月 19 日より発掘調査を実施した。

第２節　調査の方法と経過

発掘調査は平成 23 年 10 月 19 日より開始し、平成 24 年 1 月 13 日を以って終了した。調査経過については、第 4 表にまとめ、以下に日付順に説明する。

平成 23 年

10月19日　砕石除去を開始し、防護ネットを設置する。

10月20日　調査区西側から表土の掘削を開始する。

10月21日　GPS 測量による基準点移動を行う。

10月24日　表土掘削と並行して遺構検出作業に入る。

10月25日　174J 周囲の畝を掘削し、プランを確認する。

10月26日　174J の掘り下げ、遺物の取り上げを開始する。

10月27日　南側残土置き場予定範囲の 37P ～ 39P、650D ～ 652D の調査を行う。

10月28日　566Y の調査を開始する。

11月 4 日　567Y の調査を開始する。566Y の断面写真撮影と実測を行う。

11月 7 日　566Y のベルトの掘削を行う。また、床面上から炭化材が検出され、焼失住居の可能性をうかがわせた。

11月 9 日　566Y の炭化材の取り上げを開始する。

11月16日　90J の調査を開始する。今回の調査で検出された部分は平成 13 年度に一部調査された住居の残りの部分である。また、566Y の遺構測量を行う。

11月17日　174J の壁出しを行う。

11月18日　174J の断面写真撮影、実測を行う。174J に接している 176J・178J・179J に関しても 174J の断面を延長して実測をする。また、567Y の全景写真撮影、90J の断面実測、完掘全景写真撮影を行う。

11月21日　177J の調査を開始する。また、567Y・90J の遺構測量を行う。

12月 2 日　174J の遺構測量と 176J の調査を開始する。

12月 5 日　179J の調査を開始する。引き続き、174J の遺構測量、176J・177J の調査を行う。

12月 6 日　179J・180J の掘り下げを開始する。並行して 177J の炉２の調査と全景写真撮影を行う。

12月 7 日　178J の調査と 175J の精査を開始する。176J の調査、177J の断面実測、179J・180J・181J の掘り下げを行う。

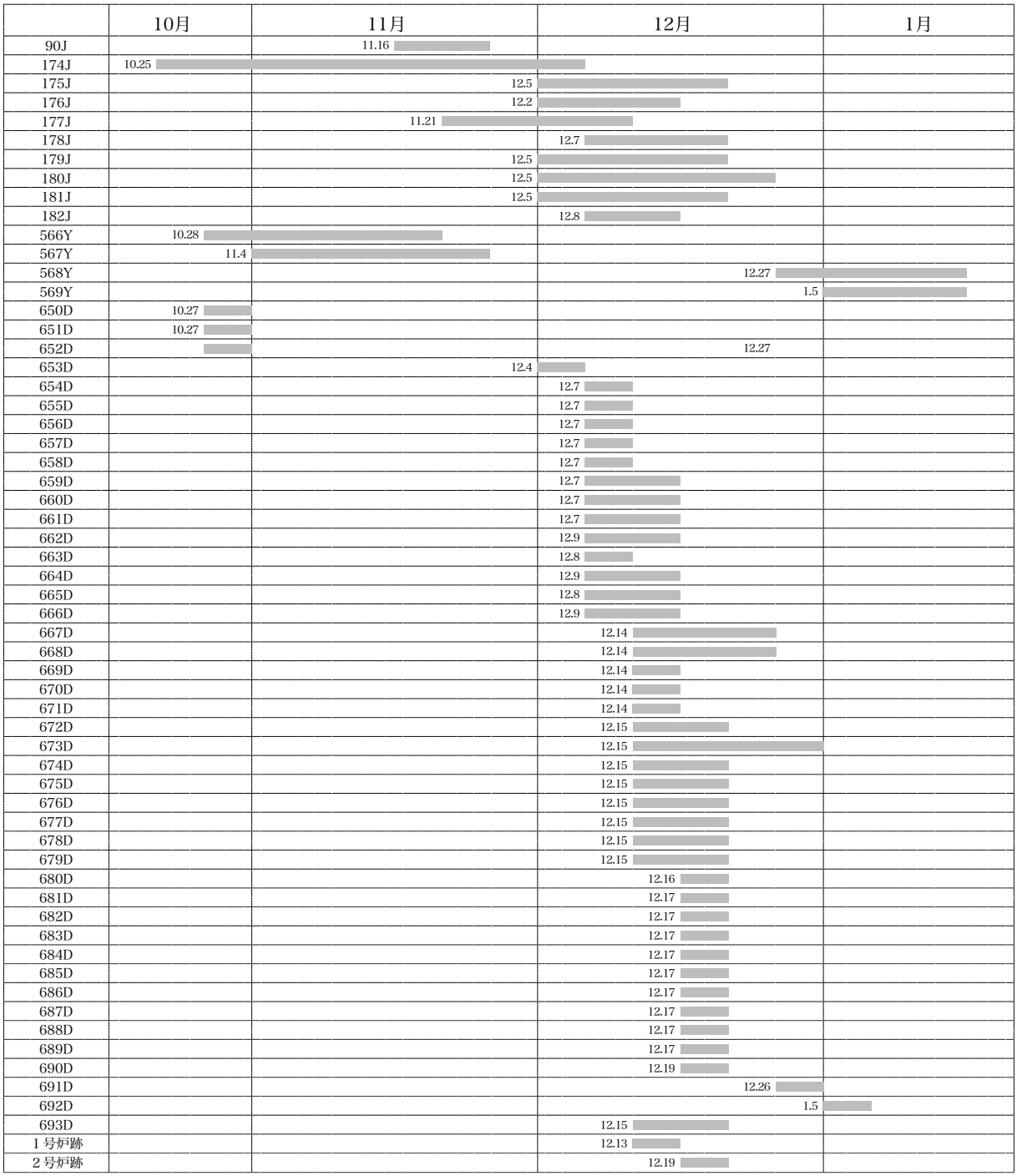
12月 9 日　土坑、ピットの調査を開始する。178J・179・180J・181J の掘り下げ、176J・182J のピットの調査を行う。

12月10日　176J ピットの調査・実測、179J・181J・182J のピット調査、178J 断面実測を行う。

12月13日　178J・179J・180J・181J のピット調査、178J 炉の調査を行う。

12月21日　前日に調査区の全面清掃をし、調査区航空写真撮影を行う。また、174J 炉・566Y 掘り方の調査を行う。

12月27日　568Y の調査を開始する。



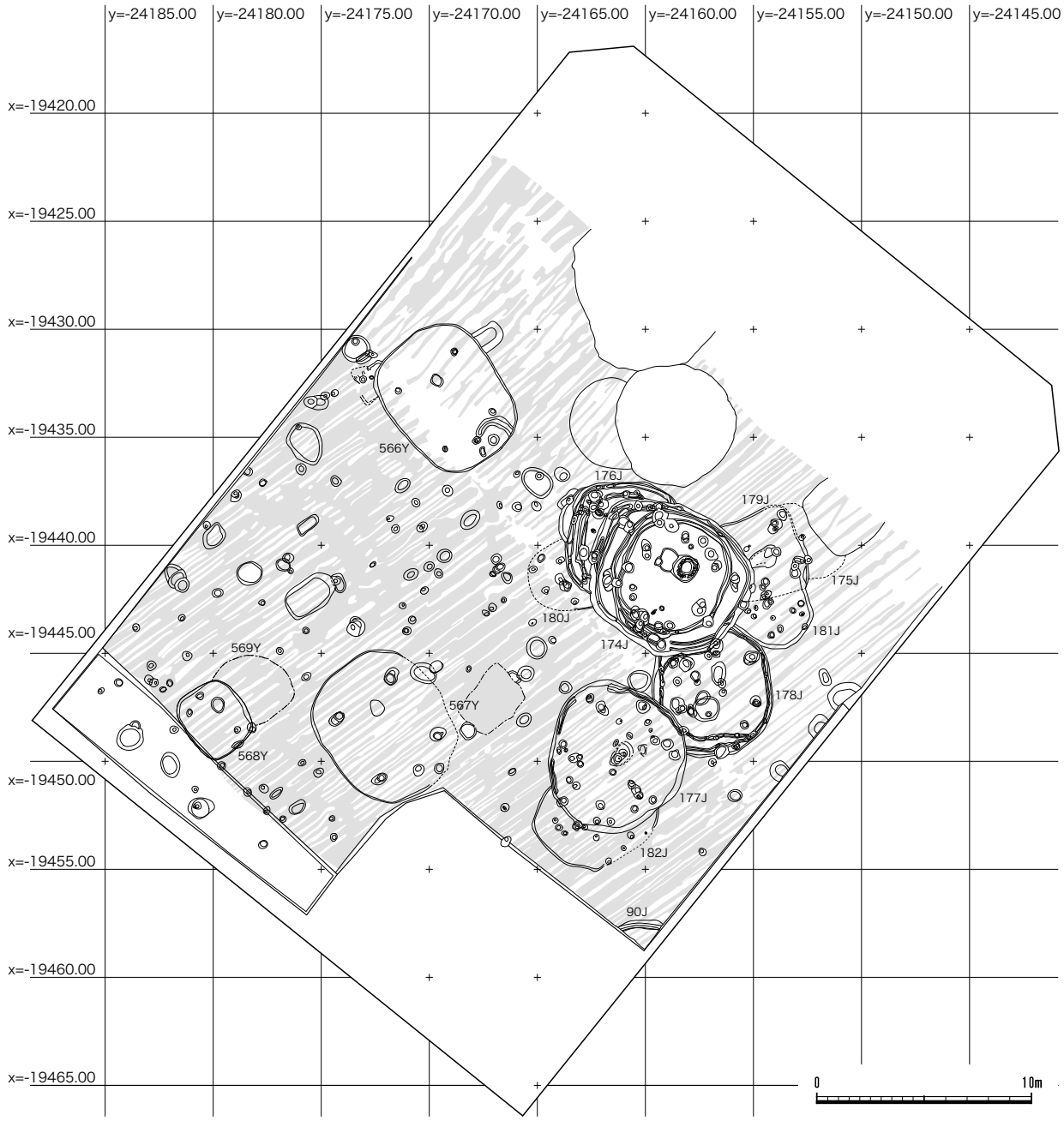
第４表　西原大塚遺跡第 174 ①地点発掘調査工程表

平成 24 年

1 月 5 日　568Y・569Y の完掘全景写真撮影を行う。また、引き続き土坑、ピットの調査を行う。

1 月 10日　568、569Y 掘り方調査と並行しながら調査区資材の撤去を開始する。

1 月 13日　調査区の埋戻し、防護ネット・調査区資材の撤去を行う。現場調査が完了する。



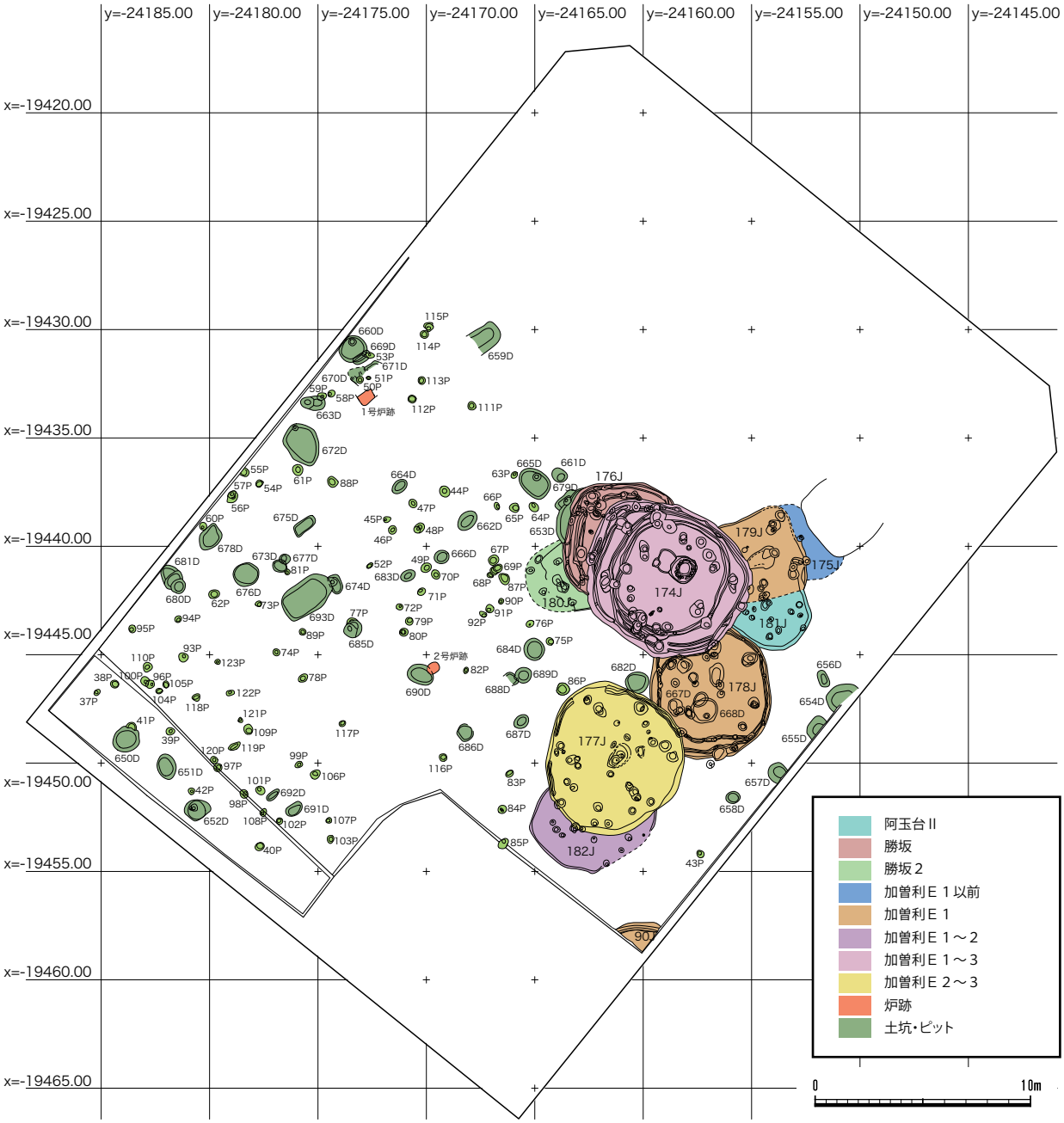
第５図　遺構分布図（1／300）

第３章　検出された遺構と遺物

今回の調査地点は本遺跡のほぼ中央に所在するが、調査地点の現況は畑地として利用されており、度重なる耕作痕（トレンチャー）によって遺構の大部分は撹乱されていた。

検出された遺構は住居跡 14 軒、土坑 44 基、ピット 87 基、炉跡２基であり、縄文時代中期もしくは弥生時代後期から古墳時代前期に帰属する。出土遺物は縄文中期の勝坂式～加曽利Ｅ３式土器が主体となり、縄文時代後期の称名寺式、堀之内式が僅かに数点確認されたほか、弥生土器、石器、土製品、礫がある。

第１節　縄文時代



第６図　縄文時代遺構分布図（１／300）

（1）概　要

縄文時代の遺構は住居跡 10 軒、土坑 44 基、ピット 87 基、炉跡 2 基が検出された。174 号住居跡、176 号住居跡、178 号住居跡に関しては拡張された可能性が高い。縄文時代の住居跡は環状集落を形成するもので、出土遺物から縄文時代中期の勝坂式後半期から加曽利Ｅ２式期がピークと思われる。

住居の西側では土坑・ピットが多く検出された。遺物を伴わないものが多く時期決定は困難であったが、堆積覆土は縄文時代の住居に近似する。炉跡とした遺構は硬質面や関係するピットが確認されなかったため、単独の遺構として判断している。

出土位置が判明している土器・土製品は 5,903 点であり、うち五領ヶ台式 1 点、阿玉台式 252 点、勝坂式 525 点、曽利式 263 点、加曽利Ｅ式 2,554 点、連弧文 306 点、土製円盤 14 点、土器片錘 10 点、不明土製品 2 点、粘土塊 2 点である。石器総点数は 721 点、56,385.8g で、うち出土位置が判明している石器は 456 点・38,696.0g、判明していない石器は 265 点・17,689.8g である。器種の内訳は、石鏃 7 点、石鏃未製品 1 点、楔形石器 20 点、両極剥片 4 点、石錐 1 点、二次的剥離のある剥片 19 点（剥片石器系石材 6 点、打製石斧系石材 13 点）、不規則剥離のある剥片 15 点（剥片石器系石材 13 点、打製石斧系石材 2 点）、剥片 102 点（剥片石器系石材 66 点、打製石斧系石材 34 点、磨製石斧系石材 1 点、礫石器系石材 1 点）、調整剥片 99 点（剥片石器系石材 76 点、打製石斧系 21 点、磨製石斧系 1 点）、砕片 66 点（剥片石器系石材 24 点、打製石斧系石材 28 点、磨製石斧系石材 3 点、礫石器系石材 11 点）、石核 3 点（剥片石器系石材）、（ナイフ形石器 1 点：177J・旧石器時代遺物の混入）、打製石斧 147 点、横刃形石器 4 点、磨製石斧 8 点、磨石 14 点、敲石 119 点、砥石 3 点、石皿 12 点、軽石 3 点、凹石 4 点、線刻礫 1 点、片岩製石器 68 点である。石材の内訳は、黒曜石 196 点、チャート 26 点、頁岩 3 点、硬質頁岩 1 点、ガラス質黒色安山岩 2 点、ホルンフェルス 129 点、砂岩 221 点、片状砂岩 3 点、細粒凝灰岩 1 点、凝灰岩 25 点、緑色岩 2 点、安山岩 15 点、閃緑岩 16 点、ハンレイ岩 1 点、砂質片岩 16 点、緑泥片岩 43 点、結晶片岩 18 点である。

（2）住居跡

90 号住居跡

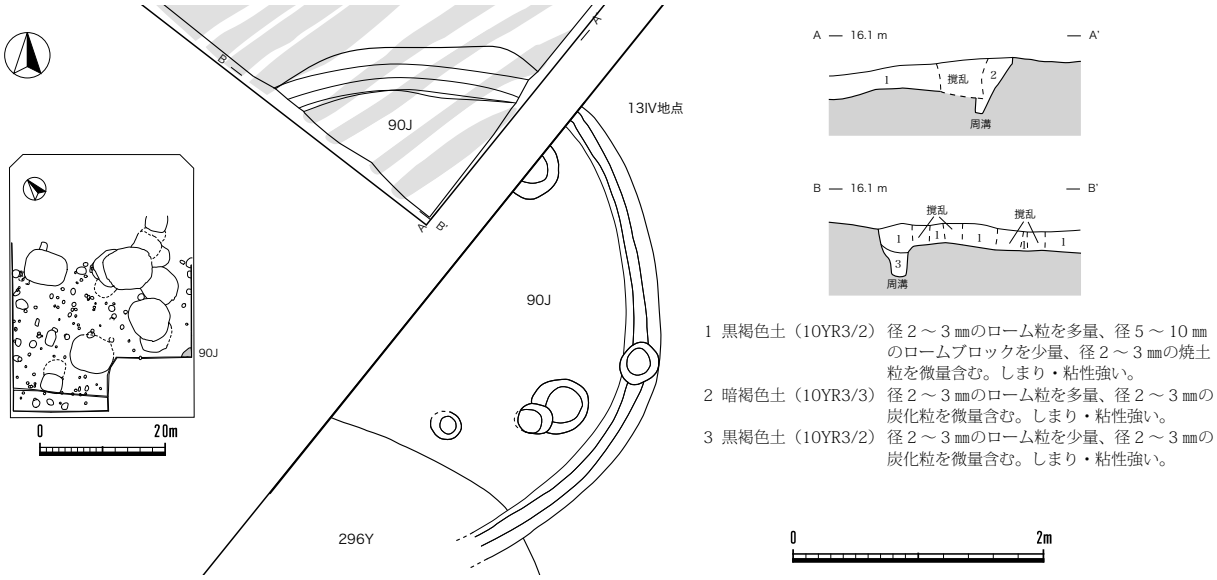
遺　　構（第 7 ～ 10 図）

［位　　置］X=-19458,Y=-24160。

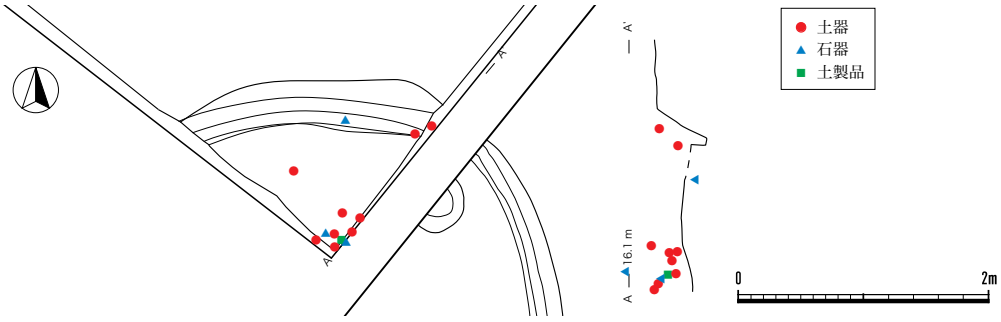
［**住居構造**］今回の調査区では住居の一部が僅かに検出されるのみで明確な住居の構造は不明である。**平面形**：円形か？**規模**：不明。**主軸方位**：不明。**壁高**：27.6 ～ 42.5 ㎝を測り、70°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：耕作による攪乱が著しい。**炉**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。

［覆　　土］３層。

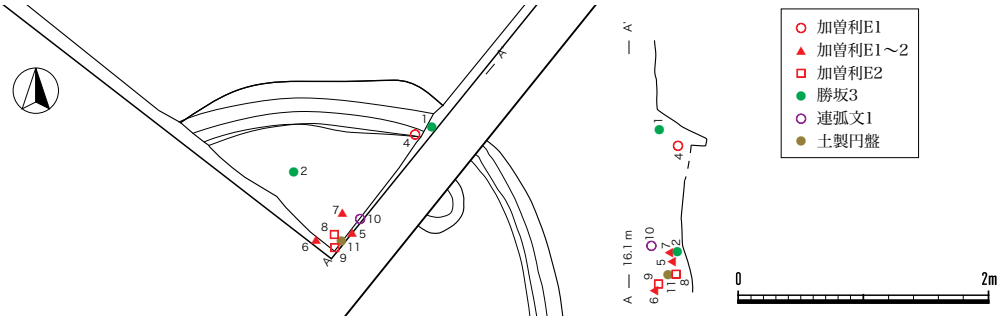
［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器・土製品は 21 点であり、うち勝坂式 2 点、加曽利Ｅ式 14 点、連弧文 1 点、土製円盤 1 点である。出土した石器の総点数は 4 点、1,215.3g で、器種の内訳は、調整剥片 1 点（剥片石器系石材）、打製石斧 2 点、石皿 1 点、石材の内訳は、黒曜石 1 点、ホルンフェルス 1 点、凝灰岩 1 点、安山岩 1 点である。



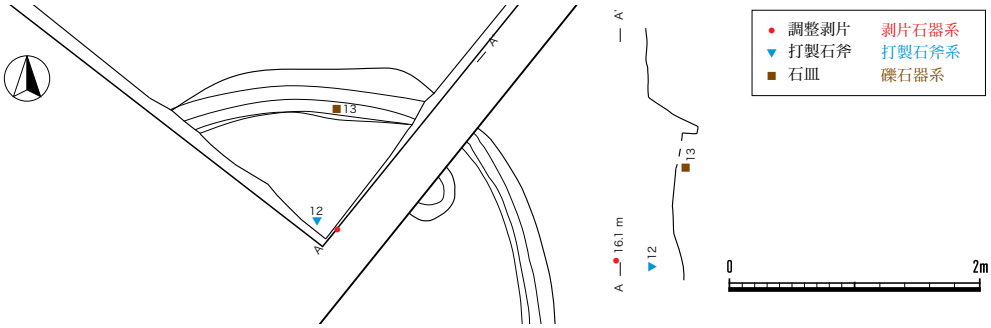
第７図　90 号住居跡（１／60）



第８図　90 号住居跡遺物出土状態（１／60）



第９図　90 号住居跡土器出土状態（１／60）



第 10 図　90 号住居跡石器出土状態（１／60）

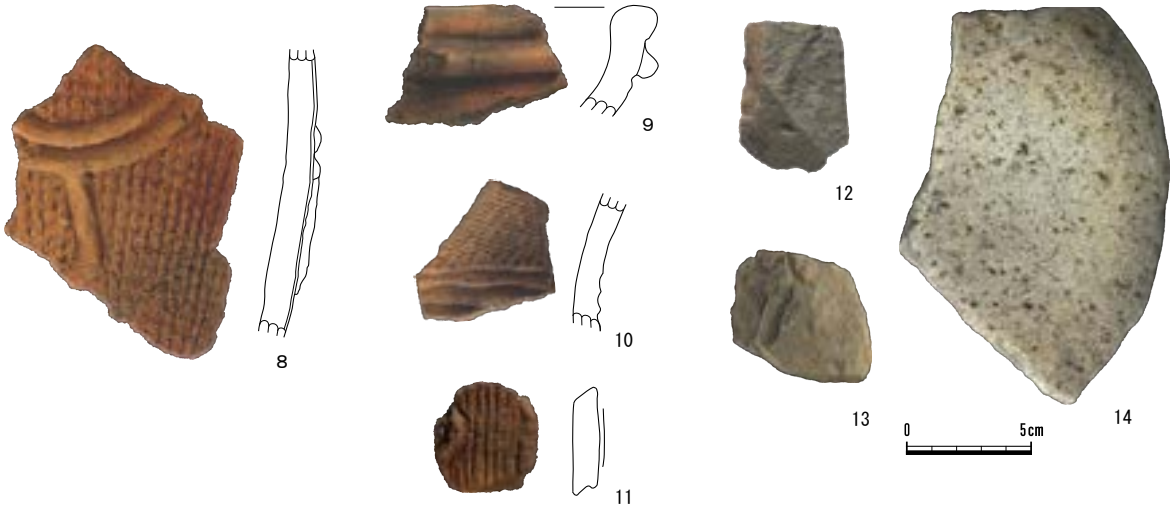
90 号住居跡全景（南より）

90 号住居跡セクション（北西より）

90 号住居跡遺物出土状態（西より）

90 号住居跡遺物出土状態（南より）

第 11 図　90 号住居跡出土遺物 1（1 ／ 3）



第 12 図　90 号住居跡出土遺物２（1 ／ 3）

［時　　期］加曽利Ｅ１式期。

遺　　物（第 11・12 図、第９・42・44 表）

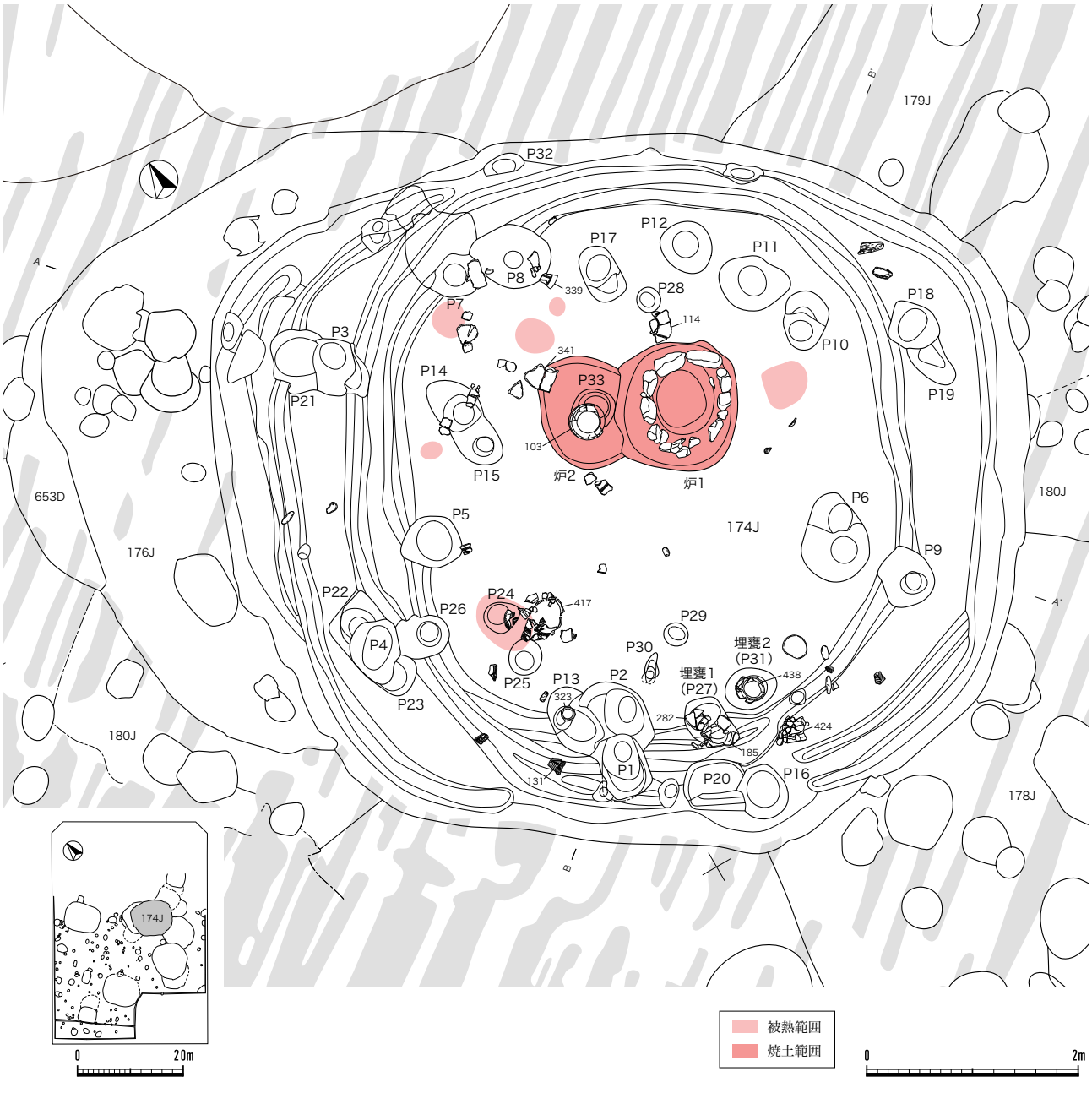
勝坂式（１～２）、加曽利Ｅ式（３～９）、連弧文（10）、土製円盤（11）、打製石斧（12・13）、石皿（14）を図示した。

174 号住居跡

遺　　構（第 13 ～ 29 図）

［位　　置］X=-19441,Y=-24158。

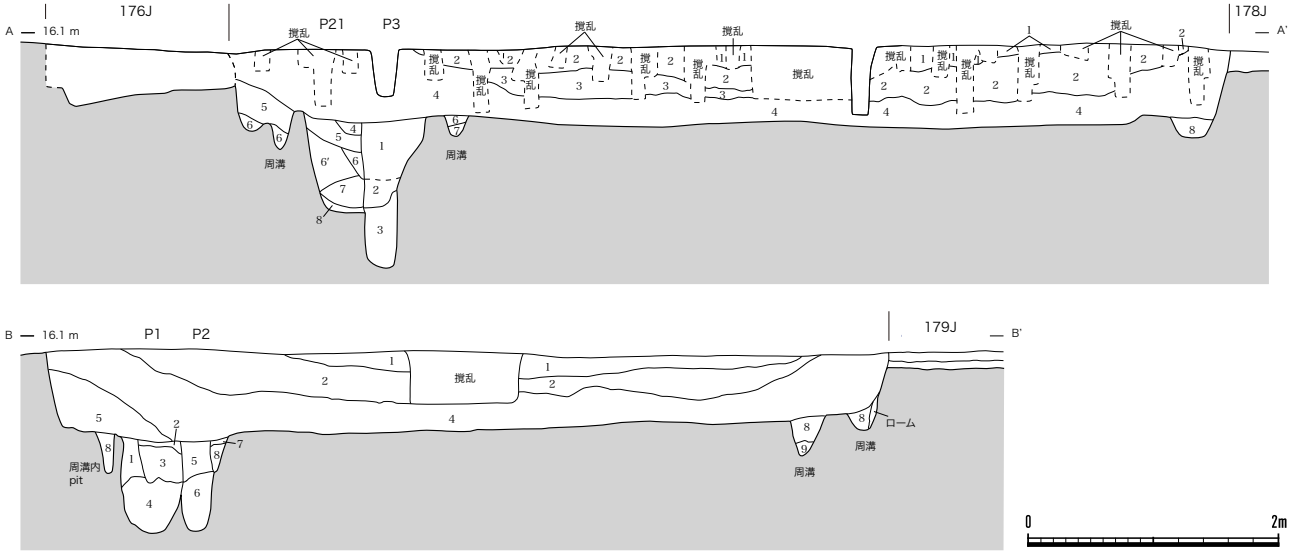
［住居構造］176J・178J・179J・180J・181J を切る。柱の移動を伴う縮小が１度行われた後、３回の拡張が行われた可能性がある。床面に焼土範囲が点在することから１度火災により焼失している。焼失後、柱の立て替えが１回確認できる。**平面形**：不整円形。**規模**：縮小前は 5.64×4.69m、縮小時は 5.26 × 4.69m を測る。その後拡張に転じ、１回目拡張で 6.49×6.01m、２回目拡張で 7.11×6.01m、３回目拡張で 8.02×6.65m を測る。**主軸方位**：Ｎ－ 30°－Ｅ。**壁高**：46.2 ～ 64.3 ㎝を測り、70°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：住居を建てた後、１度縮小が行われる。その後拡張を繰り返しているため、最大で５重の壁溝が確認できる。縮小は元の住居の主軸に対し一部壁溝が北方向に移動しているが、住居の主軸に対し東西方向へ拡張してく。特に西側への拡張が多く４本の壁溝が確認できる。元の住居の壁溝は上幅 15.6 ～ 32.1 ㎝・下幅 1.7 ～ 19.3 ㎝・深さ 11.0 ～ 21.3 ㎝、縮小部分上幅 13.5 ～ 30.3 ㎝・下幅 3.2 ～ 16.7 ㎝・深さ 5.4 ～ 12.9 ㎝、１回目拡張部分上幅端 14.0 ～ 25.1 ㎝・下幅 5.6 ～ 13.1 ㎝・深さ 5.8 ㎝～ 20.7 ㎝、２回目拡張部分上幅 16.3 ～ 22.8 ㎝・下幅 6.3 ～ 11.3 ㎝・深さ 10.9 ～ 17.6 ㎝、３回目拡張部分上幅 10.9 ～ 48.9 ㎝・下幅 4.7 ～ 26.0 ㎝・深さ 6.0 ～ 26.0 ㎝を測る。**床面**：一部焼土範囲が確認できる。**炉**：石囲い炉の炉１と埋甕炉の炉２が隣接して検出された。炉１は炉２を切っている。それぞれがどの縮小・拡張段階に伴うかは断定できない。炉２は住居のやや北寄りに位置し、炉１は住居中央のやや東よりに位置することになる。炉１は周囲に礫が配された不整円形の石囲炉である。57.3×51.4 ㎝の焼土範囲が確認でき、125.8 ×116.8 ㎝、深さ 11.2 ㎝を測る。炉２は炉１に先行する不整円形の埋甕炉である。28.6×22.5 ㎝の焼土範囲が確認できる。炉２には深鉢形土器の上半



第 13 図　174 号住居跡 1（1／60）

174 号住居跡全景（東より）

174 号住居跡全景（南より）



1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性弱い。
2 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を多量含む。しまり強く、粘性弱い。1 層よりやや明るい。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径１㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径１～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。4 層よりやや暗い。
6 暗褐色土（10YR3/4）径１～２㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。周溝覆土。
7 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１㎜の焼土粒を少量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。周溝覆土。
8 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。周溝覆土。
9 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を微量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。周溝覆土。

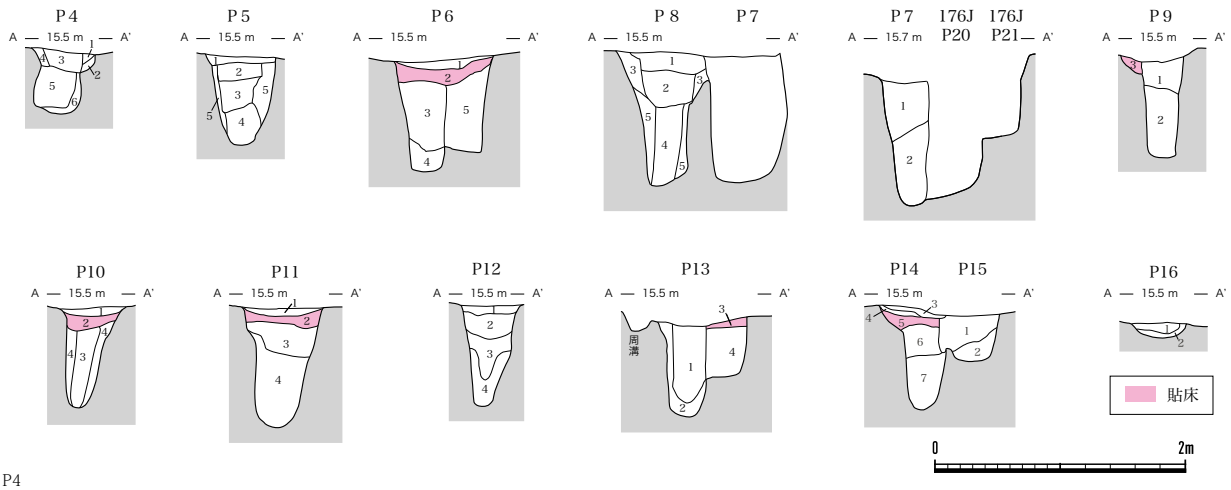
P1・P2
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。上部はやや暗く周溝か？覆土に貼床を含む。P9 と同等。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを少量、径１㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。貼床。
3 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを少量、径１㎜の焼土粒を微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。ししまり強く、粘性あり。
4 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
5 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
6 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり弱く、粘性あり。

P3・P21
1 暗褐色土（10YR3/4）P3 覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径10～15㎜のロームブロックを微量、径１㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）P3 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR3/2）P3 覆土。径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）P21 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/4）P21 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径10～20㎜のロームブロックを少量、径１㎜の焼土粒を微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
6 暗褐色土（10YR3/3）P21 覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
6' 黄褐色土（10YR5/6）P21 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径10～50㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
7 暗褐色土（10YR3/4）P21 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。
8 褐色土（10YR4/4）　P21 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径10～20㎜のロームブロックを多量含む。柱穴あたり痕か。

第 14 図　174 号住居跡２（１／60）

174 号住居跡Ａセクション（南より）

174 号住居跡Ｂセクション（東より）



P4
1 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量､径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～２㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。周溝２覆土。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量、径10～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。周溝２覆土。
3 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
4 黄褐色土（10YR5/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径10～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
5 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く､粘性あり。
6 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く､粘性あり。

P5
1 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。堅く締まっているが貼床の様なロームブロックはない。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量､径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を微量､径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を微量含む。しまり弱く､粘性あり。
5 褐色土（10YR4/6）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～30㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

P6
1 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～３㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 黄褐色土（10YR5/6）径１～３㎜のローム粒を多量､径５～30㎜のロームブロックを多量含む。貼床。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量､径５～30㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
5 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

P7
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量､径５～10㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P8
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径10～20㎜のロームブロックを微量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量､径５～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
3 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径10～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く､粘性あり。
5 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径10～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

P9
1 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～10㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 黄褐色土（10YR5/6）貼床。P6の２層と同等。

P10
1 褐色土（10YR4/4）　176JP19の１層と同等。
2 黄褐色土（10YR5/6）貼床。176JP19の２層と同等。
3 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
4 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり･粘性あり。筋状に黒褐色土が混入。

P11
1 褐色土（10YR4/4）　P6の１層と同等。
2 黄褐色土（10YR5/6）貼床。P6の２層と同等。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量､径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量､径５～30㎜のロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。

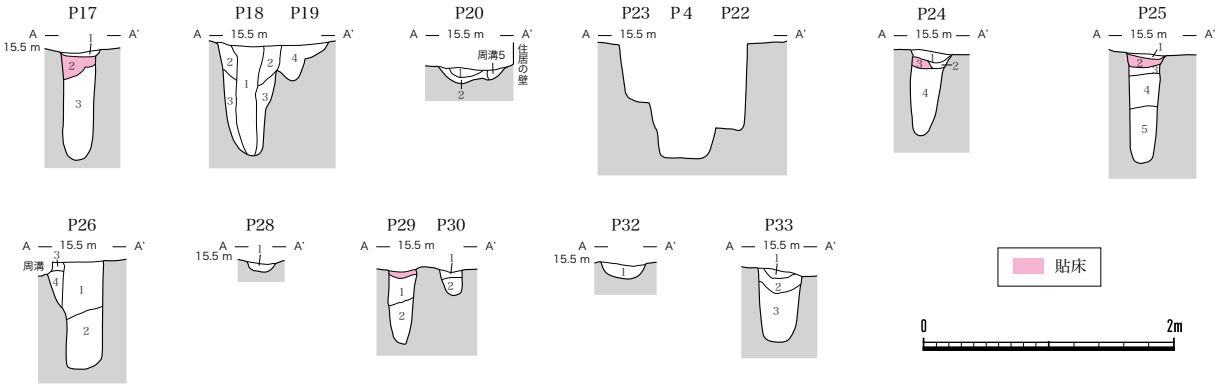
P12
1 褐色土（10YR4/4）　P6の１層と同等。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。P6の２層に似る。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く､粘性あり。P6の３層に似る。
4 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量､径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。P6の４層に似る。

P13
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量､径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く､粘性あり。
3 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。貼床。
4 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量､径５～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

P14・P15
1 暗褐色土（10YR3/4）P15覆土。径１～３㎜のローム粒を多量､径５～10㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）P15覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）P14覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
4 褐色土（10YR4/6）　P14覆土。径１～３㎜のローム粒を多量､径５～15㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
5 黄褐色土（10YR5/6）P14覆土。貼床。176JP19の２層と同等。
6 褐色土（10YR4/4）　P14覆土。径１～３㎜のローム粒を多量､径５～40㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
7 褐色土（10YR4/4）　P14覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径10～50㎜のロームブロックを多量含む。しまり弱く、粘性あり。６層よりロームブロック粗い。

P16
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量､径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量､径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

第 15 図　174 号住居跡３（１／60）



P17
1 暗褐色土（10YR4/4）176JP19 の 1 層と同等。
2 黄褐色土（10YR5/6）貼床。P6 の 2 層と同等。
3 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。P14 の 4 層に似る。

P18・P19
1 暗褐色土（10YR3/3）P18 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを微量、径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 3 ㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）P18 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 30 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）P18 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。
4 褐色土（10YR4/4）P19 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 40 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

P20
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性強い。
2 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性強い。

P24
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜の焼土粒を少量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 鈍い黄褐色土（10YR4/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ～ 3 ㎜の焼土粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜の焼土粒を多量含む。しまり強く、粘性なし。
3 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 10 ～ 30 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性弱い。ロームブロックは被熱している。貼床。
4 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 15 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

P25
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 100 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。貼床。
3 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 20 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。

P26
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 1 ～ 3 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 褐色土（10YR4/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 10 ～ 30 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
4 黄褐色土（10YR5/6）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 20 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

P28
1 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 1 ～ 3 ㎜の焼土粒を少量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

P29
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量、径 1 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。

P30
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P32
1 褐色土（10YR4/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P33
1 褐色土（10YR4/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を微量、径 1 ～ 3 ㎜の焼土粒を微量、径 5 ～ 10 ㎜の焼土ブロックを微量含む。粘性あり。粘性弱い。ロームは被熱している。
2 赤褐色土（10YR4/6）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを多量、径 1 ～ 3 ㎜の焼土粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜の焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性弱い。ローム粒・ロームブロックは被熱している。
3 褐色土（10YR4/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 50 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり弱く、粘性なし。ボソボソしている。

第 16 図　174 号住居跡 4（1 ／ 60）

174 号住居跡 P6 貼床下セクション（東より）

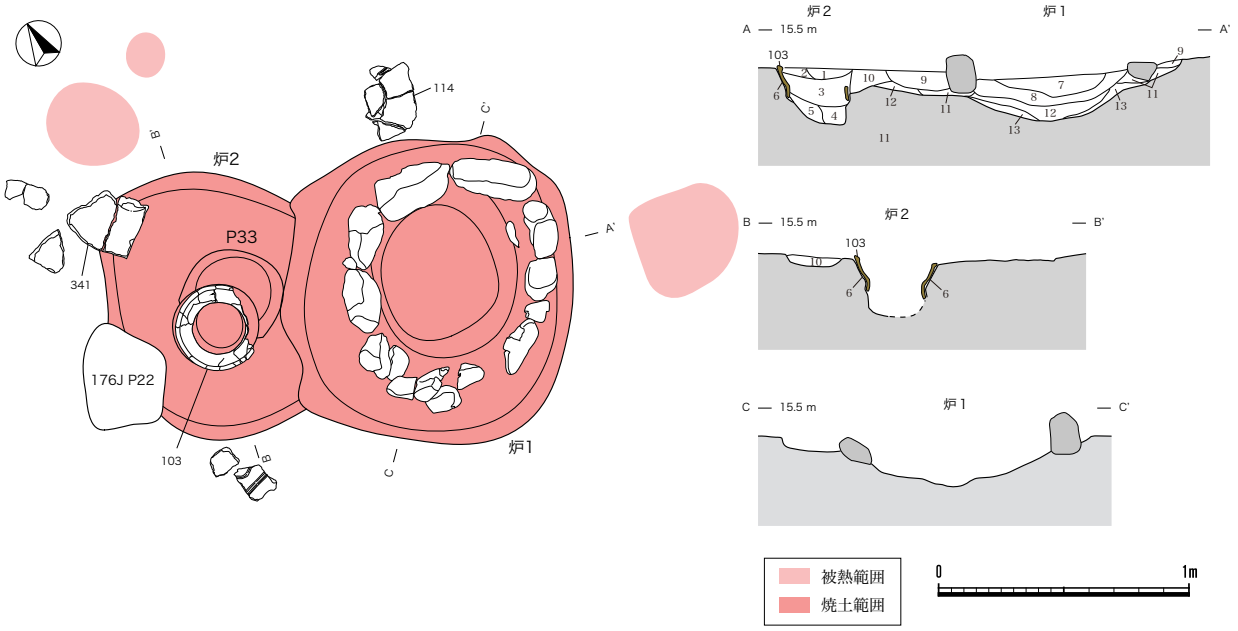
174 号住居跡 P10 貼床下セクション（南より）

部が埋設されている。炉体土器（103）は 176J のピットを利用し、埋設したものである。107.9 × 不明㎝、深さ 14.0 ㎝ を測る。**柱穴**：縮小、拡張に伴い２回の柱の立て替えが考えられる。立て替え前の主柱穴は P6 南側・10・14・17・25・27、縮小による立て替え後の主柱穴は P6 北側、10・14・17・24・29、拡張による立て替え後の主柱穴は P1・2・3・4・8・9・12・13・18・21 と思われる。

［埋　　甕］住居南壁周溝付近の P27・31 から出土した。東側に位置する P31 は 49.8×38.9 ㎝、深さ 35.2 ㎝の楕円形の掘り込みを持ち、深鉢形土器の上半部（438）が埋設している。住居が建てられた当初から３回目の柱の建て替えが行われるまでの時期に帰属すると思われる。西側に位置する P27 は、住居が建てられた際柱穴として使用されたものの南側を若干掘り直し、深鉢形土器の上半部（282）を埋設したものである。56.9×38.4 ㎝、深さ 36 ㎝を測る。一番内側の周溝に切られているため、住居が建てられた当初から縮小されるまでの時期に帰属すると思われる。覆土からは土器片が複数出土し、うち 16 点は同一個体（282）として接合している。

［覆　　土］９層。

［遺　　物］２点の埋甕、炉２に埋設されていた埋甕のほか、覆土中から非常に多量に出土した。また、炉２の炉体土器の覆土中からは獣骨と思われる骨片が検出されている。出土位置が判明している土器は 4,732 点であり、うち五領ヶ台式１点、阿玉台式 161 点、勝坂式 358 点、曽利式 228 点、加曽利



炉１・２
１ 暗褐色土（10YR3/4）径１～２㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
２ 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
３ 暗赤褐色土（2.5YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径 10 ～ 20 ㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の焼土粒を多量含む。しまり・粘性あり。上層にロームブロック貼床の一部が見られる。骨片混入。
４ 暗赤褐色土（2.5YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～ 10 ㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の焼土粒を多量含む。しまり・粘性弱い。
５ 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量、径 10 ～ 50 ㎜のロームブロックを少量、径１～３㎜の焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性弱い。
６ 明赤褐色土（10YR5/6）径１～３㎜の焼土粒を多量含む。しまりあり、粘性弱い。
７ 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
８ 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を多量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
９ 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を微量、径１～３㎜の焼土粒を多量、径 10 ㎜の焼土ブロックを微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。掘り方。
10 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 20 ㎜のロームブロックを多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径５～ 10 ㎜の焼土ブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
11 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量、径５～ 10 ㎜のロームブロックを微量、径１～３㎜の焼土粒を少量含む。しまりあり、粘性弱い。掘り方。
12 明赤褐色土（5YR5/8）径１～３㎜の焼土粒を多量、径 10 ～ 30 ㎜の焼土ブロックを多量含む。しまり強く、粘性なし。掘り方。
13 明黄褐色土（10YR6/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～ 20 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性なし。被熱ロームブロック。

第 17 図　174 号住居跡炉（１／30）

174 号住居跡炉 1・2 検出状況（南より）

174 号住居跡炉 1・2 全景（南より）

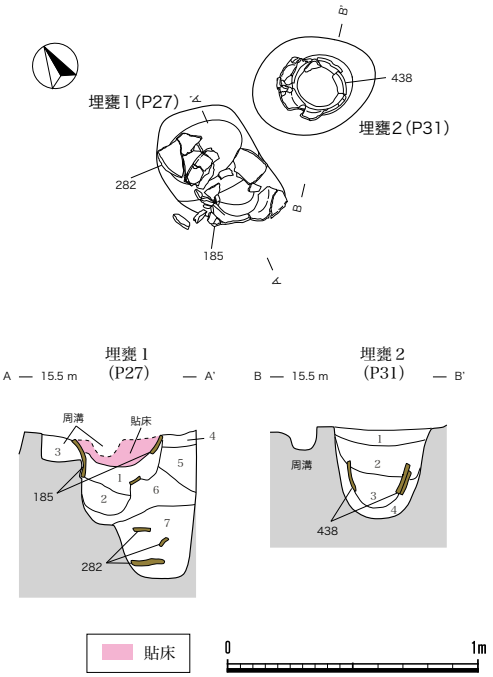
174 号住居跡炉 1 セクション（南より）

174 号住居跡炉 2 セクション下部（南より）

174 号住居跡炉周辺遺物出土状態（西より）

174 号住居炉 2 骨片出土状態（南より）

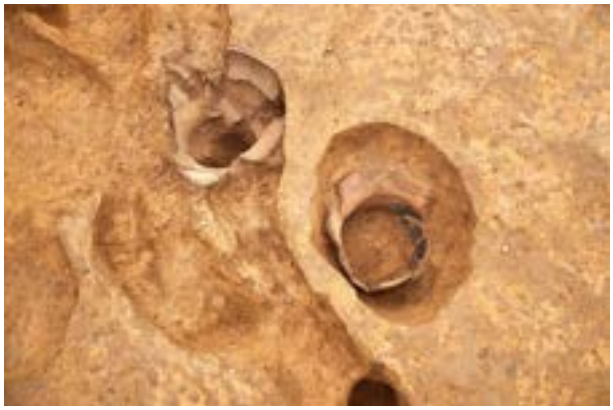
Ｅ式 2,066 点、連弧文 277 点、土器片錘 10 点、土製円盤 11 点、不明土製品 2 点である。出土した石器の総点数は 471 点、31,275.0g で、器種の内訳は、石鏃 2 点、石鏃未製品 1 点、楔形石器 12 点、両極剥片 4 点、石錐 1 点、二次的剥離のある剥片 16 点（剥片石器系石材 4 点、打製石斧系石材 12 点）、不規則剥離のある剥片 7 点（剥片石器系石材 5 点、打製石斧系石材 2 点）、剥片 69 点（剥片石器系石材 40 点、打製石斧系石材 27 点、磨製石斧系石材 1 点、礫石器系石材 1 点）、調整剥片 70 点（剥片石器系石材 52 点、打製石斧系石材 16 点、磨製石斧系石材 2 点）、砕片 55 点（剥片石器系石材 18 点、打製石斧系石材 24 点、磨製石斧系石材 3 点、礫石器系石材 10 点）、石核 3 点（剥片石器系石材）、打製石斧 84 点、横刃形石器 3 点、磨製石斧 3 点、磨石 8 点、敲石 79 点、砥石 2 点、石皿 4 点、軽石 2 点、凹石 2 点、線刻礫 1 点、片岩製石器 43 点、石材の内訳は、黒曜石 126 点、チャート 17 点、頁岩 1 点、



埋甕１（P27）
1 暗褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径10～15㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。周溝覆土。
4 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径10～20㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。掘り方貼床。
5 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～３㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。掘り方。
6 褐色土（10YR4/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。掘り方。
7 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまりあり、粘性強い。掘り方。土器片含む。

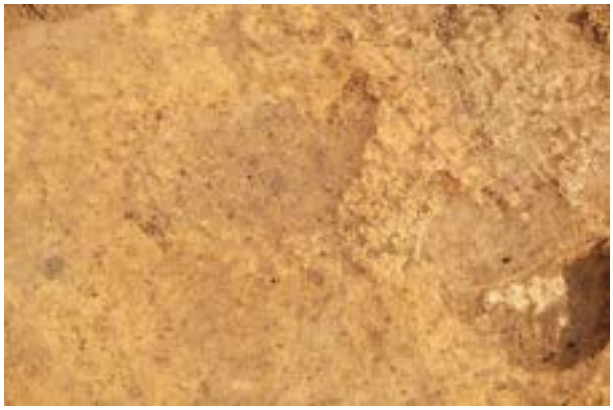
埋甕２（P31）
1 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
2 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを多量、しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
4 褐色土（10YR4/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。掘り方。

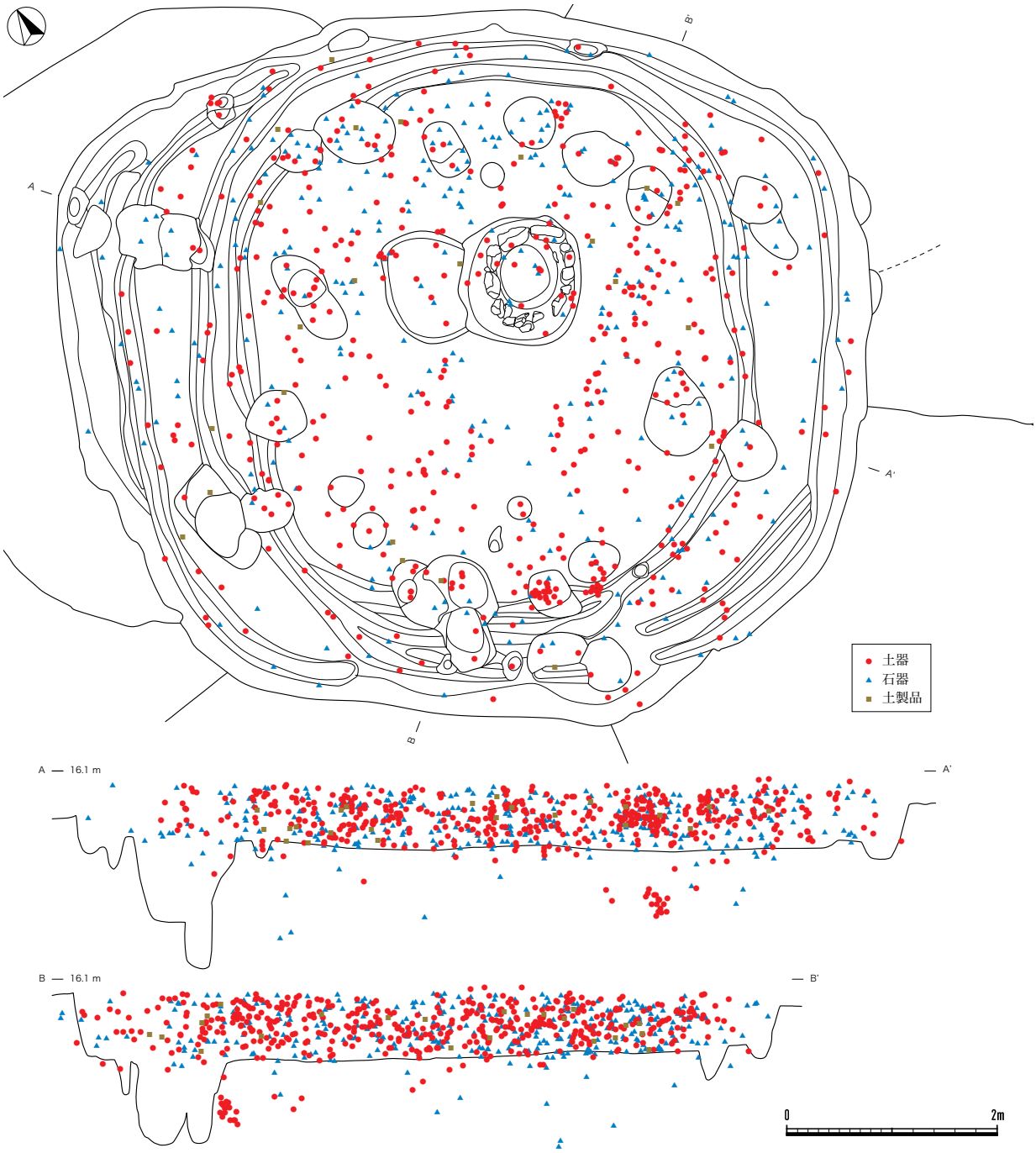
第 18 図　174 号住居跡埋甕（１／30）


174 号住居跡埋甕１・２（P27・31）全景（東より）

174 号住居跡埋甕１（P27）Ａセクション（東より）

174 号住居跡埋甕２（P31）Ｂセクション（東より）

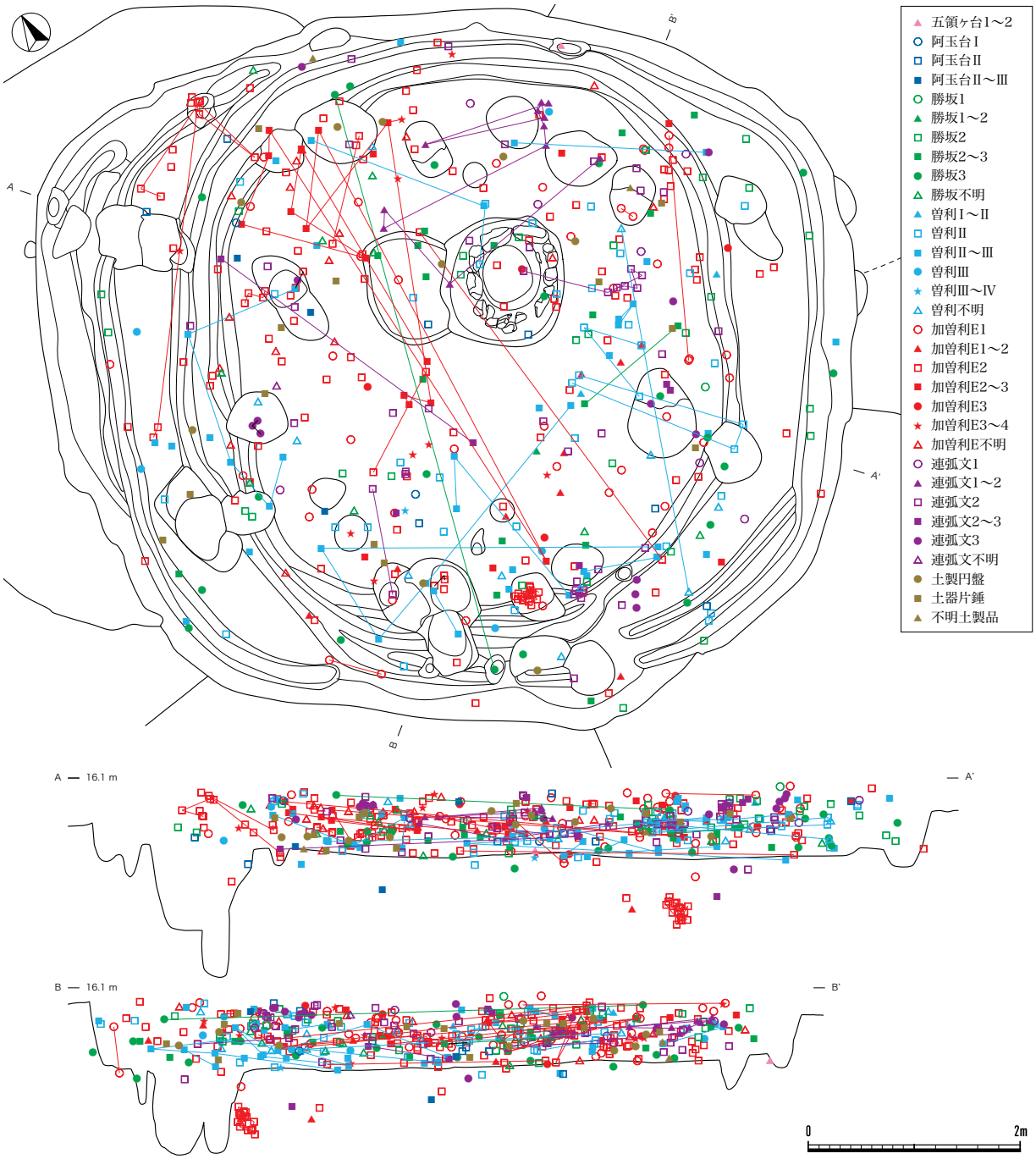

174 号住居跡被熱範囲



第 19 図　174 号住居跡遺物出土状態（1／60）

174 号住居跡遺物出土全景（東より）

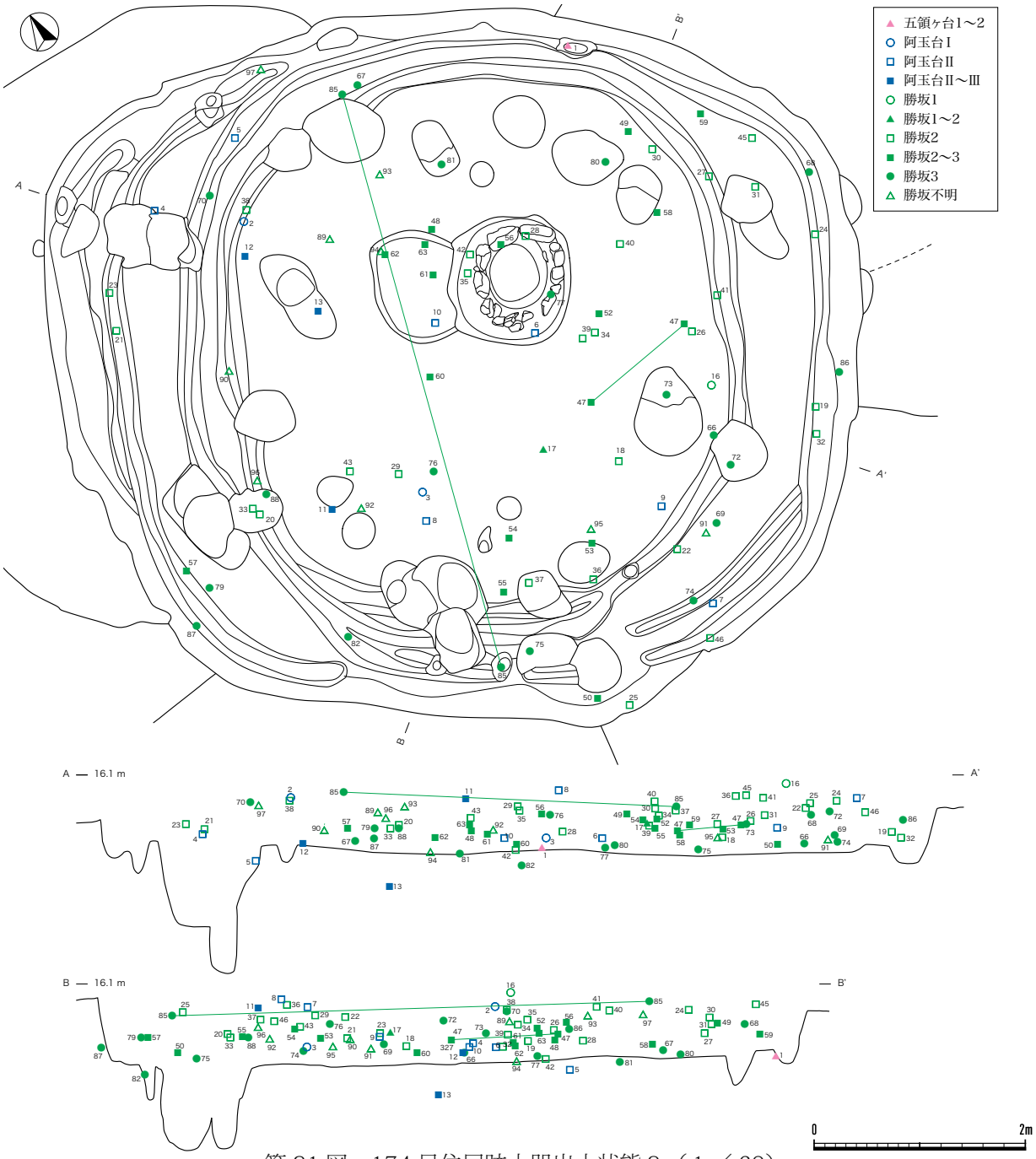
174 号住居跡遺物出土全景（北より）



第 20 図　174 号住居跡土器出土状態 1 （1 ／ 60）

174 号住居跡遺物出土状態（西より）

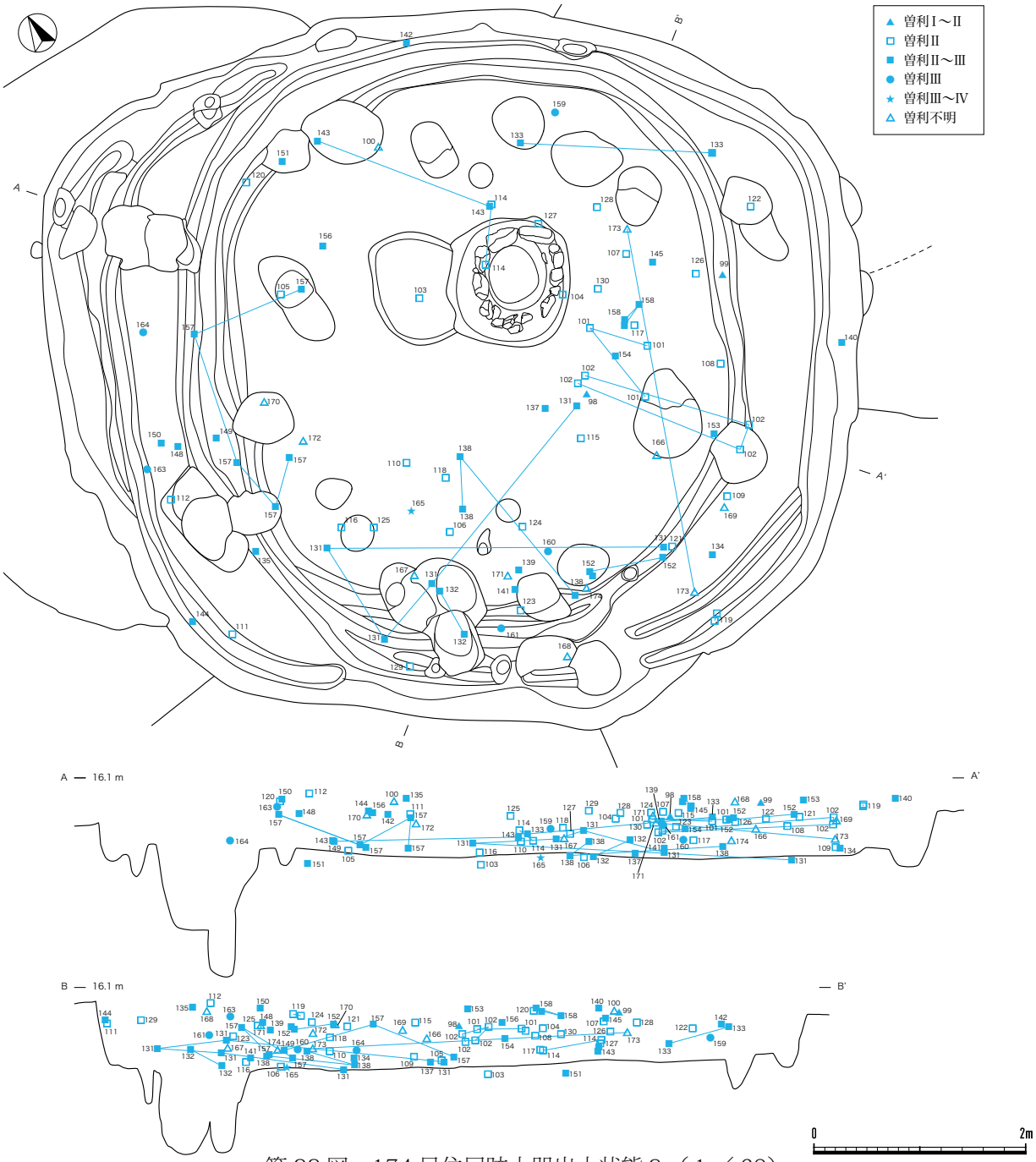
174 号住居跡土製品出土状態（東より）



第 21 図　174 号住居跡土器出土状態２（1／60）

174 号住居跡遺物出土状態

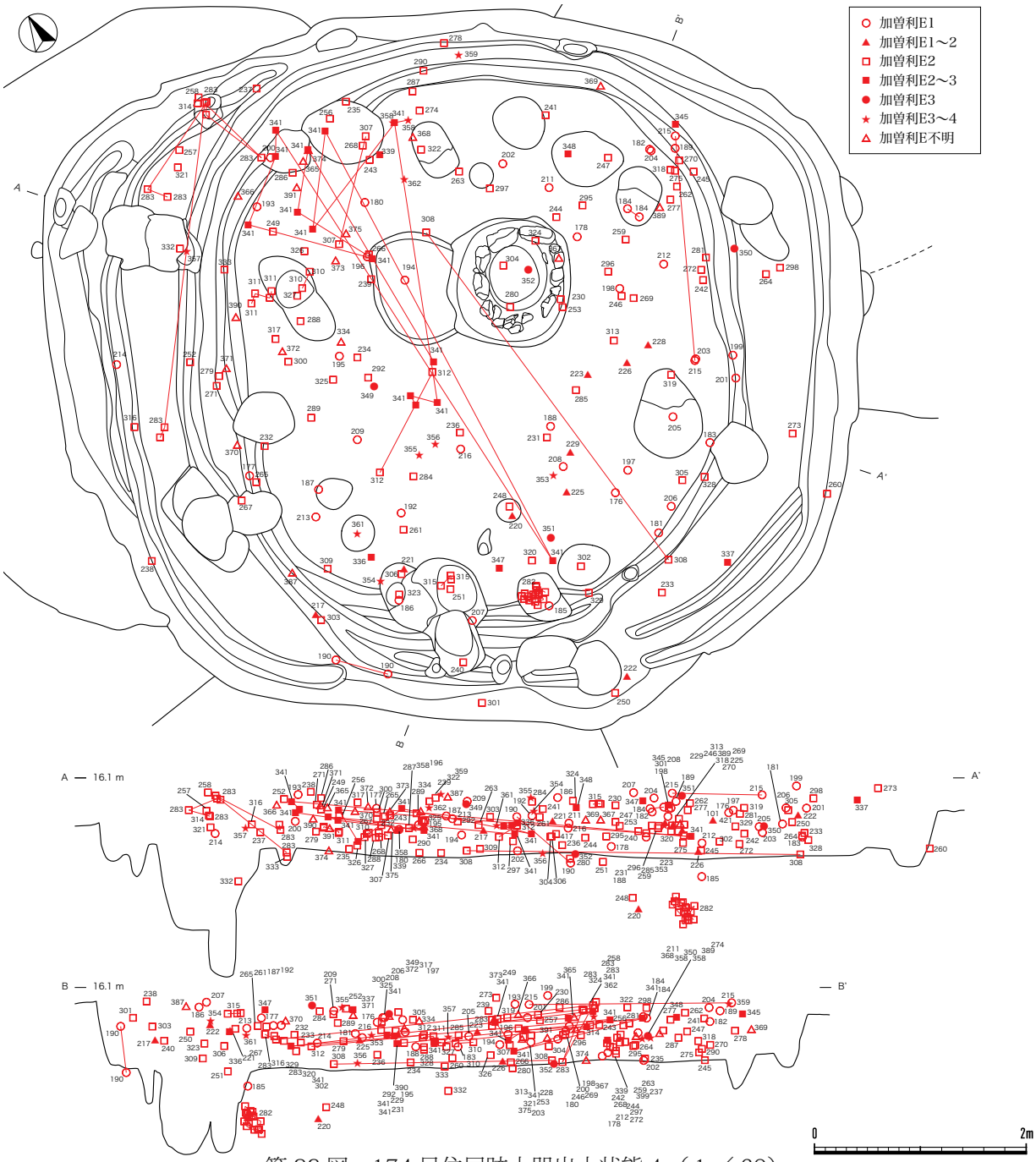
174 号住居跡遺物出土状態（西より）



第 22 図　174 号住居跡土器出土状態３（１／60）

174 号住居跡遺物出土状態（西より）

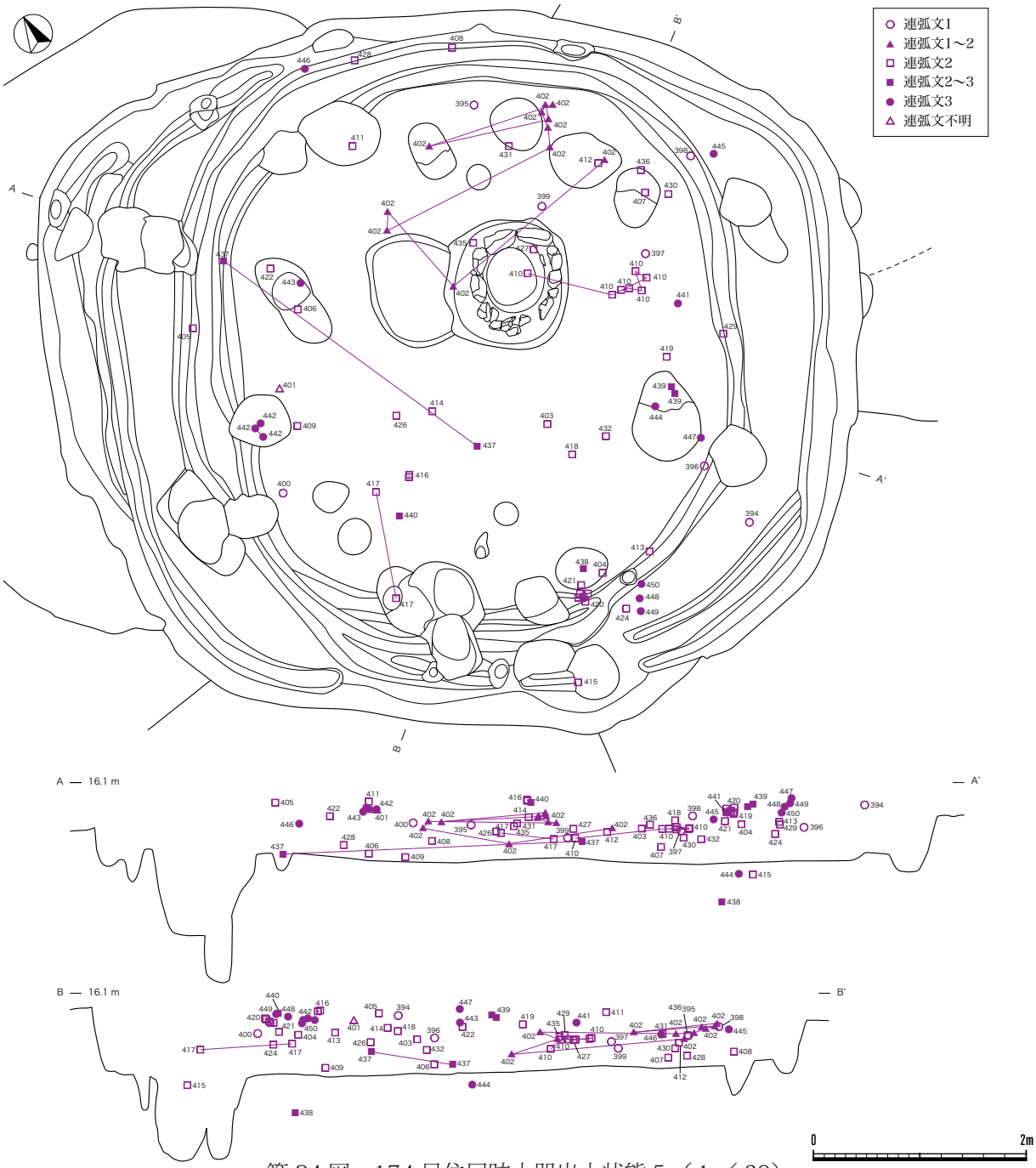
174 号住居跡遺物出土状態



第 23 図　174 号住居跡土器出土状態 4（1／60）

174 号住居跡遺物出土状態

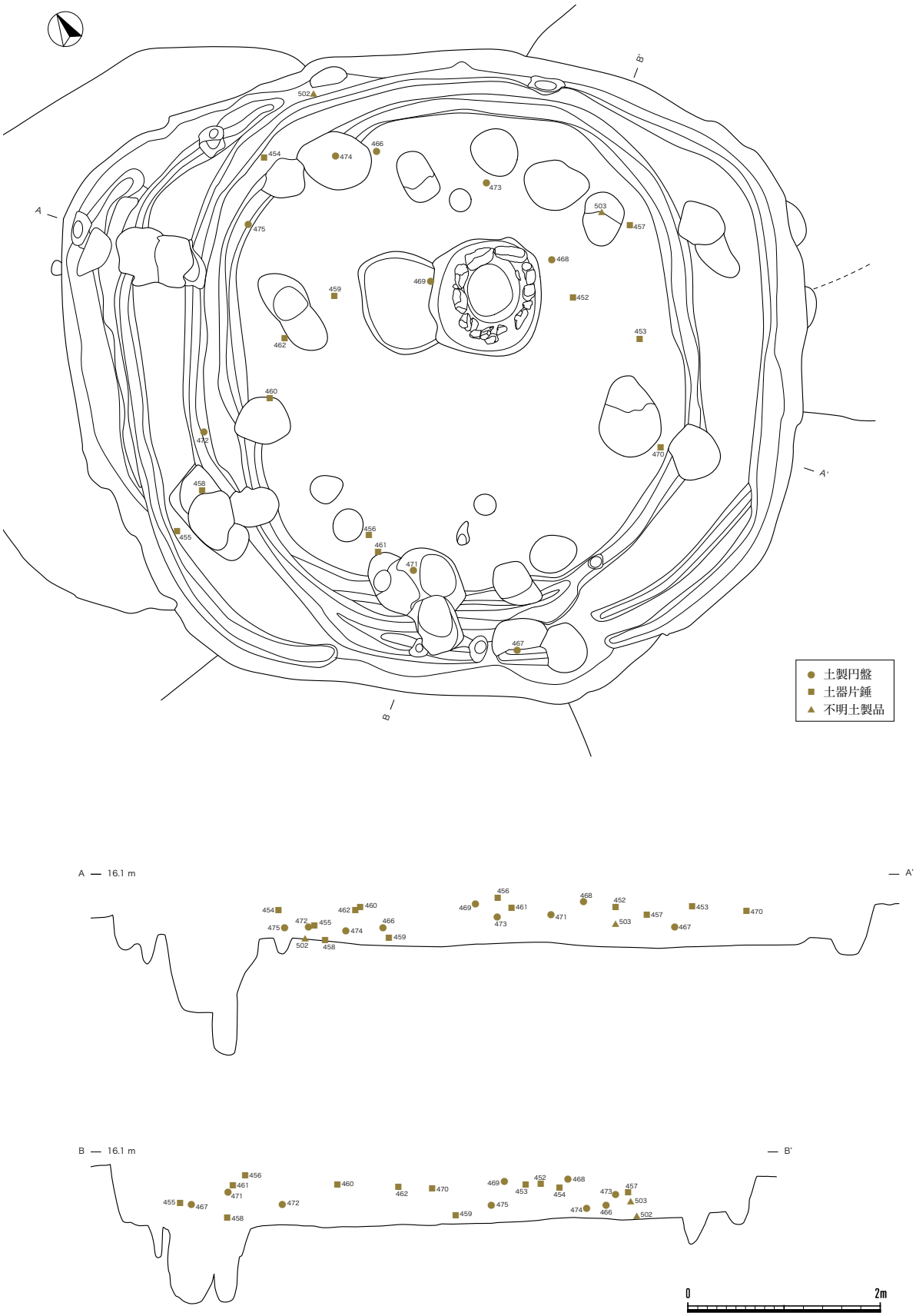
174 号住居跡遺物出土状態



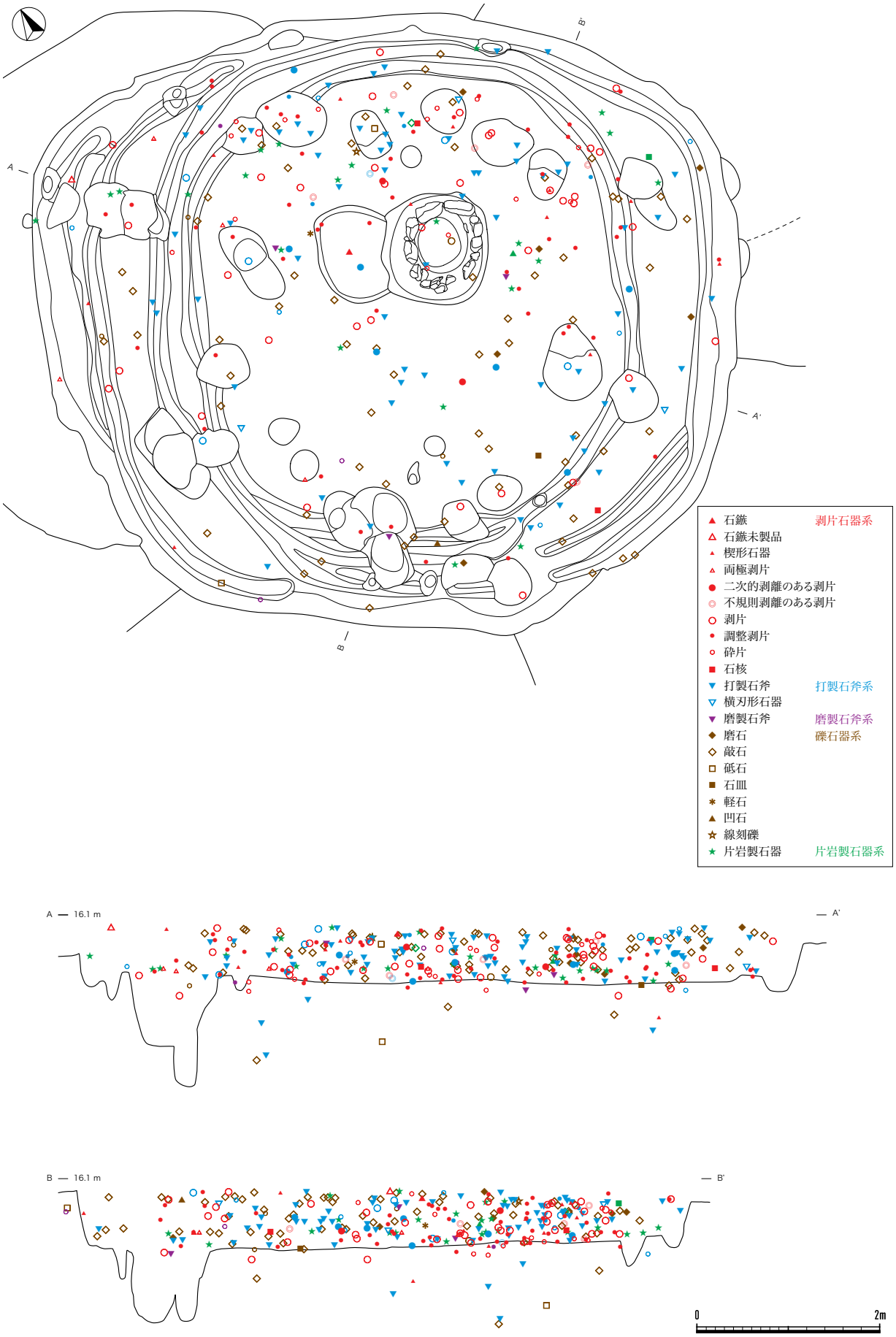
第 24 図　174 号住居跡土器出土状態５（１／60）

174 号住居跡遺物出土状態

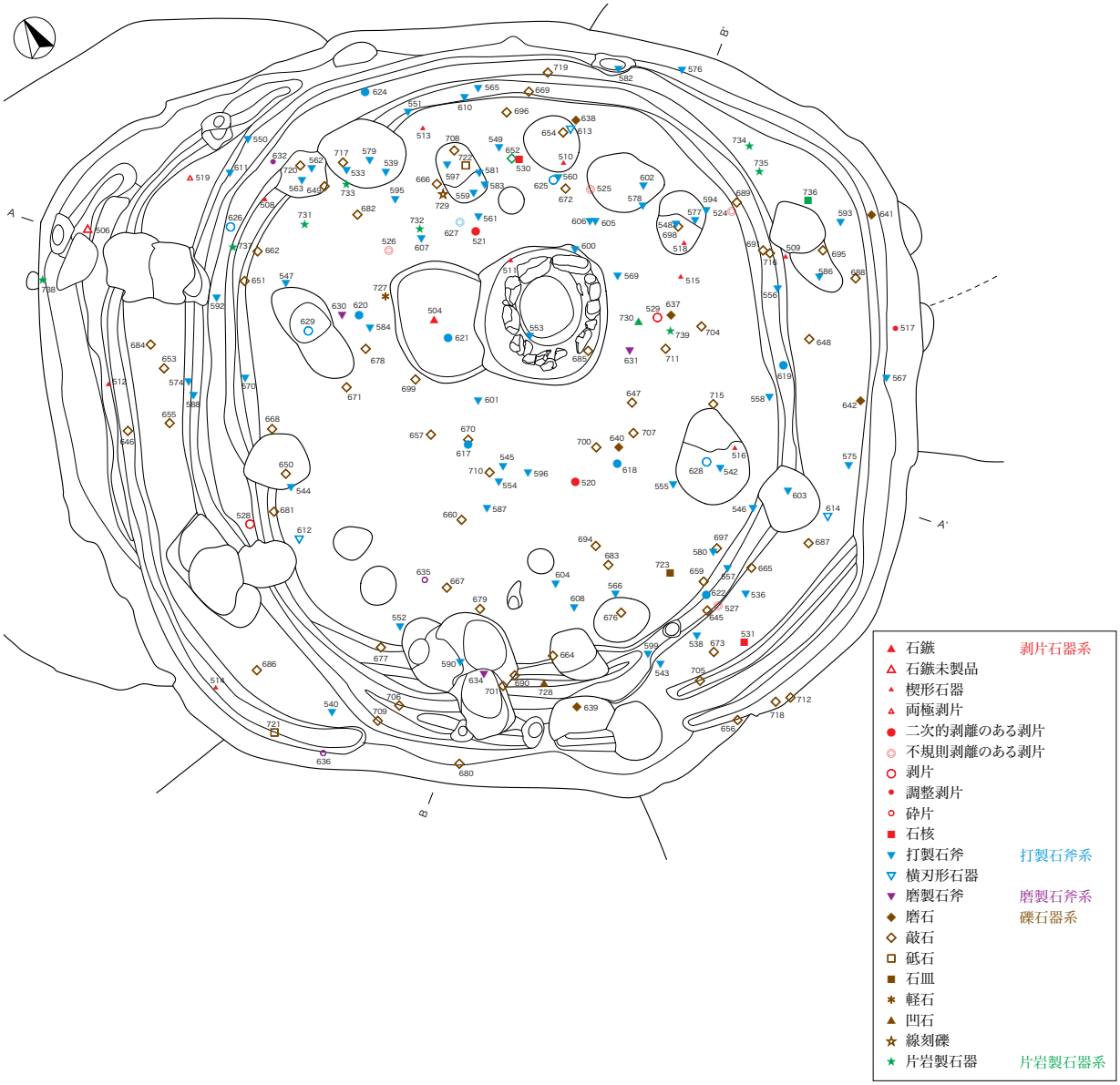
174 号住居跡遺物出土状態

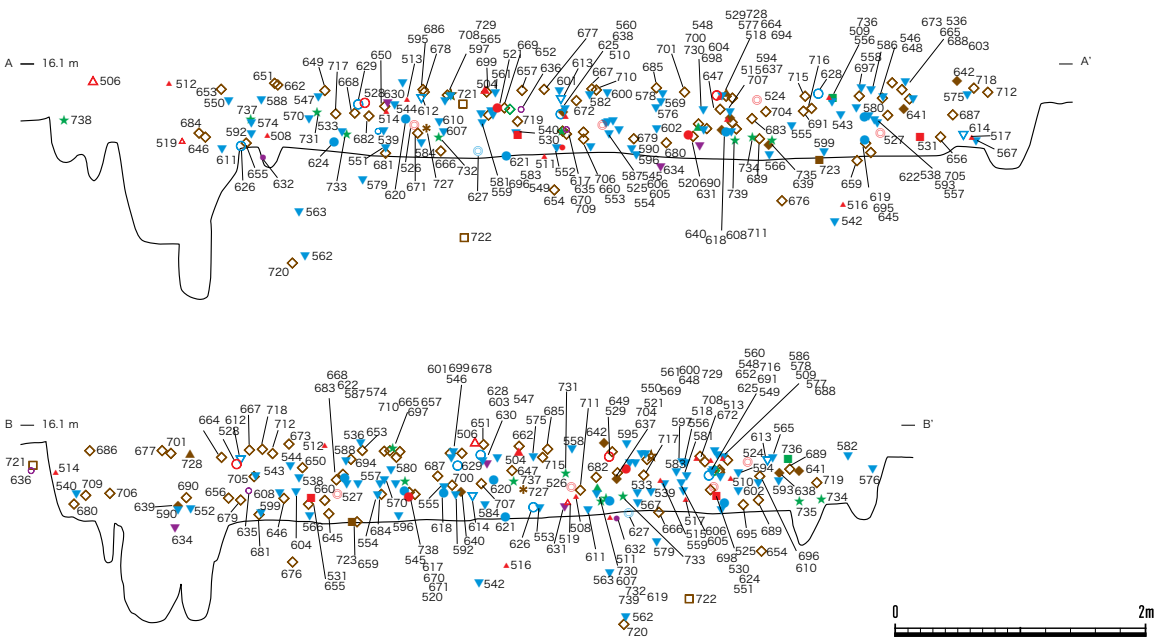


第 25 図　174 号住居跡土製品出土状態（1 ／ 60）

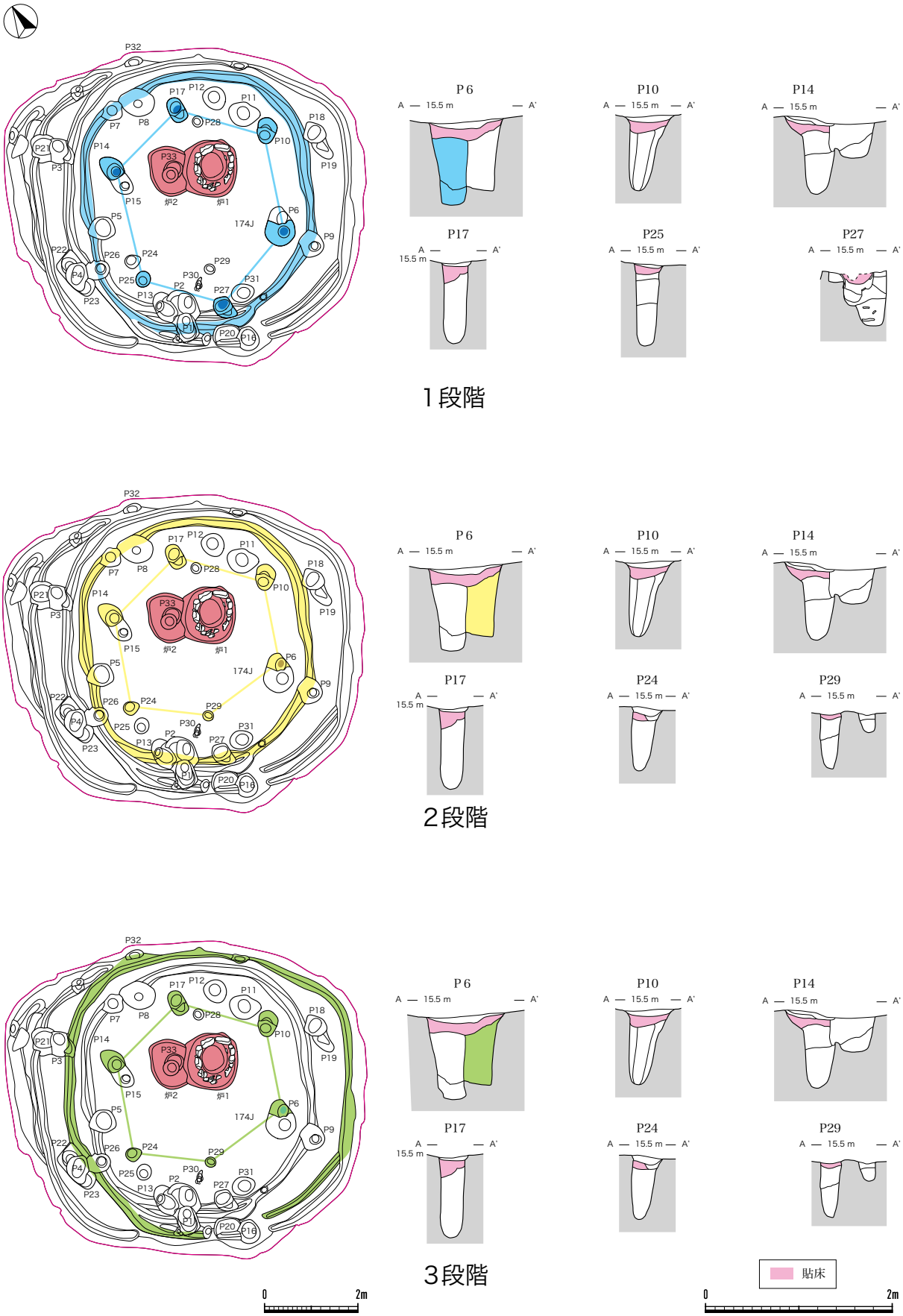


第 26 図　174 号住居跡石器出土状態 1（1／60）

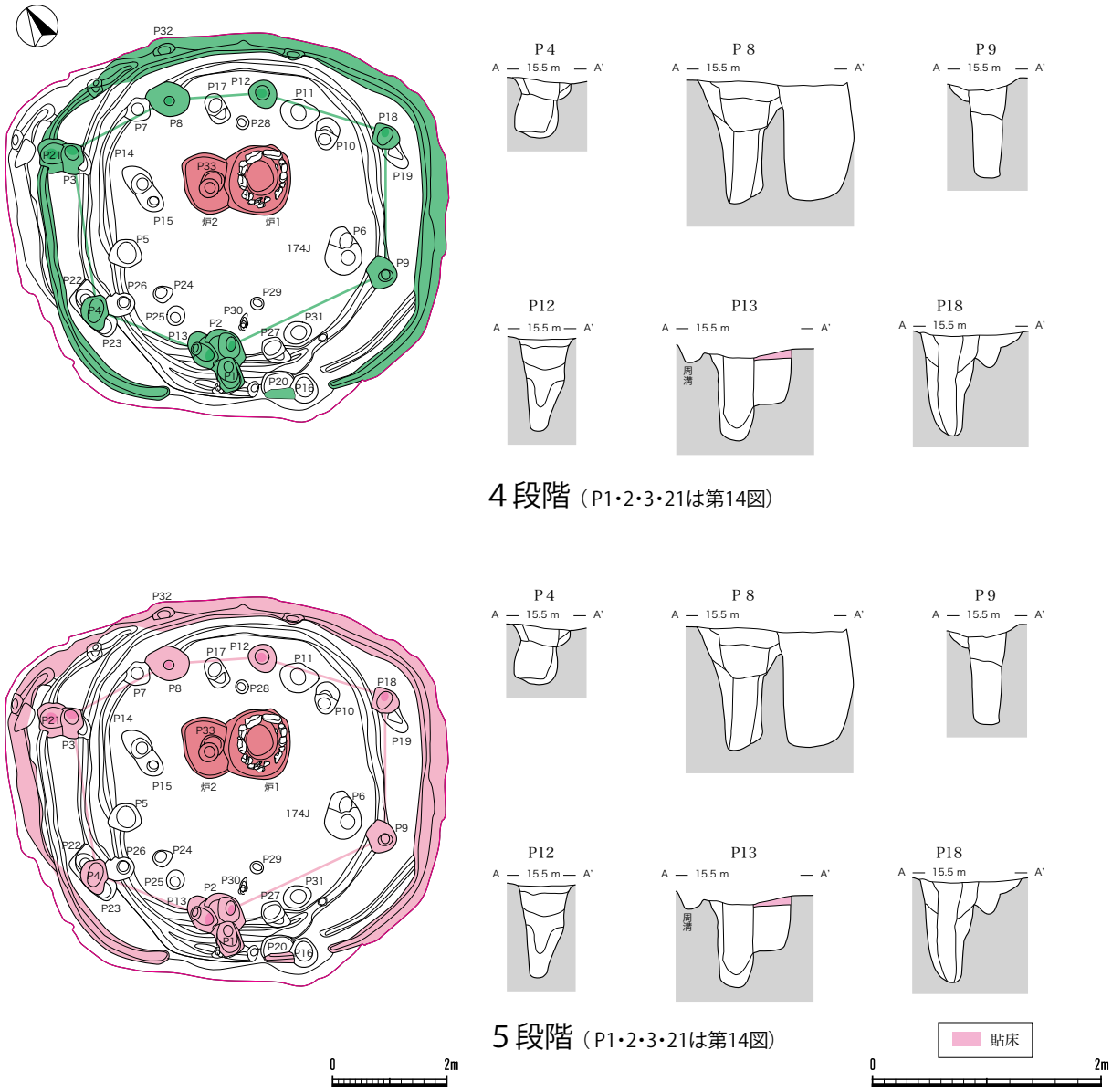




第 27 図　174 号住居跡石器出土状態２（１／60）



第 28 図　174 号住居跡変遷図１（１／120・１／60）



第 29 図　174 号住居跡変遷図２（１／120・１／60）

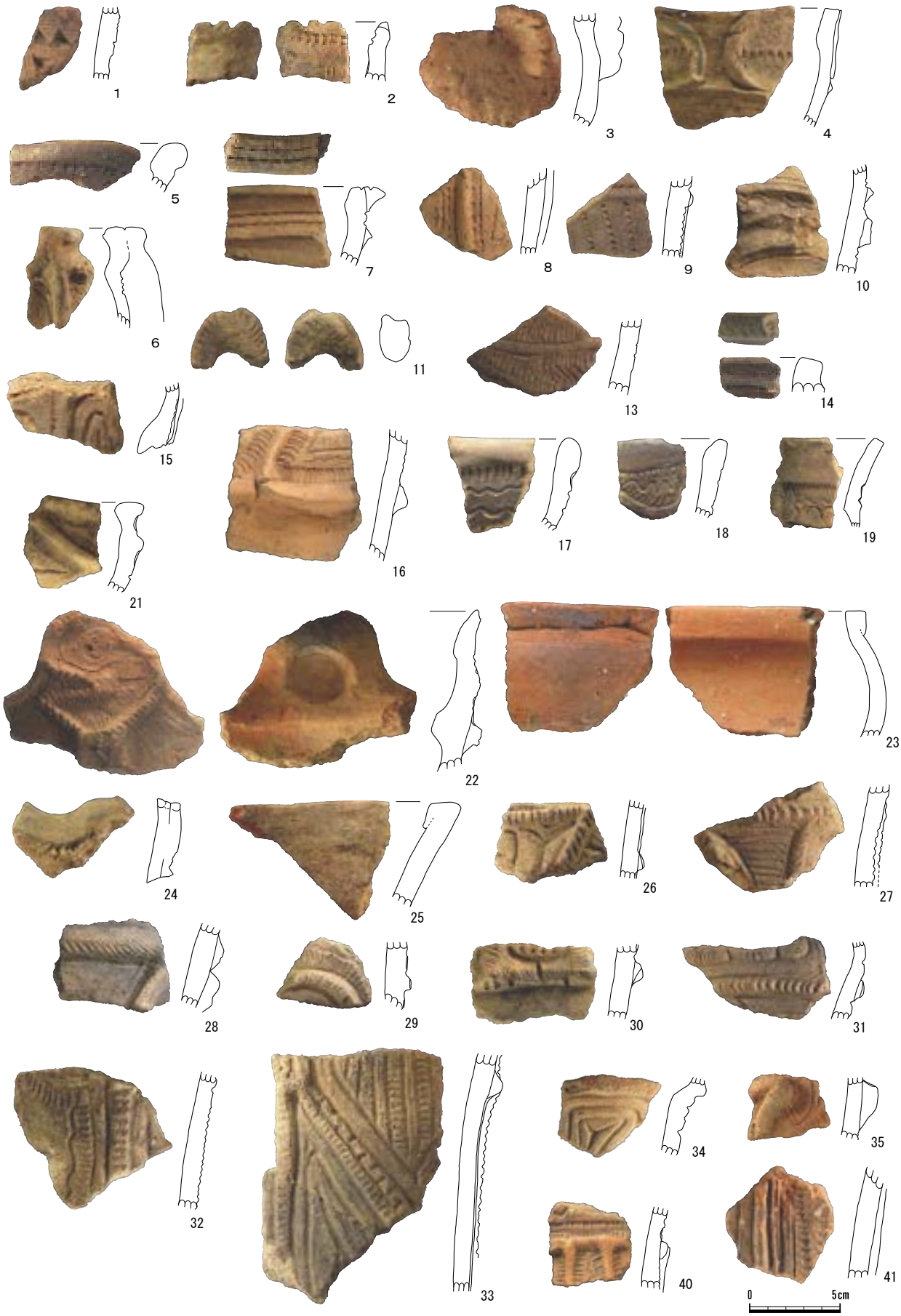
硬質頁岩１点、ガラス質黒色安山岩１点、ホルンフェルス 86 点、砂岩 151 点、片状砂岩１点、細粒凝灰岩１点、凝灰岩 16 点、緑色岩２点、安山岩９点、閃緑岩９点、ハンレイ岩１点、砂質片岩 10 点、緑泥片岩 24 点、結晶片岩 13 点、安山岩質火山弾２点である。

［時　　期］加曽利Ｅ１～Ｅ３式期。

［備　　考］３回目の柱の建て替えより前のピットは貼床により閉塞されており、検出時には僅かに窪んでいたことが確認されている。そのことから、３回目の柱の建て替え後の貼床の厚さは６㎝前後と推測される。

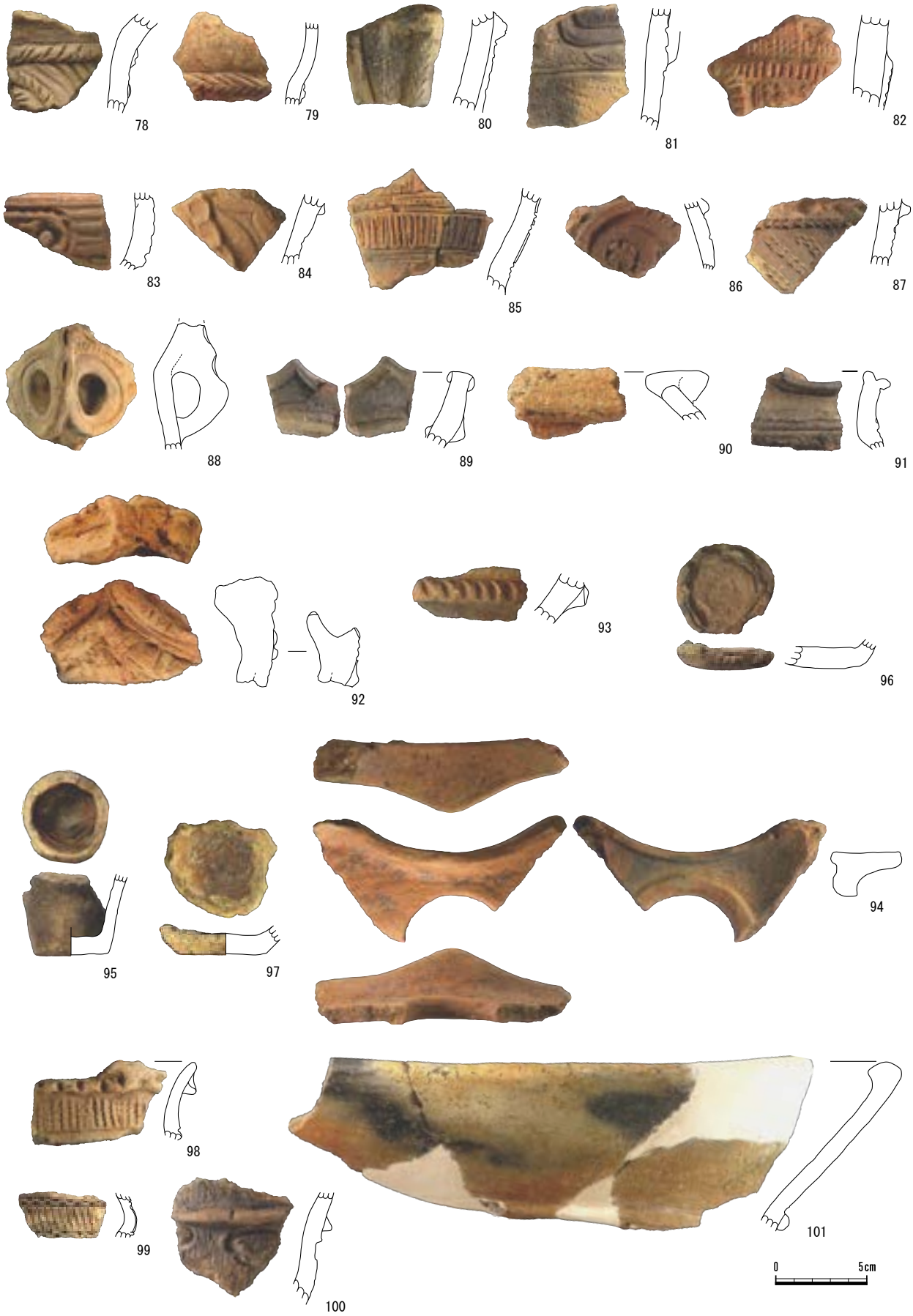
遺　　物（第 30 ～ 60 図、第 10 ～ 25・42 ～ 48 表）

五領ヶ台式（１）、阿玉台式（２～ 15）、勝坂式（16 ～ 97）、曽利式（98 ～ 175）、加曽利Ｅ式

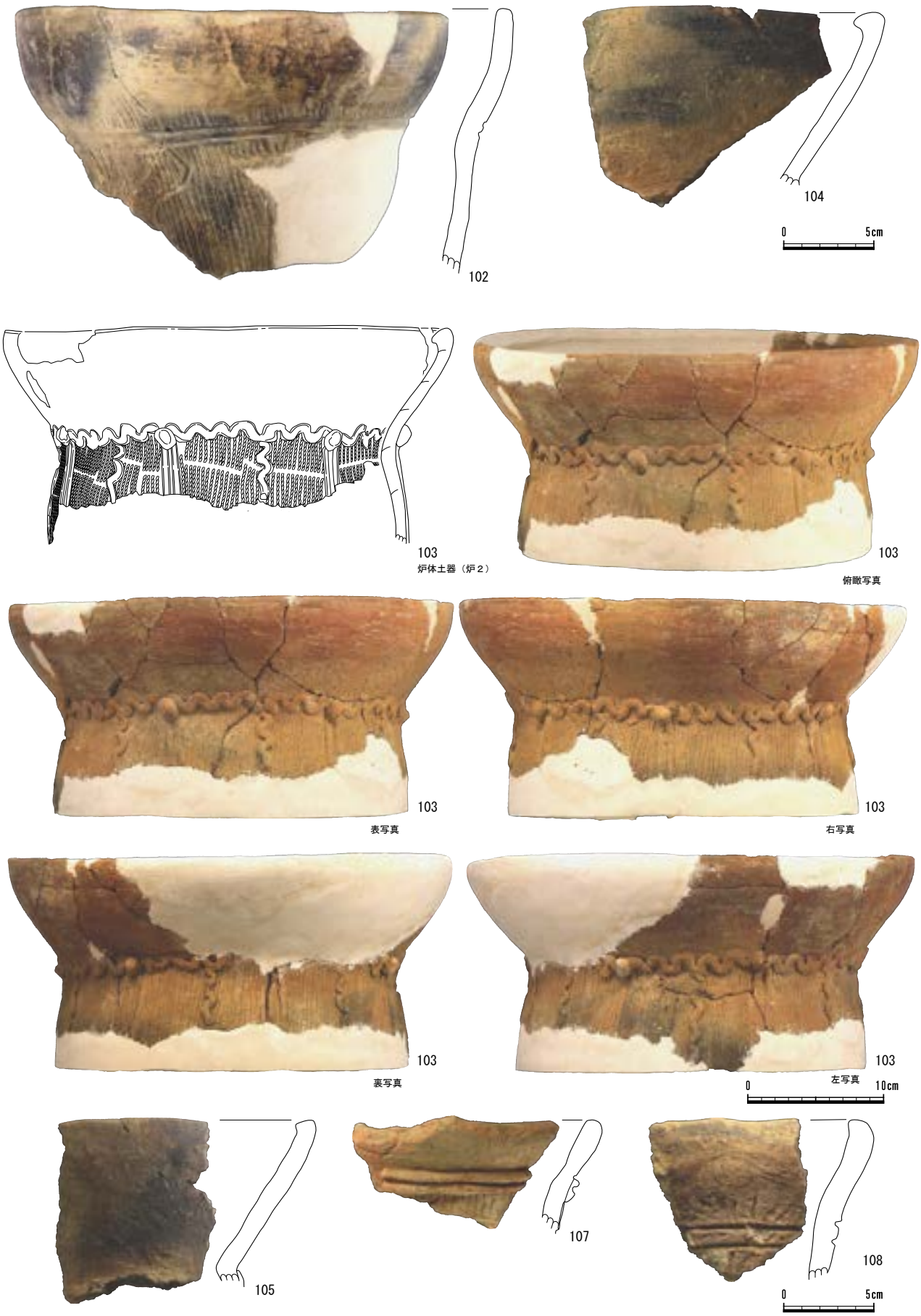


第 30 図　174 号住居跡出土土器１（１／３）

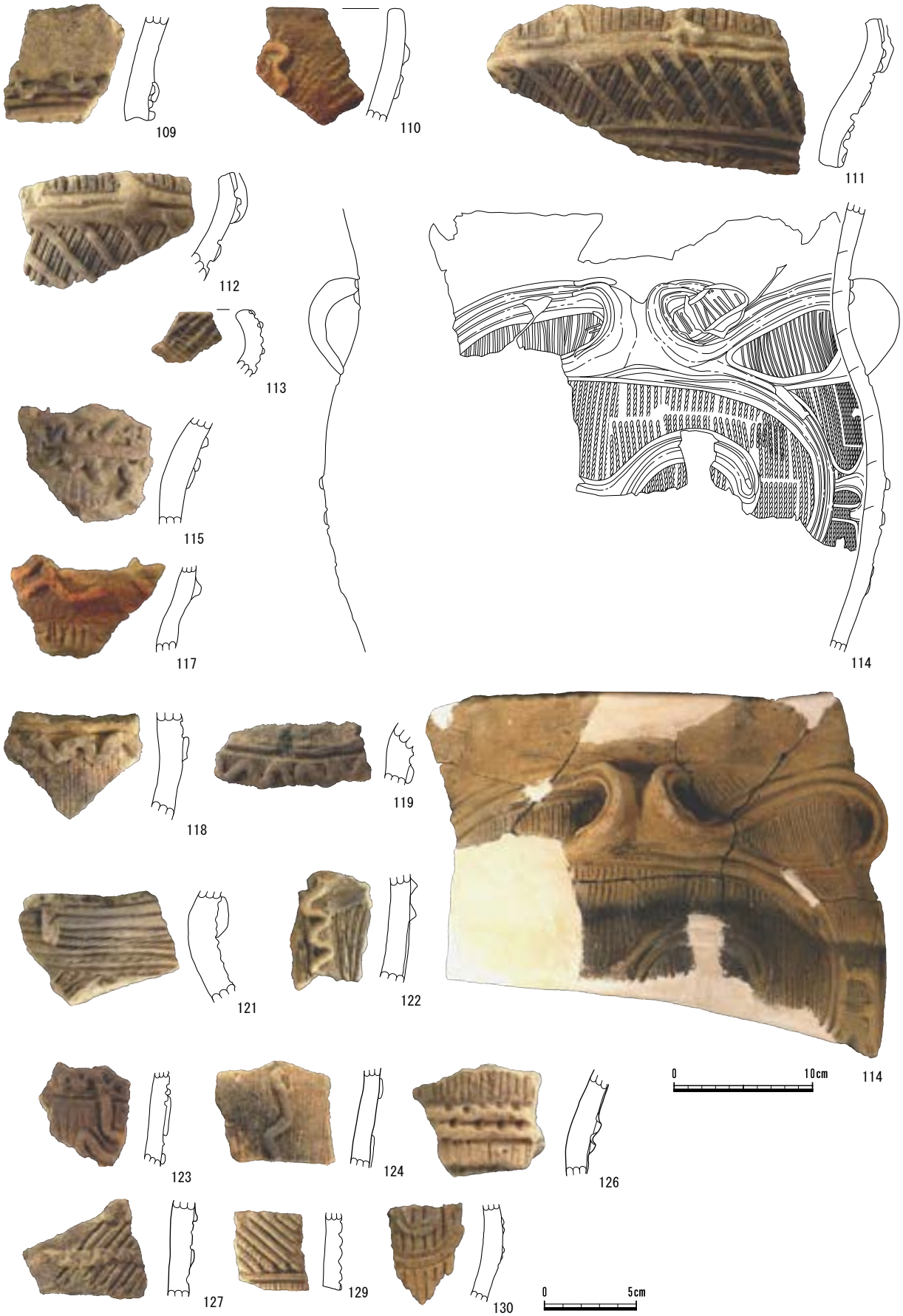
第 31 図　174 号住居跡出土土器２（１／３）



第 32 図　174 号住居跡出土土器３（１／３）

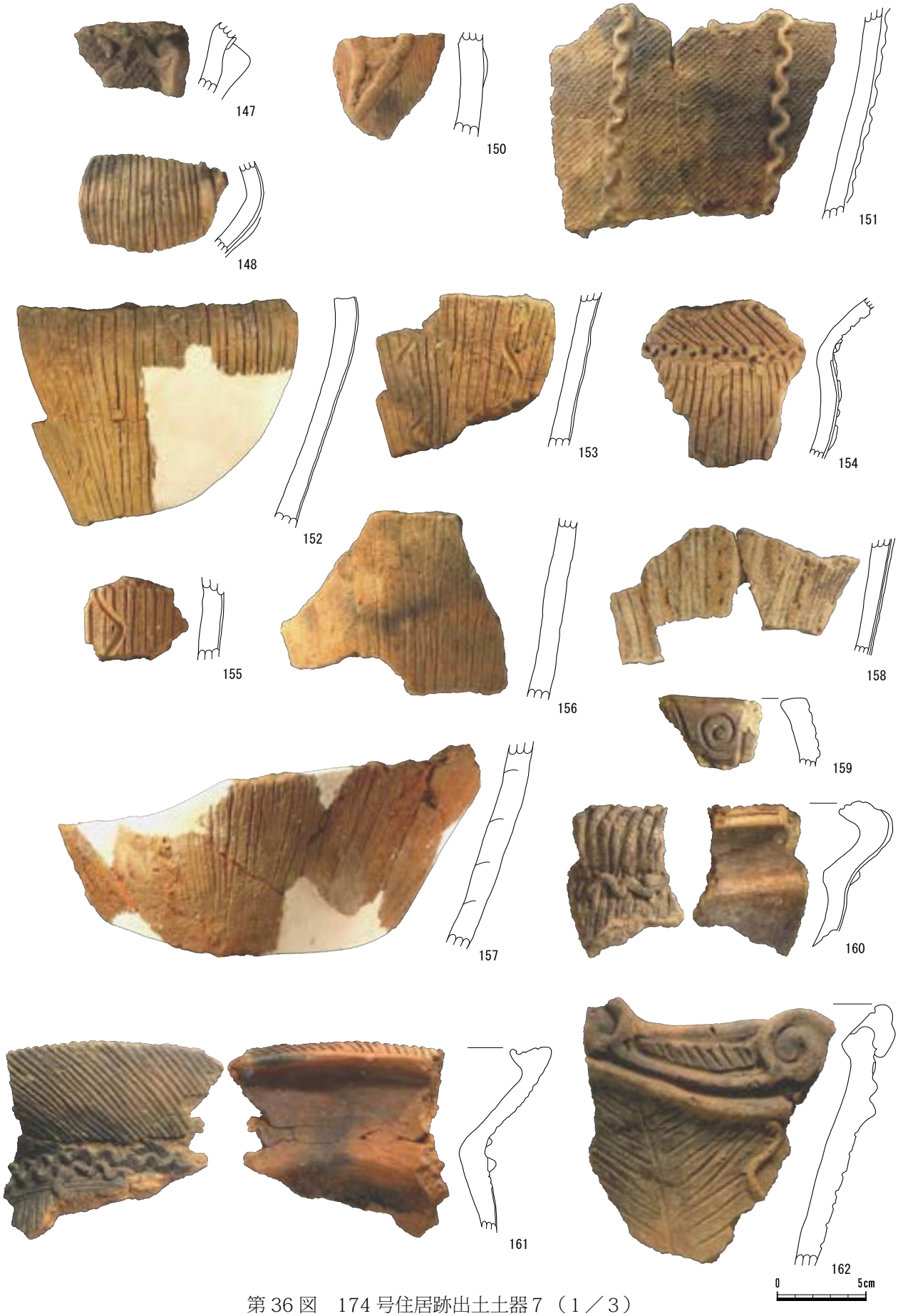


第 33 図　174 号住居跡出土土器４（１／４・１／３）

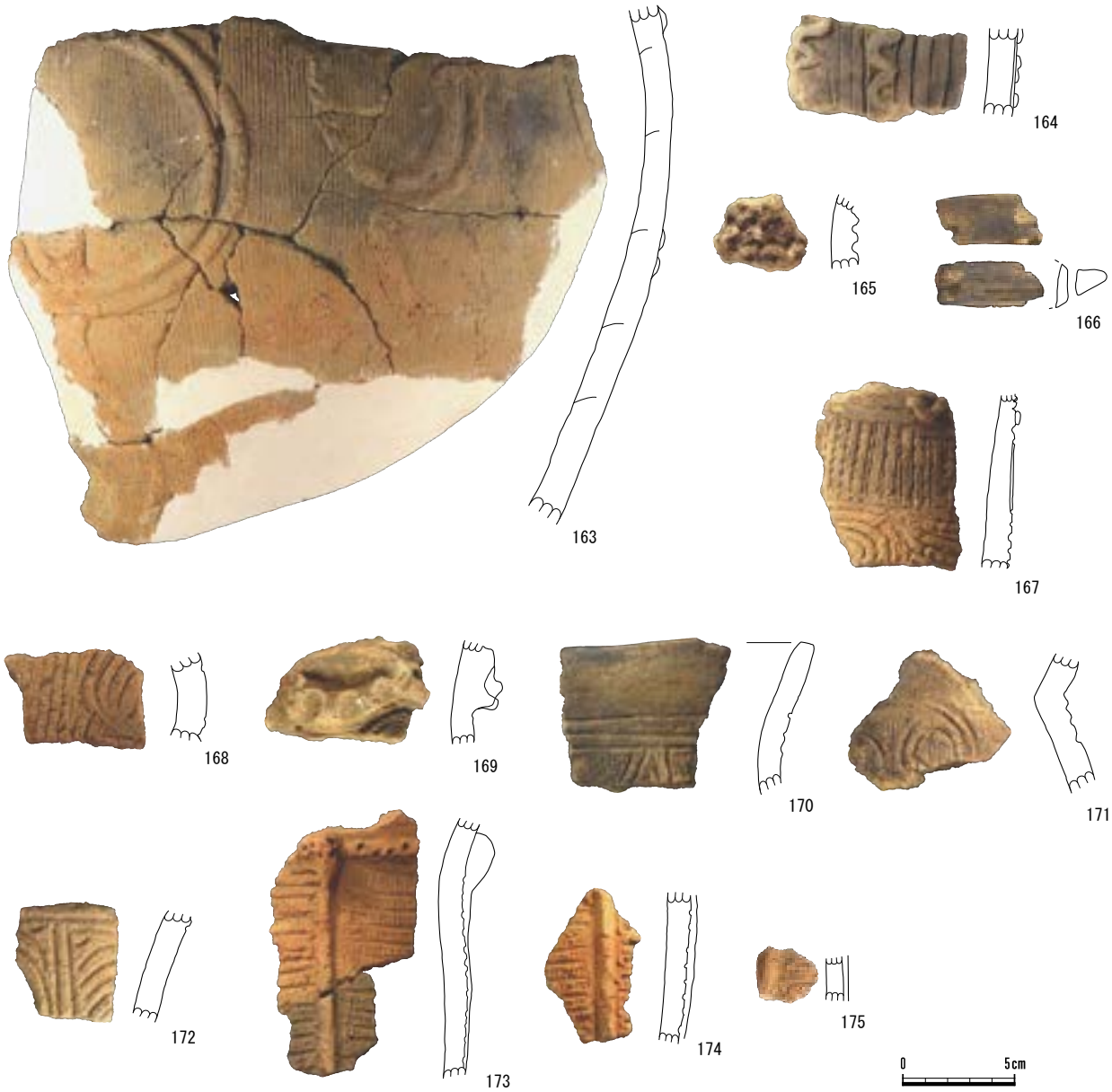


第 34 図　174 号住居跡出土土器５（１／４・１／３）

第 35 図　174 号住居跡出土土器６（１／４・１／３）

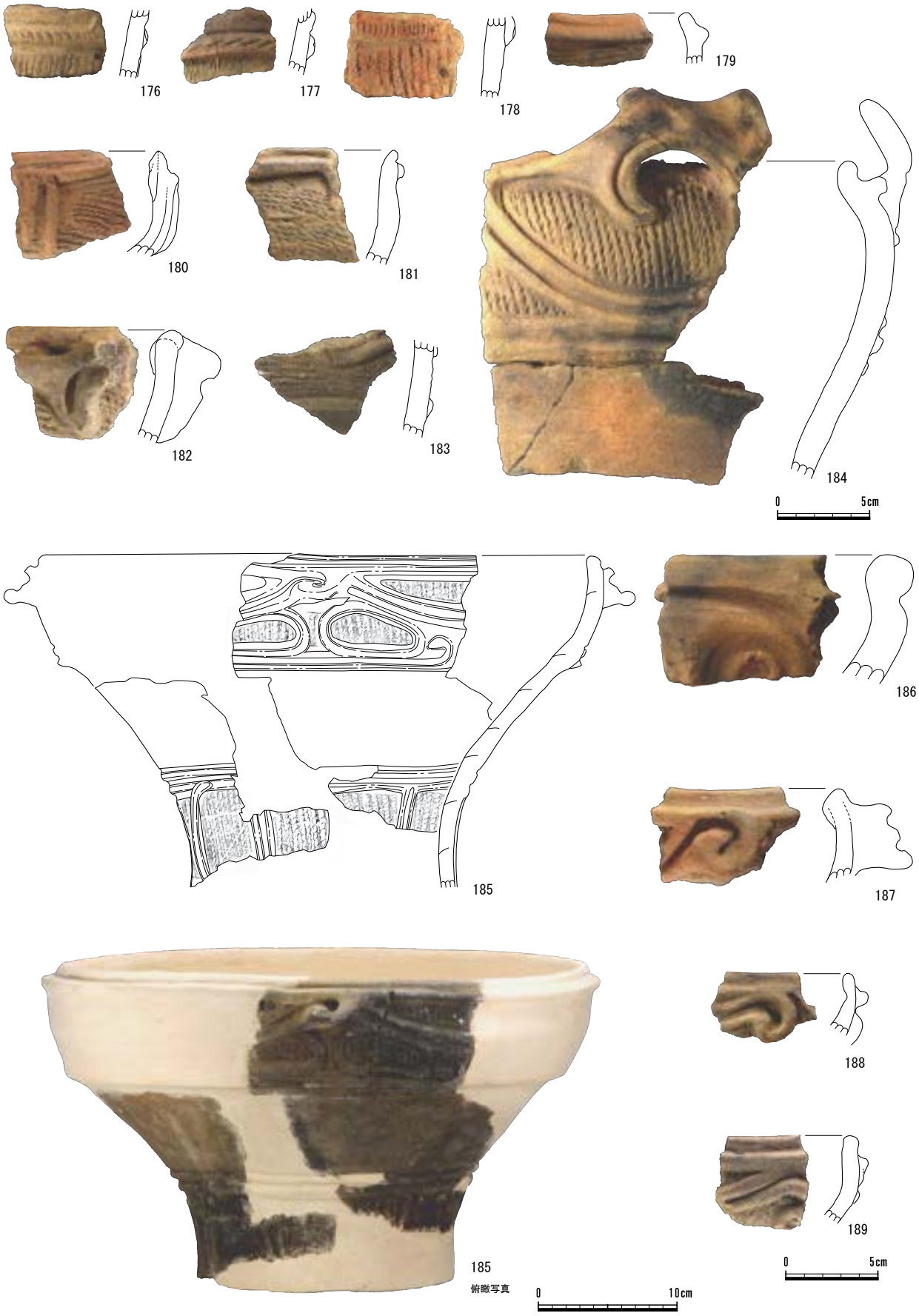


第 36 図　174 号住居跡出土土器７（１／３）

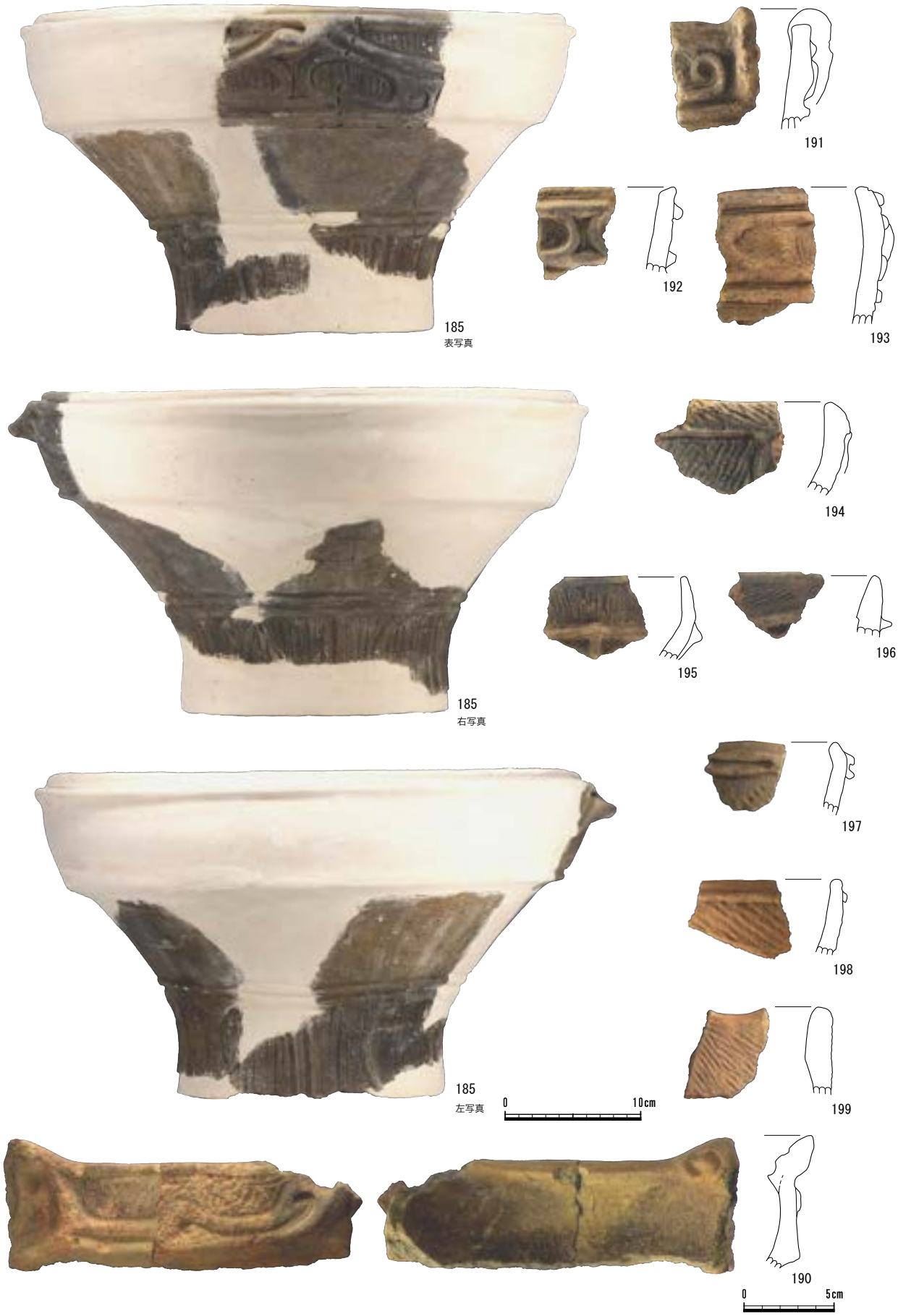


第 37 図　174 号住居跡出土土器８（１／３）

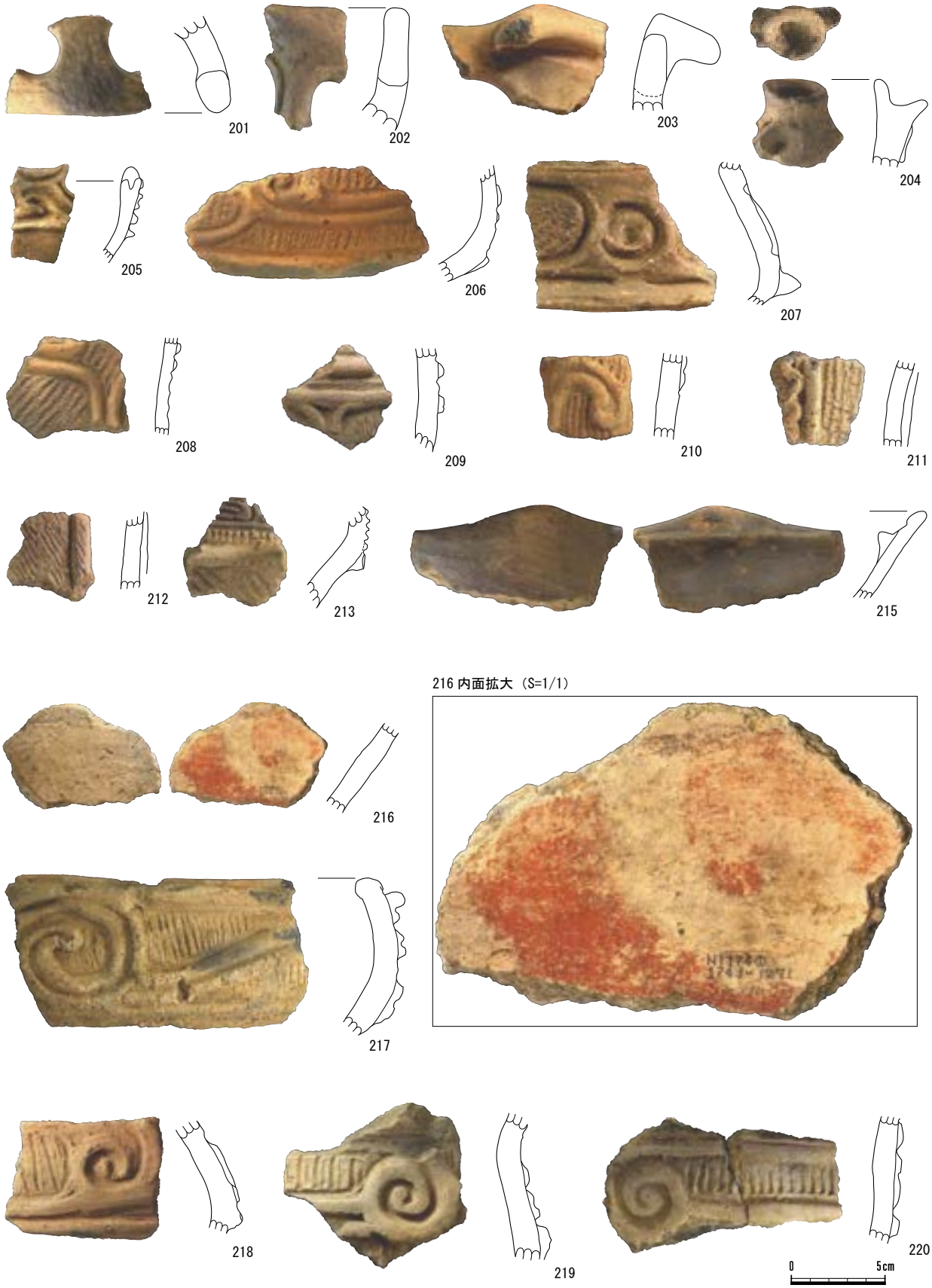
（176 ～ 393）、連弧文（394 ～ 450）、称名寺式（451）、土器片錘（452 ～ 465）、土製円盤（466 ～ 501）、不明土製品（502 ～ 503）、石鏃（504 ～ 505）、石鏃未製品（506）、石錐（507）、楔形石器（508 ～ 518）、両極剥片（519）、二次的剥離のある剥片（520 ～ 523）、不規則剥離のある剥片（524 ～ 527）、剥片（剥片石器系：528 ～ 529）、石核（530 ～ 532）、打製石斧（533 ～ 611）、横刃形石器（612 ～ 614）、二次的剥離のある剥片（打製石斧系：615 ～ 622、624）、不規則剥離のある剥片（打製石斧系：623、627）、剥片（打製石斧系：625 ～ 626、628 ～ 629）、磨製石斧（630 ～ 631、634）、剥片（磨製石斧系：633）、砕片（磨製石斧系：635 ～ 636）、磨石（637 ～ 644）、敲石（645 ～ 720）、砥石（721 ～ 722）、石皿（723 ～ 725、736）、軽石（726 ～ 727）、凹石（728、730）、線刻礫（729）、片岩製石器（731 ～ 735、737 ～ 739）を図示した。103 は炉 2 の炉体土器で口縁部径 32.9 ㎝、残存高 15.9 ㎝、185 は P27 の埋甕で残存部口縁部径 38.2 ㎝、残存高 23.7 ㎝、438 は P31 の埋甕で残存高 19.7 ㎝、胴部最大径 30.1 ㎝を測る。



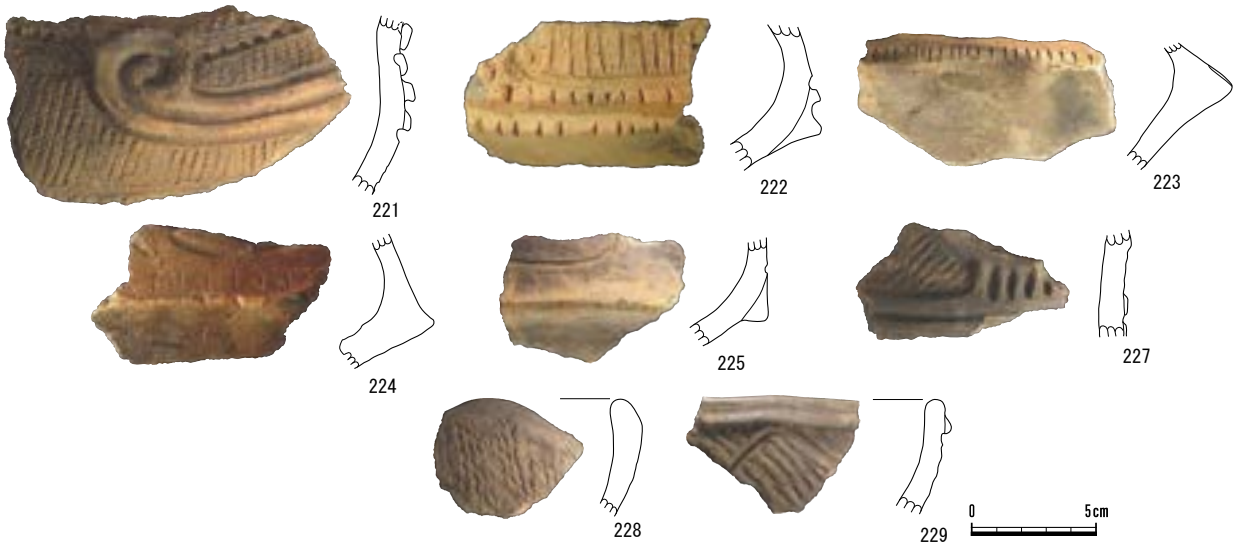
第 38 図　174 号住居跡出土土器９（１／４・１／３）

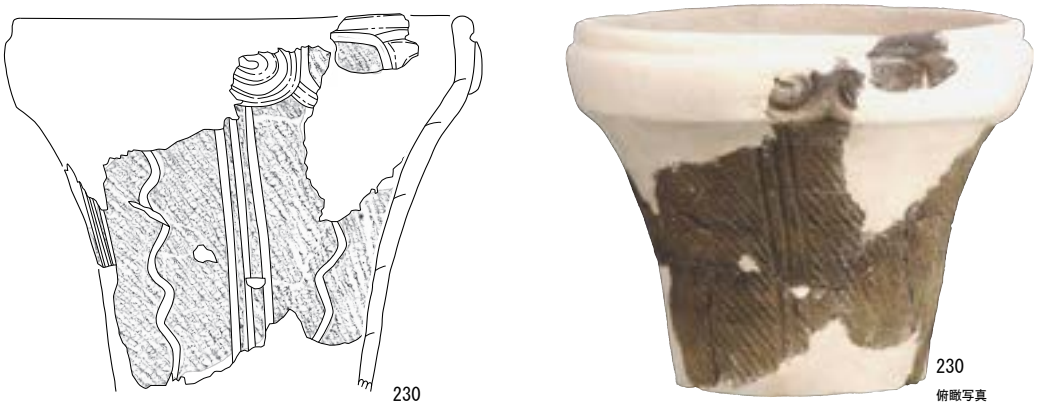


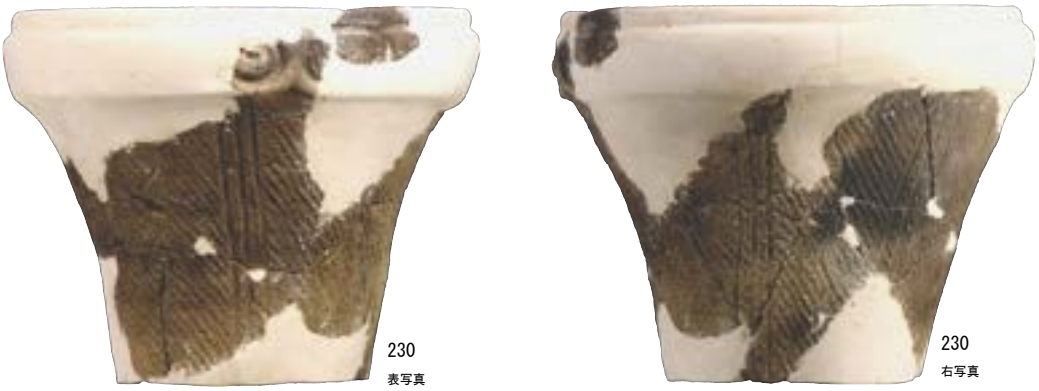
第 39 図　174 号住居跡出土土器 10（1／4・1／3）



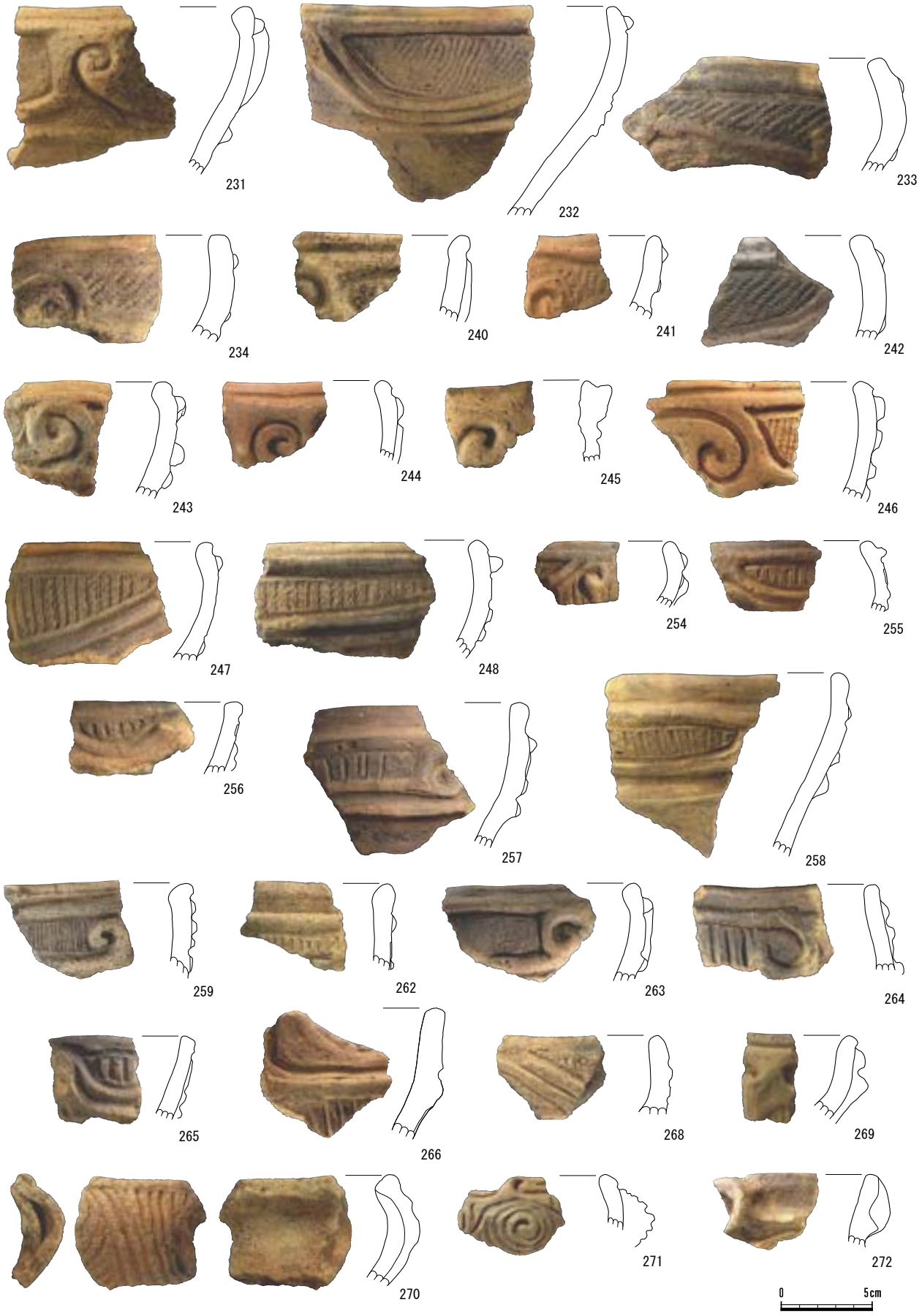
第 40 図　174 号住居跡出土土器 11（1／3）



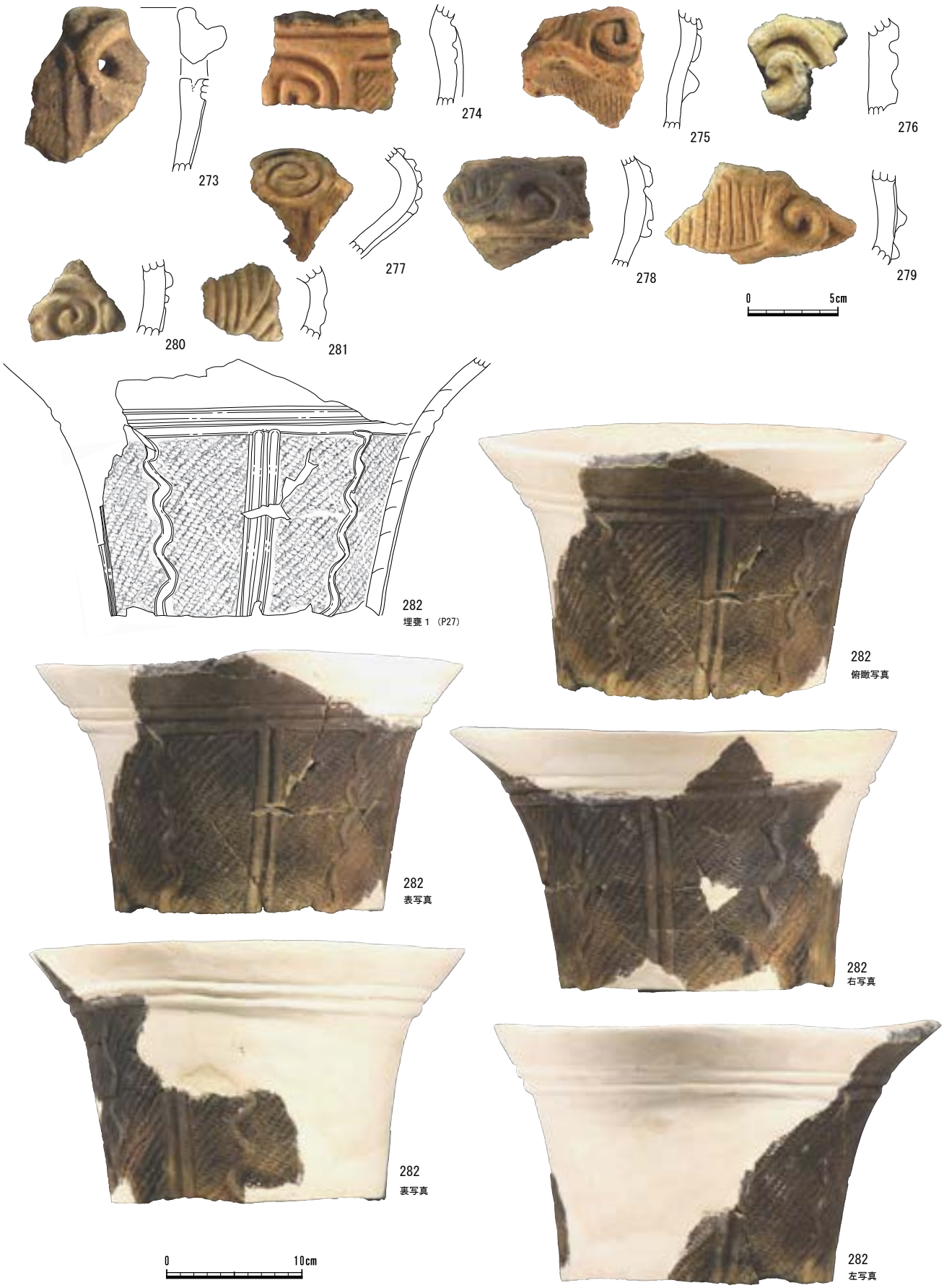




第 41 図　174 号住居跡出土土器 12（1／4・1／3）

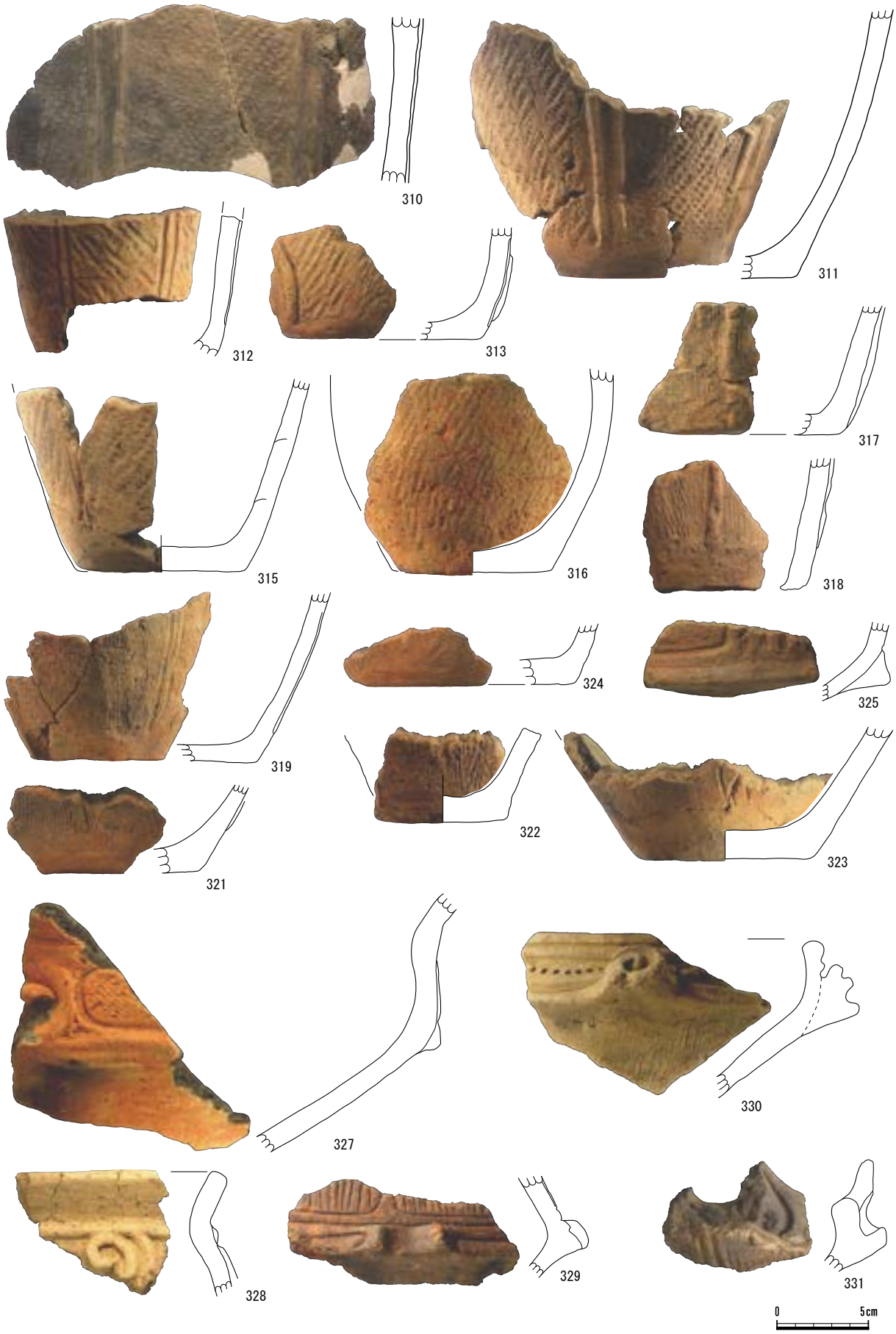


第 42 図　174 号住居跡出土土器 13（1／3）

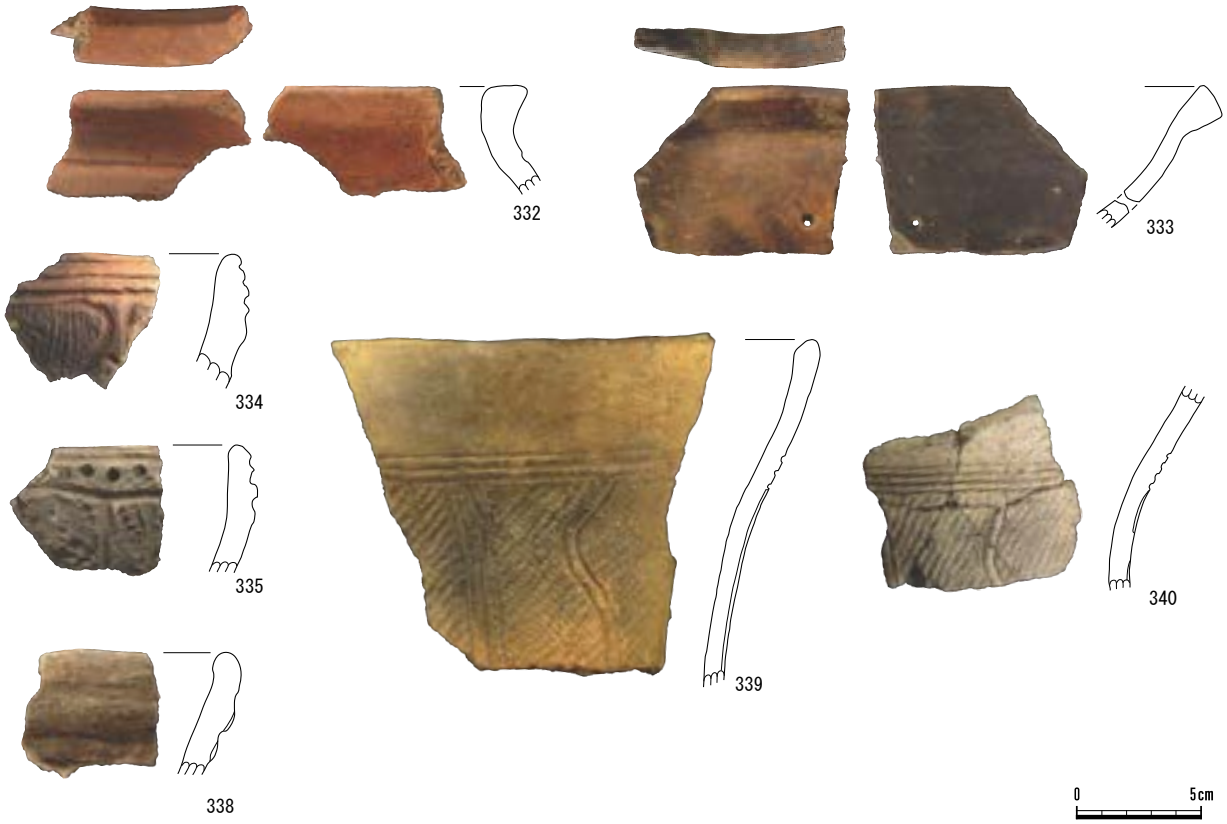


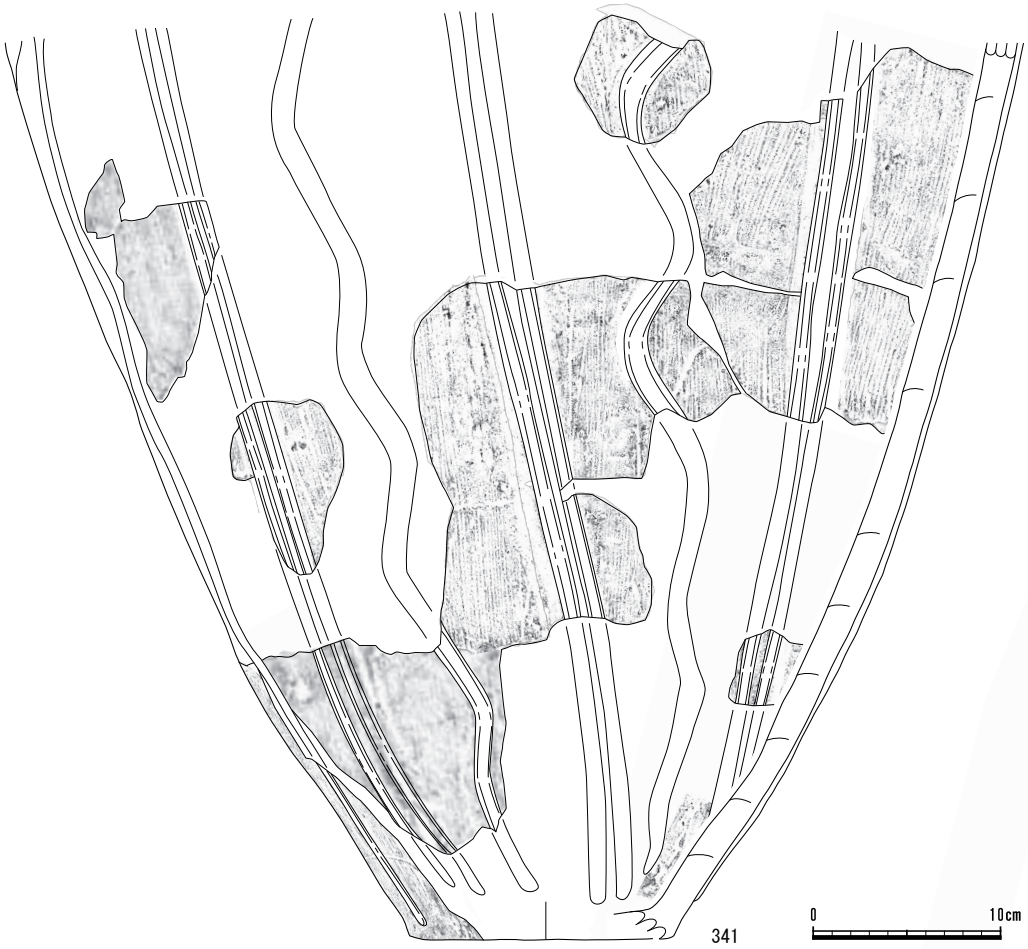
第 43 図　174 号住居跡出土土器 14（1／4・1／3）

第 44 図　174 号住居跡出土土器 15（1／4・1／3）

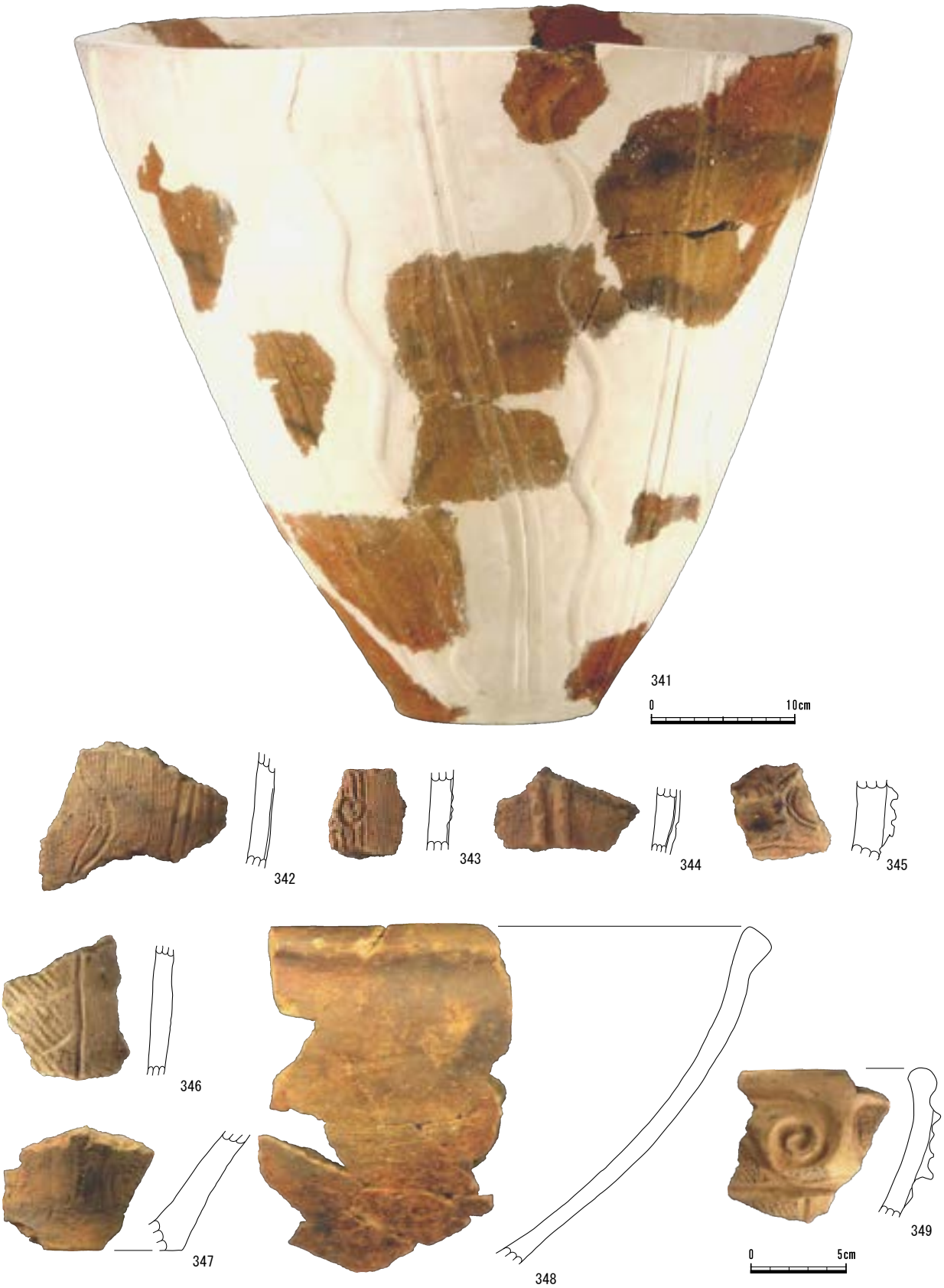


第 45 図　174 号住居跡出土土器 16（1／3）



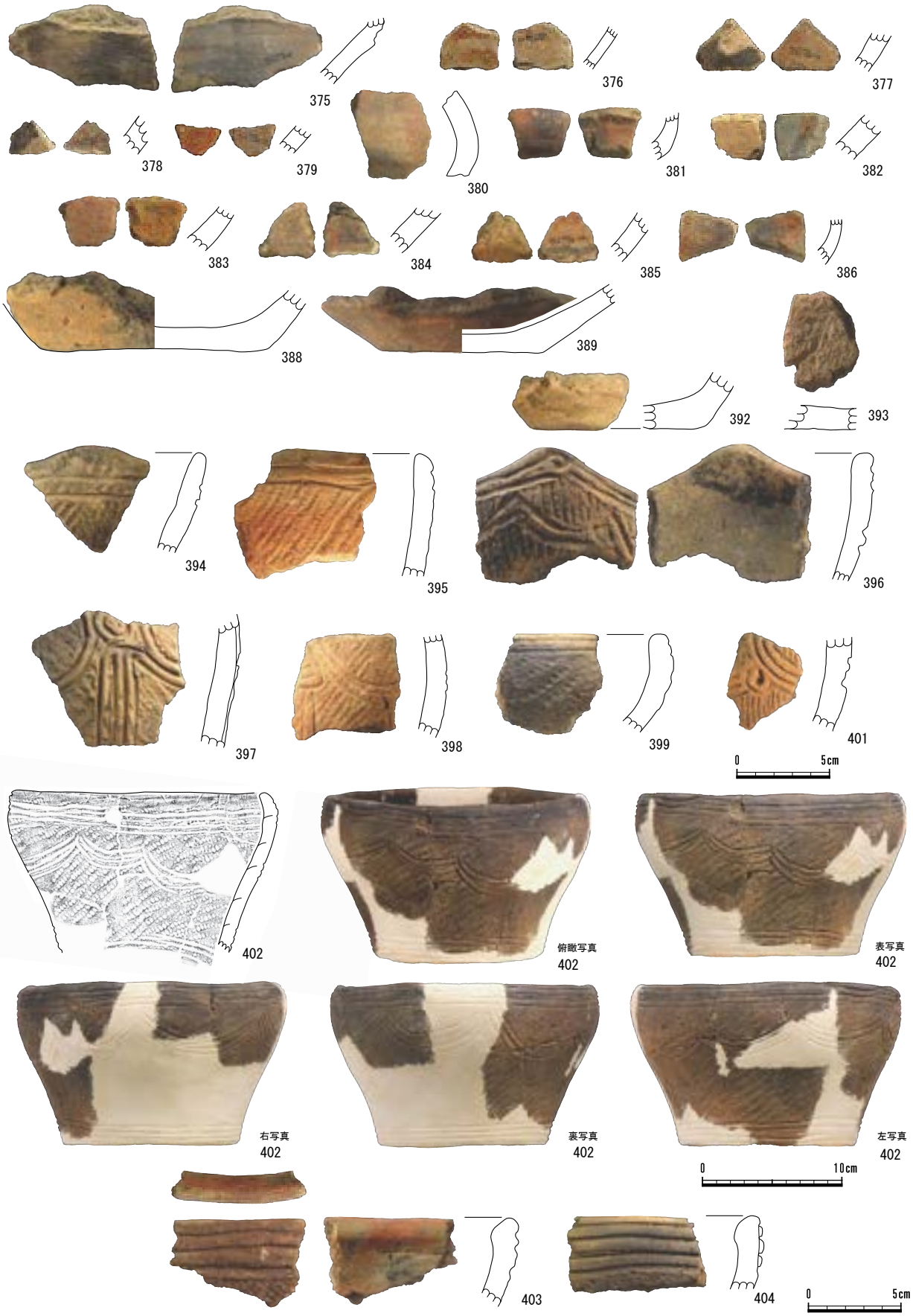


第 46 図　174 号住居跡出土土器 17（1／4・1／3）

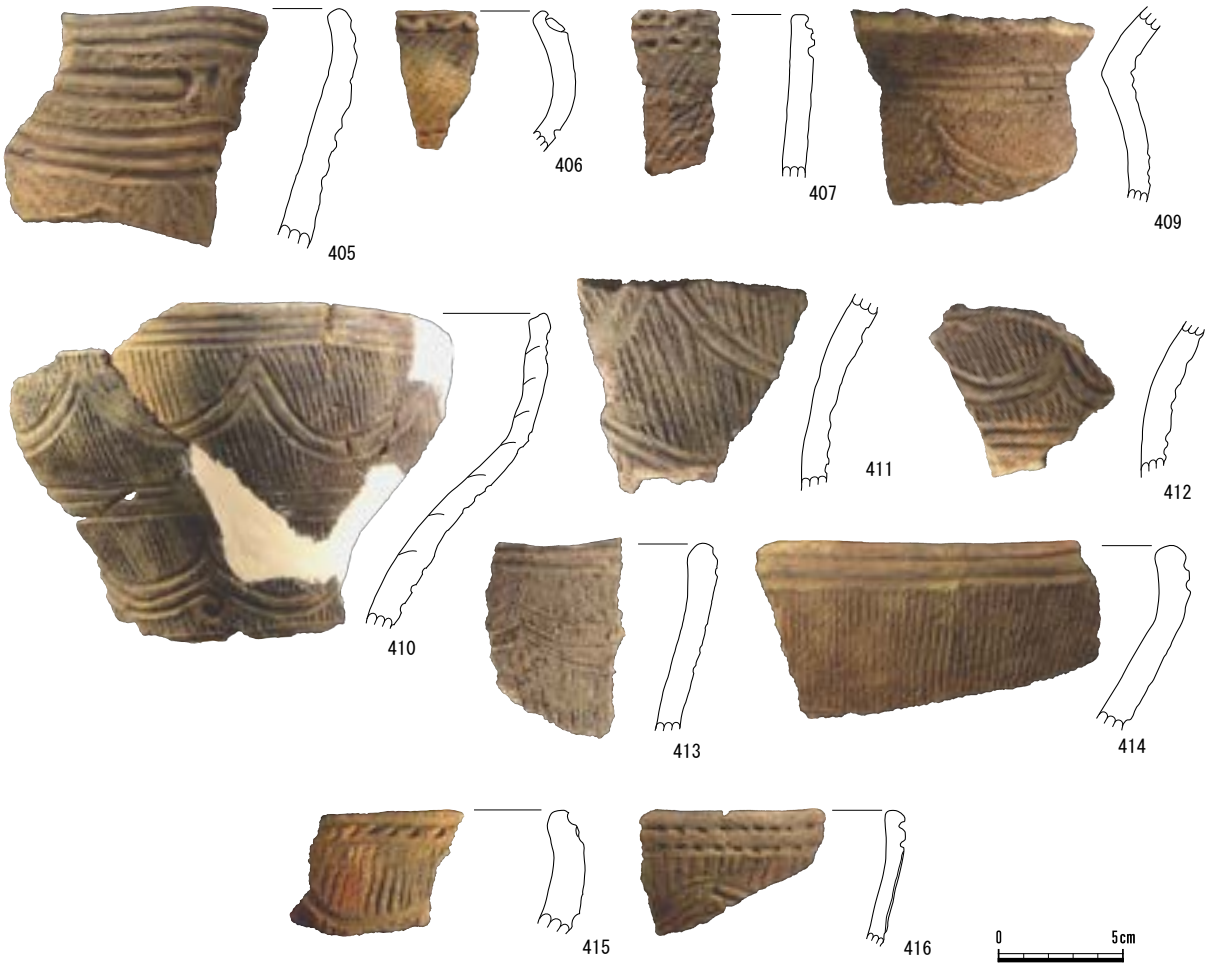


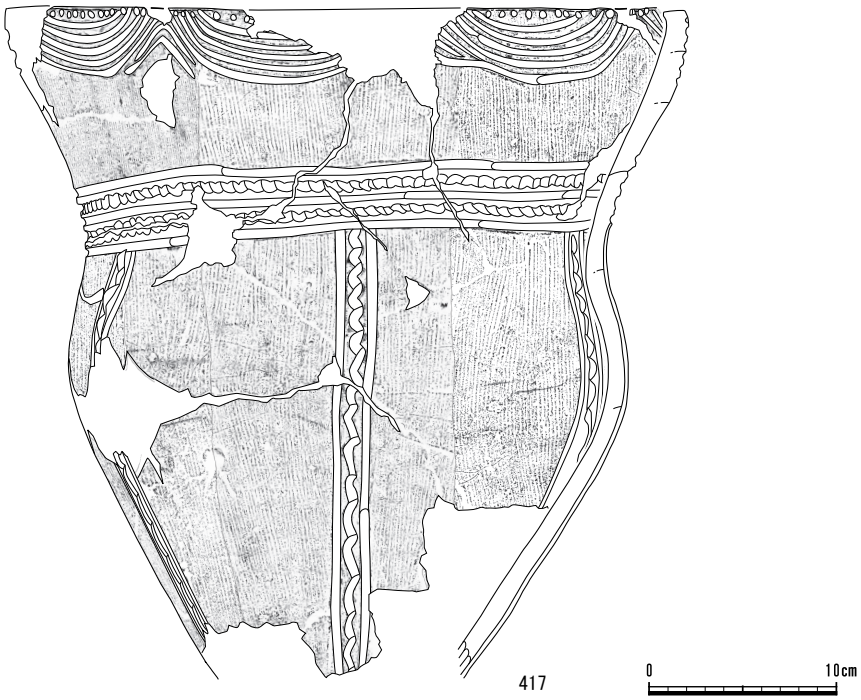
第 47 図　174 号住居跡出土土器 18（1／4・1／3）

第 48 図　174 号住居跡出土土器 19（1／3）



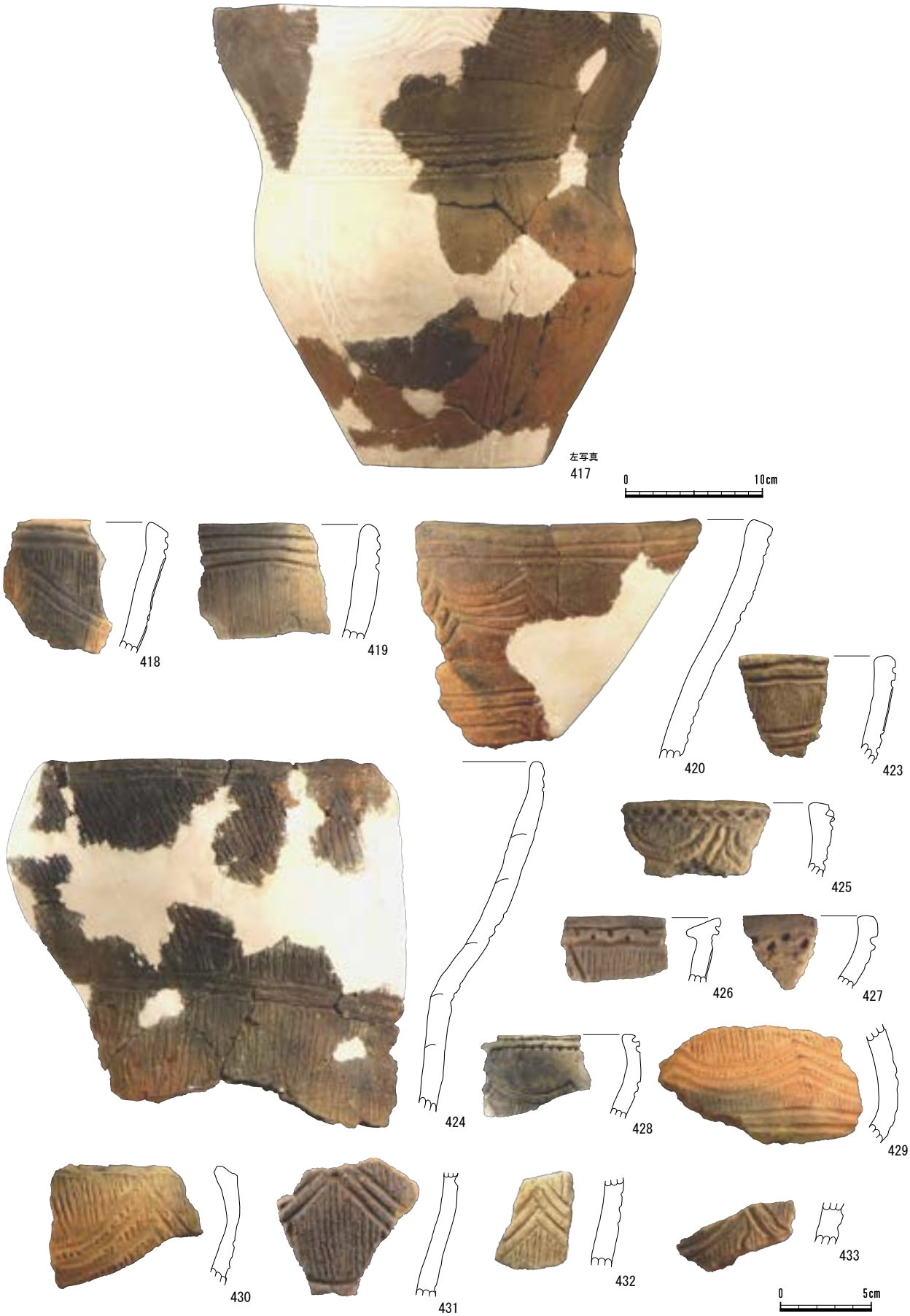
第 49 図　174 号住居跡出土土器 20（1／4・1／3）



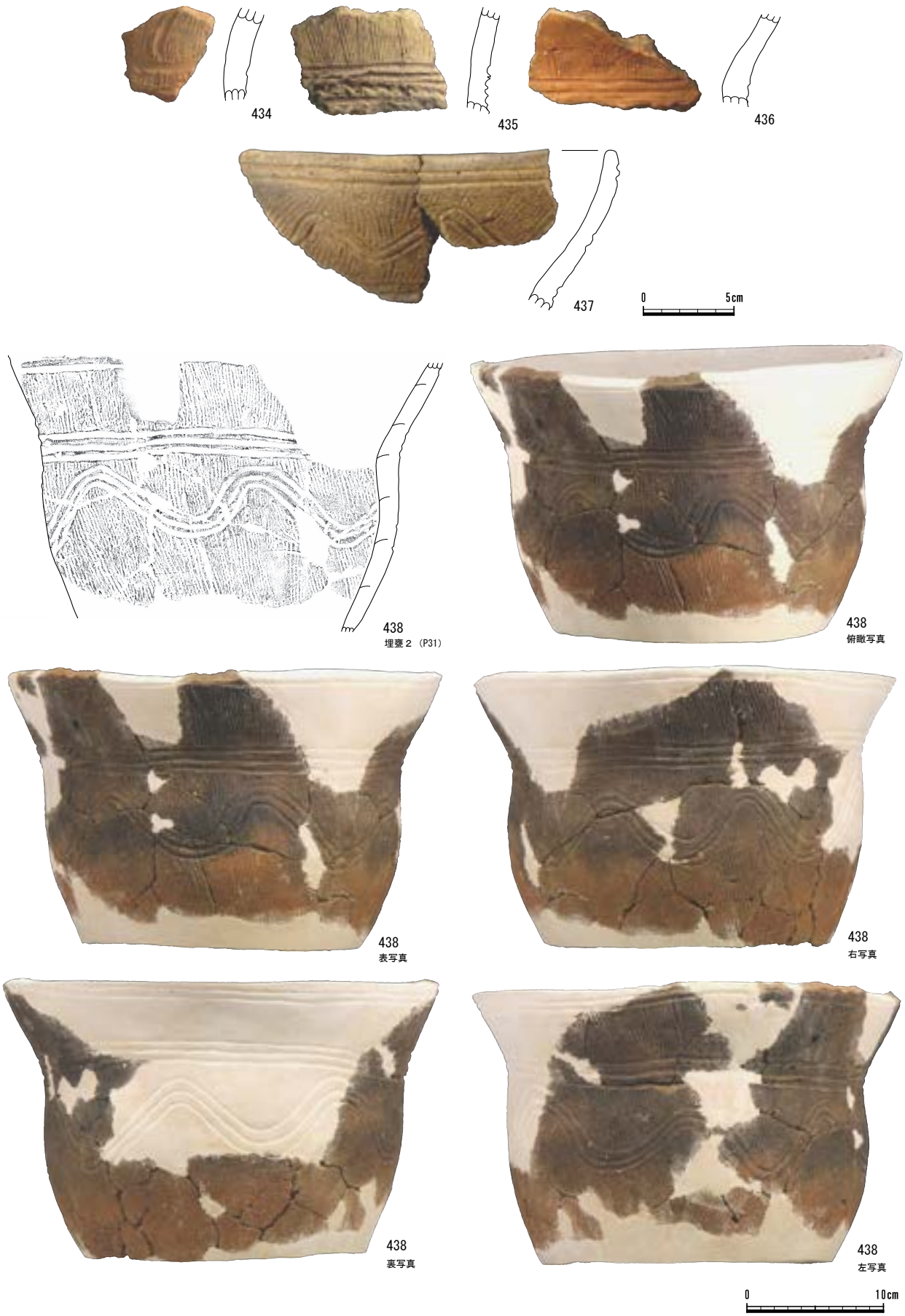


第 50 図　174 号住居跡出土土器 21（1／4・1／3）

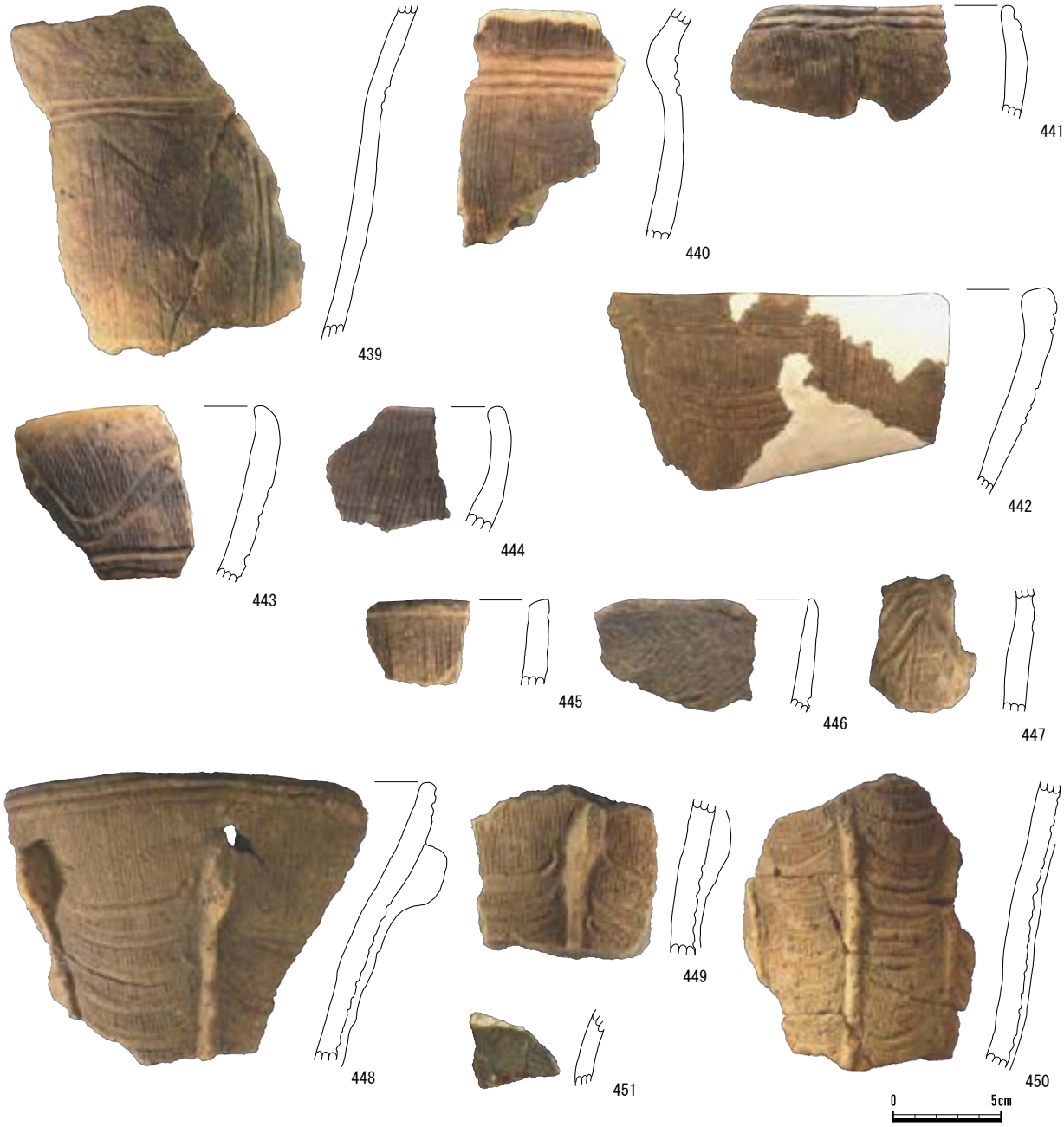
第 51 図　174 号住居跡出土土器 22（1／4）



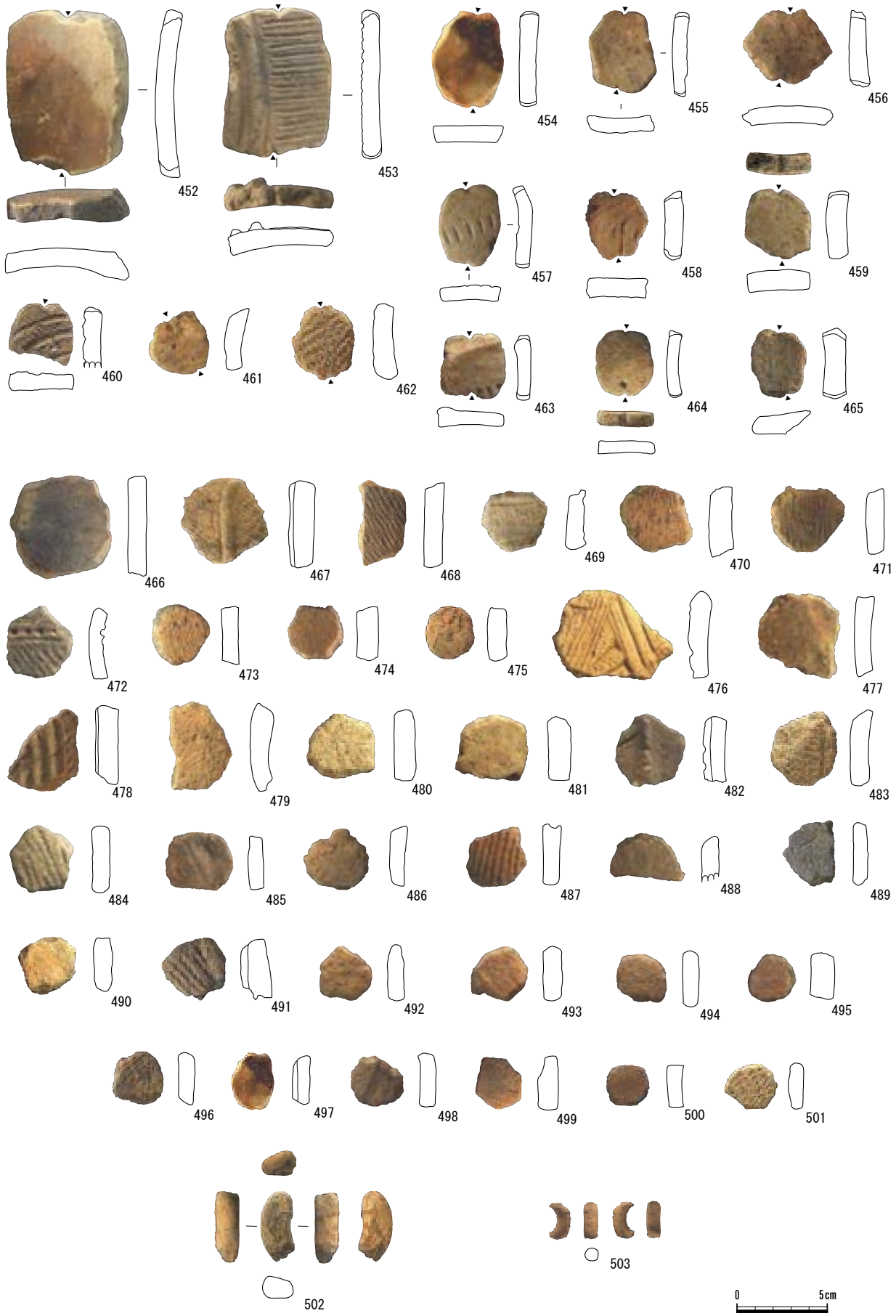
第 52 図　174 号住居跡出土土器 23（1／4・1／3）



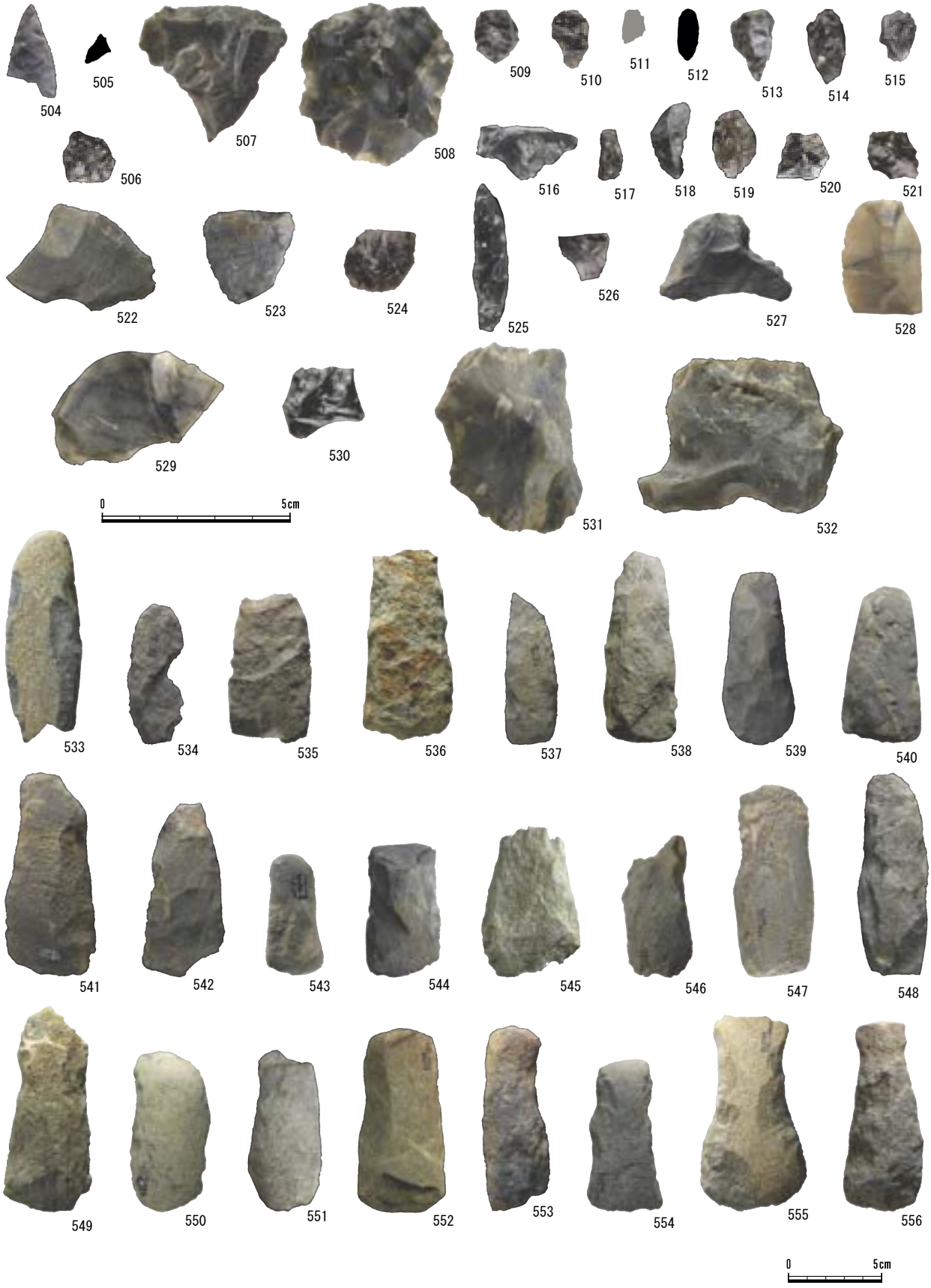
第 53 図　174 号住居跡出土土器 24（1／4・1／3）



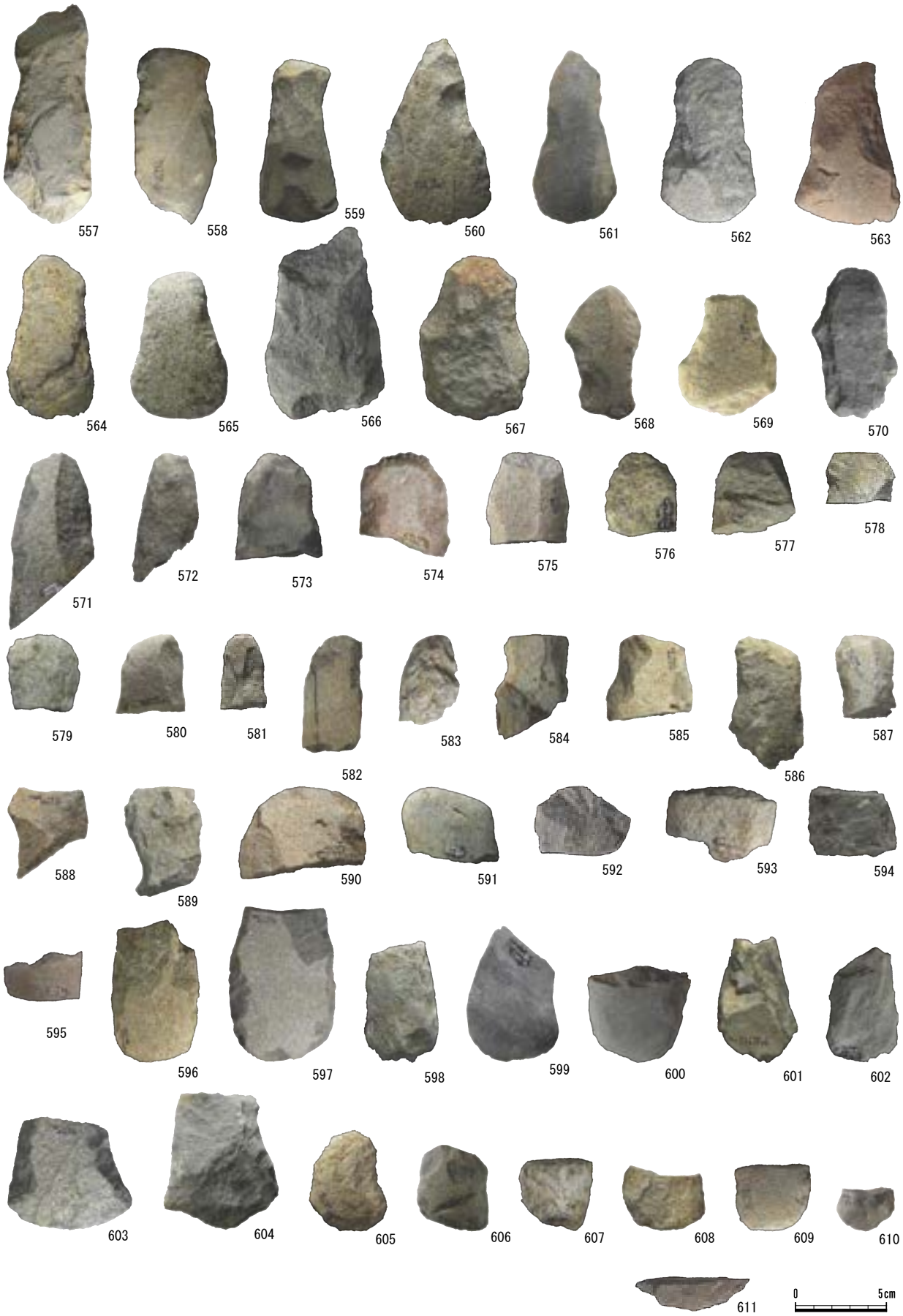
第 54 図　174 号住居跡出土土器 25（1／3）



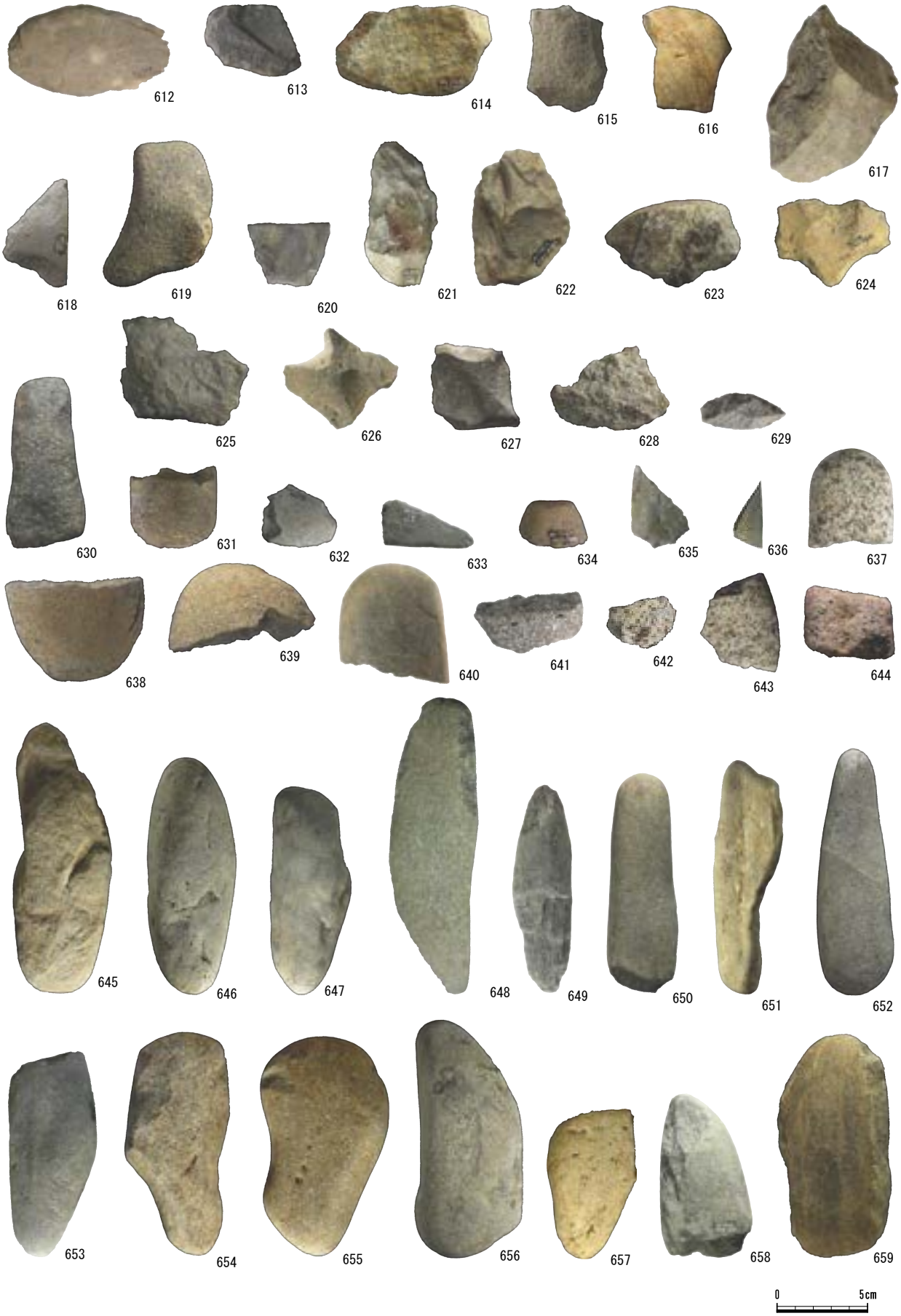
第 55 図　174 号住居跡出土土製品（1／3）



第 56 図　174 号住居跡出土石器１（１／３・２／３）



第 57 図　174 号住居跡出土石器２（１／３）



第 58 図　174 号住居跡出土石器３（１／３）

第 59 図　174 号住居跡出土石器４（１／３）

第 60 図　174 号住居跡出土石器５（１／３）

175 号住居跡

遺　　構（第 61 図）

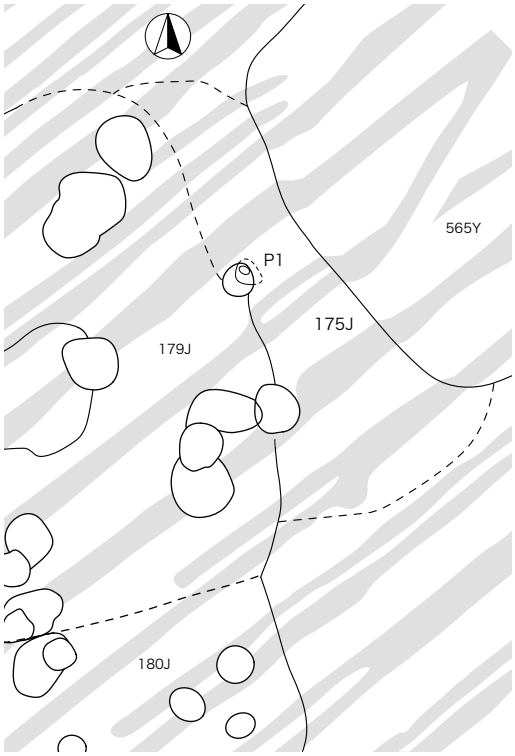
［位　　置］X=-19440,Y=-24152。

［住居構造］耕作による攪乱が著しく、ピットが 1 基確認できるのみである。179J・565Y に切られる。**平面形**：不明。**規模**：不明。**主軸方位**：不明。**壁高・壁溝・床面**：攪乱が著しいが一部硬質面が認められる。**炉**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。

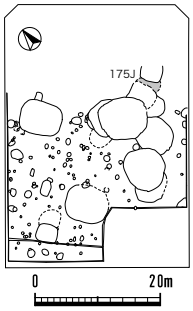
［覆　　土］削平により検出されなかった。

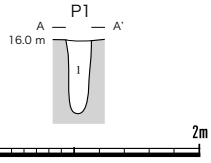
［遺　　物］検出されなかった。

［時　　期］179J に切られるため、加曽利Ｅ 1 式以前と思われる。



第 61 図　175 号住居跡（1／60）





P1
1 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

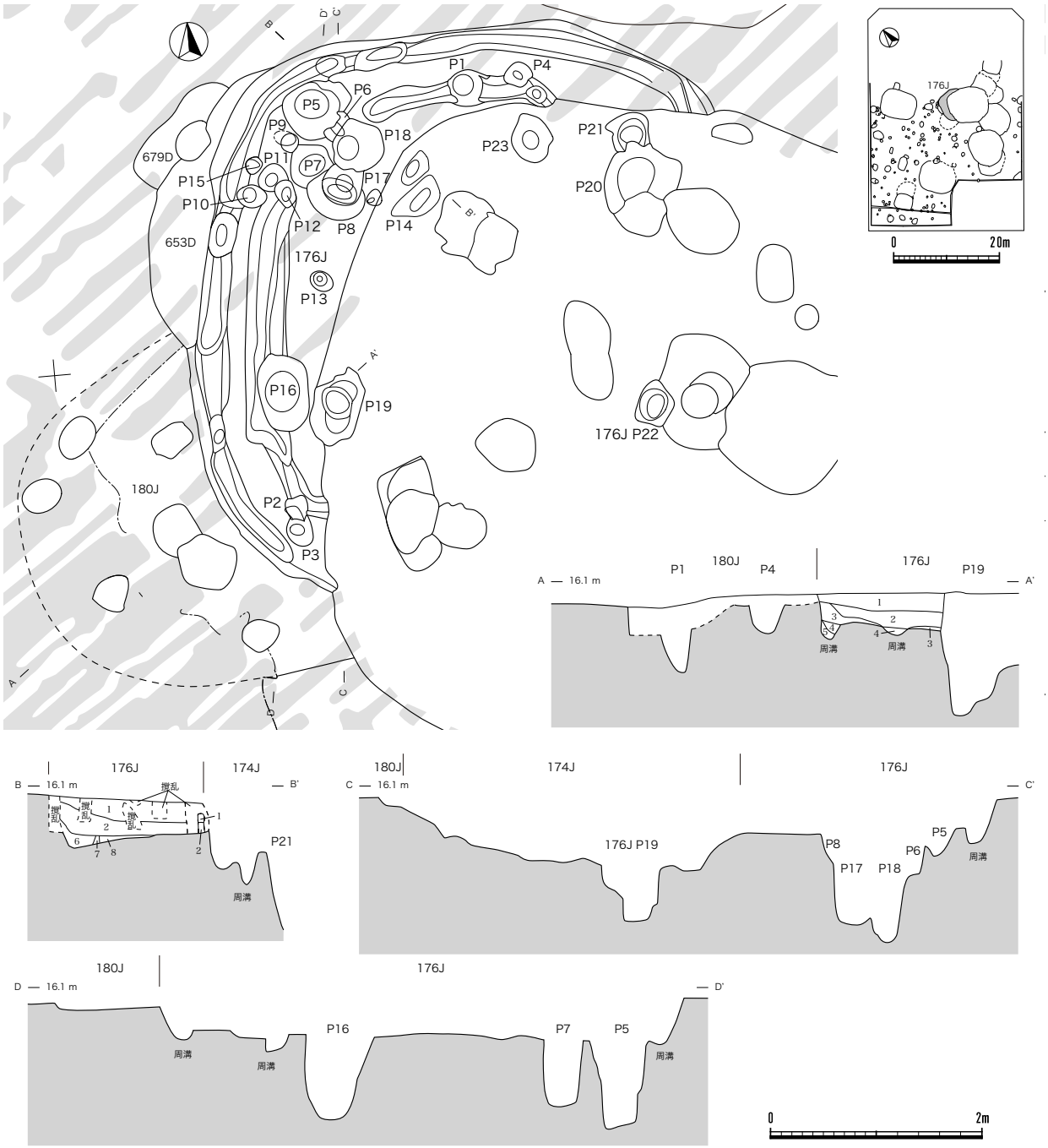
175 号住居跡硬質面検出及び全景（東から）

176 号住居跡

遺　　構（第 62 ～ 68 図）

［位　　置］X=-19438,Y=-24162。

［住居構造］180J・653D・679 D を切り、174J に切られる。壁溝が二重に巡り、一度拡張された可能性が高い。**平面形**：楕円形か？**規模**：不明。**主軸方位**：N－ 5°－ E。拡張後も主軸方向に変更は見られない。**壁高**：13.1 ～ 25.3 ㎝を測り、90°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：174J に切られ西側半周のみ残存するが、二重の壁溝が確認される。拡張後壁溝は北西側上幅 14.4 ～ 25.9 ㎝・下幅 5.0 ～ 14.2 ㎝・深さ 11.4 ～ 12.9 ㎝、南西側上幅 19.0 ～ 32.1 ㎝・下幅 8.0 ～ 19.6 ㎝・深さ 7.7 ～ 15.2 ㎝を測る。拡張前壁溝は北西側上幅 16.3 ～ 22.7 ㎝・下幅 6.0 ～ 11.7 ㎝・深さ 16.7 ～ 23.1 ㎝、南西部上幅 19.4 ～ 27.8 ㎝・下幅 8.1 ～ 13.9 ㎝・深さ 23.1 ～ 28.4 ㎝を測る。**床面**：耕作による攪乱が著しい。**炉**：検出されなかった。**柱穴**：拡張前の主柱穴は P8・19・23 拡張後の主柱穴は P1・5・16・



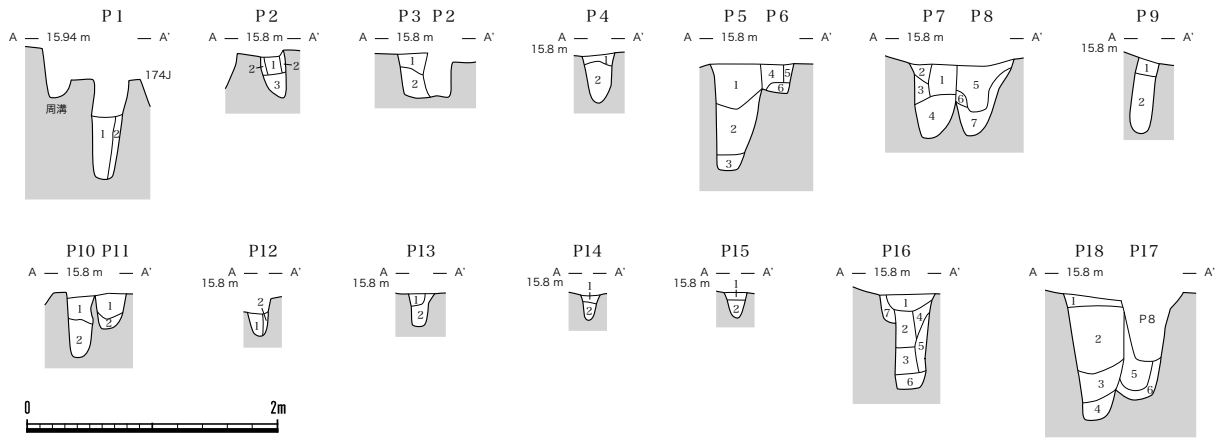
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～２㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～２㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～15㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
5 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径10～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
6 褐色土（10YR4/4）周溝。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
7 黄褐色土（10YR5/6）床ロームブロック。径10～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
8 暗褐色土（10YR3/4）P5覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

第62図　176号住居跡１（１／60）

20・21と思われる。また、174JP33も176Jの拡張後のピットである可能性が高い。

［覆　　土］８層。

［遺　　物］覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器は125点であり、うち阿玉台式９点、勝坂式21点、曽利式１点、加曽利Ｅ式42点である。出土した石器の総点数は22点、2,496.2g



P1
1 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

P2
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P3・P4
1 褐色土（10YR4/4）　貼床。径１～３㎜のローム粒を多量、径10～15㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
2 褐色土（10YR4/6）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

P5・P6
1 暗褐色土（10YR3/3）P5覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径５㎜の焼土ブロックを微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）P5覆土。径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり弱く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）P5覆土。径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。
4 鈍い黄褐色土（10YR4/3）　P6覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径20㎜のロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/3）P6覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
6 褐色土（10YR4/6）　P6覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性強い。

P7・P8
1 暗褐色土（10YR3/4）P7覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　P7覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
3 褐色土（10YR4/4）　P7覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
4 褐色土（10YR3/3）　P7覆土。径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
5 褐色土（10YR3/4）　P8覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
6 褐色土（10YR4/4）　P8覆土。径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
7 褐色土（10YR4/4）　P8覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

P9
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

P10
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。

P11
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

P12
1 褐色土（10YR4/6）　P3の２層と同等。
2 褐色土（10YR4/6）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

P13
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
2 褐色土（10YR4/6）　P3の２層と同等。

P14
1 褐色土（10YR4/4）　貼床。P3の１層と同等。
2 褐色土（10YR4/6）　P3の２層と同等。

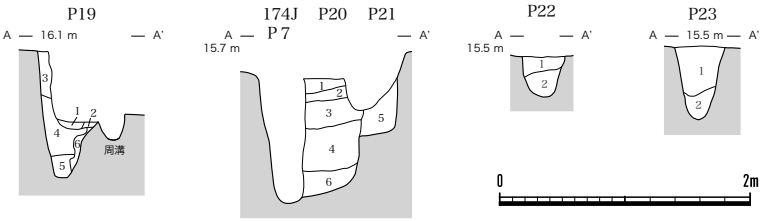
P15
1 褐色土（10YR4/4）　貼床。P3の１層と同等。
2 褐色土（10YR4/6）　P3の２層と同等。

P16
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１㎜の焼土粒を微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

6 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。
7 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径10～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

P17・P18
1 褐色土（10YR4/4）　P18覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　P18覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～50㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）P18覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）P18覆土。径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/3）P17覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。
6 褐色土（10YR4/4）　P17覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径10～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり弱く、粘性あり。

第63図　176号住居跡２（１／60）



P19
1 暗褐色土（10YR3/4）174J8 層と同等。周溝 1 覆土。
2 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。周溝 1 覆土。
3 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 2 ㎜のローム粒を少量、径 1 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。176J(旧 5J) 覆土の可能性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを微量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
6 褐色土（10YR4/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

P20・P21
1 暗褐色土（10YR3/3）P20 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）P20 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 30 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）P20 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量、径 1 ～ 3 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/4）P20 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。5 層より明るい。
5 暗褐色土（10YR3/4）P21 覆土。径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 15 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。P18・19 に似る。
6 褐色土（10YR4/6）P20 覆土。径 10 ～ 20 ㎜のロームブロックを多量含む。

P22
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量、径 1 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 3 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

P23
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量、径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。

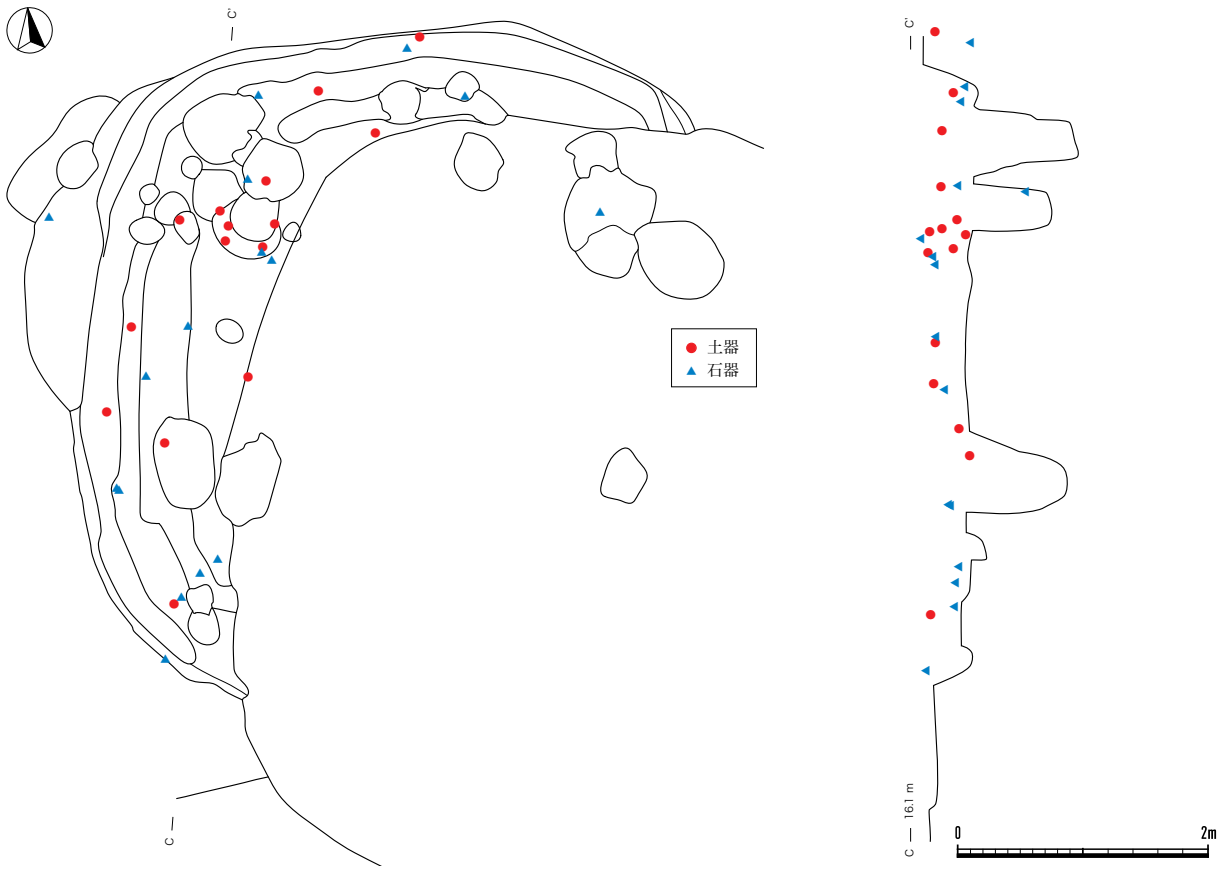
第 64 図　176 号住居跡 3（1 ／ 60）

176 号住居跡・180 号住居跡全景（南より）

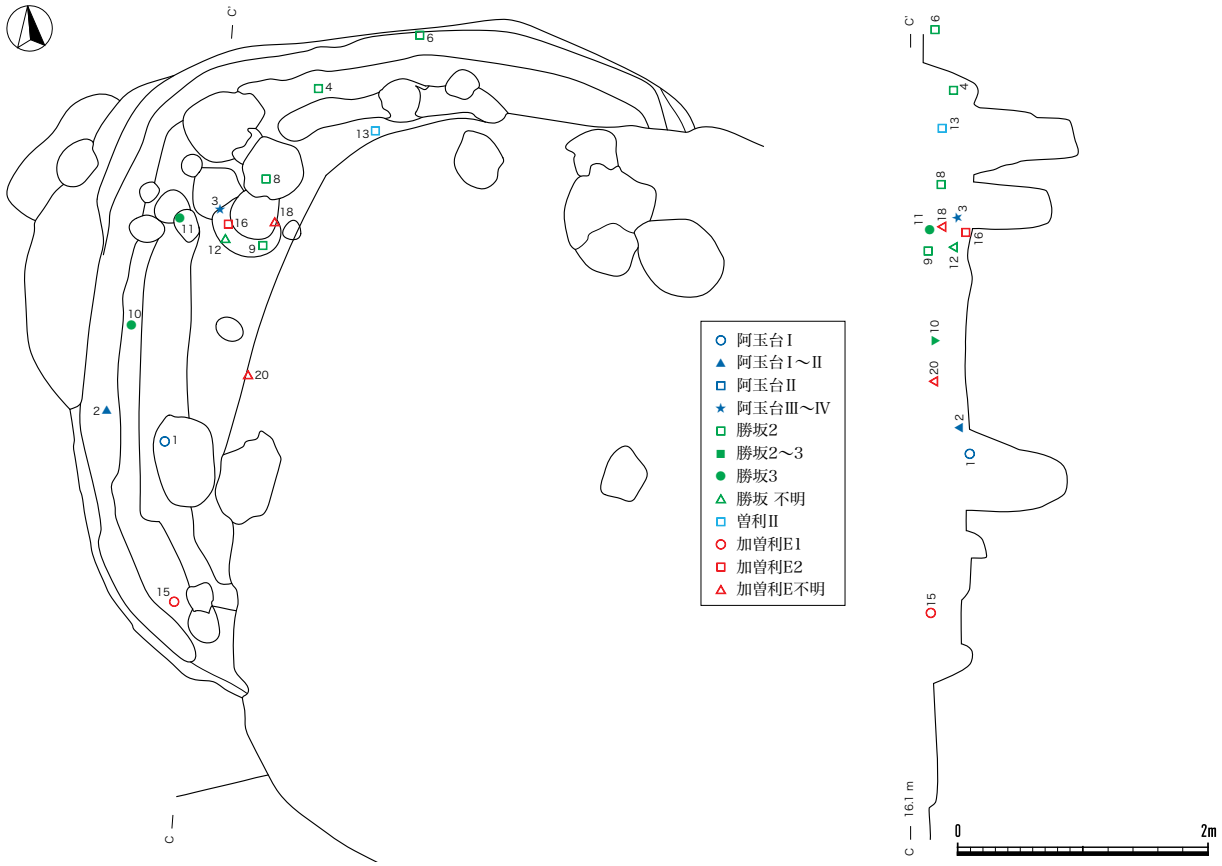
176 号住居跡全景（東より）

176 号住居跡・180 号住居跡 A セクション（東より）

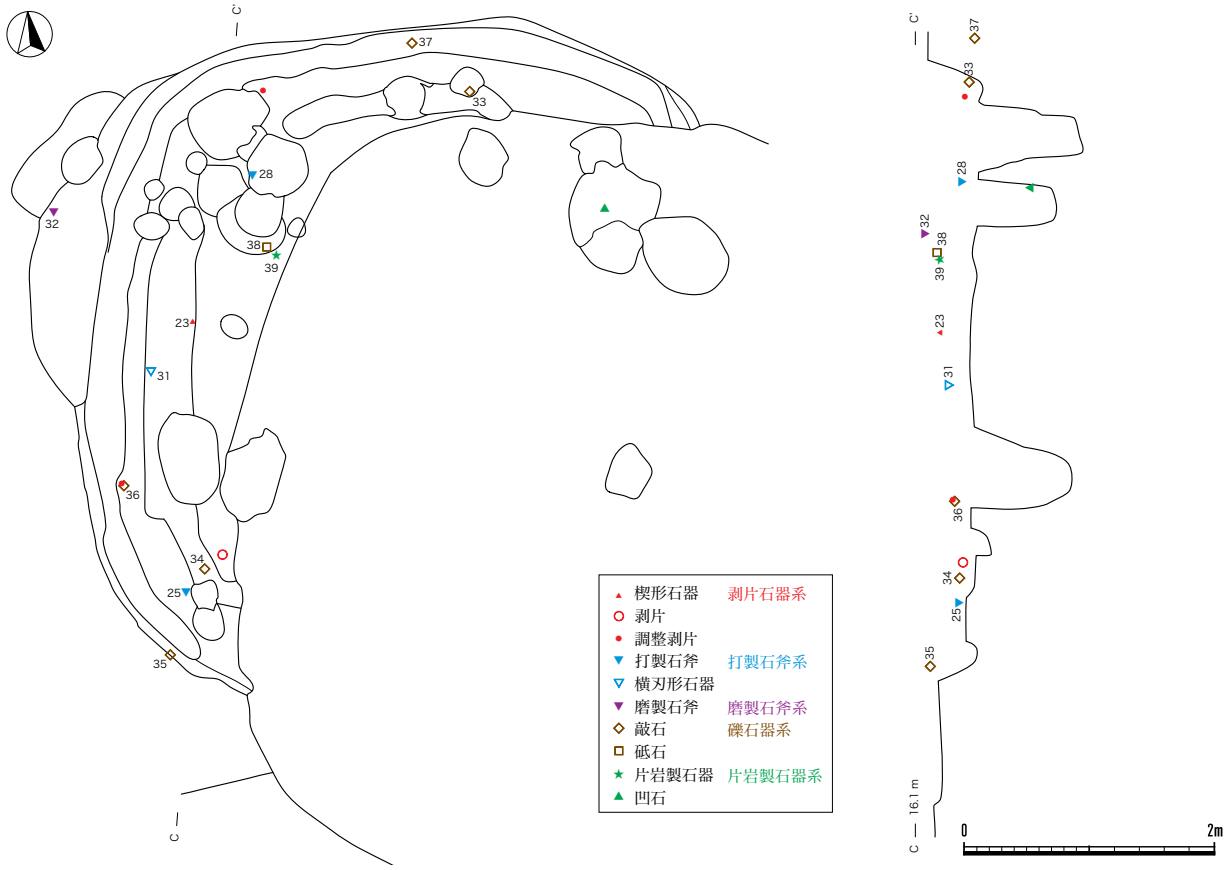
176 号住居跡 B セクション周溝部分（南より）



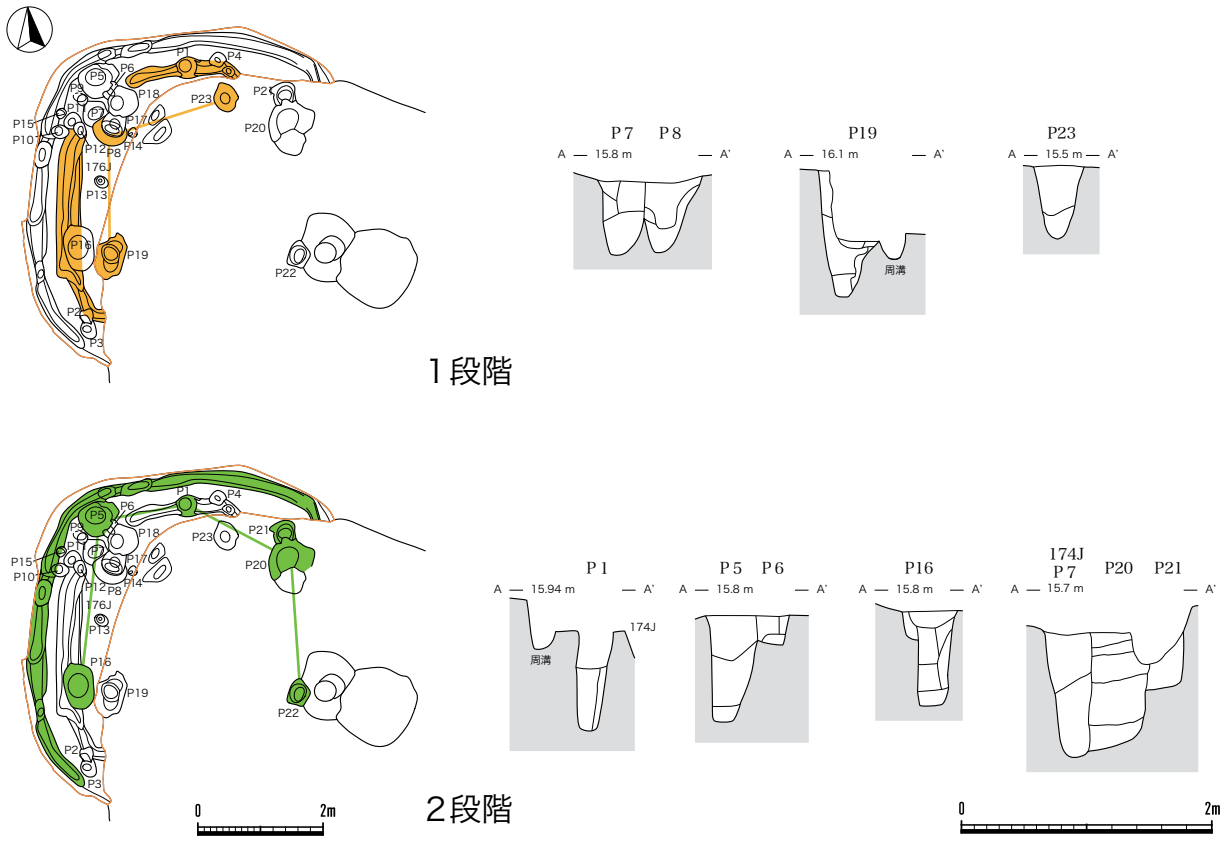
第 65 図　176 号住居跡遺物出土状態（1／60）



第 66 図　176 号住居跡土器出土状態（1／60）



第 67 図　176 号住居跡石器出土状態（1／60）



第 68 図　176 号住居跡変遷図（1／120・1／60）

第 69 図　176 号住居跡出土遺物（1／3・2／3）

で、器種の内訳は、楔形石器１点、不規則剥離のある剥片１点（剥片石器系石材）、剥片１点（剥片石器系石材）、調整剥片３点（剥片石器系石材２点、打製石斧系石材１点）、打製石斧６点、横刃形石器１点、磨製石斧１点、敲石５点、砥石１点、凹石１点、片岩製石器１点、石材の内訳は、黒曜石４点、チャート１点、ホルンフェルス３点、砂岩 10 点、凝灰岩１点、砂質片岩１点、緑泥片岩２点である。

［時　　期］勝坂式期。

［備　　考］174JP33 は、本住居跡の拡張後のピットである可能性がある。

遺　　物（第 69 図、第 26・43・48 表）

阿玉台式（１～３）、勝坂式（４～ 12）、曽利式（13）、加曽利Ｅ式（14 ～ 20）、土器片錘（21 ～ 22）、楔形石器（23）、不規則剥離のある剥片（剥片石器系：24）、打製石斧（25 ～ 30）、横刃形石器（31）、磨製石斧（32）、敲石（33 ～ 37）、砥石（38）、片岩製石器（39）、凹石（40）を図示した。

177 号住居跡

遺　　構（第 70 ～ 75 図）

［位　　置］X=-19450,Y=-24161。

［住居構造］耕作による攪乱が著しい。178J・182J・682D を切る。**平面形**：不整円形。**規模**：7.10×6.40m。**主軸方位**：Ｎ－ 25°－Ｅ。**壁高**：12.6 ～ 33.4 ㎝を測り、70°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：一部途切れるものの、東コーナーから西コーナーまで半周程認められる。東コーナー上幅 14.52 ～ 38.9 ㎝・下幅 1.6 ～ 13.4 ㎝・深さ 1.6 ～ 5.8 ㎝、北西コーナー上幅 14.6 ～ 25.5 ㎝・下幅 3.8 ～ 12.3 ㎝・深さ 3.1 ～ 11.9 ㎝、西コーナー上幅 8.9 ～ 20.8 ㎝・下幅 1.9 ～ 8.0 ㎝・深さ 11.8 ㎝を測る。**床面**：耕作による攪乱が著しい。**炉**：住居のほぼ中央に炉２、その東側に隣接して炉１が位置している。炉１は不明 ×42.2 ㎝の地床炉で深さ 0.6 ㎝前後の楕円形の掘り込みを持つ。同じく炉２も 129.4× 不明㎝の地床炉で、深さ 14.9 ㎝前後の円形の掘り込みを持つ。炉２には深鉢形土器の上半部（５）に別個体の深鉢形土器の上半部（23）が入れられる形で２個体の土器が埋設されている。また、炉１周辺には 43.4 ×不明㎝の火床範囲が、炉２周辺には 167.5×123.6 ㎝の焼土範囲が確認できる。**柱穴**：P1 ～ 3・6・8・13・17・18 が主柱穴と思われる。

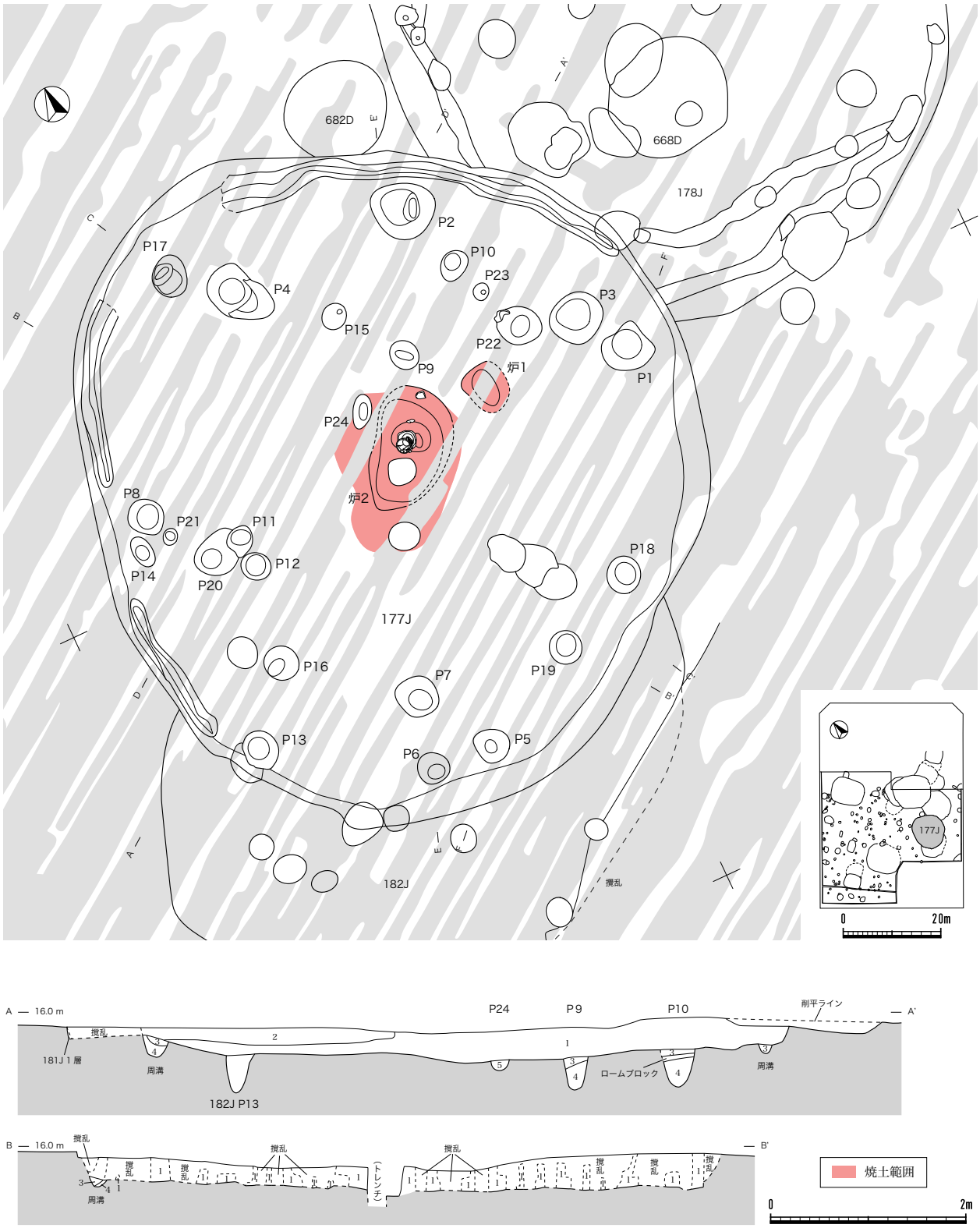
［覆　　土］５層。

［遺　　物］炉２に土器が埋設されていたほか、覆土中から多量に出土した。出土位置が判明している土器は 341 点であり、うち阿玉台式９点、勝坂式 18 点、曽利式 10 点、加曽利Ｅ式 180 点、連弧文 15 点である。出土した石器の総点数は 30 点、2,567.4g で、器種の内訳は、楔形石器１点、剥片６点（剥片石器系・石材５点、打製石斧系石材１点）、調整剥片５点（剥片石器系石材２点、打製石斧系石材３点）、打製石斧８点、磨製石斧１点、敲石５点、石皿２点で、石材の内訳は、黒曜石６点、チャート１点、頁岩１点、ホルンフェルス７点、砂岩 11 点、凝灰岩１点、緑泥片岩１点である。

［時　　期］加曽利Ｅ２～３式期。

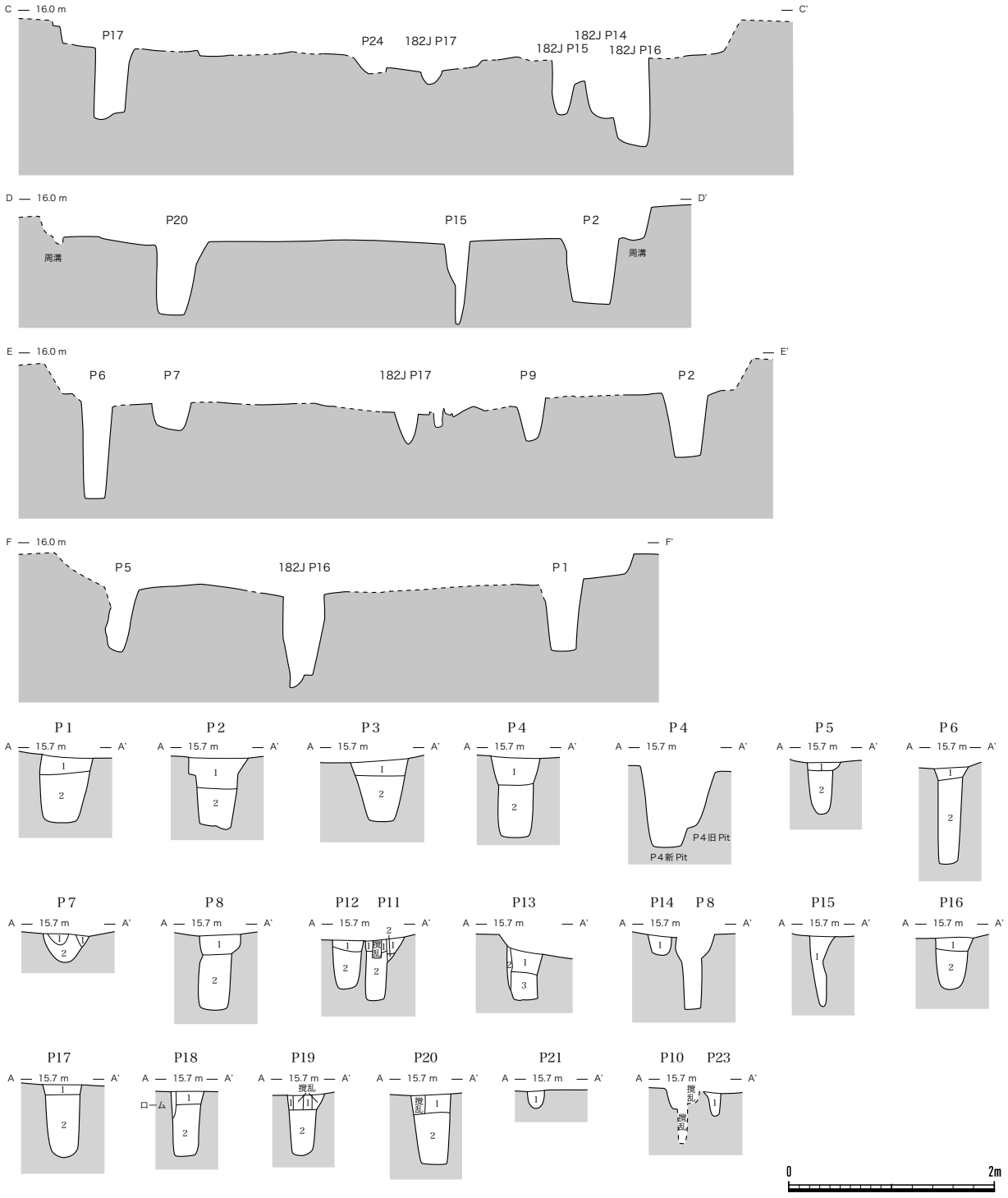
遺　　物（第 76 ～ 78 図、第 27・29・43・48 表）

阿玉台式（１）、勝坂式（２～５）、曽利式（６～ 14）、加曽利Ｅ式（15 ～ 32）、連弧文式（33 ～ 42）、土器片錘（43）、楔形石器（44）、打製石斧（45 ～ 52）、調整剥片（打製石斧系：53 ～ 55）、磨製石斧（57）、敲石（56、58 ～ 61）、石皿（62 ～ 63）を図示した。５は炉２の炉体土器で残存高 12.3 ㎝、口縁部径 20.6 ㎝、23 も炉２の炉体土器で残存高 11.8 ㎝、口縁部径 14.3 ㎝を測る。



1 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径３～５㎜の焼土粒を少量、径３～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/1）径２～３㎜のローム粒を多量、径２～４㎜の焼土粒を少量、径３～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量、径１㎜の焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
5 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径３～５㎜の焼土粒を多量、径７～10㎜の焼土ブロックを少量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

第 70 図　177 号住居跡１（１／60）



P1 ～ P6・P8・P11・P12・P16 ～ P20・P22

1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～７㎜のロームブロックを微量、径２～５㎜の焼土粒を少量、径２～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

2 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P7

1 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを少量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

2 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P13

1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～７㎜のロームブロックを微量、径２～５㎜の焼土粒を少量、径２～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

2 暗褐色土（10YR3/3）径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

3 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P14・P15・P21・P23

1 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径３～５㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第 71 図　177 号住居跡２（１／60）

177 号住居跡全景（東より）

177 号住居跡全景（南より）

177 号住居跡 B セクション（南より）

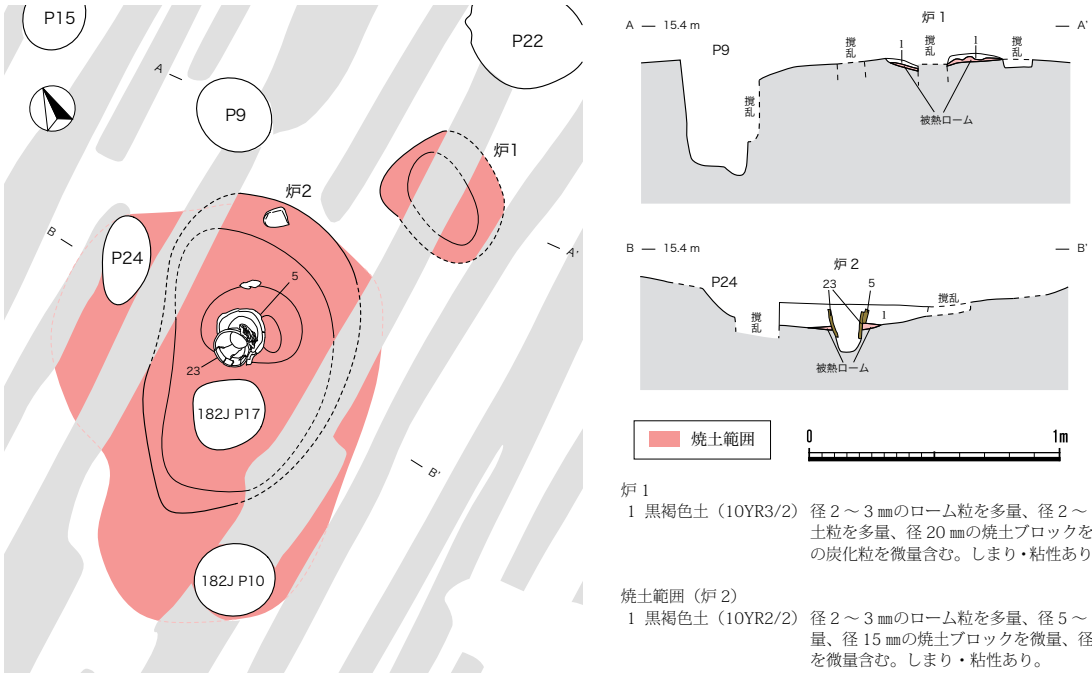
177 号住居跡 A セクション（東より）

177 号住居跡焼土分布状況（西より）

177 号住居跡炉 1 検出状況（南より）

177 号住居跡炉 1 A セクション（南より）

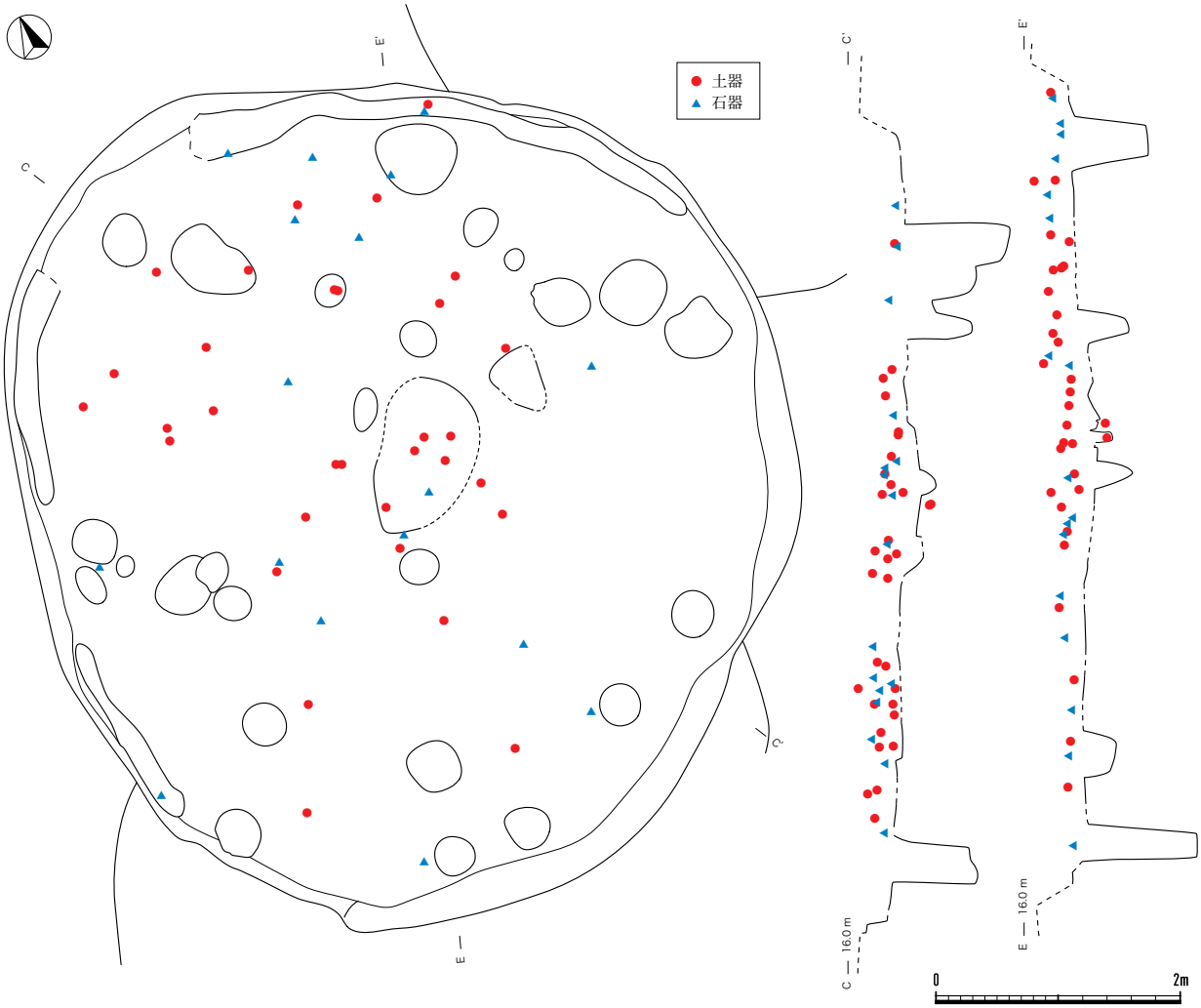
177 号住居跡炉 1 全景（南より）



炉 1
1 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径２～５㎜の焼土粒を焼土粒を多量、径 20 ㎜の焼土ブロックを少量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。被熱面ガリガリ。

焼土範囲（炉２）
1 黒褐色土（10YR2/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径５～10 ㎜の焼土粒を多量、径 15 ㎜の焼土ブロックを微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第 72 図　177 号住居跡炉（１／30）



第 73 図　177 号住居跡遺物出土状態（１／60）

177 号住居跡炉 1 全景（東より）

177 号住居跡焼土範囲 B セクション（南より）

177 号住居跡炉 2 検出状況（南より）

177 号住居跡炉２炉体土器（5･23）Aセクション（南より）

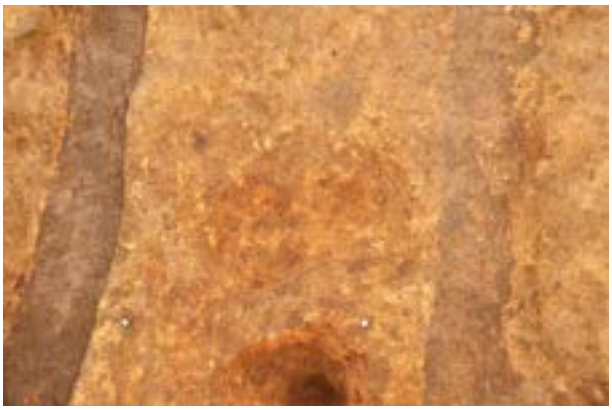
177 号住居跡炉 2 全景（南より）

177 号住居跡炉体土器（５・23）出土状態（東より）

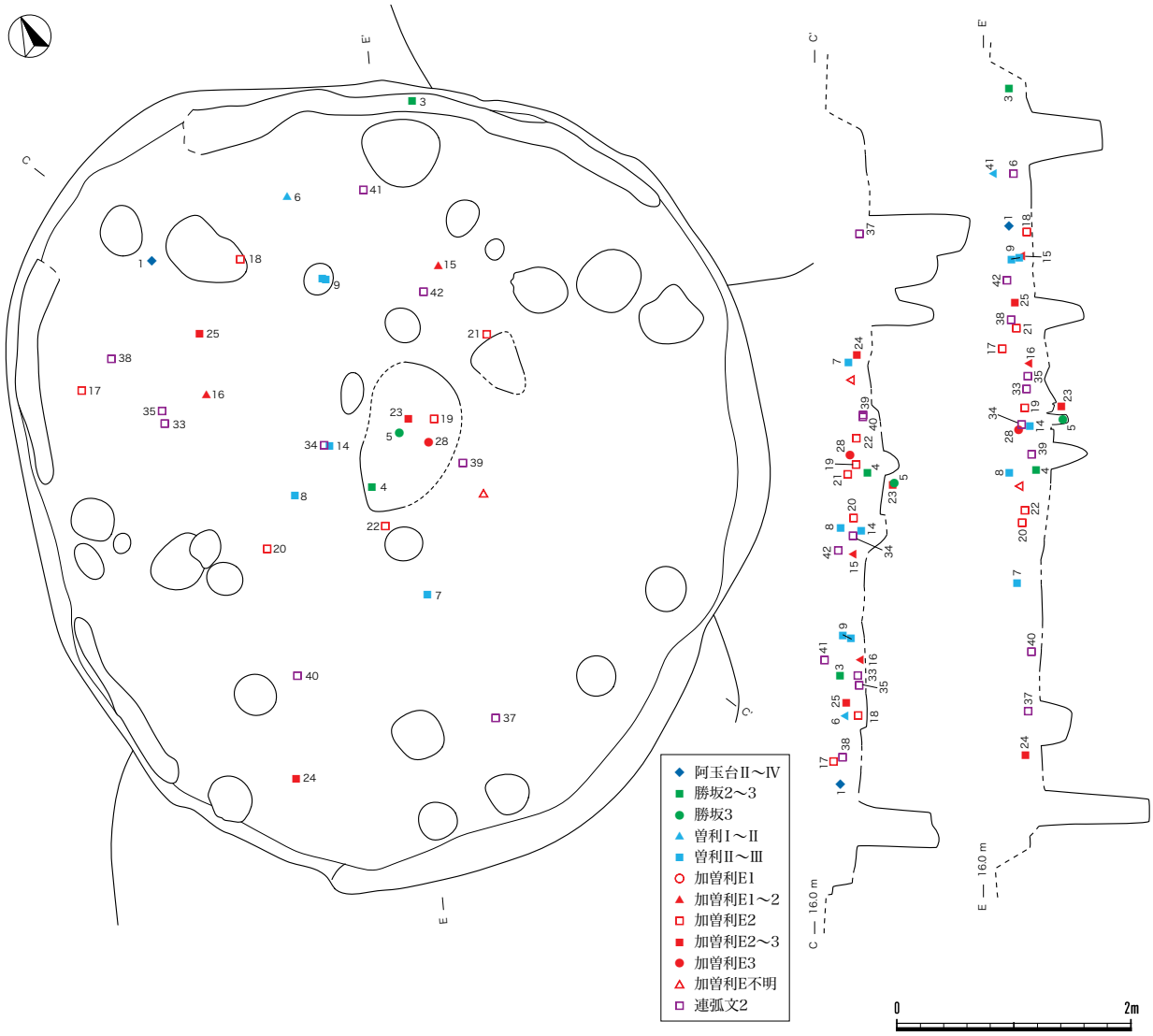
177 号住居跡炉体土器（５・23）出土状態（北より）

177 号住居跡炉体土器（５・23）出土状態（南より）

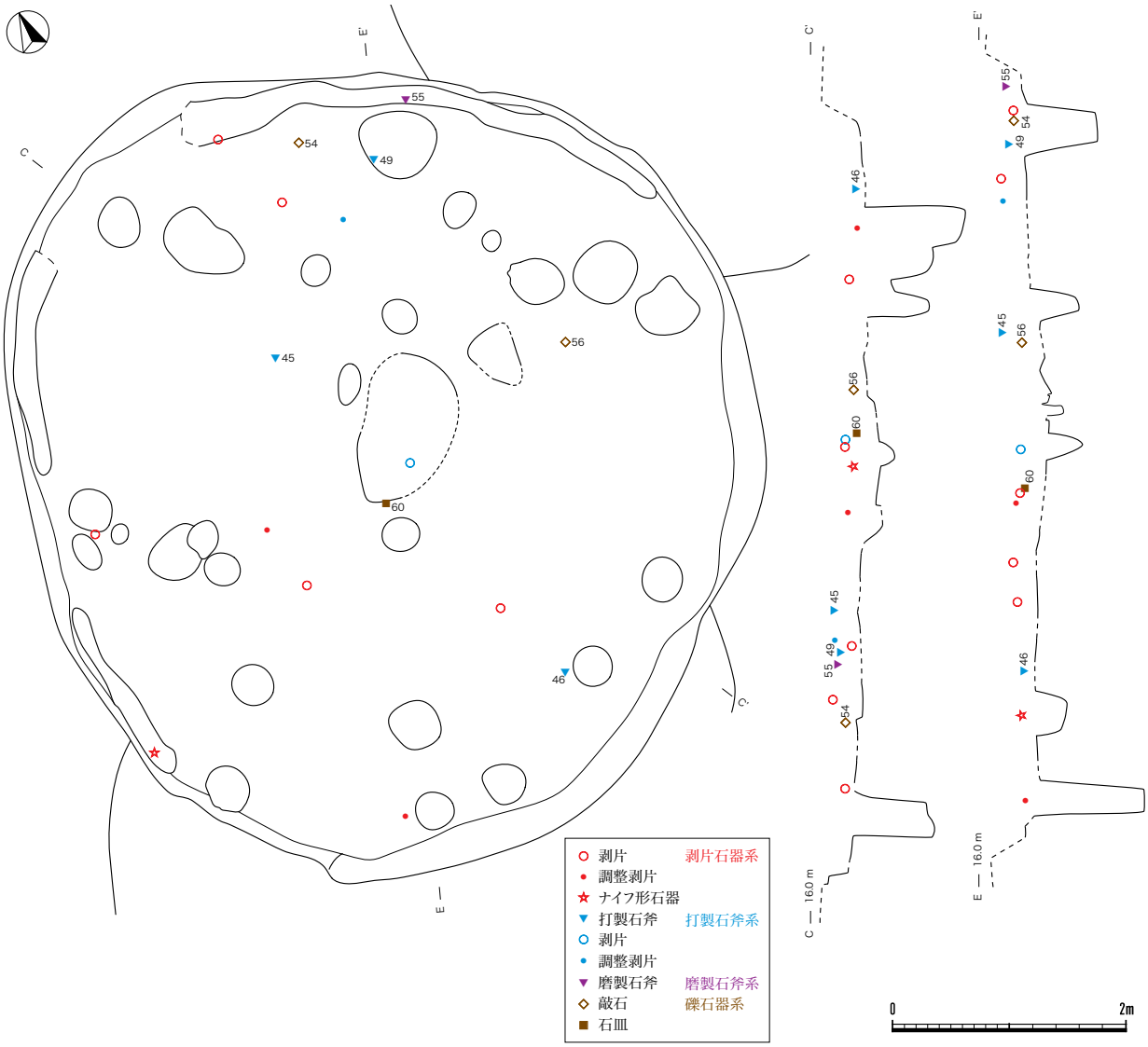
177 号住居跡炉体土器（5・23）出土状態（西より）



177 号住居跡炉２掘り方全景（南より）



第 74 図　177 号住居跡土器出土状態（1／60）



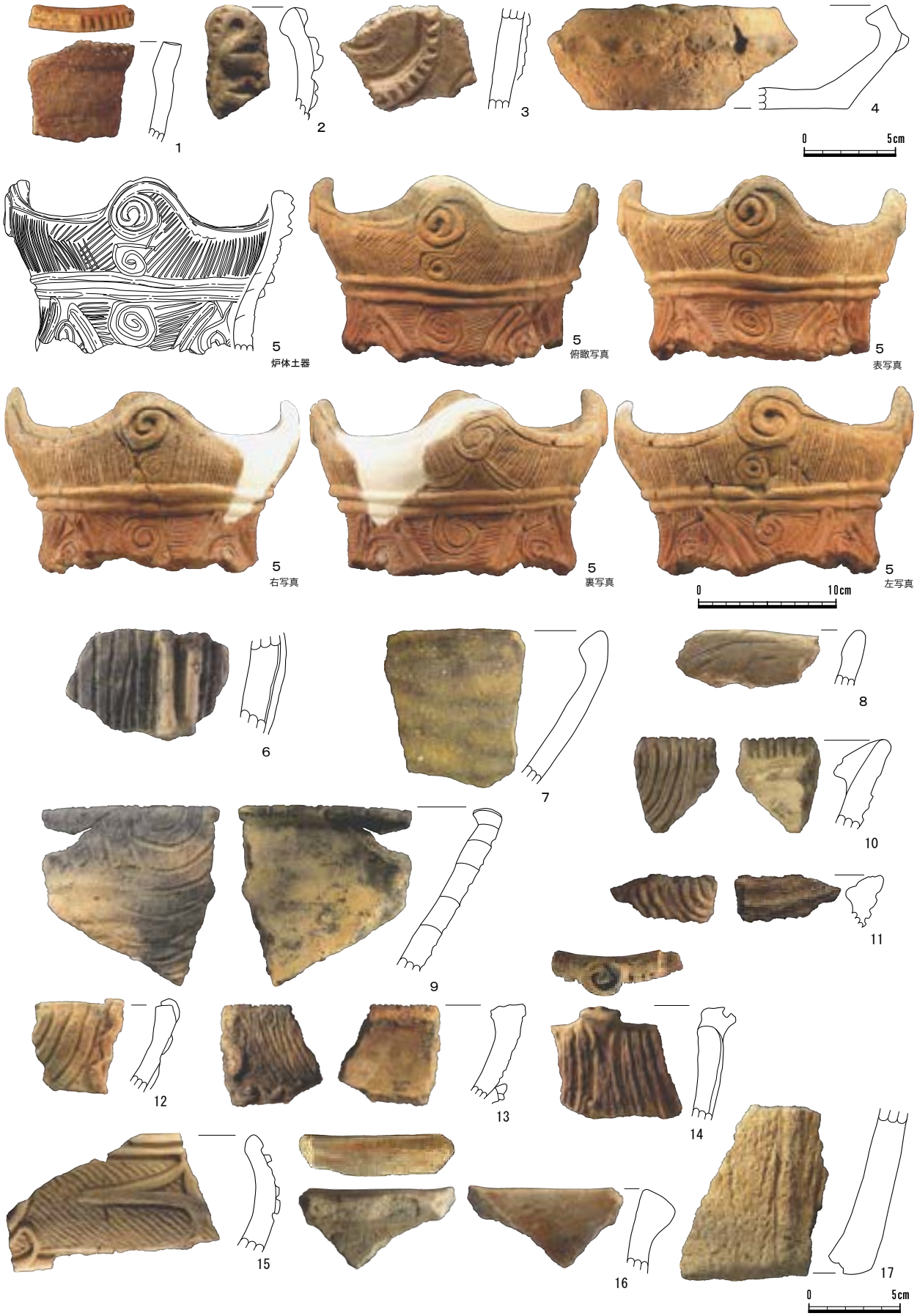
第 75 図　177 号住居跡石器出土状態（1 ／ 60）

178 号住居跡

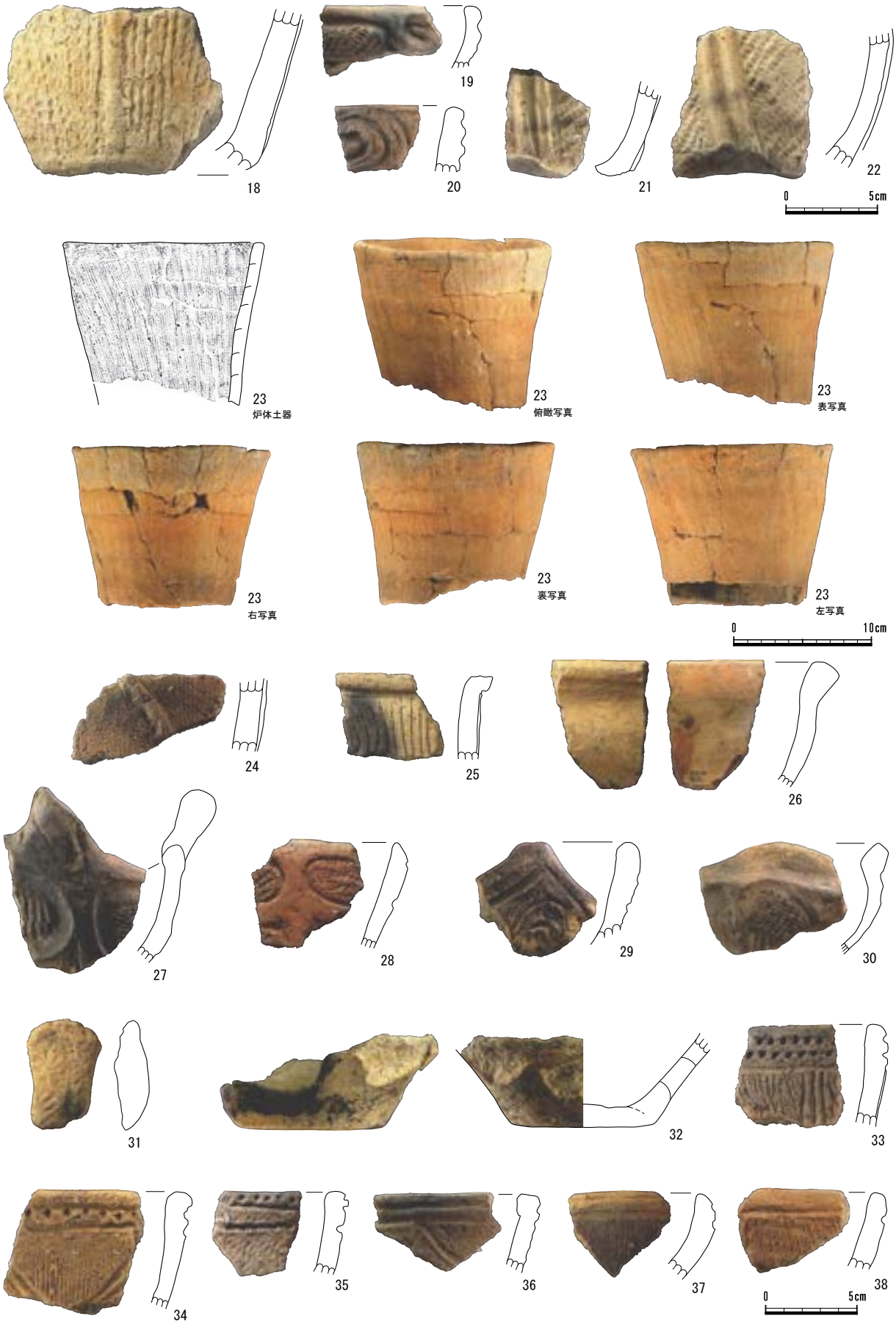
遺　　構（第 79 ～ 85 図）

［位　　置］X=-19447,Y=-24157。

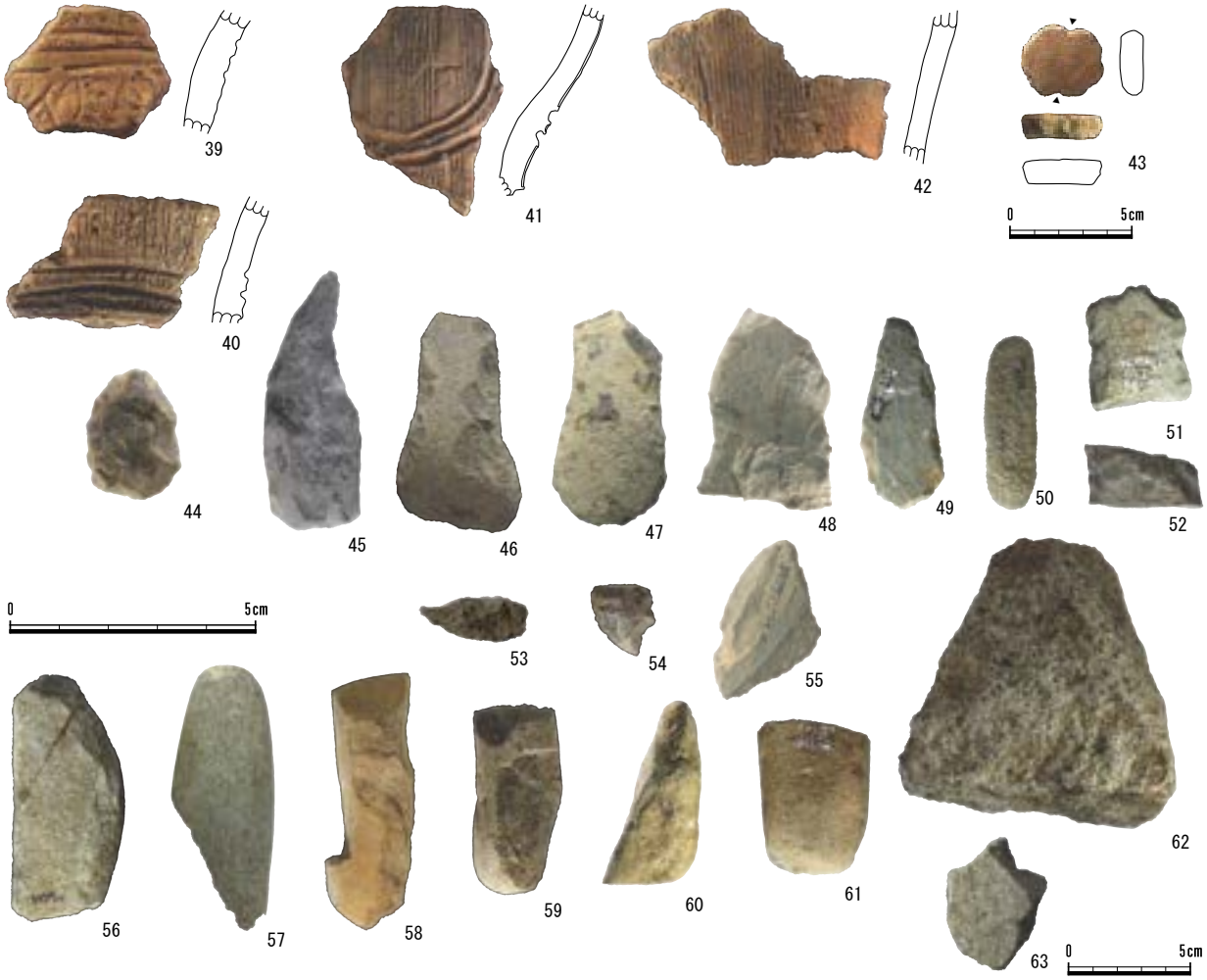
［住居構造］181J を切り、174J・177J に切られる。住居内に 667D・668D が位置する。壁溝が二重に巡り、拡張された可能性が高い。**平面形**：楕円形。**規模**：不明 ×5.50m。北側が 174J に切られているため長軸は不明だが、南側は 43.2 ～ 76.2 ㎝程度拡張されている。**主軸方位**：N － 0°。拡張後も主軸方向の変更は見られない。**壁高**：0.9 ～ 14.1 ㎝を測り、60°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：拡張前の壁溝は北西側と南側の一部のみの検出であるが、拡張後は北西コーナー、南西コーナーを欠くが、全周すると思われる。また、拡張前の壁溝は北側が大きく蛇行する。拡張後壁高は南側上幅 12.9 ～ 20.6 ㎝・下幅 4.4 ～ 11.1 ㎝・深さ 4.0 ～ 4.5 ㎝、西側上幅 9.2 ～ 15.5 ㎝・下幅 3.4 ～ 9.3 ㎝・深さ 13.1 ～ 14.4 ㎝を測る。拡張間は北西側上幅 12.4 ～ 15.8 ㎝、下幅 2.4 ～ 7.5 ㎝を測り、深さは不明である。南側は上幅 11.3 ～ 22.8 ㎝、下幅 3.3 ～ 8.9 ㎝、深さ 7.0 ～ 8.2 ㎝を測る。**床面**：耕作による攪乱が著しい。**炉**：炉 1 ～ 3 まで検出された。炉 1 は住居中央よりやや北に位置し、74.6×35.4 ㎝の被熱範囲が確認できる。



第 76 図　177 号住居跡出土遺物１（１／４・１／３）



第 77 図　177 号住居跡出土遺物２（１／４・１／３）



第 78 図　177 号住居跡出土遺物３（１／３・２／３）

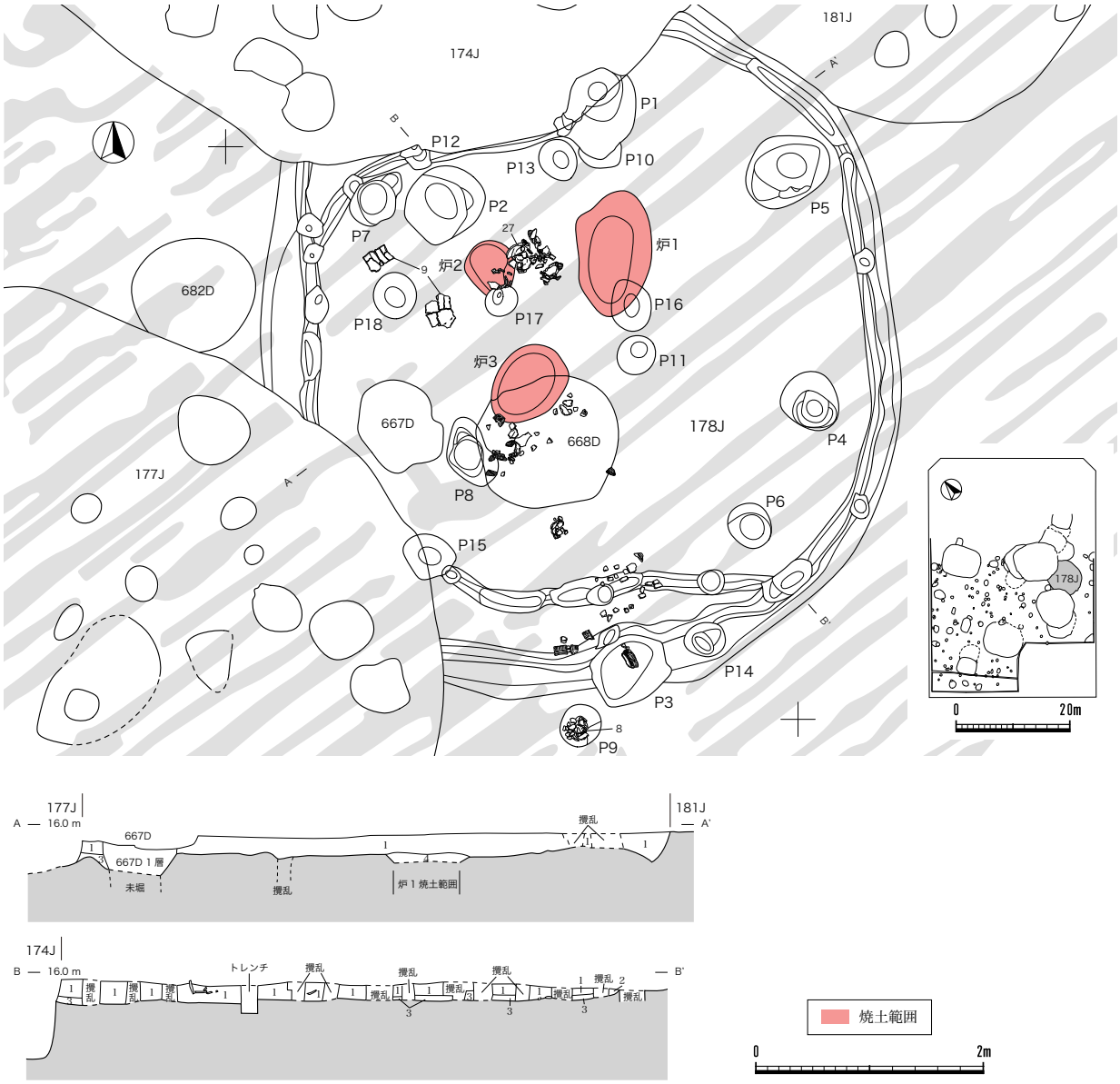
110.0 ×63.9 ㎝、深さ 17.0 ㎝の楕円形の掘り込みを持つ地床炉である。炉２は住居中心よりやや西に位置し、深鉢形土器を埋設する。51.1×43.5 ㎝、深さ 25.6 ㎝の不整円形の掘り込みを持つ埋甕炉である。炉３は住居中心よりやや南側に位置する。63.1×35.3 ㎝、深さ 16.6 ㎝の不整円形の掘り込みを持つ地床炉である。**柱穴**：P1 ～ 2、P4 ～ 7、P15 が主柱穴と思われる。P9 は単独ピットの可能性が高い。

［覆　　土］４層。

［遺　　物］炉２に土器が埋設されていたほか、覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器・粘土塊は 315 点であり、うち阿玉台式 14 点、勝坂式 48 点、曽利式１点、加曽利Ｅ式 161 点、連弧文２点、粘土塊１点である。出土した石器の総点数は 23 点、1,167.7g で、器種の内訳は、楔形石器１点、不規則剥離のある剥片２点（剥片石器系石材）、剥片２点（剥片石器系石材１点、打製石斧系石材１点）、調整剥片５点（剥片石器系石材）、打製石斧４点、磨製石斧１点、敲石４点、片岩製石器４点、石材の内訳は、黒曜石９点、ホルンフェルス５点、砂岩４点、凝灰岩１点、砂質片岩１点、緑泥片岩１点、結晶片岩２点である。

［時　　期］加曽利Ｅ１式期。

［備　　考］炉２からは炉体土器が出土しているが、破片資料での出土であり、また、破片数も少量だったため復元および図化し得なかった。住居南側の P9 には深鉢形土器（第 87 図８）が埋設されていたが、

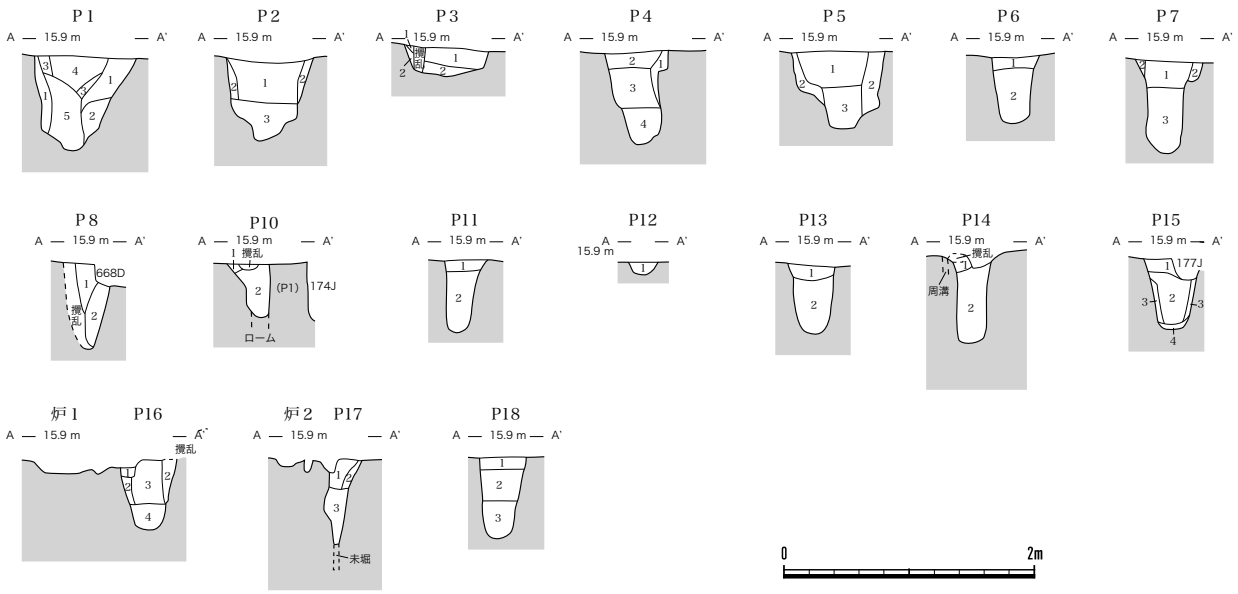


1 黒褐色土（10YR3/1）径２～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を多量、径３～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
3 黒褐色土（10YR2/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
4 黒褐色土（10YR3/1）炉１。径２～５㎜のロームブロックを多量、径２～７㎜の焼土粒を多量、径３～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

第 79 図　178 号住居跡１（1 ／ 60）

178 号住居跡全景（南より）

178 号住居跡全景（西より）



P1
1 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径 20 ～ 50 ㎜のロームブロックを多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。
2 褐色土（10YR4/4）径２～３㎜のローム粒を多量、径 20 ～ 50 ㎜のロームブロックを多量含む。しまりあり、粘性強い。
3 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径 20 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
4 黒褐色土（10YR3/1）径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
5 黒褐色土（10YR2/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。

P2・P5・P7
1 黒褐色土（10YR3/1）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～ 10 ㎜のロームブロックを少量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強い。
2 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまりあり、粘性強い。
3 黒褐色土（10YR3/1）径１～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強い。

P3・P6・P10・P11・P13・P14
1 黒褐色土（10YR3/1）径１～３㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを微量、径２㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/1）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P4
1 黒褐色土（10YR2/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを微量、径２～３㎜の焼土粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR2/1）径２～５㎜のローム粒を多量、径２～５㎜の焼土粒を微量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR2/2）径２～５㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを微量、径２～５㎜の焼土粒を微量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。
4 黒褐色土（10YR2/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～３㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P8
1 黒褐色土（10YR2/2）P17 の２層と同等。
2 黒褐色土（10YR3/1）径２～５㎜のローム粒を多量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P12
1 黒褐色土（10YR3/2）径２～５㎜のローム粒を多量、径２～６㎜の焼土粒を多量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P15
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～ 10 ㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
4 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～ 10 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

P16
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを少量、径３～５㎜の焼土粒を多量、径５㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）径１～２㎜のローム粒を多量、径２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR3/1）径１～３㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを微量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を多量、径 20 ㎜のロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。

P17
1 黒褐色土（10YR3/1）径１～５㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）径１～２㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまりあり、粘性強い。

P18
1 黒褐色土（10YR3/1）径１～２㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/1）径１～２㎜のローム粒を少量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を多量含む。しまりあり、粘性弱い。

第 80 図　178 号住居跡２（1 ／ 60）

178 号住居跡Ａセクション南側（東より）

178 号住居跡Ａセクション北側（東より）

178 号住居跡Ｂセクション東側（南より）

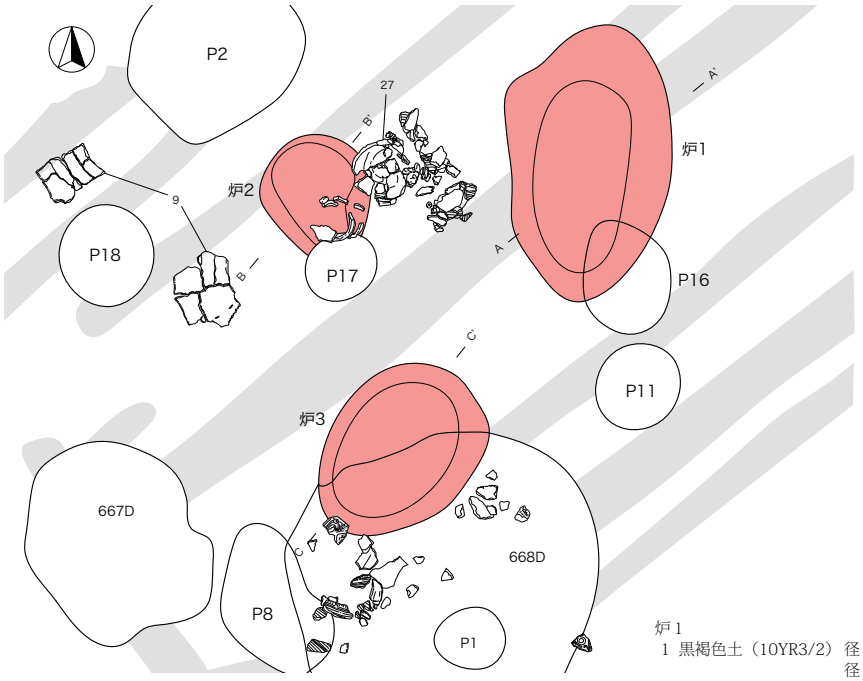
178 号住居跡Ｂセクション西側（南より）

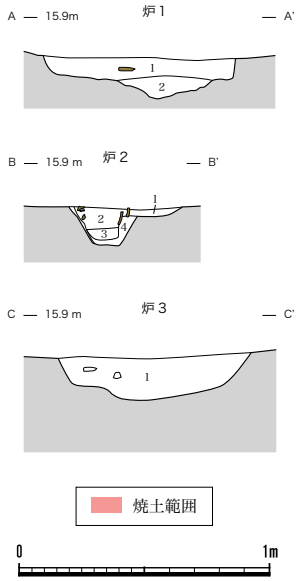
178 号住居跡炉１全景（西より）

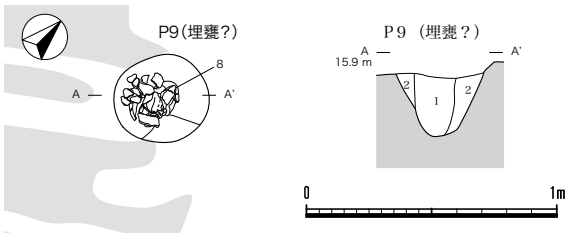
178 号住居跡炉１Ａセクション（西より）

178 号住居跡炉２全景（東より）

178 号住居跡炉２Ａセクション（東より）







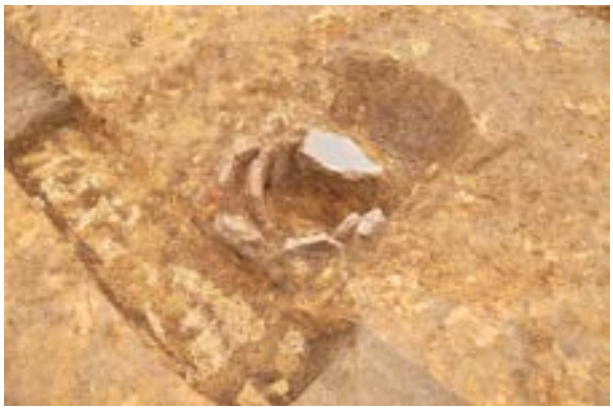
P9
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～２㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。

炉１
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径３㎜の焼土粒を多量、径２～３㎜の炭化粒を多量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径径２～３㎜の焼土粒を微量、径５～15㎜の焼土ブロックを少量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

炉２
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～２㎜のローム粒を少量、径10㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/1）径１～２㎜のローム粒を多量、径２～５㎜の焼土粒を多量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～２㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
4 黒褐色土（10YR3/2）掘り方。径１～２㎜のローム粒を少量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱い。

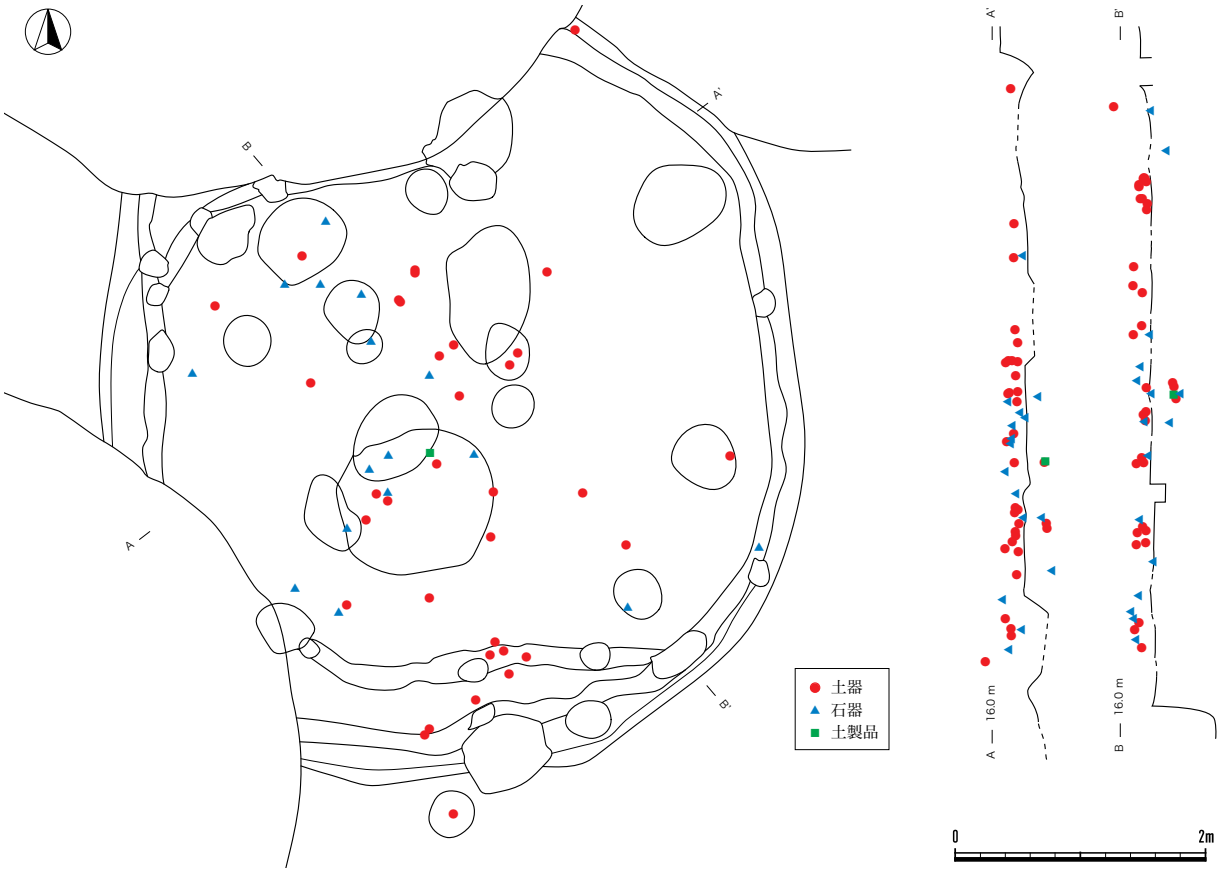
炉３
1 黒褐色土（10YR3/1）径２～５㎜のローム粒を多量、径２～６㎜の焼土粒を多量、径10～15㎜の焼土ブロックを少量、径２～３㎜の炭化粒を少量、含む。しまり・粘性あり。底面被熱痕あり。

第81図　178号住居跡炉・P9（埋甕？）（１／30）



178号住居跡炉２炉体土器出土状態

178号住居跡炉３全景（東より）



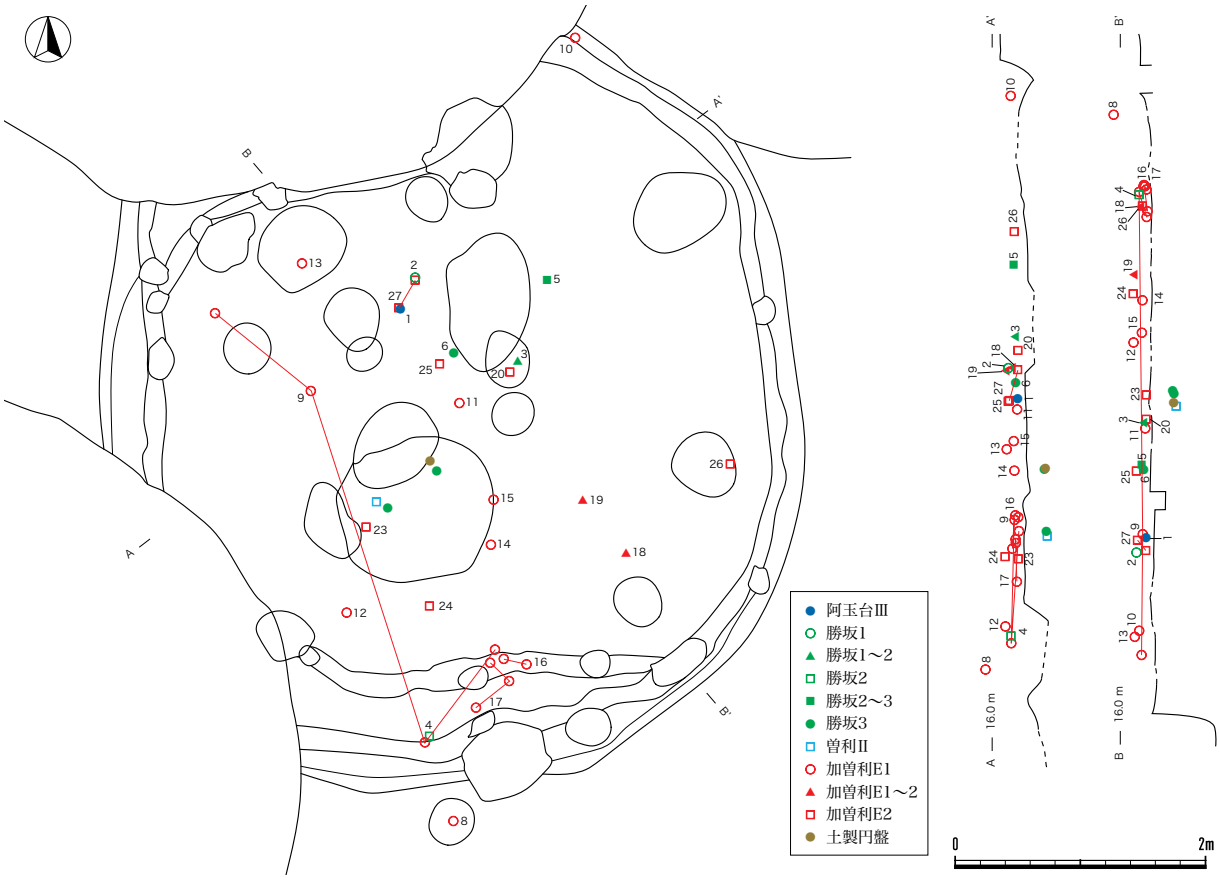
第 82 図　178 号住居跡遺物出土状態（1 ／ 60）

178 号住居跡遺物出土状態（東より）

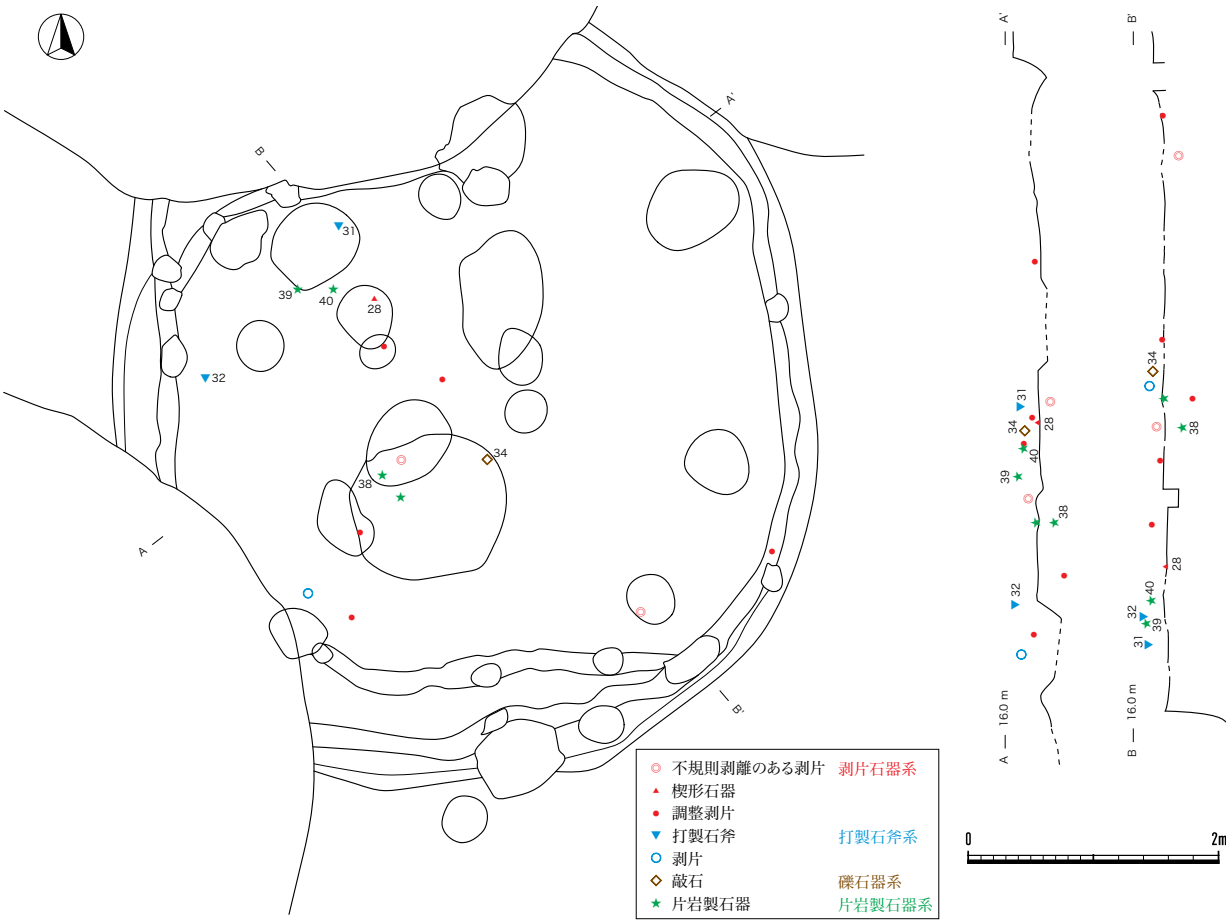
178 号住居跡遺物出土状態

178 号住居跡遺物出土状態

178 号住居跡遺物出土状態



第 83 図　178 号住居跡土器出土状態（1 ／ 60）

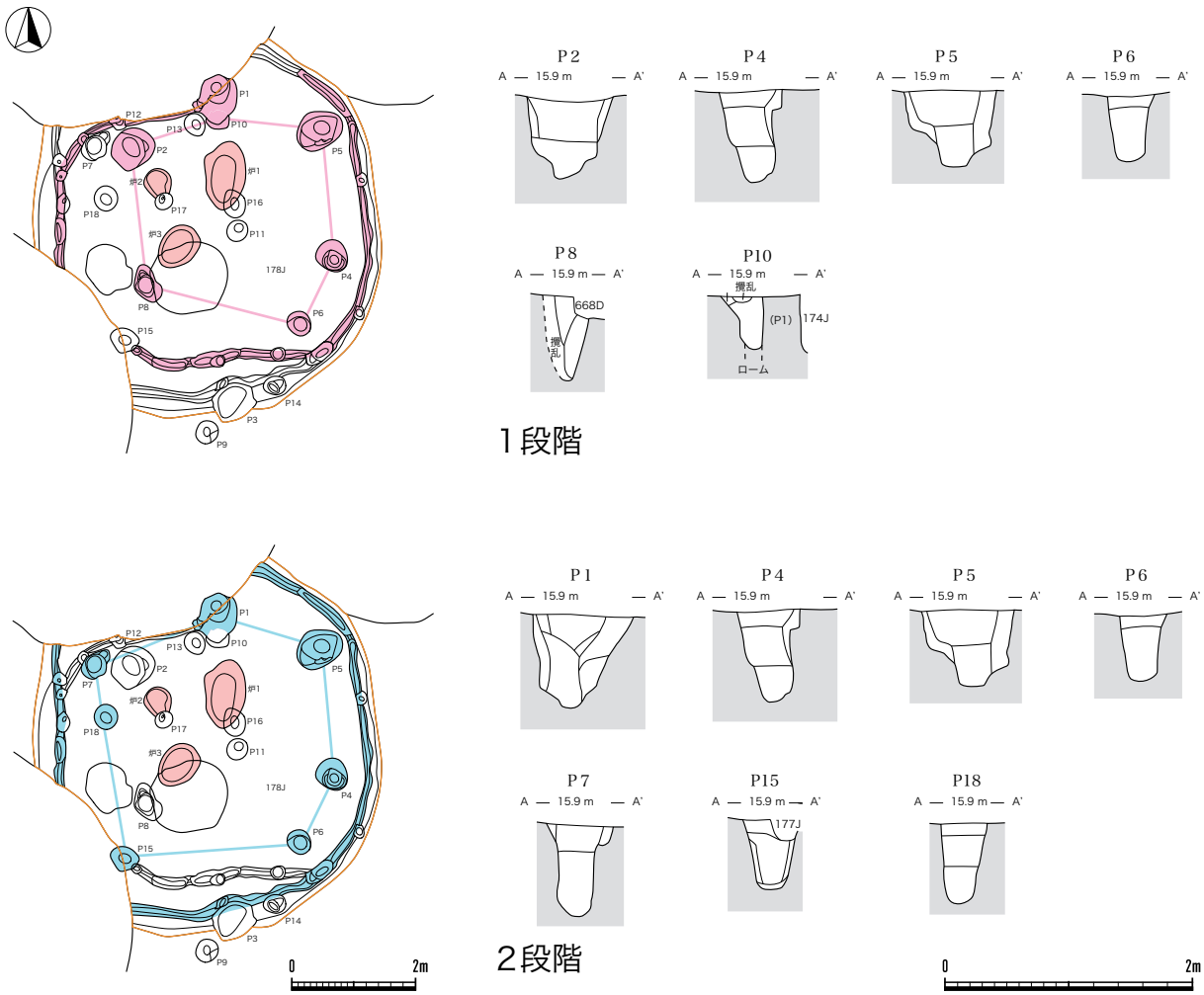


第 84 図　178 号住居跡石器出土状態（1 ／ 60）

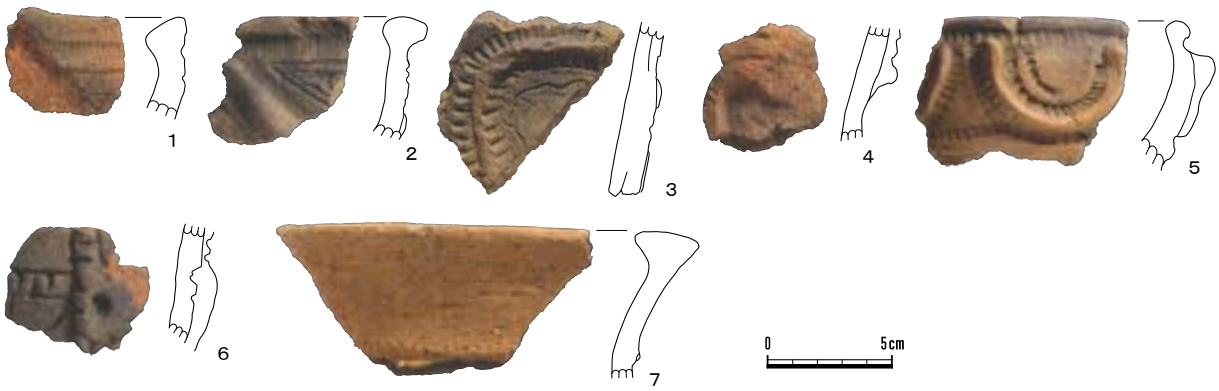
これはピット・遺物を含め 178 号住居跡に伴わない可能性がある。

遺　　物（第 86 ～ 90 図、第 29・30・48・49 表）

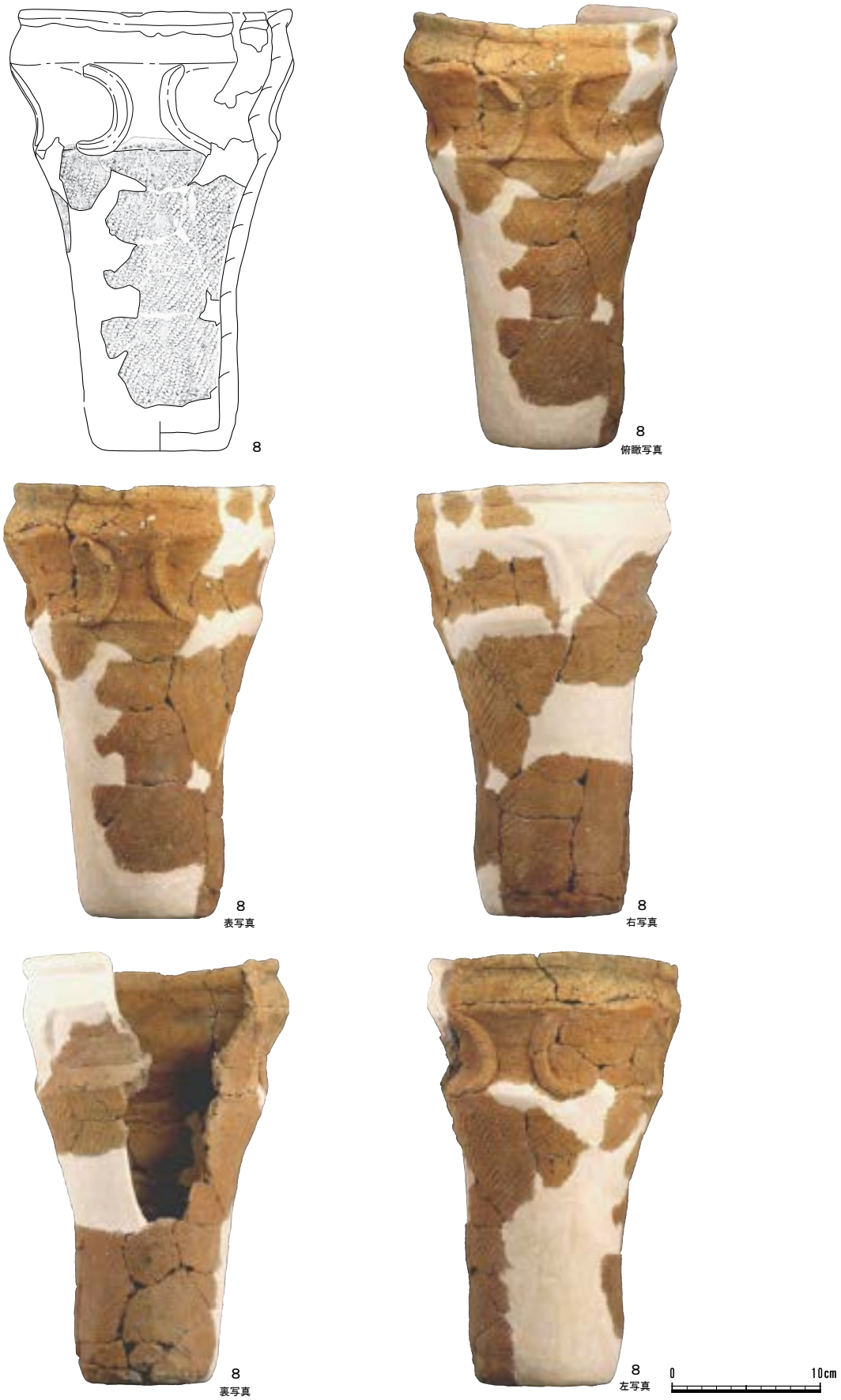
阿玉台式（１）、勝坂式（２～６）、曽利式（７）、加曽利Ｅ式（８～ 27）、楔形石器（28）、打製石斧（29 ～ 32）、磨製石斧（33）、敲石（34 ～ 37）、片岩製石器（38 ～ 40）を図示した。



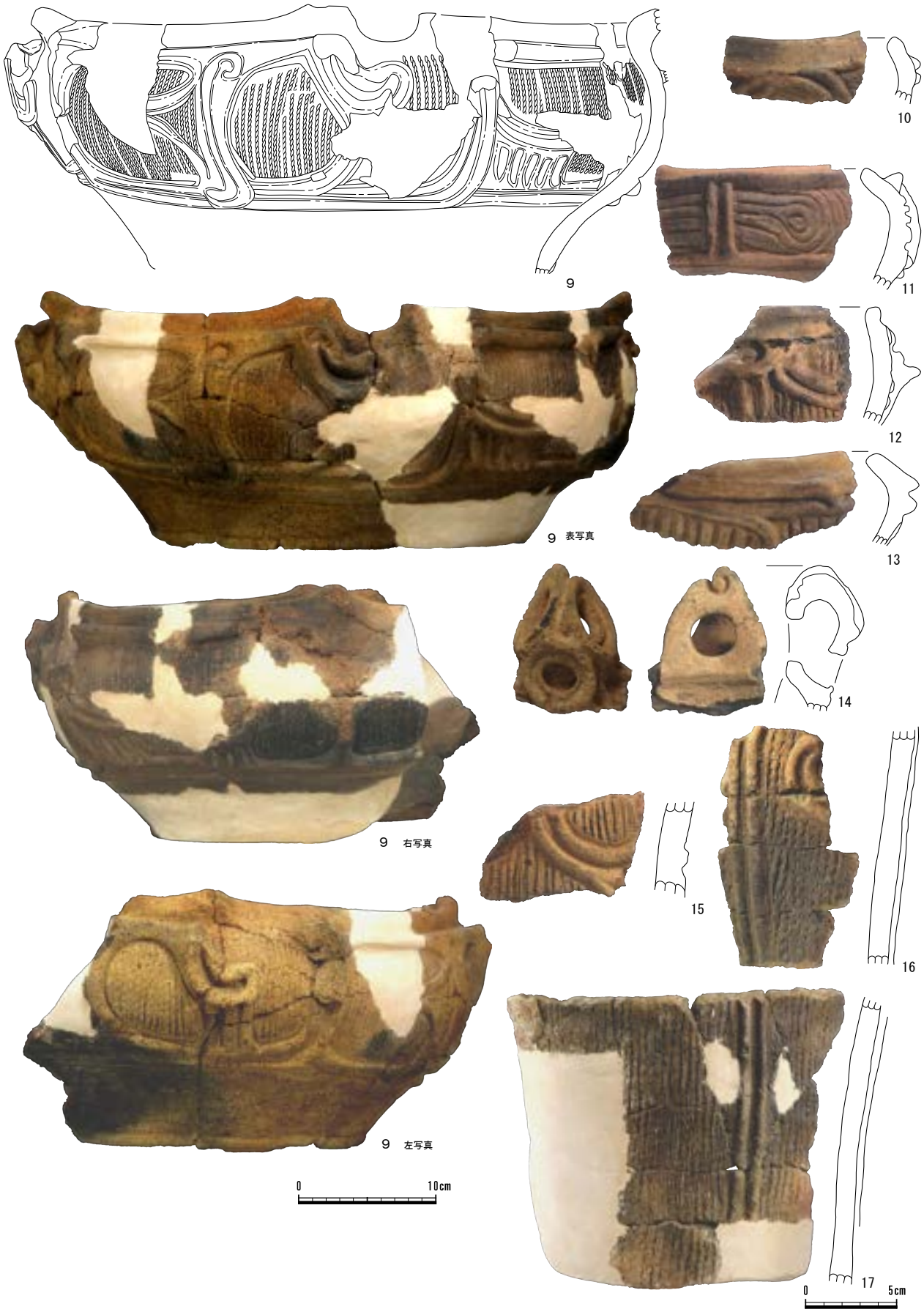
第 85 図　178 号住居跡変遷図（1 ／ 120・ 1 ／ 60）



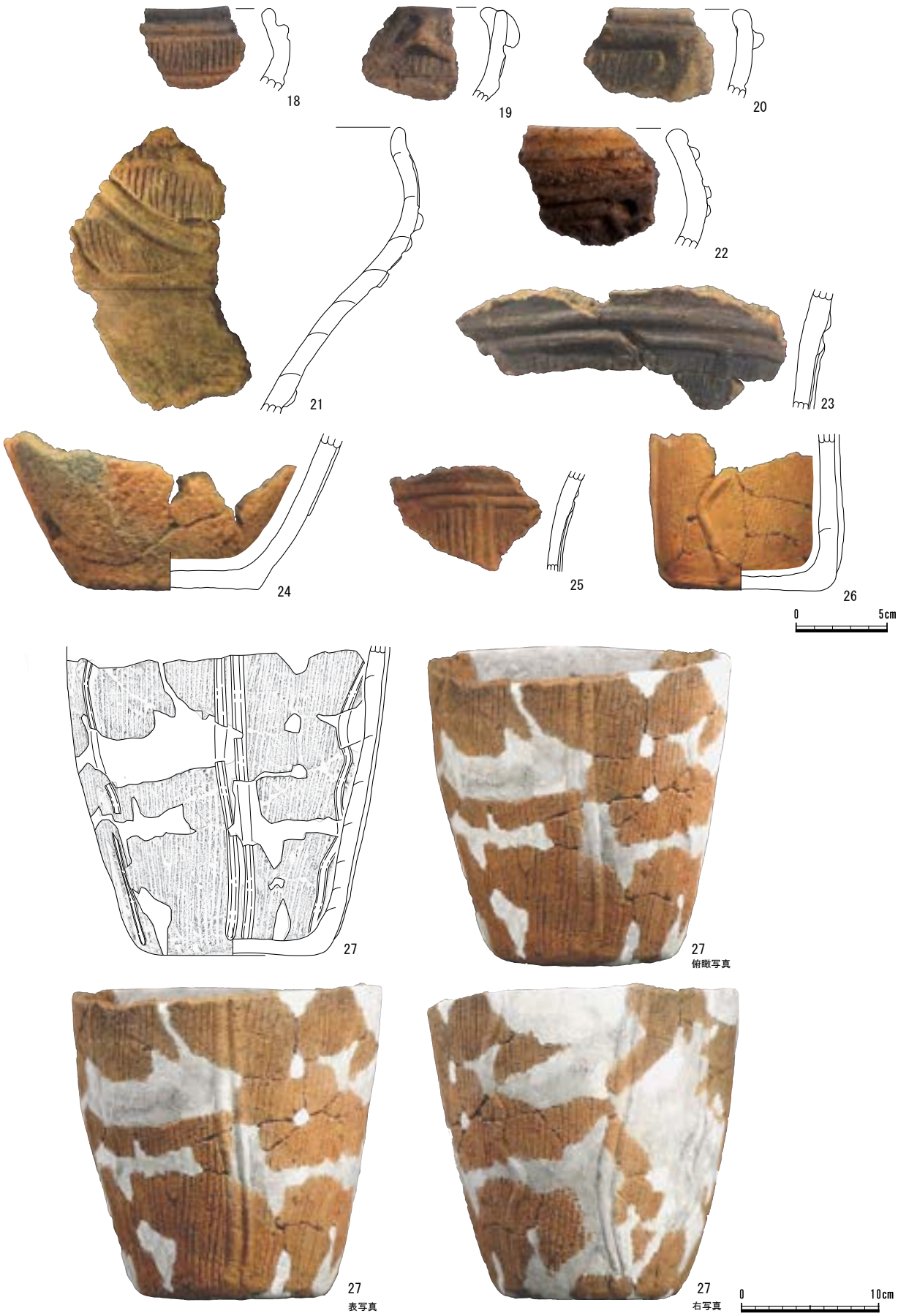
第 86 図　178 号住居跡出土遺物 1 （1 ／ 3）



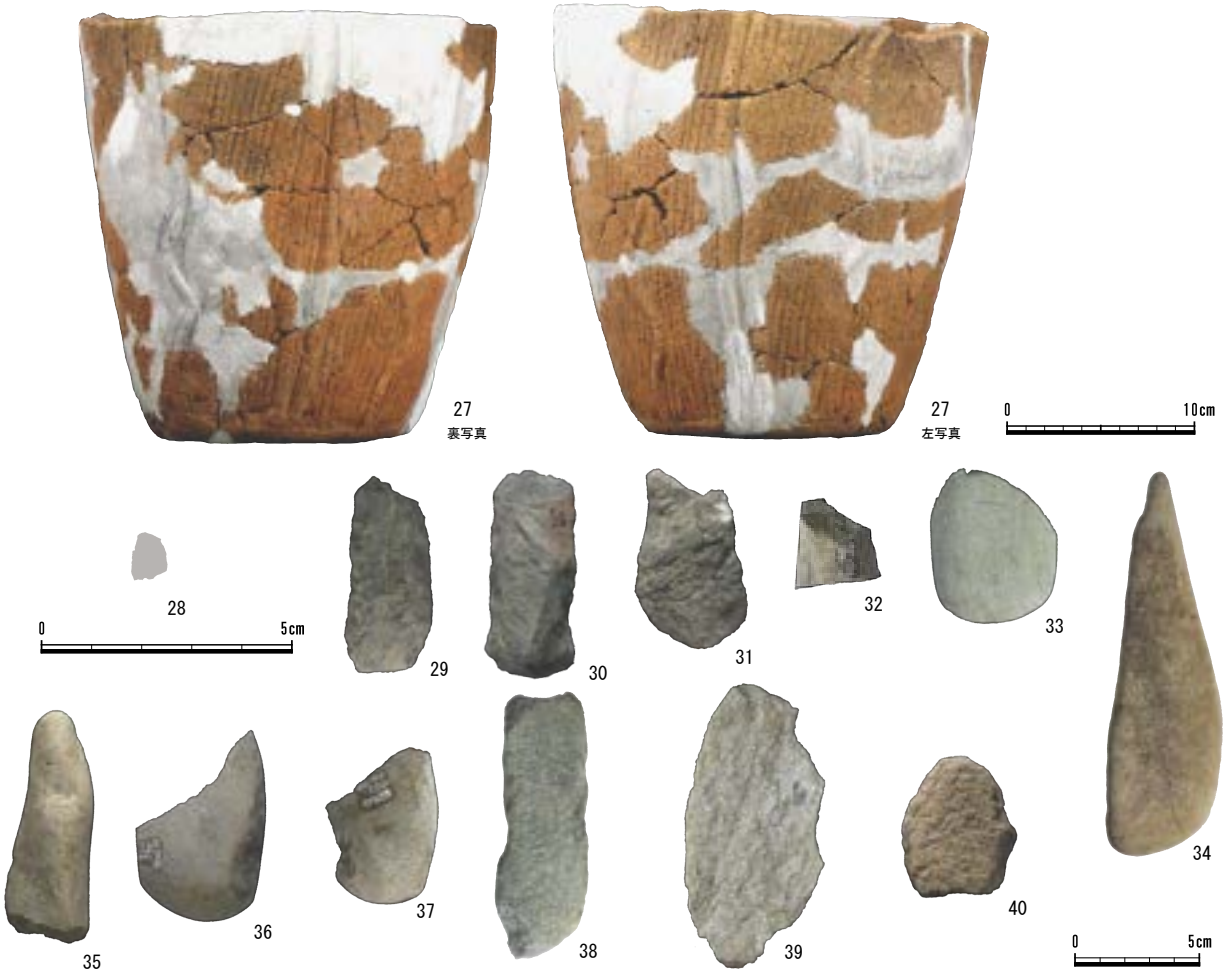
第 87 図　178 号住居跡出土遺物２（１／４）



第 88 図　178 号住居跡出土遺物３（１／４・１／３）



第 89 図　178 号住居跡出土遺物４（１／４・１／３）



第 90 図　178 号住居跡出土遺物５（１／４・１／３・２／３）

179 号住居跡

遺　　構（第 91 ～ 96 図）

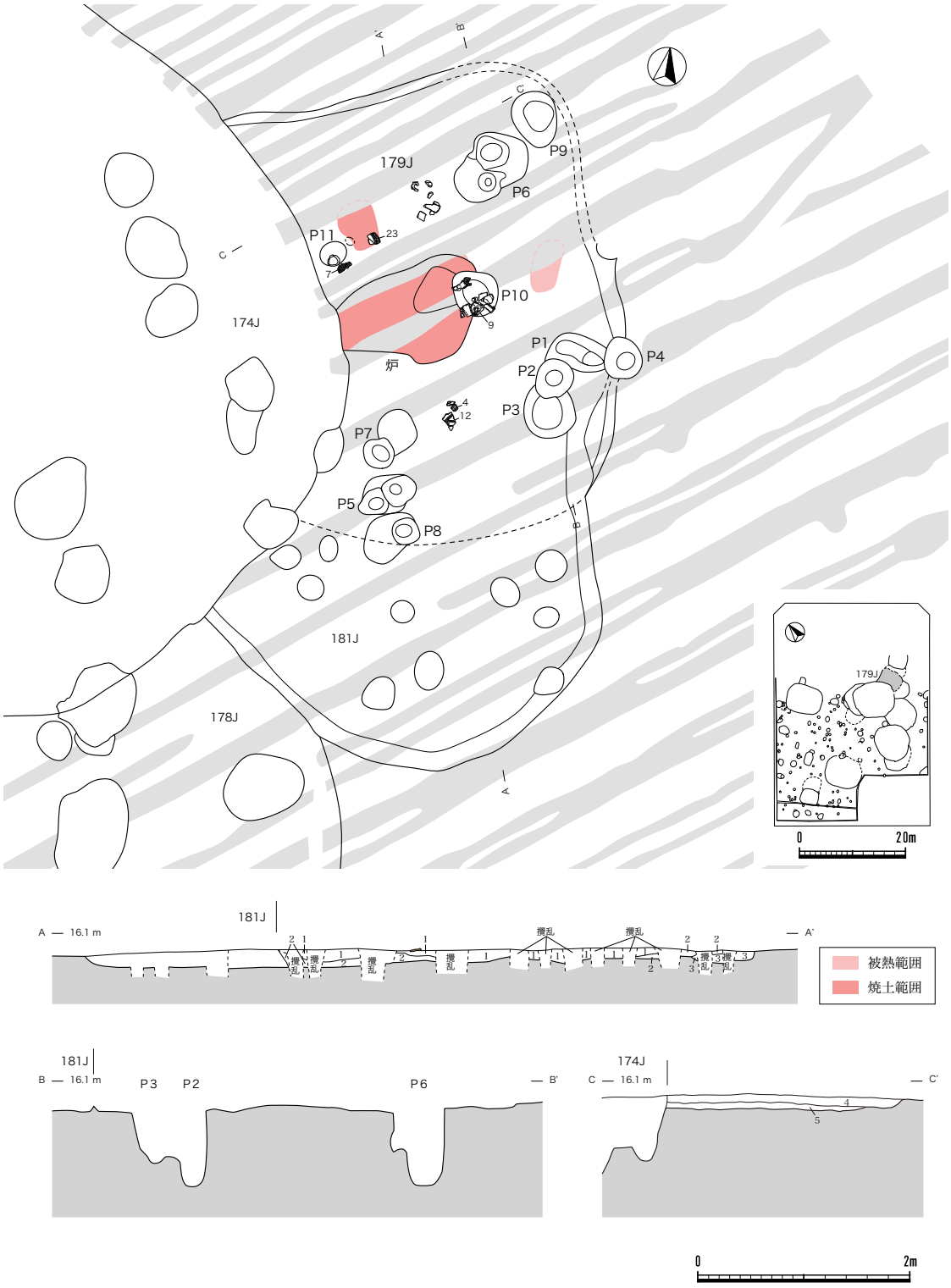
［位　　置］X=-19440,Y=-24154。

［**住居構造**］174J に切られ 175J を切る。攪乱が著しく明確ではないが、181J を切ると思われる。**平面形**：不明。**規模**：不明。**主軸方位**：N － 10°－W。**壁高**：2.3 ～ 8.9 ㎝を測り、25°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：耕作による攪乱が著しい。**炉**：住居の規模は不明だが、ほぼ中央に位置すると思われる。129.4×66.7 ㎝、20.0×13.5 ㎝の被熱範囲が確認できる。125.0×77.4 ㎝、深さ 7.3 ㎝の不整形の掘り込みをもつ地床炉である。**柱穴**：P2・5・6 が主柱穴と思われる。

［覆　　土］５層。

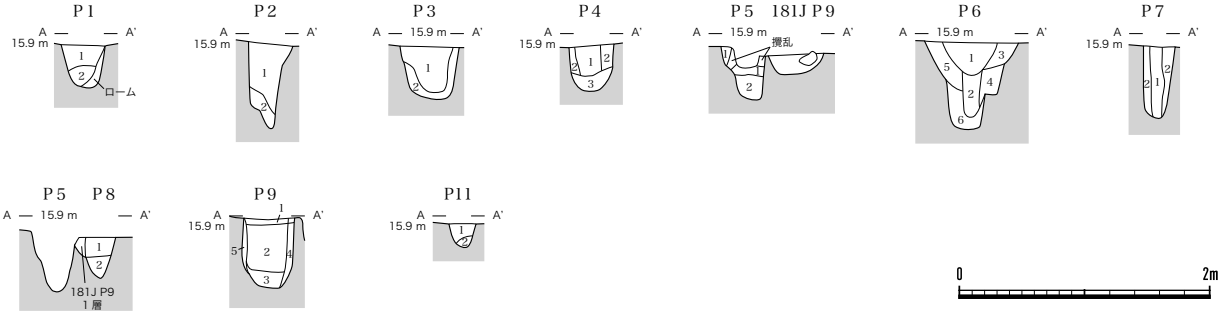
［遺　　物］覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器は 107 点であり、うち阿玉台式８点、勝坂式８点、曽利式４点、加曽利Ｅ式 62 点である。出土した石器の総点数は 25 点、1,277.7g で、器種の内訳は、石鏃１点、楔形石器１点、不規則剥離のある剥片１点（剥片石器系石材）、剥片４点（剥片石器系石材）、調整剥片２点（剥片石器系石材）、打製石斧６点、磨石２点、敲石４点、軽石１点、片岩製石器３点、石材の内訳は、黒曜石９点、ホルンフェルス３点、砂岩６点、片状砂岩１点、凝灰岩１点、閃緑岩１点、緑泥片岩１点、結晶片岩２点、安山岩質火山弾１点である。

［時　　期］加曽利Ｅ１式期。



1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。炉の周囲は焼土。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～15㎜のロームブロックを少量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
3 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
4 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
5 褐色土（10YR4/4）掘り方か。径１～３㎜のローム粒を多量、径１～３㎜のロームブロックを多量、径１～３㎜の焼土粒を微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

第 91 図　179 号住居跡１（１／60）



P1
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～２㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P2
1 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～３㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P3
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。P2 の１層に似る。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

P4
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P5
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～30㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

P6
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性強い。
4 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～15㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
5 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
6 黄褐色土（10YR5/6）ローム。Pit 壁面。

P7
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～15㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

P8
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。１層よりやや暗い。

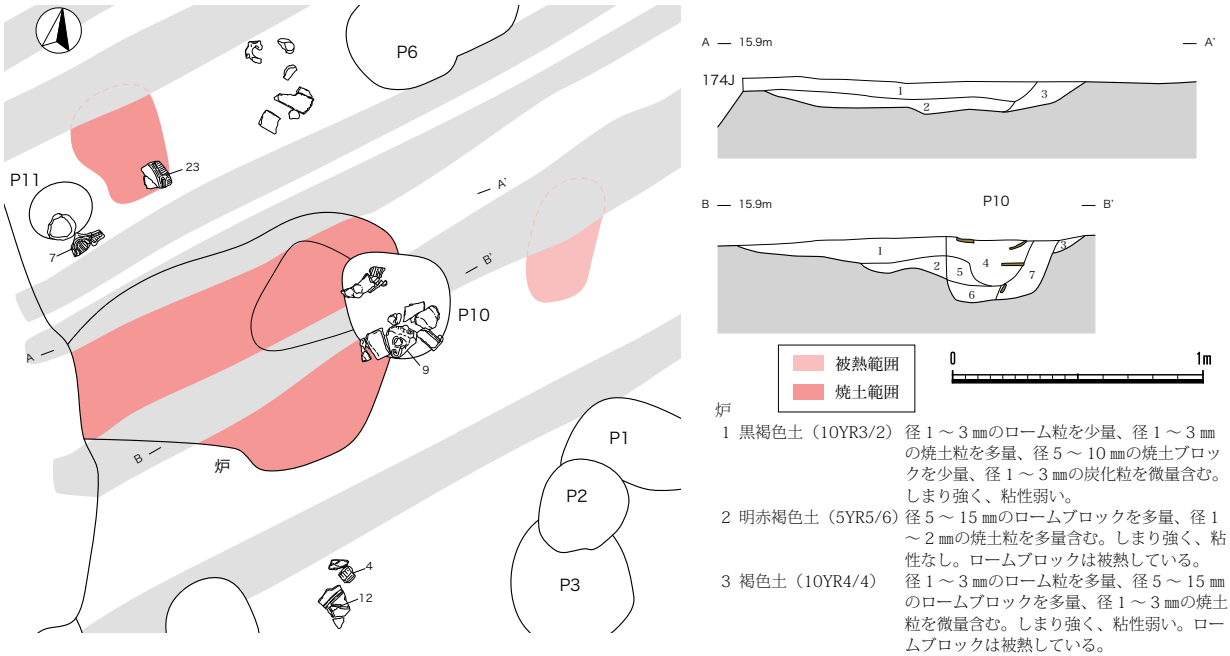
P9
1 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。床？
2 褐色土（10YR4/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
3 褐色土（10YR4/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～15㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
4 褐色土（10YR4/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～15㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
5 黄褐色土（10YR5/6）径10～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

P11
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性強い。

第 92 図　179 号住居跡２（１／60）

179 号住居跡・181 号住居跡全景（南より）

179 号住居跡・181 号住居跡全景（東より）



炉
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を多量、径５～10㎜の焼土ブロックを少量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性弱い。
2 明赤褐色土（5YR5/6）径５～15㎜のロームブロックを多量、径１～２㎜の焼土粒を多量含む。しまり強く、粘性なし。ロームブロックは被熱している。
3 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～15㎜のロームブロックを多量、径１～３㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性弱い。ロームブロックは被熱している。

P10
4 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を少量含む。しまり・粘性あり。土器片を多く含む。
5 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜の焼土粒を少量、径５～10㎜の焼土ブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
6 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
7 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～３㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

第 93 図　179 号住居跡炉（１／30）

179 号住居跡・181 号住居跡Ａセクション（南より）

179 号住居跡・181 号住居跡Ｂセクション（東より）

179 号住居跡炉全景（南より）

179 号住居跡被熱範囲全景（東より）

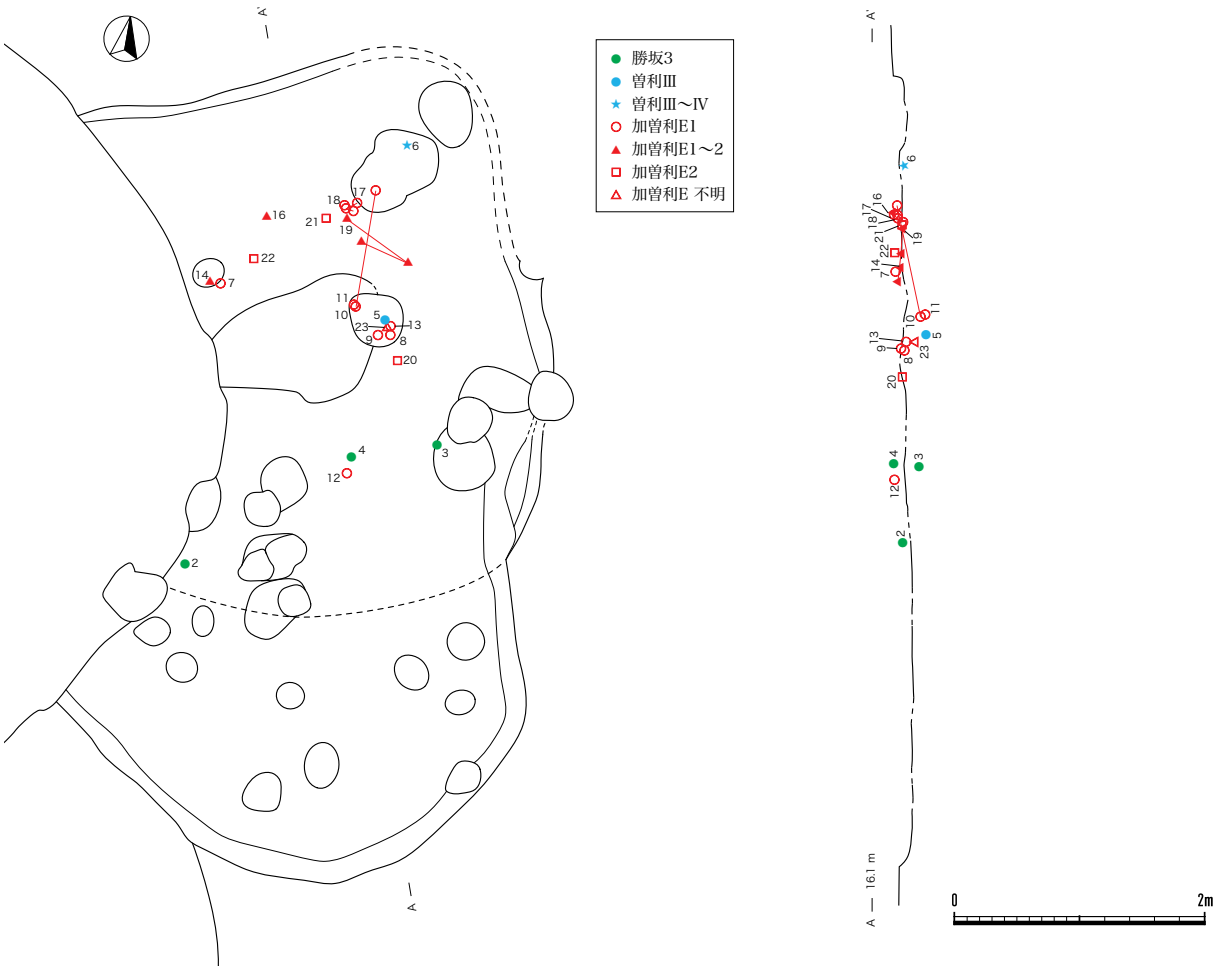
第 94 図　179 号住居跡遺物出土状態（1／60）

179 号住居跡・181 号住居跡遺物出土状態（南より）

179 号住居跡・181 号住居跡遺物出土状態（東より）

179 号住居跡・181 号住居跡遺物出土状態

179 号住居跡 P10 遺物出土状態（西より）



第 95 図　179 号住居跡土器出土状態（１／60）

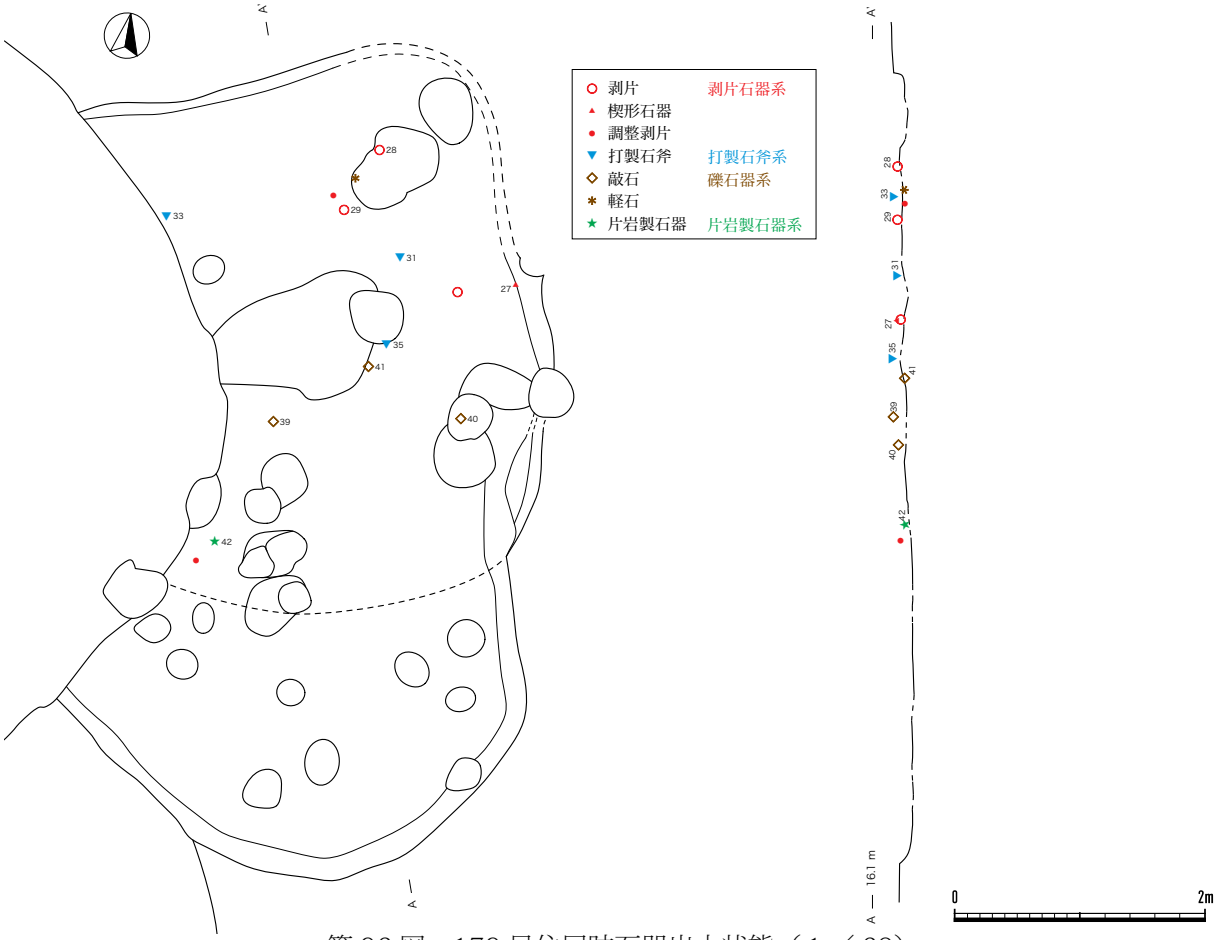
179 号住居跡遺物出土状態（南より）

179 号住居跡遺物出土状態（西より）

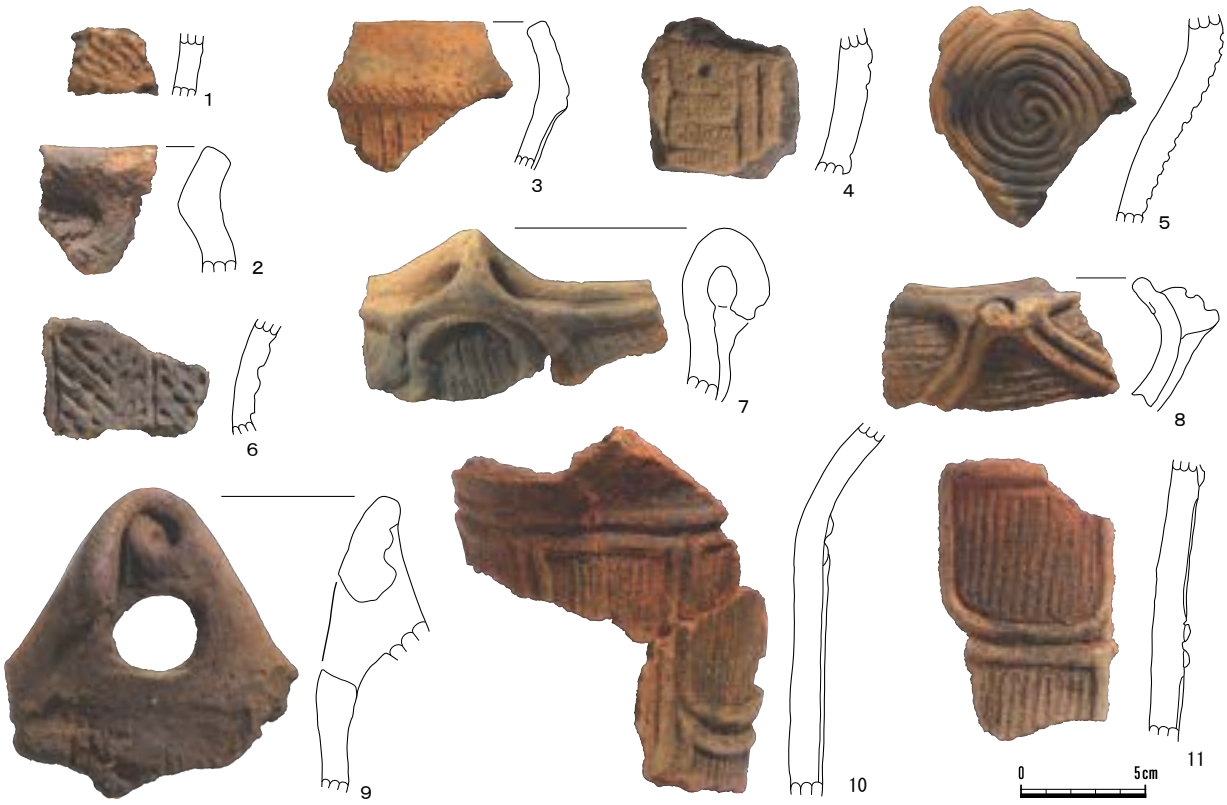
［備　　考］炉の北側に不明 ×35.3 ㎝の焼土範囲、東側に不明 ×25.1 ㎝の被熱範囲が認められる。

遺　　物（第 97・98 図、第 31・32・43・49 表）

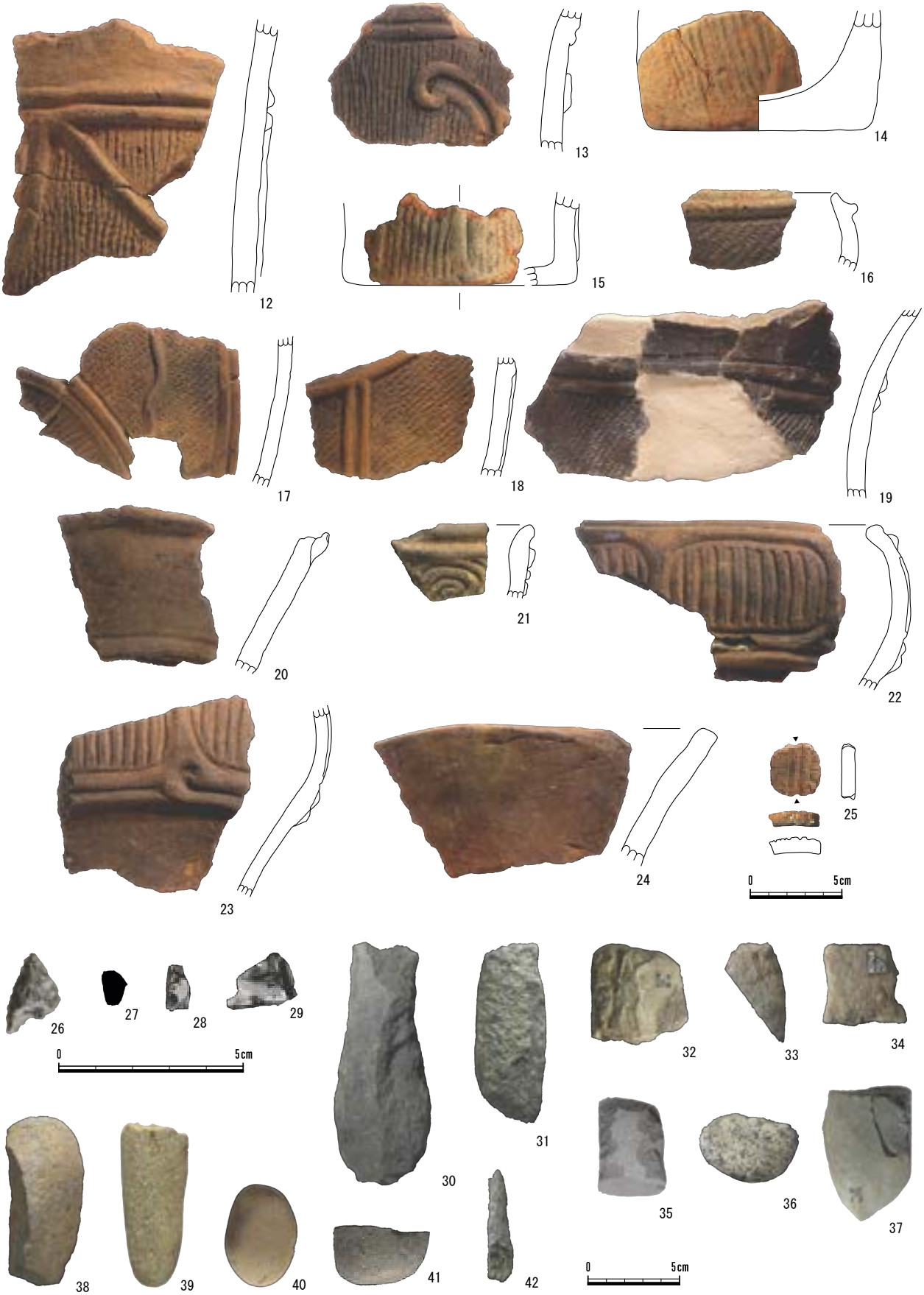
黒浜式（１）、勝坂式（２～４）、曽利式（５～６）、加曽利Ｅ式（７～ 24）、土器片錘（25）、石鏃（26）、楔形石器（27）、剥片（剥片石器系：28 ～ 29）、打製石斧（30 ～ 35）、磨石類（36 ～ 37）、敲石（38 ～ 41）、片岩製石器（42）を図示した。



第 96 図　179 号住居跡石器出土状態（1／60）



第 97 図　179 号住居跡出土遺物 1（1／3）



第 98 図　179 号住居跡出土遺物２（１／３・２／３）

180 号住居跡

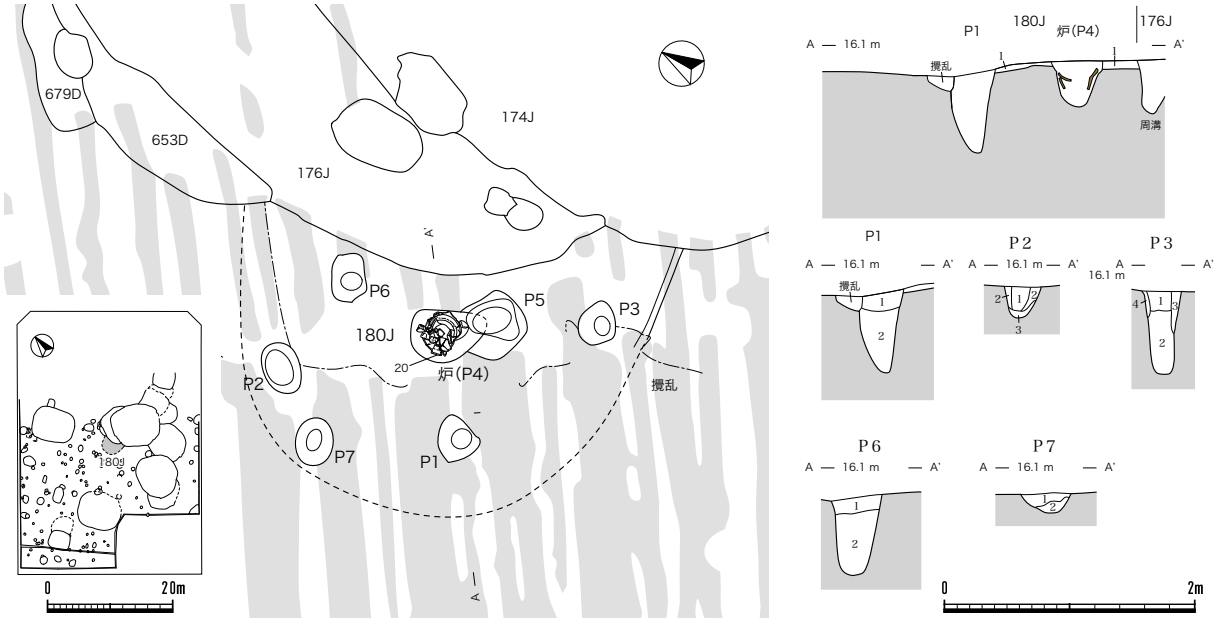
遺　　構（第 99 ～ 103 図）

［位　　置］X=-19441,Y=-24164。

［住居構造］176J･174J･653 Dに切られる。**平面形**:不明。**規模**:不明。**主軸方位**:N－60°－E。**壁高**:検出されなかった。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：耕作による攪乱が著しい。**炉**：攪乱により住居の構造がはっきりしないが、住居のほぼ中央と思われる位置に深鉢形土器の上半部（20）を埋設した埋甕炉（P4）が検出された。深さ 25cm を測る。土器を設置した後、土器の下部からピットの下端にかけて 2 ㎝の土を貼り内部の使用面を構築したと推測される。外側については土器上部とピットの上端の間に土を貼り、礫を設置している。なお、周囲から焼土粒が検出されている。**柱穴**：P1・3・6 以外の主柱穴は確認できなかった。

［覆　　土］1 層。

［遺　　物］住居のほぼ中央に位置する P4 に土器が埋設されていたほか、覆土中から少量出土した。出土位置が判明している土器・粘土塊は 52 点であり、うち阿玉台式 18 点、勝坂式 19 点、加曽利 E 式 1 点、粘土塊 1 点である。出土した石器の総点数は 4 点、818.7g で、器種の内訳は、打製石斧 1 点、



1 暗赤褐色土（5YR3/3）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

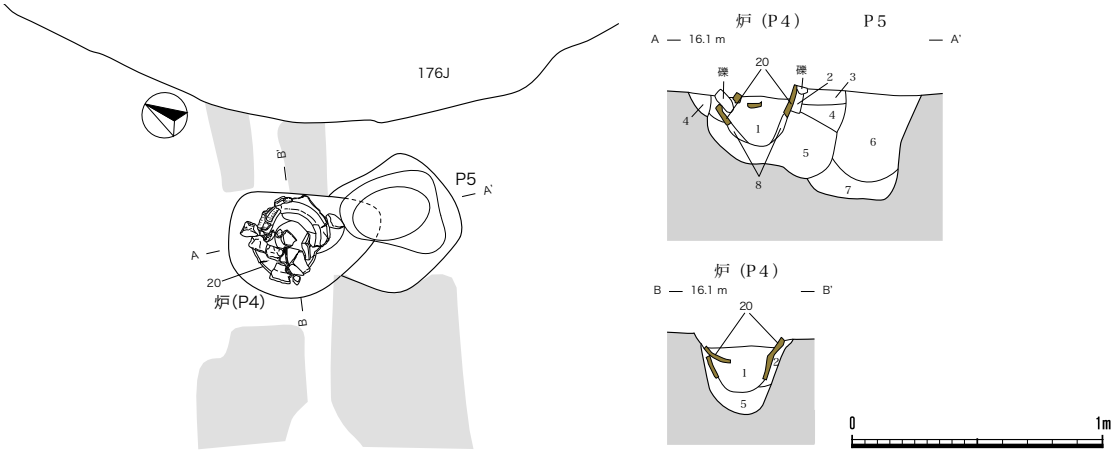
P1
1 暗赤褐色土（5YR3/3）径 1 ～ 2 ㎜のローム粒を少量､径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を少量、径 1 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり弱く､粘性あり。赤い。
2 暗赤褐色土（5YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P2
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量､径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
3 褐色土（10YR4/6）　径 10 ～ 20 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。ロームブロック。

P3
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を微量､径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 褐色土（10YR4/4）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり強く､粘性あり。
4 黄褐色土（10YR5/6）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量､径 5 ～ 20 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

P6・P7
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第 99 図　180 号住居跡（1 /60）



炉（P4）・P5
1 黒褐色土（10YR3/2）P4 覆土。径１～２㎜のローム粒を微量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径 10 ㎜の焼土ブロックを微量含む。しまり・粘性あり。。
2 褐色土（10YR4/4）　P4 覆土。径１～２㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。。
3 暗褐色土（10YR3/4）P4 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
4 褐色土（10YR4/4）　P4 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～ 10 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
5 黄褐色土（10YR5/6）P4 覆土。径１～３㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 30 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
6 暗褐色土（10YR3/3）P5 覆土。径１～３㎜のローム粒を少量、径５～ 10 ㎜のロームブロックを微量、径１㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
7 暗褐色土（10YR3/4）P5 覆土。径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
8 暗褐色土（10YR3/4）P4 覆土。埋甕掘り方。径１～２㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。７層に近似。

第 100 図　180 号住居跡炉（Ｐ４）（１／30）

180 号住居跡全景（南より）

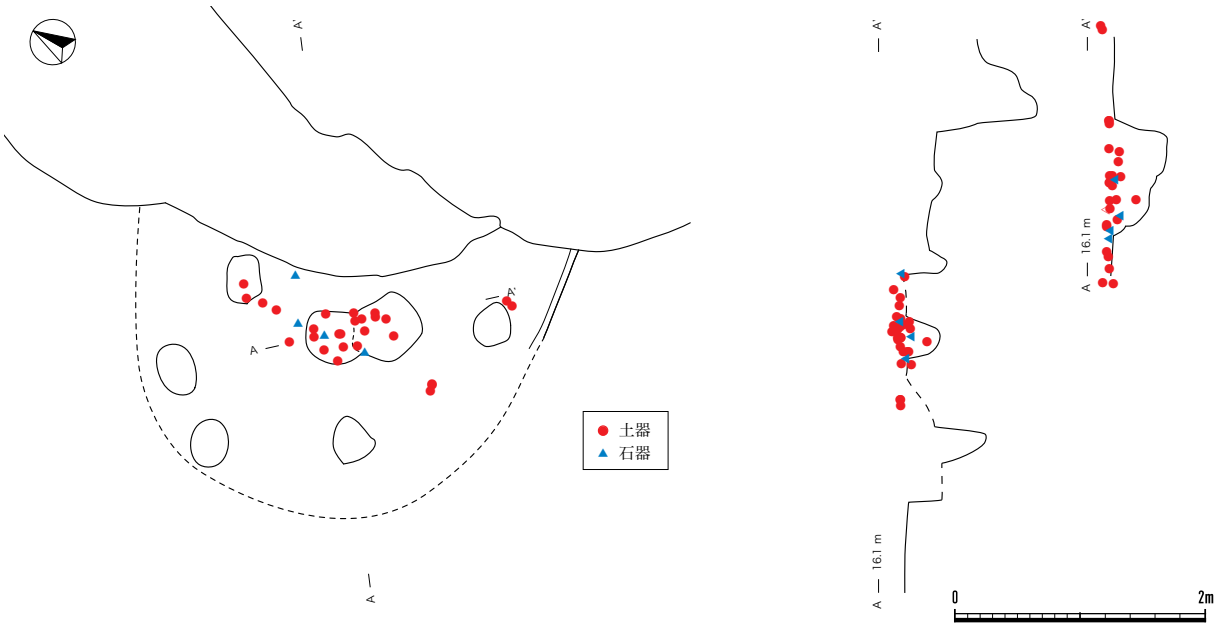
180 号住居跡全景（東より）

180 号住居跡炉（P4）・P5 遺物出土状態（南より）

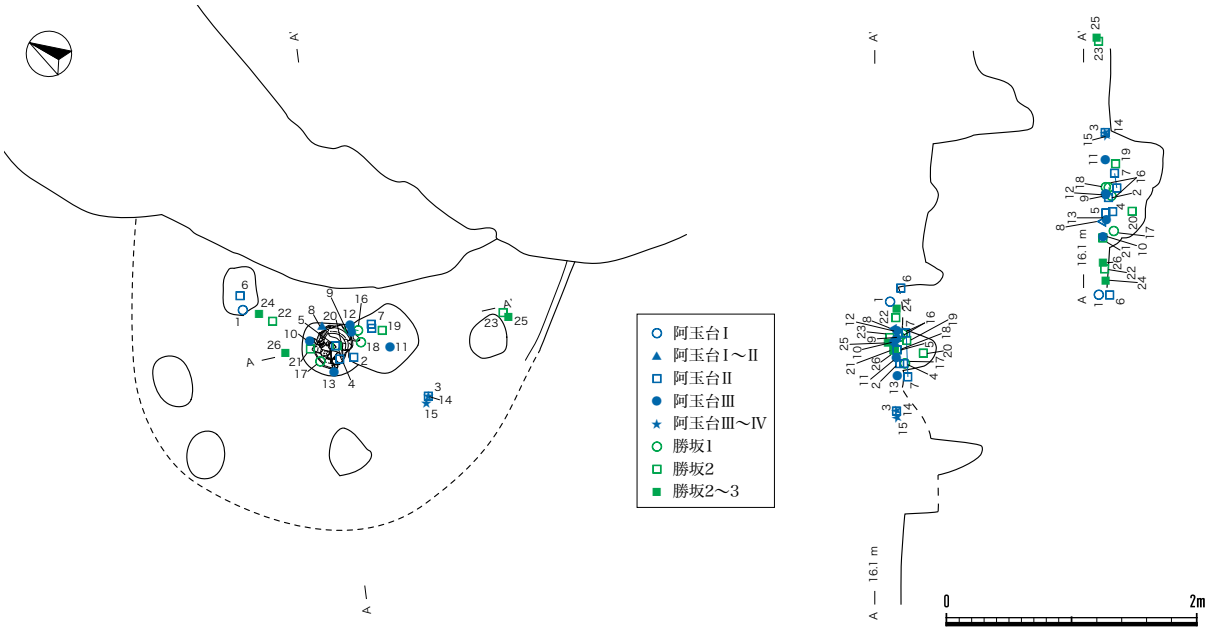
180 号住居跡炉（P4）・5 全景（南より）

180 号住居跡炉（P4）・P5 Aセクション（南より）

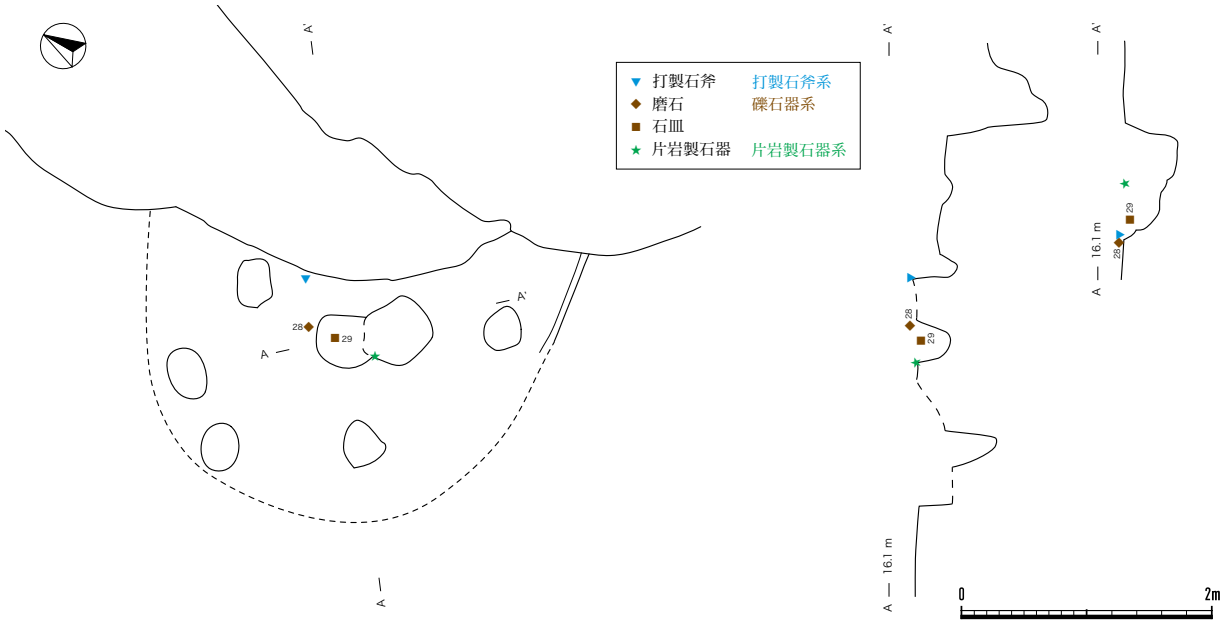
180 号住居跡遺物出土状態（南より）



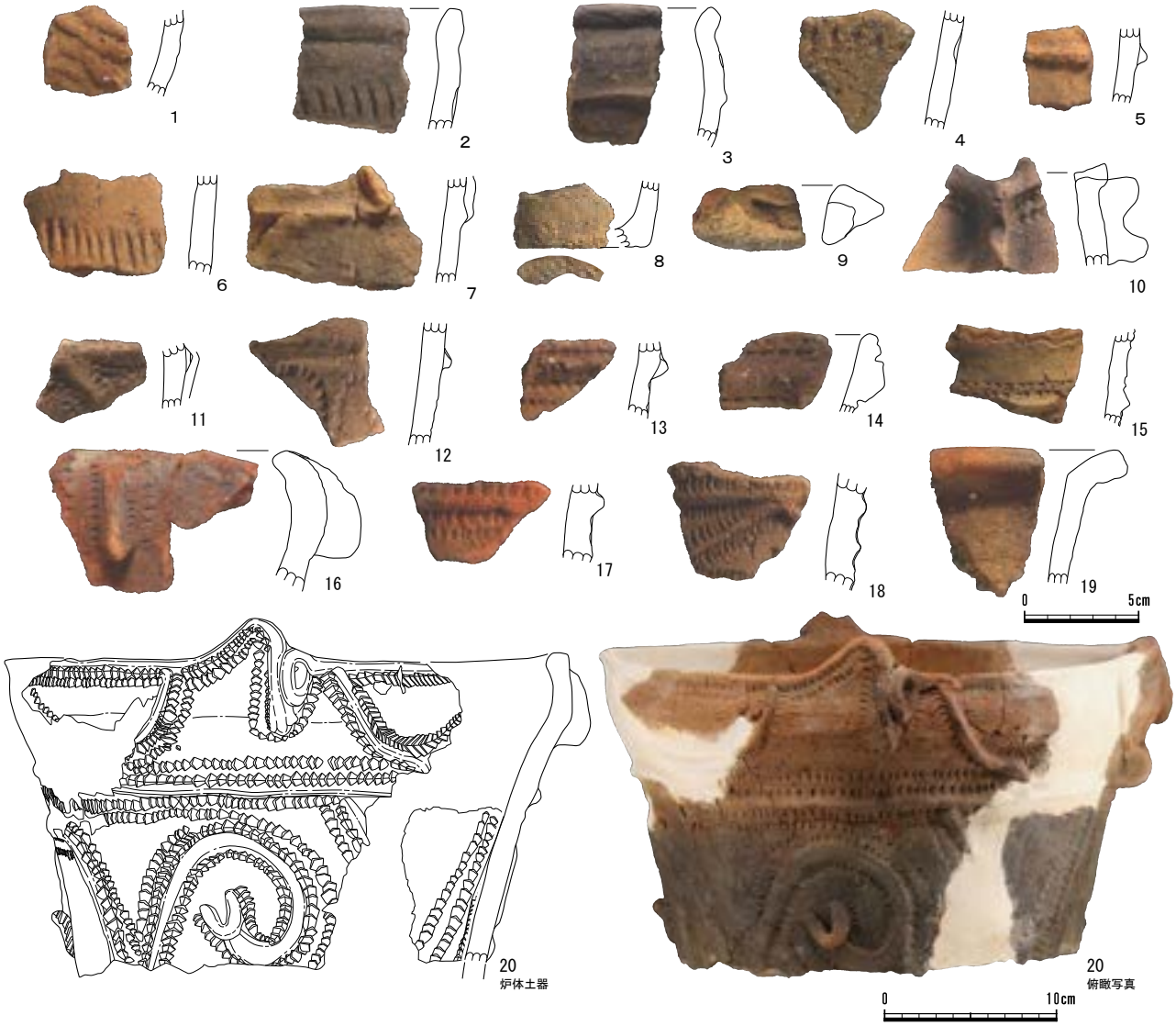
第 101 図　180 号住居跡遺物出土状態（1 /60）



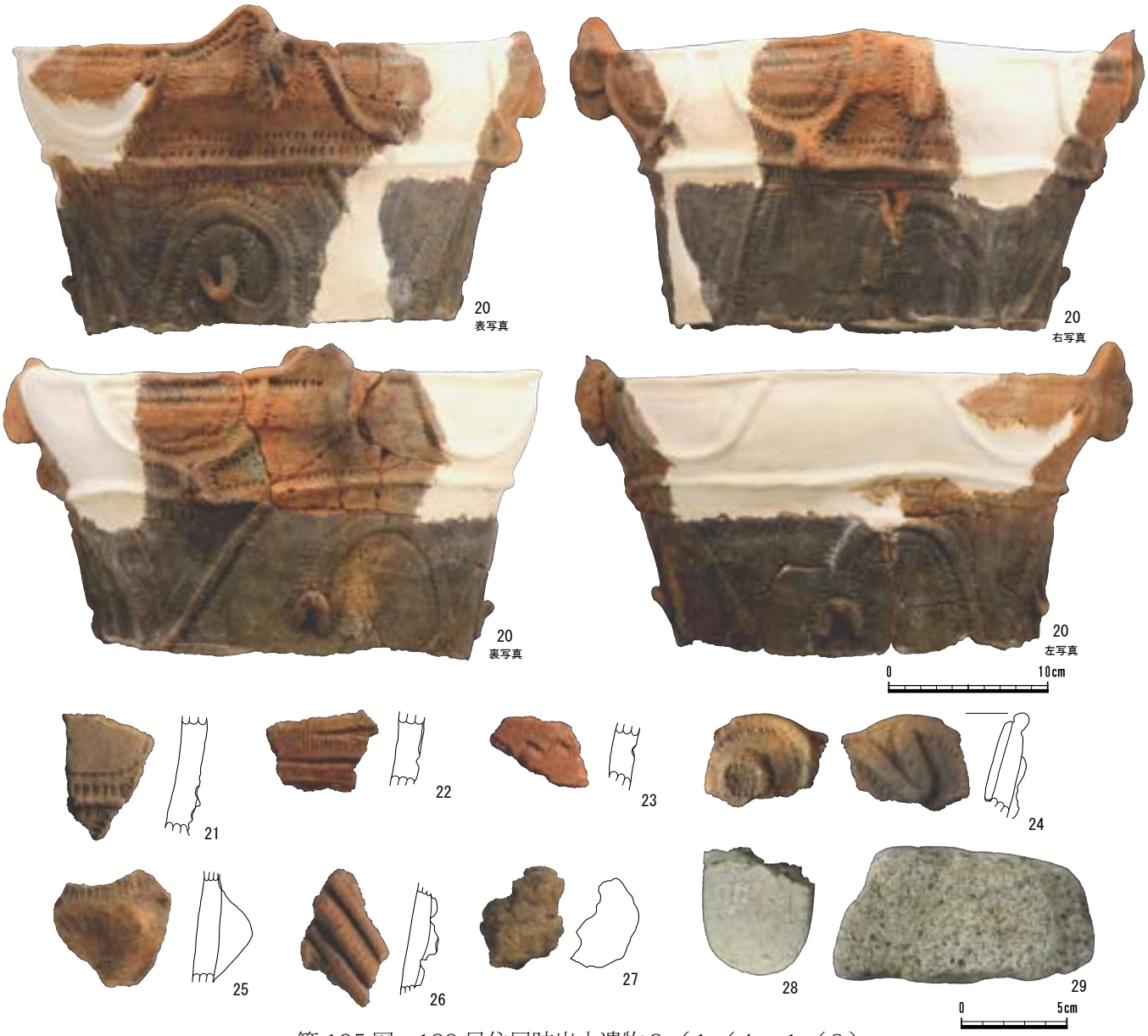
第 102 図　180 号住居跡土器出土状態（1 /60）



第 103 図　180 号住居跡石器出土状態（1 /60）



第 104 図　180 号住居跡出土遺物 1（1／4・1／3）



第 105 図　180 号住居跡出土遺物２（１／４・１／３）

磨石１点、石皿１点、片岩製石器１点、石材の内訳は、砂岩２点、安山岩１点、砂質片岩１点である。

［時　　期］阿玉台～勝坂２式期。

遺　　物（第 104・105 図、第 33・34・43・49 表）

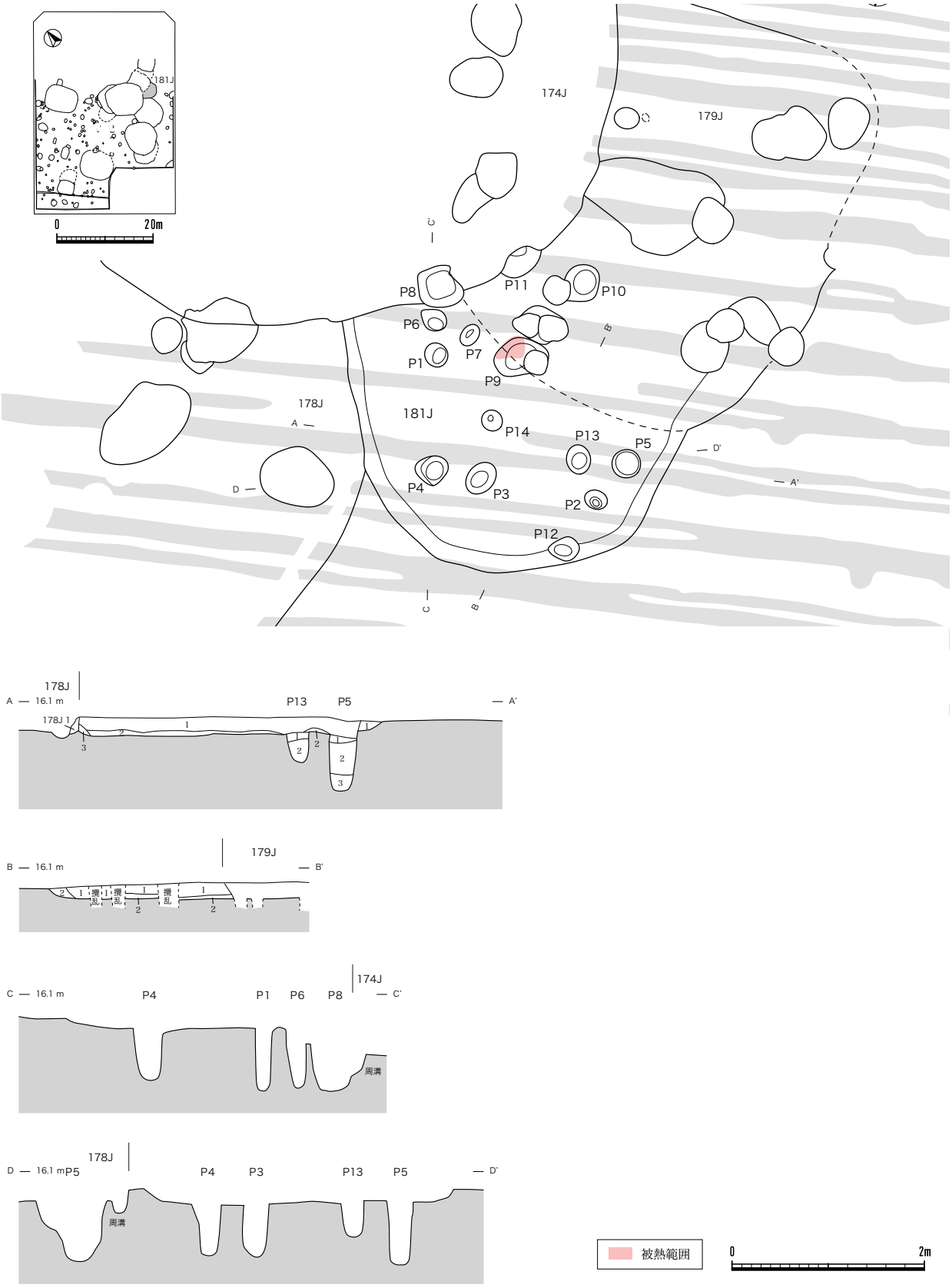
阿玉台式（１～15）、勝坂式（16～26）、粘土塊（27）、磨石（28）、石皿（29）を図示した。20 は P4 の埋甕で残存高 19.8 ㎝、口縁部径 23.0 ㎝を測る。

181 号住居跡

遺　　構（第 106～110 図）

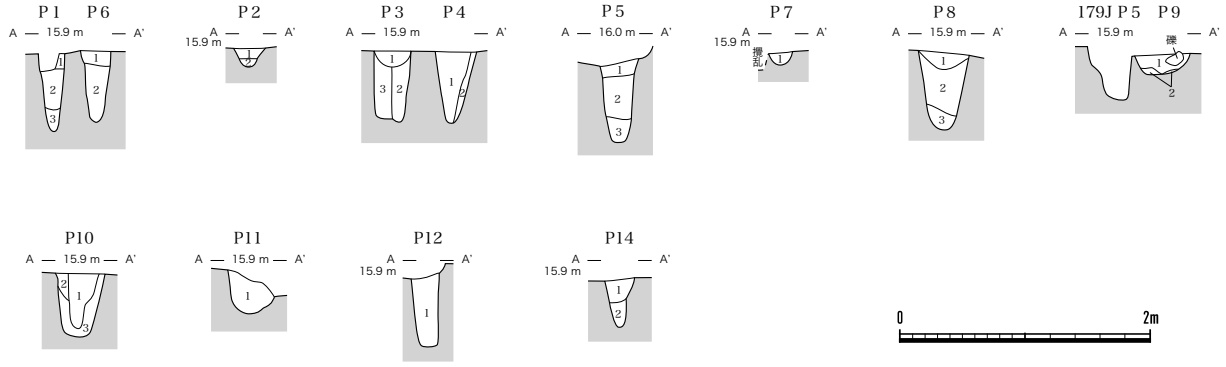
［位　　置］X=-19443,Y=-24154。

［住居構造］174J・179J・178J に切られる。**平面形**：不整円形。**規模**：不明。**主軸方位**：N－45°－W。**壁高**：6.7～12.8 ㎝を測り、30°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：耕作による攪乱が著しい。**柱穴**：P4・5・8・10・11 が主柱穴と思われる。



1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１㎜の焼土粒を微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
3 褐色土（10YR4/6）　径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。

第 106 図　181 号住居跡１（１／60）



P1
1 暗褐色土（10YR3/4）径 20 ～ 50 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。貼床か？
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P2
1 褐色土（10YR4/6）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
2 黄褐色土（10YR5/6）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 20 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

P3
1 褐色土（10YR4/4）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 褐色土（10YR4/6）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

P4
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

P5
1 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 2 ㎜のローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 2 ㎜のローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P6
1 褐色土（10YR4/4）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 15 ㎜のロームブロックを少量、径 10 ～ 30 ㎜の褐色土ブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P7
1 褐色土（10YR4/4）　P3 の 1 層と同等。

P8
1 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 2 ㎜のローム粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量、径 1 ～ 3 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P9
1 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 1 ～ 2 ㎜の焼土粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。

P10
1 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 1 ㎜の焼土粒を微量、径 1 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 鈍い黄色土（10YR4/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
3 褐色土（10YR4/4）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。

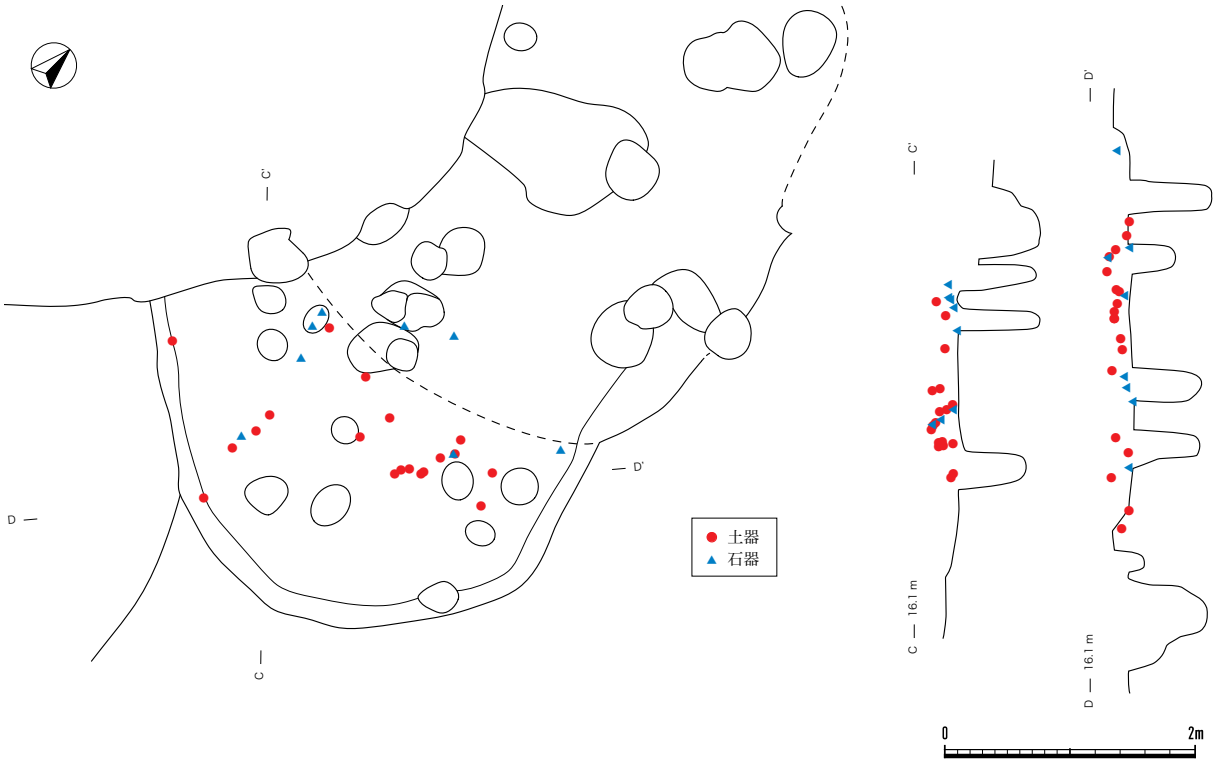
P11
1 径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 20 ㎜のロームブロックを多量、径 1 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P12
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

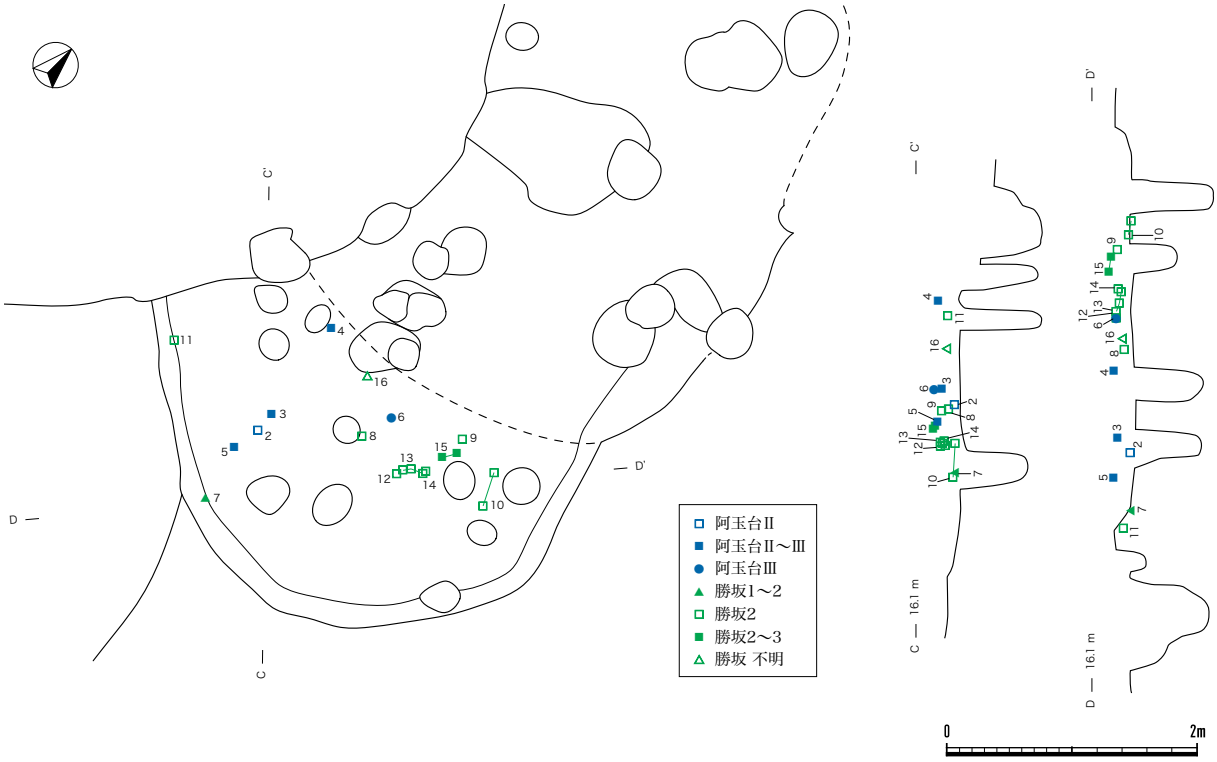
P13
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 15 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

P14
1 暗褐色土（10YR3/4）径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量、径 5 ～ 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。

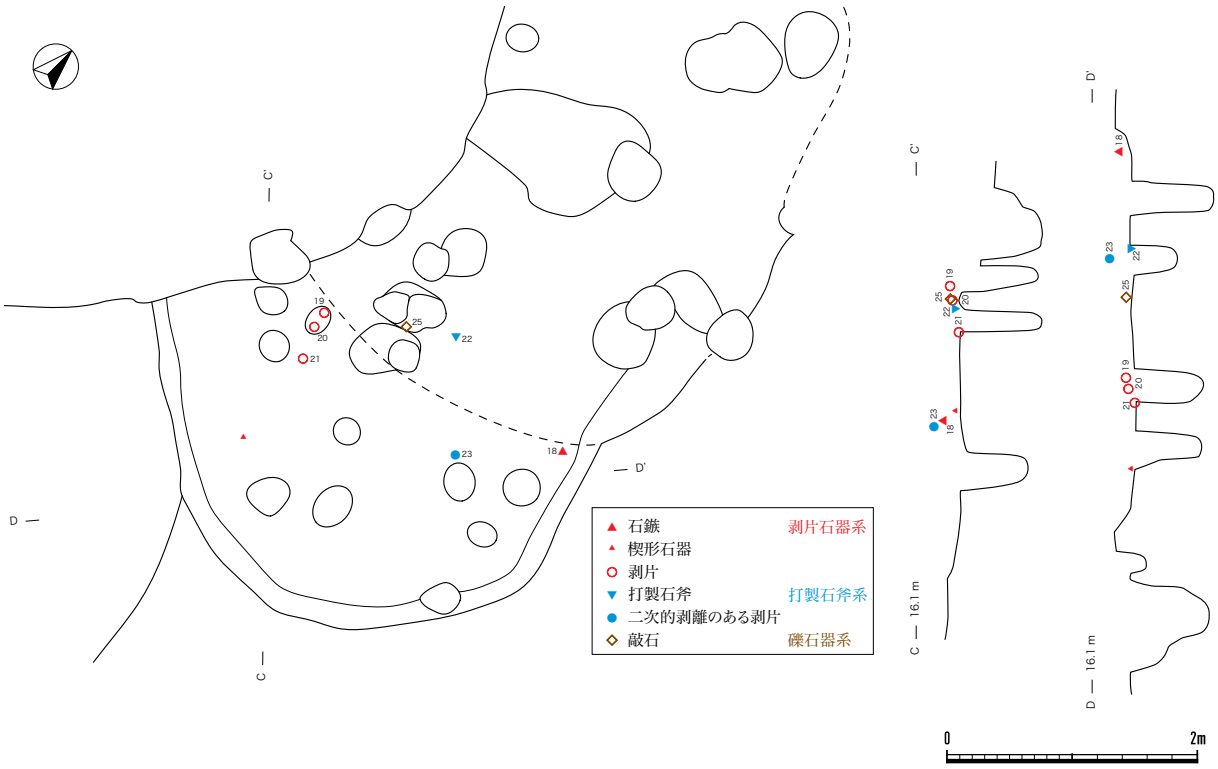
第 107 図　181 号住居跡２（1 ／ 60）



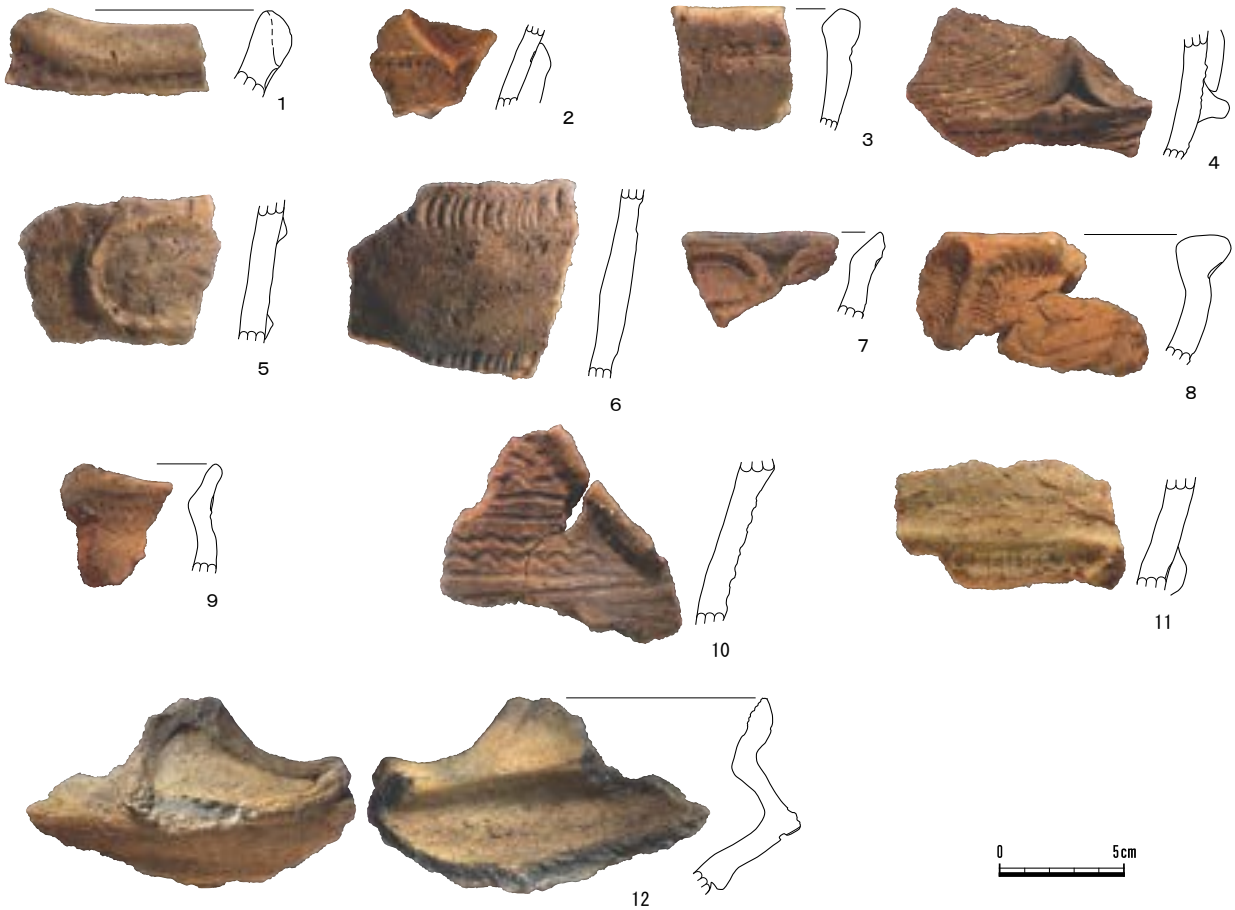
第 108 図　181 号住居跡遺物出土状態（1／60）



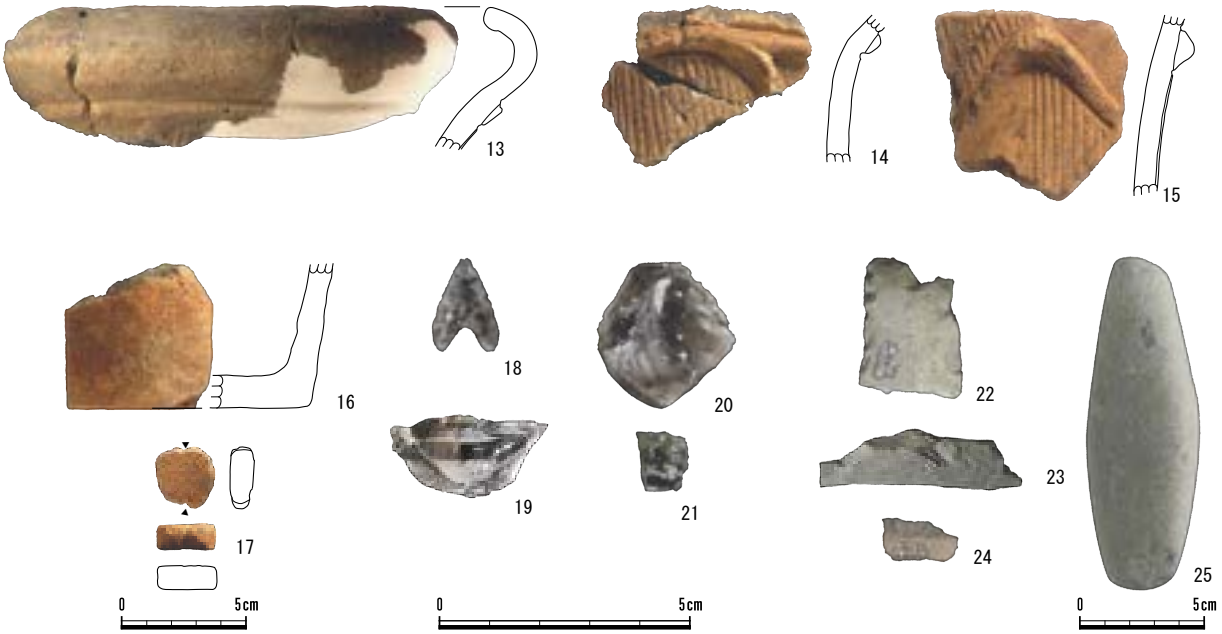
第 109 図　181 号住居跡土器出土状態（1／60）



第 110 図　181 号住居跡石器出土状態（1／60）



第 111 図　181 号住居跡出土遺物 1（1／3）



第 112 図　181 号住居跡出土遺物２（２／３・１／３）

［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 81 点であり、うち阿玉台式 28 点、勝坂式 37 点、加曽利Ｅ式３点である。出土した石器の総点数は９点、436.6g で、器種の内訳は、石鏃１点、楔形石器１点、二次的剥離のある剥片１点（打製石斧系石材）、剥片３点（剥片石器系石材）、調整剥片１点（打製石斧系石材）、打製石斧１点、敲石１点、石材の内訳は、黒曜石５点、ホルンフェルス２点、砂岩２点である。

［時　　期］阿玉台Ⅱ式期。

［備　　考］攪乱により住居の規模は明確ではないが、住居のほぼ中央に位置すると思われる P9 内に 34.5×21.8 ㎝の被熱範囲が認められる。181 号住居跡の地床炉の可能性がある。

遺　　物（第 111・112 図、第 35・36・43・49 表）

阿玉台式（１～６）、勝坂式（７～ 16）、土器片錘（17）、石鏃（18）、剥片（19 ～ 21）、打製石斧（22）、二次的剥離のある剥片（23）、調整剥片（24）、敲石（25）を図示した。

182 号住居跡

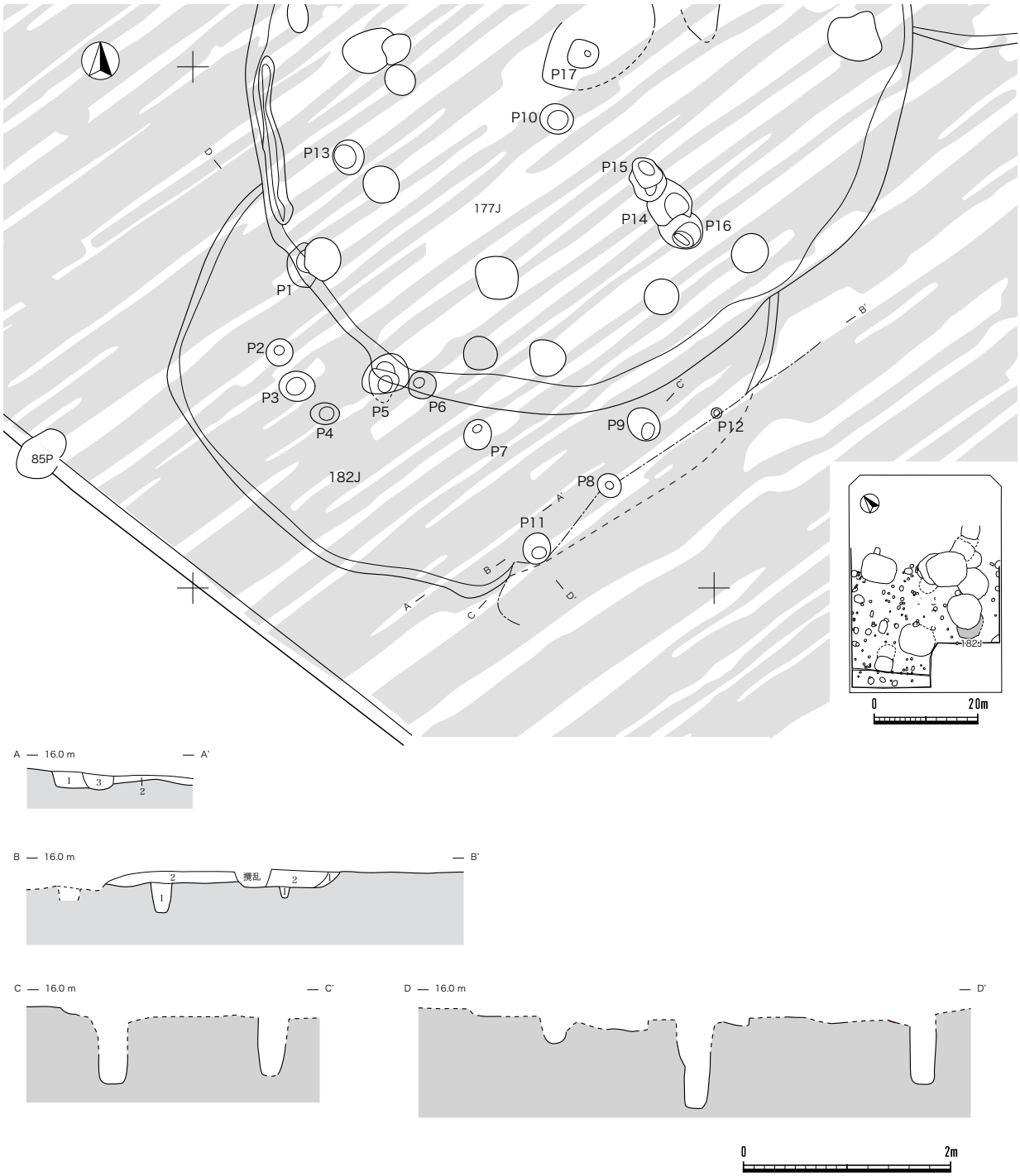
遺　　構（第 113 ～ 115 図）

［位　　置］X=-19454,Y=-24163。

［住居構造］177J に切られる。**平面形**：不整円形。**規模**：不明。**主軸方位**：N－E。**壁高**：8.0 ～ 13.6 ㎝を測り、60°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：耕作による攪乱が著しい。**柱穴**：P3・9・10・11・13・14・15・16 が主柱穴と思われる。

［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は４点であり、うち阿玉台式１点、曽利式２点、加曽利Ｅ式１点である。出土した石器の総点数は２点、259.4g で、器種の内訳は、打製石斧１点、敲石１点、石材の内訳は、ホルンフェルス２点である。



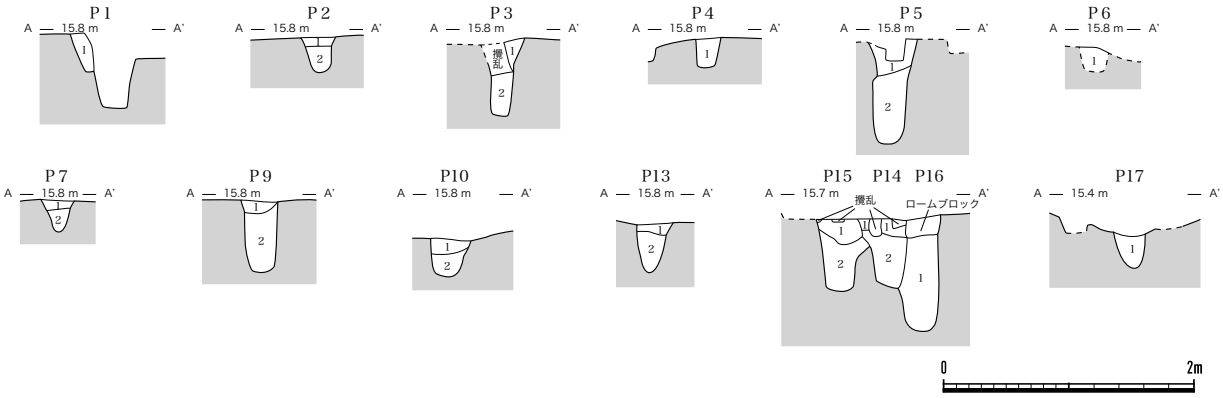
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径２㎜の焼土粒を少量、径２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR2/2）径２～５㎜のローム粒を多量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径２～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR3/1）径１～３㎜のローム粒を多量、径２㎜の焼土粒を少量、径２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第 113 図　182 号住居跡１（１／60）

［時　　期］加曽利Ｅ１～２式期。

遺　　物（第 116 図、第 37・49 表）

曽利式（１）、加曽利Ｅ式（２～７）打製石斧（８）、敲石（９）を図示した。



P1・P4・P6・P8・P12
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を少量、径15～20㎜のロームブロックを微量、径３㎜の炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強い。

P2・P3・P5・P7・P9・P10
1 黒褐色土（10YR2/2）径２～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を多量、径１㎜の焼土粒を微量、径１㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P13
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量、径１㎜の焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

P14・P15
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～７㎜のロームブロックを微量、径２～５㎜の焼土粒を少量、径２～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P16
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P17
1 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径３～５㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

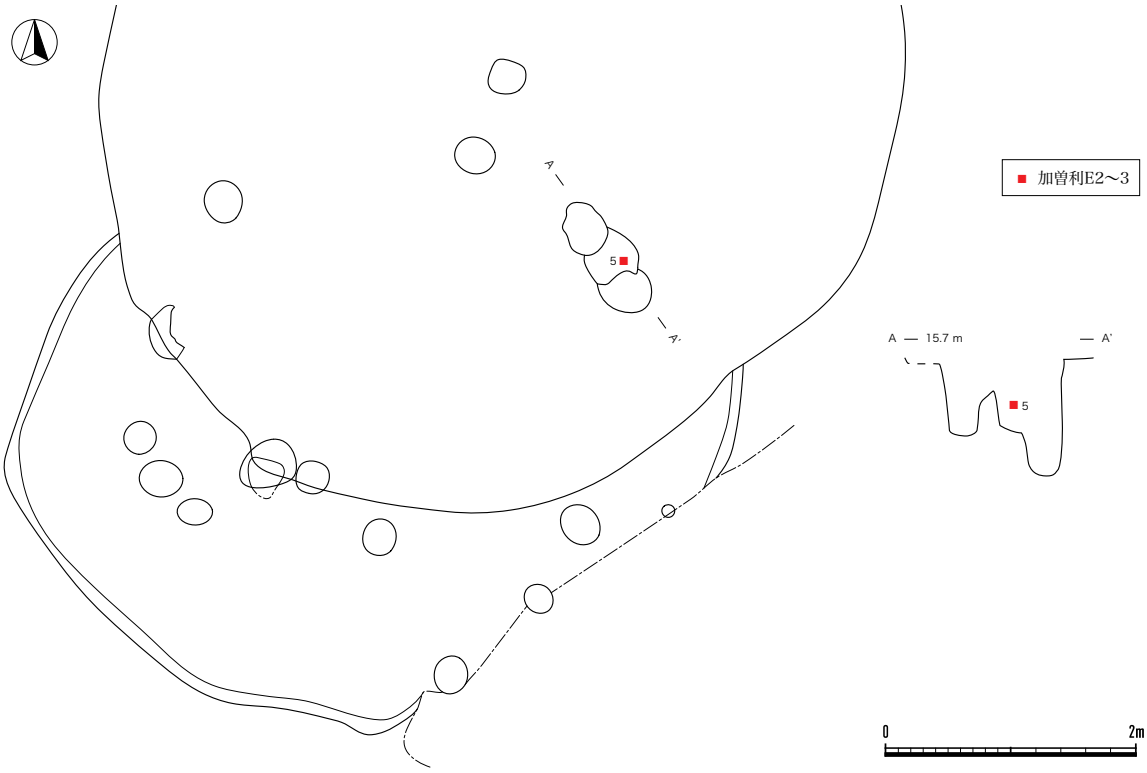
第 114 図　182 号住居跡２（１／60）

182 号住居跡全景（南より）

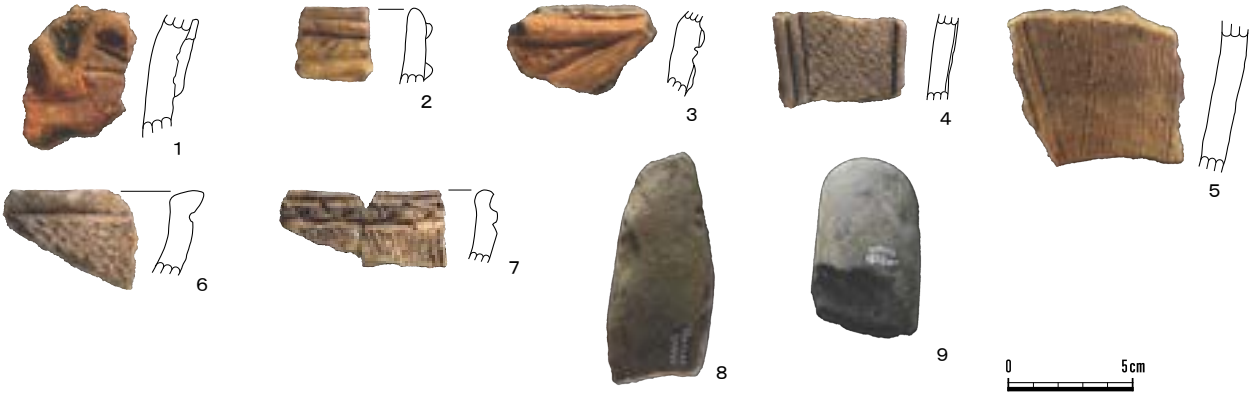
182 号住居跡全景（西より）

182 号住居跡Ａ・Ｂセクション（東より）

182 号住居跡 P14 ～ 16 全景（南より）



第 115 図　182 号住居跡土器出土状態（1／60）



第 116 図　182 号住居跡出土遺物（1／3）

（3）土坑

650 号土坑

遺　　構（第 117 図）

［位　　置］X=-19451,Y=-24184。

［構　　造］41P を切る。**平面形：**楕円形。**規模：**1.3×1.14m・深さ 37 ㎝前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は 60°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－48°－E。

［覆　　土］２層。

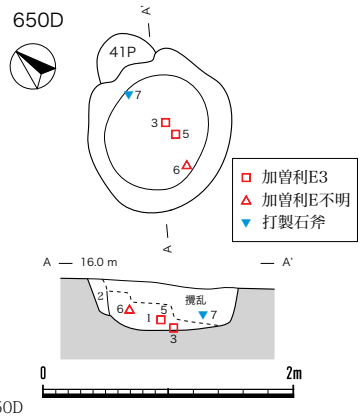
［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 13 点であり、うち加曽利 E 式６点である。石器は３点で、器種の内訳は剥片１点（剥片石器系石材）、砕片１点（打製石斧系石材）、

打製石斧１点、石材の内訳は、黒曜石１点、ホルンフェルス２点である。

［時　　期］加曽利Ｅ３式期。

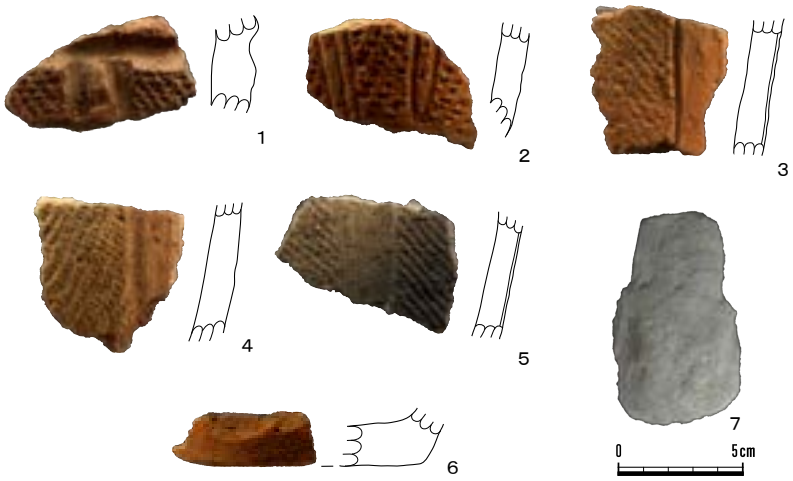
遺　　物（第 118 図、第 38・49 表）

加曽利Ｅ式（１～６）、打製石斧（７）を図示した。



650D
1 黒褐色土（10YR3/1） 径２～３㎜のローム粒を多量、径２㎜の黒色粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2） 径２㎜のローム粒を微量含む。しまり・粘性強い。

第 117 図　650 号土坑（１／60）



第 118 図　650 号土坑出土遺物（１／３）

650 号土坑全景（東より）

650 号土坑セクション（東より）

651 号土坑

遺　　構（第 119 図）

［位　　置］X=-19450,Y=-24182。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：1.19×0.86m・深さ 15 ㎝前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は 25°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－ 18°－W。

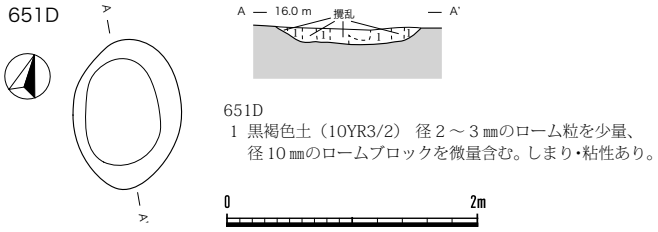
［覆　　土］１層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

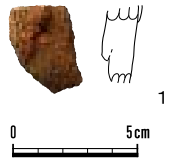
［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 120 図、第 38 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。



第 119 図　651 号土坑（１／60）



第 120 図　651 号土坑
出土遺物（１／３）

651 号土坑全景（南より）

651 号土坑セクション（南より）

652 号土坑

遺　　構（第 121 図）

［位　　置］X=-19452,Y=-24181。

［構　　造］ピットと重複するが前後関係は不明である。**平面形**：不整円形。**規模**：1.23×0.92 ㎝・深さ 15 ㎝前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は 25°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－18°－E。

［覆　　土］２層。

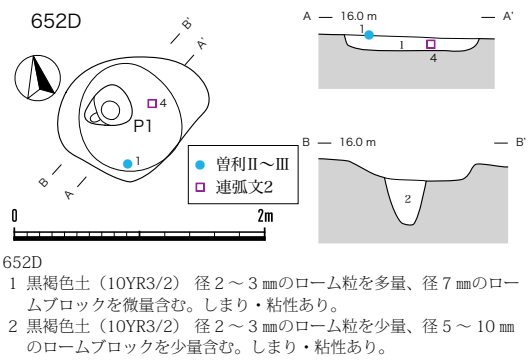
［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 12 点であり、うち曽利式４点、加曽利Ｅ式１点、連弧文７点である。

［時　　期］加曽利Ｅ２～３式期。

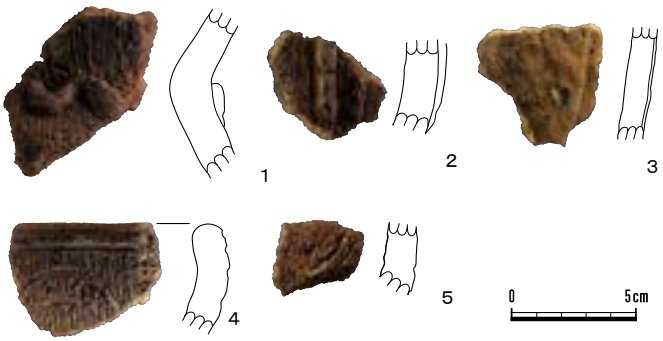
［備　　考］652D のやや西寄りに 37×31 ㎝、深さ 22 ㎝のピットが検出されている。

遺　　物（第 122 図、第 38 表）

曽利式（１）、加曽利Ｅ式（２～３）、連弧文（４～５）を図示した。



第 121 図　652 号土坑（１／60）



第 122 図　652 号土坑出土遺物（１／３）

652 号土坑全景（東より）

652 号土坑セクション（東より）

654 号土坑

遺　　構（第 123 図）

［位　　置］X=-19447,Y=-24151。

［構　　造］**平面形**：楕円形？**規模**：1.58× 不明 m・深さ 39 ㎝前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 60°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－ 46°－ E。

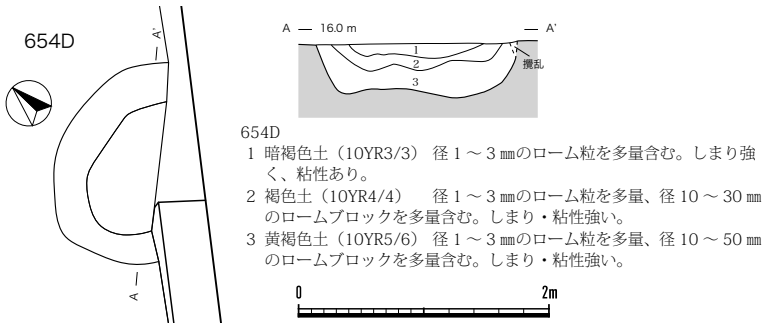
［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

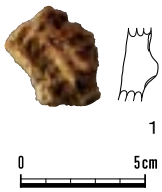
［時　　期］阿玉台式期。

遺　　物（第 124 図、第 39 表）

阿玉台式（１）を図示した。



第 123 図　654 号土坑（１／ 60）



第 124 図　654 号土坑出土遺物（１／３）

654 号土坑全景（西より）

654 号土坑セクション（西より）

655 号土坑

遺　　構（第 125 図）

［位　　置］X=-19448,Y=-24152。

［構　　造］**平面形：**楕円形？**規模：**1.05× 不明 m・深さ 19 ㎝前後を測る。坑底は平坦で、壁は 40°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－ 50°－ E。

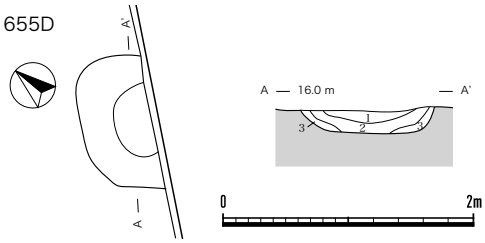
［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利 E 式期。

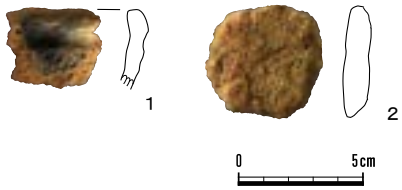
遺　　物（第 126 図、第 39・43 表）

加曽利 E 式（１）、土製円盤（２）を図示した。



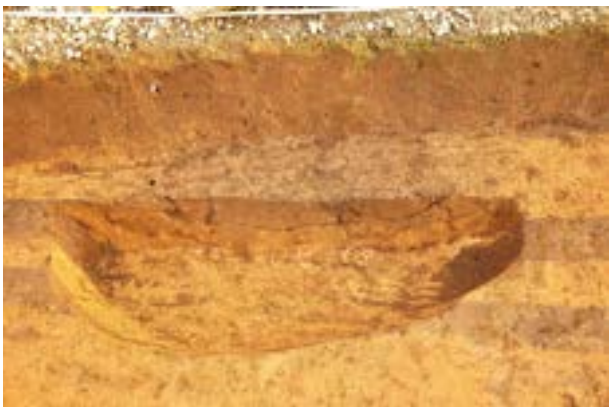
655D
1 暗褐色土（10YR3/3）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 30 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
3 黄褐色土（10YR5/6）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 50 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

第 125 図　655 号土坑（１／60）



第 126 図　655 号土坑出土遺物（１／３）

655 号土坑全景（西より）



655 号土坑セクション（西より）

656 号土坑

遺　　構（第 127 図）

［位　　置］X=-19446,Y=-24151.5。

［構　　造］**平面形：**隅丸長方形。**規模：**0.66×0.46m・深さ 19 ㎝前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は 50°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－ 31°－W。

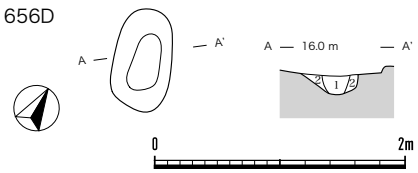
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利 E 式期。

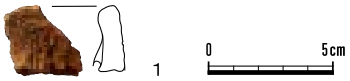
遺　　物（第 128 図、第 39 表）

加曽利 E 式（１）を図示した。



656D
1 褐色土（10YR4/4）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 30 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
2 黄褐色土（10YR5/6）　径 1 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 50 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

第 127 図　656 号土坑（１／60）



第 128 図　656 号土坑出土遺物（１／３）

656 号土坑全景（東より）

656 号土坑セクション（東より）

657 号土坑

遺　　構（第 129 図）

［位　　置］X=-19450.1,Y=-24154。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**不明 ×0.86m・深さ 21 ㎝前後を測る。坑底は平坦で、壁は 80°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－ 42°－W。

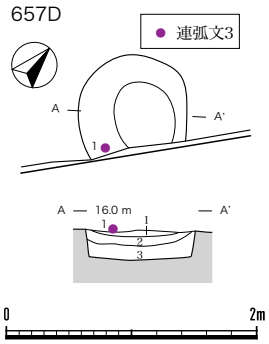
［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は４点であり、うち連弧文２点である。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

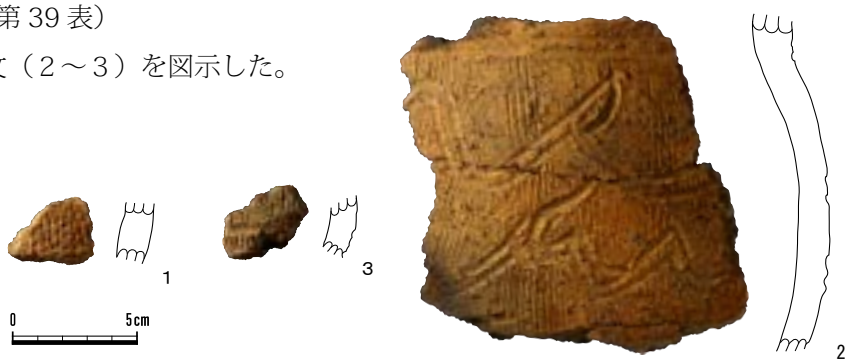
遺　　物（第 130 図、第 39 表）

加曽利Ｅ式（１）、連弧文（２～３）を図示した。



657D
1 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 30 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
3 黄褐色土（10YR5/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 50 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

第 129 図　657 号土坑（１／60）



第 130 図　657 号土坑出土遺物（１／３）

657 号土坑全景（東より）

657 号土坑セクション（東より）

659 号土坑

遺　　構（第 131 図）

［位　　置］X=-19430,Y=-24167。

［構　　造］566Y に切られる。**平面形**：隅丸長方形。**規模**：不明 ×1.07m・深さ 21 ㎝前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は 30°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－ 50°－ E。

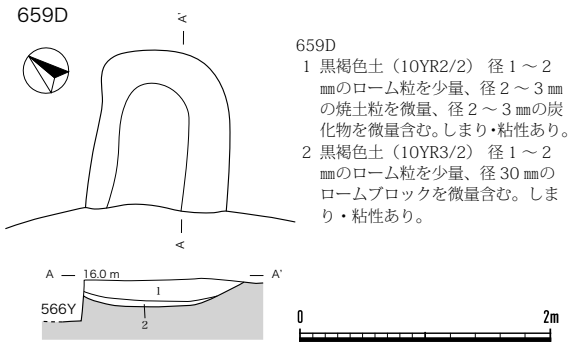
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。石器は黒曜石製の楔形石器 1 点である。

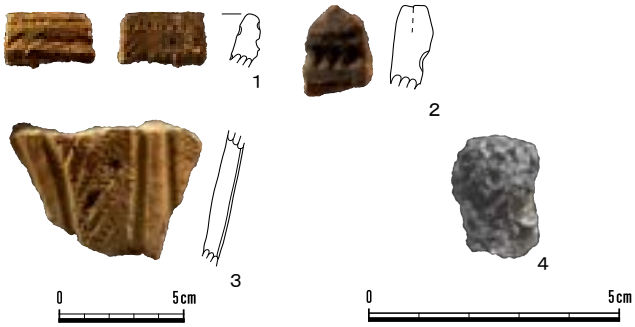
［時　　期］中期。

遺　　物（第 132 図、第 39・49 表）

阿玉台式（１～２）、加曽利Ｅ式（３）、楔形石器（４）を図示した。



第 131 図　659 号土坑（１／60）



第 132 図　659 号土坑出土遺物（１／３・２／３）

659 号土坑全景（東より）

659 号土坑セクション（西より）

660 号土坑

遺　　構（第 133 図）

［位　　置］X=-19431,Y=-24173。

［構　　造］669D を切っている。**平面形**：円形。**規模**：1.25×1.16m・深さ 31 ㎝前後を測る。坑底は平坦で、壁は 70°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－ 37°－ E。

［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 1 点であり、うち加曽利Ｅ式 1 点である。石器は閃緑岩製の石皿 1 点である。

［時　　期］中期。

遺　　物（第 135 図、第 39・49 表）

阿玉台式（１）、勝坂式（２）、加曽利Ｅ式（３～４）、石皿（５）を図示した。

669 号土坑

遺　　構（第 133 図）

［位　　置］X=-19431.5,Y=-24173。

［構　　造］660D に切られる。**平面形：**楕円形。**規模:**0.88×0.41m･深さ 16 ㎝前後を測る。坑底は凹凸があり、壁は 70°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 54°－Ｅ。

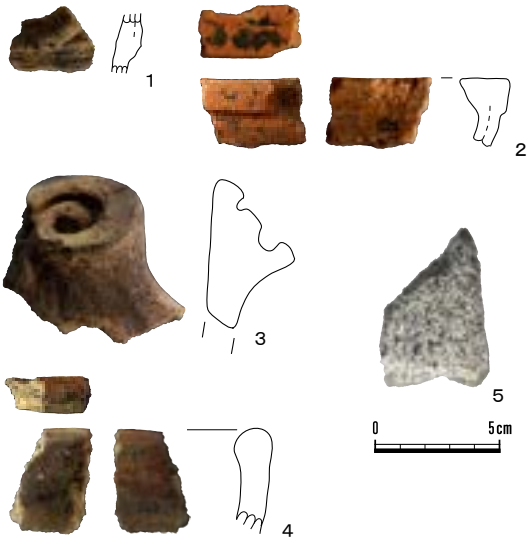
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

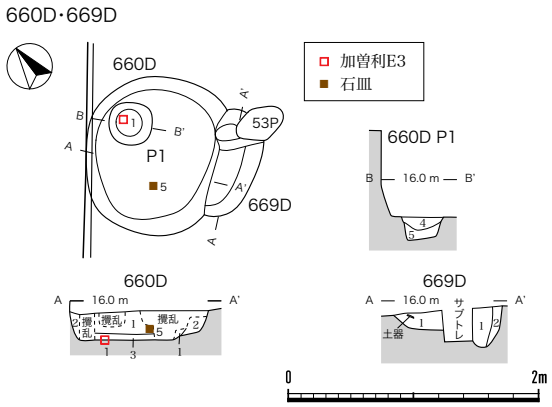
［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 134 図、第 39 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。



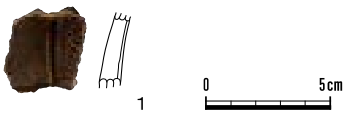
第 134 図　660 号土坑出土遺物（１／３）



660D
1 黒褐色土（10YR3/1）　径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）　径１～２㎜のローム粒を少量含む。しまり･粘性あり。
3 黒褐色土（10YR2/2）　径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量含む。しまり・粘性あり。
4 黒褐色土（5YR2/1）　径２～3mm のローム粒を多量、径２～3mm の焼土粒を少量、径２～3mm の炭化物を微量含む。しまりあり、粘性強い。
5 黒褐色土（5YR2/1）　径２～3mm のローム粒を多量、径５～10mm のロームブロックを少量含む。しまりあり、粘性強い。

669D
1 黒褐色土（10YR2/2）径１～２㎜のローム粒を多量、径５㎜のロームブロックを微量、径３㎜の焼土粒を少量、径１～２㎜の炭化物を少量含む。しまり･粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20 ㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

第 133 図　660・669 号土坑（１／60）



第 135 図　669 号土坑出土遺物（１／３）

660 号土坑全景（南より）

660 号土坑セクション（南より）

660 号土坑 P1 セクション（南より）

669 号土坑セクション（西より）

665 号土坑

遺　　構（第 136 図）

［位　　置］X=-19437,Y=-24165。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**1.56×1.17m・深さ 20 ㎝前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は 60°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－38°－W。

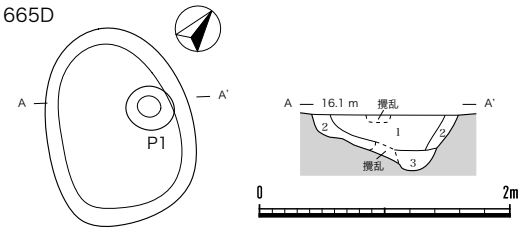
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は１点であり、うち加曽利Ｅ式１点である。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

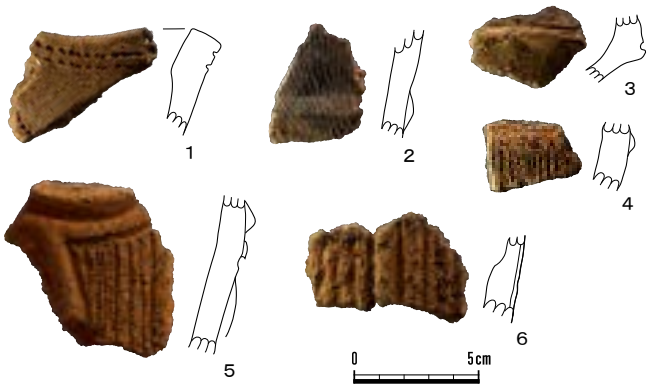
遺　　物（第 137 図、第 39 表）

阿玉台式（１）、勝坂式（２）、加曽利Ｅ式（３～６）を図示した。



665D
1 黒褐色土（10YR3/1）　径１～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径３㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）　径１～２㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR2/2）　径１～２㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

第 136 図　665 号土坑（１／60）



第 137 図　665 号土坑出土遺物（１／３）

665 号土坑全景（南より）

665 号土坑セクション（東より）

667 号土坑

遺　　構（第 138 図）

［位　　置］X=-19447.5,Y=-24158.5。

［構　　造］178J を切る。**平面形**：不整形。**規模**：0.79×0.67m・深さ 56 ㎝前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は 80°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－29°－W。

［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は３点であり、うち加曽利Ｅ式１点である。

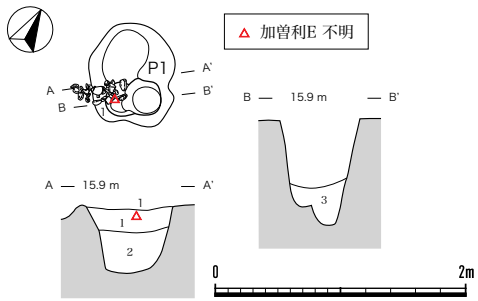
［時　　期］加曽利Ｅ式期。

［備　　考］667D の東側に不整形のピットがあり、最深部の深さは 80.5 ㎝を測る。また、土坑内には集石が確認される。

遺　　物（第 139 図、第 39 表）

加曽利Ｅ式（１～２）を図示した。

667D



667D
1 黒褐色土（10YR3/1）　径１～３㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを微量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 黒色土（10YR2/1）　径２～５㎜のローム粒を多量、径 10 ㎜のロームブロックを微量、径２～３㎜の焼土粒を多量、径２～３㎜の炭化粒を多量含む。しまり弱く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）　径１～３㎜のローム粒・径 20～30 ㎜のロームブロックを多量、径３～５㎜の炭化物を少量含む。しまり弱く・粘性あり。

第 138 図　667 号土坑（１／60）

第 139 図　667 号土坑出土遺物（１／３）

667 号土坑全景（西より）

667 号土坑セクション（西より）

667 号土坑 P1 セクション（西より）

667 号土坑遺物出土状態（西より）

668 号土坑

遺　　構（第 140 図）

［位　　置］X=-19448,Y=-24157。

［構　　造］178J の床下から検出される。**平面形**：不整円形。**規模**：1.47×1.18m・深さ 15 ㎝前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 50°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－53°－E。

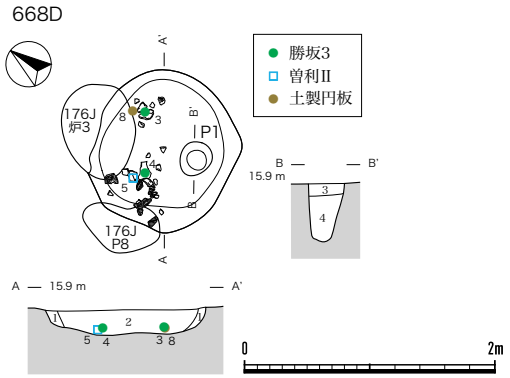
［覆　　土］４層。

［遺　　物］覆土中から比較的多く出土した。出土位置が判明している土器・土製品は 17 点であり、うち阿玉台式１点、勝坂式３点、曽利式６点、加曽利Ｅ式３点、土製円盤１点である。

［時　　期］勝坂３式期。

遺　　物（第 141 図、第 39・43 表）

勝坂式（１～４）、曽利式（５）、加曽利Ｅ式（６）、連弧文（７）、土製円盤（８）を図示する。



668D
1 褐色土（10YR4/4）　径１～２㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）　径１～２㎜のローム粒を多量、径 20～30 ㎜のロームブロックを少量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR3/1）　径２～３㎜のローム粒を多量、径 20 ㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の焼土粒・炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
4 黒褐色土（10YR3/1）　径１～２㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒・炭化物を微量含む。しまりあり・粘性強い。

第 140 図　668 号土坑（１／60）

第 141 図　668 号土坑出土遺物（１／３）

668 号土坑全景（東より）

668 号土坑セクション（東より）

668 号土坑 P1 全景（東より）

668 号土坑遺物出土状態（東より）

670 号土坑

遺　　構（第 142 図）

［位　　置］X=-19432,Y=-24173。

［構　　造］671D、50P を切り、566Y に切られる。攪乱による破壊が著しく構造が明確ではない。**平面形**：不明。**規模**：不明 × 不明 m・深さ 23 ㎝前後を測る。**長軸方位**：N－ 58 °－W。

［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 143 図、第 39 表）

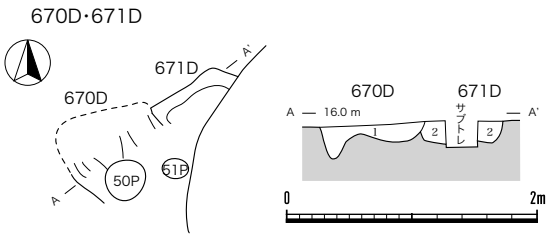
加曽利Ｅ式（１）を図示した。

671 号土坑

遺　　構（第 142 図）

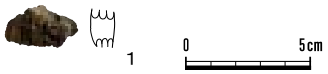
［位　　置］X=-19431.5,Y=-24172.5。

［構　　造］670D、566Y に切られる。**平面形**：隅丸長方形。**規模**：0.71× 不明 m・深さ 14 ㎝前後

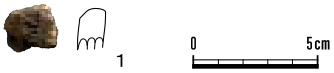


670D・671D
1 黒褐色土（10YR3/1） 径１～３㎜のローム粒を少量、径５～20㎜のロームブロックを微量、径３～５㎜の焼土粒を少量、径３～５㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2） 径１～２㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径１～２㎜の炭化物を少量含む。しまり強く、粘性あり。

第 142 図　670・671 号土坑（１／60）



第 143 図　670 号土坑出土遺物（１／３）



第 144 図　671 号土坑出土遺物（１／３）

を測る。坑底はやや起伏があり、壁は 60°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－57°－E。

［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 144 図、第 40 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。

670 号土坑（左）・671 号土坑（右）全景（東より）

670 号土坑セクション（東より）

671 号土坑セクション（東より）

672 号土坑

遺　　構（第 145 図）

［位　　置］X=-19435,Y=-24176。

［構　　造］ピットと重複するが、前後関係は不明である。**平面形**：楕円形。**規模**：2.08×1.47m・深さ 23 ㎝前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 40°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－24°－W。

［覆　　土］２層。

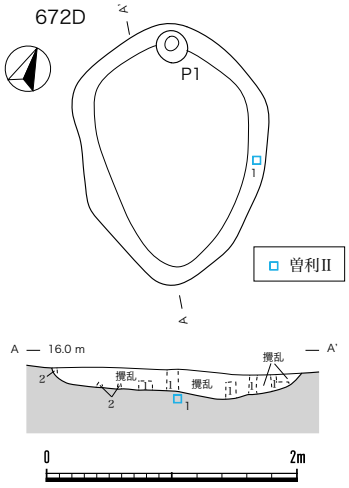
［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は３点であり、うち曽利式１点である。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

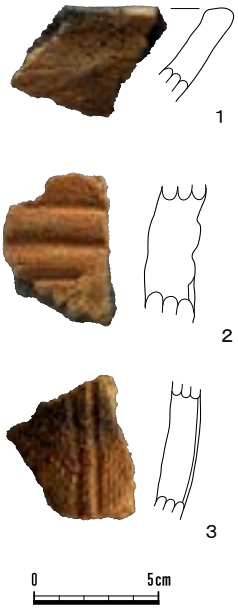
［備　　考］672D 北側に 25.4×24.5 ㎝深さ 32 ㎝前後のピットが位置する。

遺　　物（第 146 図、第 40 表）

加曽利Ｅ式（１～３）を図示した。



672D
1 暗褐色土（10YR3/3）　径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまりあり。粘性強い。
P1
1 黒褐色土（10YR3/2）　径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。



第 146 図　672 号土坑出土遺物（１／３）

第 145 図　672 号土坑（１／60）

672 号土坑全景（北より）

672 号土坑セクション（北より）

673 号土坑

遺　　構（第 147 図）

［位　　置］X=-19441,Y=-24177。

［構　　造］P81 を切り、677D に切られる。**平面形：**不整円形。**規模：**0.7×0.63m・深さ 26 ㎝前後を測る。坑底は僅かに凹凸があり、壁は 70°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－59°－W。

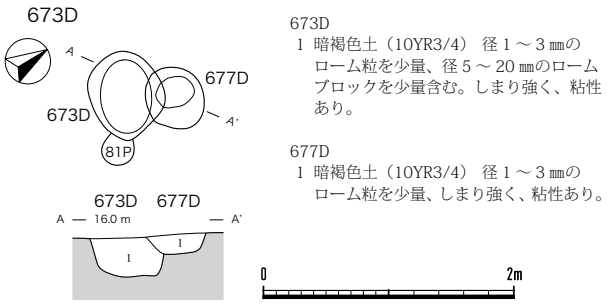
［覆　　土］１層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

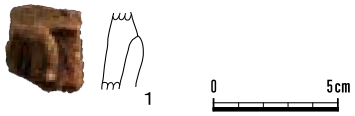
［時　　期］中期。

遺　　物（第 148 図、第 40 表）

阿玉台式（１）を図示した。



第 147 図　673 号土坑（１／60）



第 148 図　673 号土坑出土遺物（１／３）

673 号土坑（左）・677 号土坑（右）全景（東より）

673 号土坑（左）・677 号土坑（右）
セクション（東より）

674 号土坑

遺　　構（第 149 図）

［位　　置］X=-19442,Y=-24174。

［構　　造］693D に切られる。**平面形：**隅丸長方形。**規模：**0.9×0.54m・深さ 18 ㎝前後を測る。坑

底は西側が大きく隆起し、壁は 60°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－22°－W。

［覆　　土］ 1 層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利 E 式期。

遺　　物（第 150 図、第 40 表）

連弧文（1）を図示した。

693 号土坑

遺　　構（第 149 図）

［位　　置］X=-19447,Y=-24175。

［構　　造］竪穴状遺構で、674D を切る。**平面形**：隅丸長方形。**規模**：2.53×1.48m・深さ 22 ㎝前後を測る。坑底は平坦で壁は 50°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－55°－E。

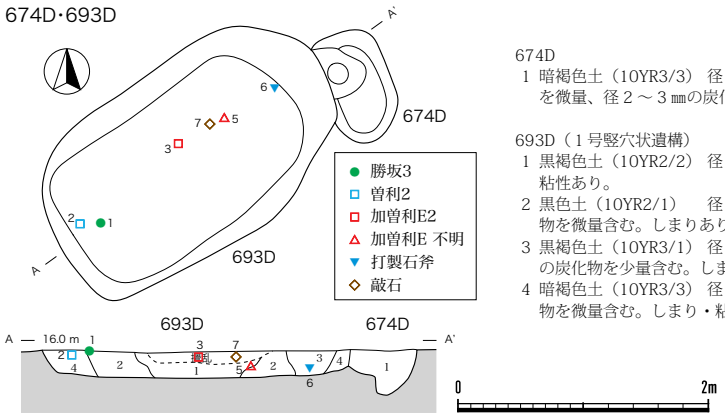
［覆　　土］ 4 層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 12 点であり、うち勝坂式 1 点、曽利式 1 点、加曽利 E 式 4 点である。石器は 3 点で、器種の内訳は打製石斧 1 点、敲石 2 点、石材の内訳は、ホルンフェルス 1 点、砂岩 2 点である。

［時　　期］中期。

遺　　物（第 151・152 図、第 41・49 表）

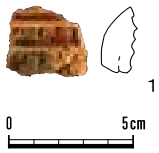
勝坂式（1）、曽利式（2）、加曽利 E 式（3～5）、打製石斧（7）、敲石（6、8）を図示する。



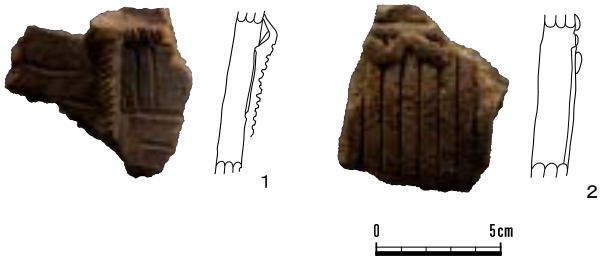
674D
1 暗褐色土（10YR3/3）　径 1～2 ㎜のローム粒を多量、下層に径 5～20 ㎜のロームブロックを微量、径 2～3 ㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。

693D（1 号竪穴状遺構）
1 黒褐色土（10YR2/2）　径 1～3 ㎜のローム粒を多量、径 2～3 ㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒色土（10YR2/1）　径 1 ㎜のローム粒を多量、径 3 ㎜の焼土粒を微量、径 2～3 ㎜の炭化物を微量含む。しまりあり。粘性強い。
3 黒褐色土（10YR3/1）　径 1～2 ㎜のローム粒を多量、径 2～3 ㎜の焼土粒少量、径 2～3 ㎜の炭化物を少量含む。しまり・粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/3）　径 2～3 ㎜のローム粒を多量、径 2 ㎜の焼土粒を微量、径 2 ㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。

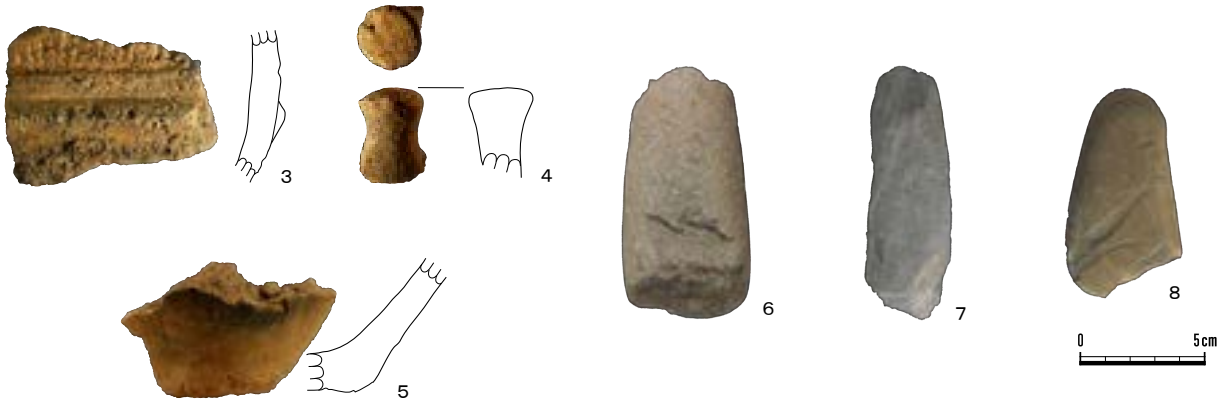
第 149 図　674・693 号土坑（1／60）



第 150 図　674 号土坑出土遺物（1／3）



第 151 図　693 号土坑出土遺物 1（1／3）



第 152 図　693 号土坑出土遺物２（１／３）

693 号土坑（左）・674 号土坑（右）全景（東より）

693 号土坑（左）・674 号土坑（右）
セクション（東より）

675 号土坑

遺　　構（第 153 図）

［位　　置］X=-19439,Y=-24176。

［構　　造］**平面形：**隅丸長方形。**規模：**1.14×0.52m・深さ 19 ㎝前後を測る。坑底は凹凸があり、壁は 80°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 52°－Ｅ。

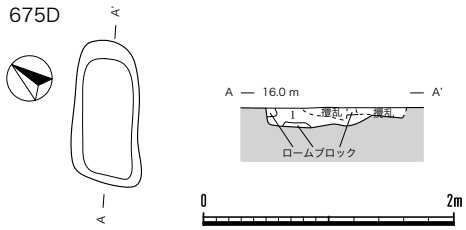
［覆　　土］１層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ２式期。

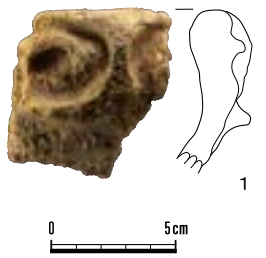
遺　　物（第 154 図、第 40 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。



675D
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。
しまり・粘性あり。

第 153 図　675 号土坑（１／60）



第 154 図　675 号土坑
出土遺物（１／３）

675 号土坑全景（東より）

675 号土坑セクション（東より）

676 号土坑

遺　　構（第 155 図）

［位　　置］X=-19441,Y=-24178。

［構　　造］**平面形：**円形。**規模：**1.19×1.08m・深さ 14 ㎝前後を測る。坑底は平坦で、壁は 40°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－7°－E。

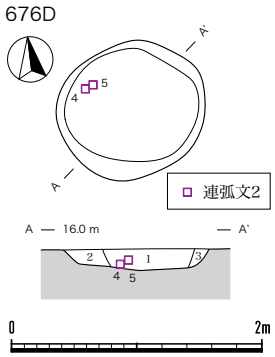
［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は４点であり、うち勝坂式１点、連弧文２点である。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 156 図、第 40 表）

勝坂式（１）、加曽利Ｅ式（２）、連弧文（３～５）を図示した。



676D
1 黒褐色土（10YR3/1）　径１～３㎜のローム粒を多量、径３～５㎜の焼土粒少量、径２～５㎜の炭化物を少量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）　径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒微量、径２～３㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）　径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。

第 155 図　676 号土坑（１／60）

第 156 図　676 号土坑出土遺物（１／３）

676 号土坑全景（東より）

676 号土坑セクション（東より）

678 号土坑

遺　　構（第 157 図）

［位　　置］X=-19440,Y=-24180。

［構　　造］**平面形**：不整形。**規模**：1.3×0.93m・深さ 15 ㎝前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 40°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－22°－E。

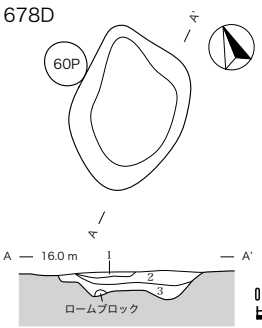
［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ３式期。

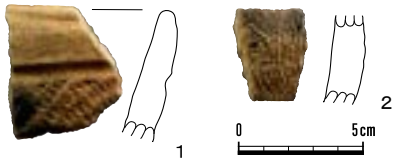
遺　　物（第 158 図、第 40 表）

加曽利Ｅ式（１～２）を図示した。



678D
1 黒褐色土（10YR3/1）径１～２㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径２～３㎜のローム粒を多量、径３㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～２㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。

第 157 図　678 号土坑（１／60）



第 158 図　678 号土坑出土遺物（１／３）

678 号土坑セクション（東より）

680 号土坑（右）・681 号土坑（左）全景（南より）

680 号土坑

遺　　構（第 159 図）

［位　　置］X=-19442,Y=-24181.5。

［構　　造］681D を切る。**平面形**：不整円形。**規模**：0.7×0.64m・深さ 39 ㎝前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は 70°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－26°－E。

［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

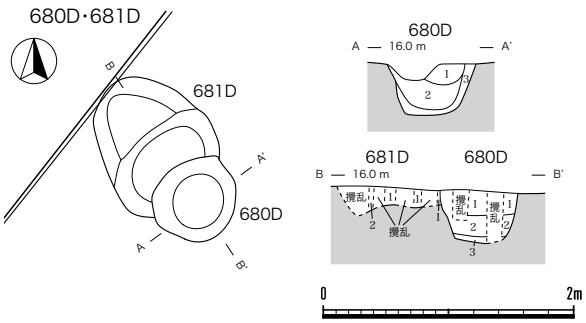
［時　　期］中期。

遺　　物（第 160 図、第 40 表）

阿玉台式（１）、加曽利Ｅ式（２）を図示した。

681 号土坑

遺　　構（第 159 図）



680D
1 黒色土（10YR2/1）　径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～３㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒色土（10YR2/1）　径１～３㎜のローム粒を多量、径 10～20 ㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
3 褐色土（10YR3/1）　径１～２㎜のローム粒を多量、径 30 ㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。

681D
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～２㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。

第 159 図　680・681 号土坑（１／60）

［位　　置］X=-19441,Y=-24182。

［構　　造］680D に切られる。**平面形**：不整楕円形。**規模**：不明 ×0.92m・深さ 12 ㎝前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 70°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－34°－W。

［覆　　土］２層。

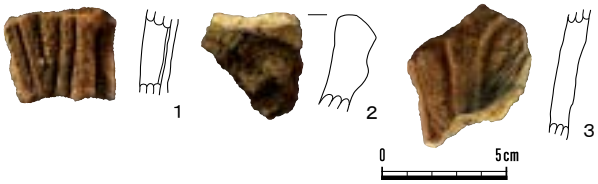
［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 161 図、第 40 表）

勝坂式（１）、加曽利Ｅ式（２・3）を図示した。

第 160 図　680 号土坑出土遺物（１／３）



第 161 図　681 号土坑出土遺物（１／３）

680 号土坑セクション（南より）

681 号土坑セクション（南より）

682 号土坑

遺　　構（第 162 図）

［位　　置］X=-19446,Y=-24160。

［構　　造］177J に切られる。**平面形**：円形。**規模**：1.07×1.02m・深さ 21 ㎝前後を測る。坑底は平坦で、壁は 50°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－54°－E。

［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から比較的多く出土した。出土位置が判明している土器・土製品は 11 点であり、うち阿玉台式１点、勝坂式４点、曽利式２点、加曽利Ｅ式１点、土製円盤１点である。石器は凝灰岩製の打製石斧１点である。

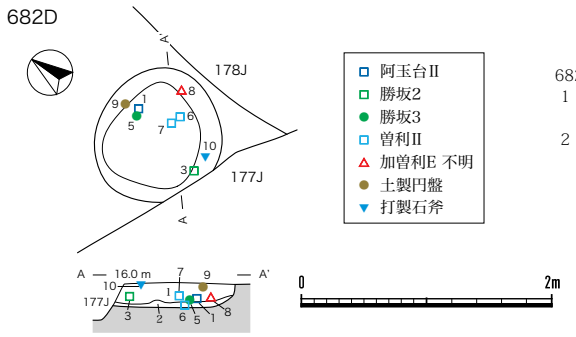
［時　　期］中期。

遺　　物（第 163 図、第 40・43・49 表）

阿玉台式（１）、勝坂式（２～５）、曽利式（６・７）、加曽利Ｅ式（８）、土製円盤（９）、打製石斧（10）を図示した。

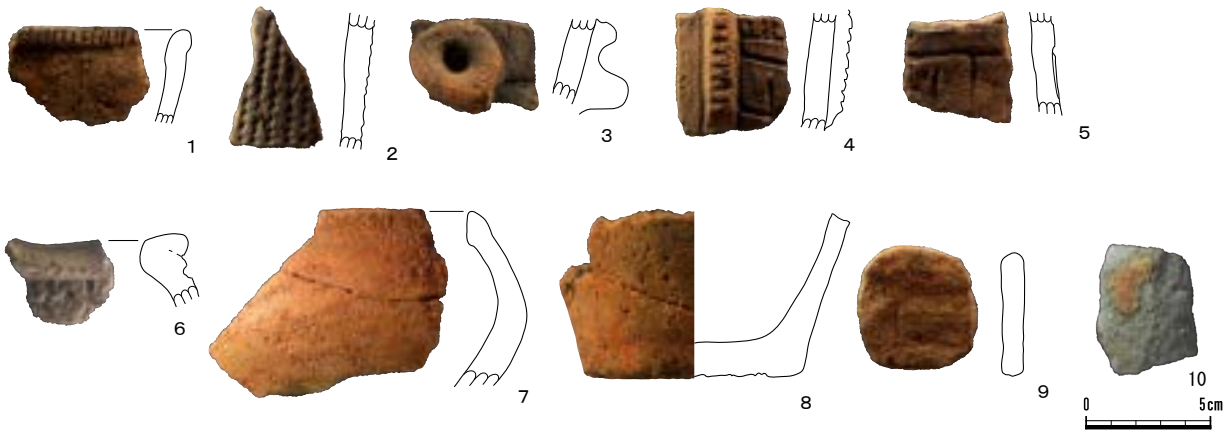
682 号土坑全景（西より）

682 号土坑セクション（西より）



682D
1 暗褐色土（10YR3/3） 径１～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒・径５㎜の炭化物を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4） 径１～３㎜のローム粒・径５～15㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

第 162 図　682 号土坑（１／60）



第 163 図　682 号土坑出土遺物（１／３）

684 号土坑

遺　　構（第 164 図）

［位　　置］X=-19445,Y=-24165。

［構　　造］**平面形：**円形。**規模：**1.04×0.95m・深さ 16 ㎝前後を測る。坑底は僅かに凹凸があり、壁は 40°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－6°－W。

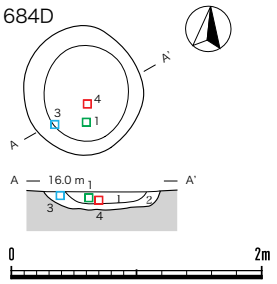
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 10 点であり、うち阿玉台式１点、勝坂式１点、曽利式１点、加曽利Ｅ式４点である。石器は緑泥片岩製の片岩製石器１点である。

［時　　期］中期。

遺　　物（第 165 図、第 40 表）

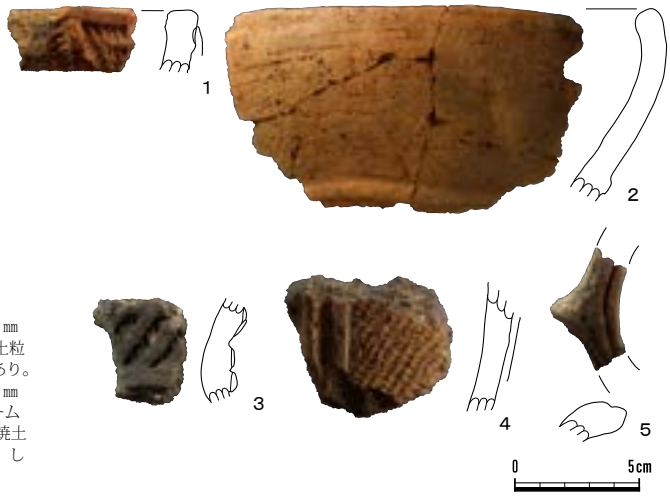
勝坂式（１）、曽利式（２～３）、加曽利Ｅ式（４～５）を図示した。



□ 勝坂2
□ 曽利II
□ 加曽利E2

684D
1 暗褐色土（10YR3/3）　径１～３㎜のローム粒を少量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）　径１～３㎜のローム粒・径５～15㎜のロームブロックを多量、径１～２㎜の焼土粒・径１㎜の炭化物を微量含む。しまり強く、粘性あり。

第 164 図　684 号土坑（１／60）



第 165 図　684 号土坑出土遺物（１／３）

684 号土坑全景（西より）

684 号土坑セクション（西より）

686 号土坑

遺　　構（第 166 図）

［位　　置］X=-19448.5,Y=-24168。

［構　　造］東側が一部攪乱により破壊されている。**平面形**：不整円形。**規模**：0.81×0.77m・深さ 29 ㎝前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 80°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－２°－Ｅ。

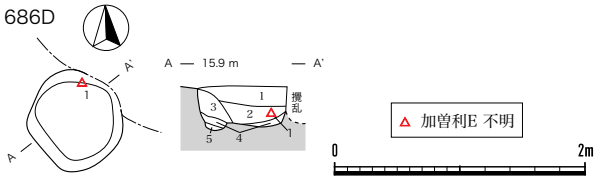
［覆　　土］５層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は２点であり、うち加曽利Ｅ式１点である。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 167 図、第 40 表）

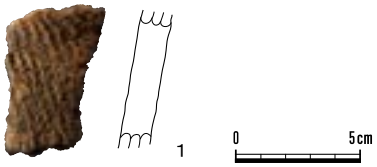
加曽利Ｅ式（１）を図示した。



△ 加曽利E 不明

686D
1 暗褐色土（10YR3/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）　径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
4 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒・径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
5 褐色土（10YR4/6）　径１～３㎜のローム粒・径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

第 166 図　686 号土坑（１／60）



第 167 図　686 号土坑出土遺物（１／３）

686 号土坑全景（東より）

686 号土坑セクション（東より）

687 号土坑

遺　　構（第 168 図）

［位　　置］X=-19448,Y=-24165.5。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**0.75×0.58m・深さ 10 ㎝前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は 40°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 51°－Ｅ。

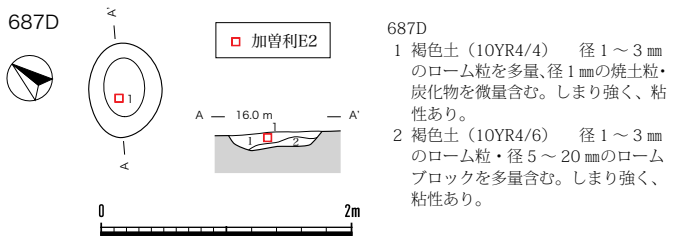
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は１点であり、うち加曽利Ｅ式１点である。

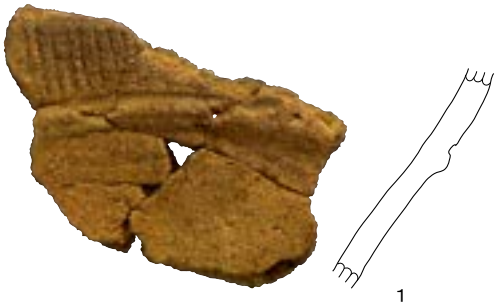
［時　　期］加曽利Ｅ２式期。

遺　　物（第 169 図、第 41 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。



第 168 図　687 号土坑（１／60）



第 169 図　687 号土坑出土遺物（１／３）

687 号土坑全景（東より）

687 号土坑セクション（東より）

690 号土坑

遺　　構（第 170 図）

［位　　置］X=-19446,Y=-24170。

［構　　造］567Y、2 号炉跡に切られる。**平面形**：不整楕円形。**規模**：1.22×0.92m・深さ 37 ㎝前後を測る。坑底は平坦で、壁は 60°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－61°－W。

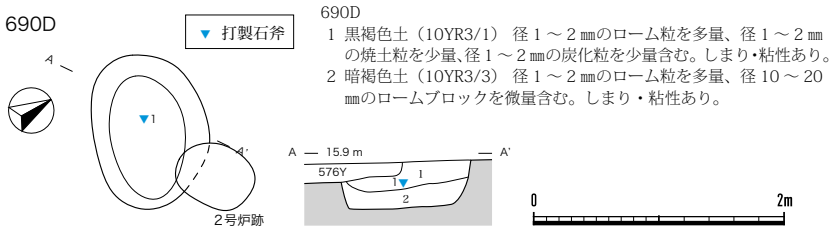
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］縄文時代。

遺　　物（第 171 図、第 49 表）

打製石斧（１）を図示した。



第 170 図　690 号土坑（１／60）

第 171 図　690 号土坑出土遺物（１／３）

690 号土坑全景（西より）

690 号土坑セクション（東より）

691 号土坑

遺　　構（第 172 図）

［位　　置］X=-19452,Y=-24176。

［構　　造］**平面形**：不整楕円形。**規模**：0.84×0.52m・深さ 15 ㎝前後を測る。坑底は平坦で、壁は 60°前後の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－54°－E。

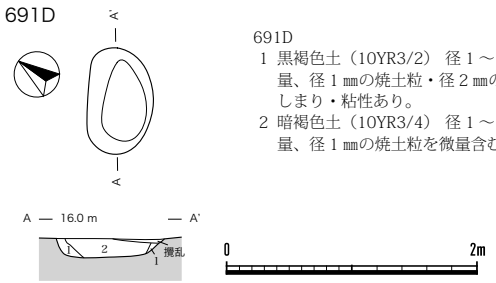
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。石器は緑泥片岩製の片岩製石器１点である。

［時　　期］縄文時代中期。

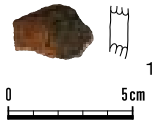
遺　　物（第 173 図、第 38 表）

勝坂式（１）を図示した。



691D
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を少量、径１㎜の焼土粒・径２㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～２㎜のローム粒を少量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第 172 図　691 号土坑（１／60）



第 173 図　691 号土坑出土遺物（１／３）

691 号土坑全景（東より）

691 号土坑セクション（西より）

（４）炉跡

１号炉跡

遺　　構（第 174 図）

［位　　置］X=-19433,Y=-24172.5。

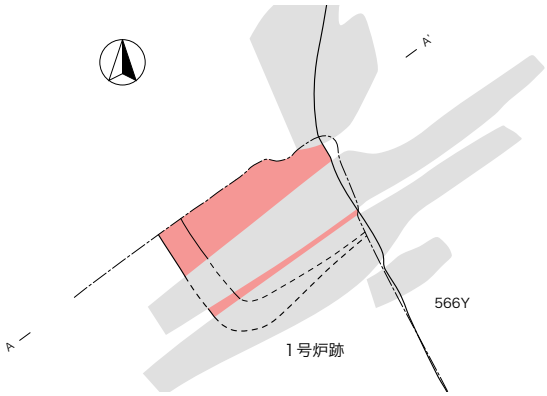
［構　　造］566Y に切られる。また、大部分が攪乱であるため規模などは不明である。**平面形**：不明。**規模**：不明。**深さ**：16 ㎝前後。**焼土**：攪乱により規模は不明だが、一部焼土範囲が確認できる。

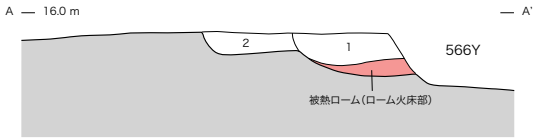
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土したが、いずれも破片資料のため、図化し得なかった。

［時　　期］縄文時代中期。

［所　　見］単独炉跡である。





1 黒褐色土（10YR2/2）径２～５㎜のローム粒を多量、径 20 ㎜のロームブロックを少量、径２～３㎜の焼土粒を多量、径５～７㎜の焼土ブロックを多量含む。しまり・粘性弱い。ロームブロックは被熱している。
2 黒褐色土（10YR3/2）径２～５㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量含む。しまりあり、粘性弱い。

焼土範囲　0　1m

第 174 図　１号炉跡（１／30）

1 号炉跡全景（西より）

1 号炉跡セクション（西より）

２号炉跡

遺　　構（第 175 図）

［位　　置］X=-19442,Y=-24174。

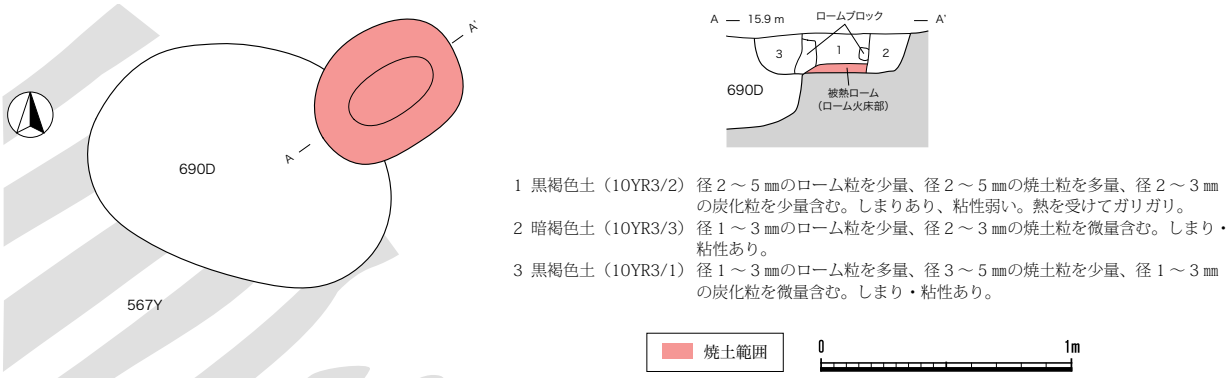
［構　　造］690D を切る。**平面形**：楕円形。**規模**：0.62×0.49m。**深さ**：15 ㎝前後。**焼土**：１層の下に火床面が確認できる。

［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土したが、いずれも破片資料のため、図化し得なかった。

［時　　期］縄文時代中期。

［所　　見］単独炉跡である。



第 175 図　２号炉跡（１／30）

２号炉跡完掘状況（西より）

２号炉跡セクション（西より）

（５）ピット

43 号ピット

遺　　構（第 176 図）

［位　　置］X=-19454.5,Y=-24157.5。

［構　　造］**平面形：**不整円形。**規模：**37×32 ㎝・深さ 68 ㎝を測る。

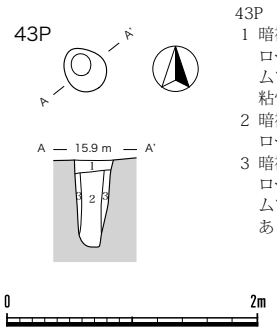
［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］勝坂３式期。

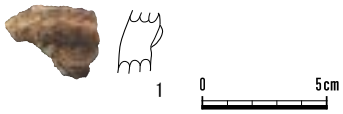
遺　　物（第 177 図、第 41 表）

勝坂式（１）を図示した。



43P
1 暗褐色土（10YR3/4）　径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）　径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

第 176 図　43 号ピット（１／60）



第 177 図　43 号ピット出土遺物（１／３）

43 号ピット全景（西から）

43 号ピットセクション（西から）

55 号ピット

遺　　構（第 178 図）

［位　　置］X=-19436.5,Y=-24178.5。

［構　　造］**平面形：**隅丸長方形か。**規模：**不明×38 ㎝・深さ 29 ㎝を測る。

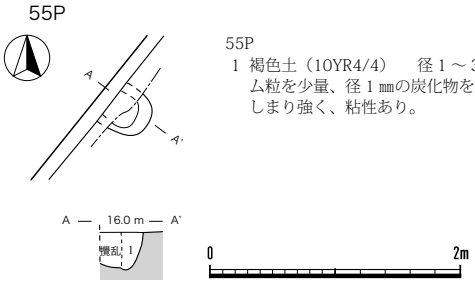
［覆　　土］１層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ３式期。

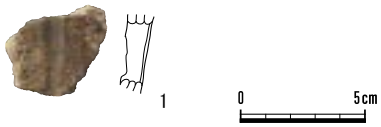
遺　　物（第 179 図、第 41 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。



55P
1 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量、径１㎜の炭化物を微量含む。しまり強く、粘性あり。

第 178 図　55 号ピット（１／60）



第 179 図　55 号ピット出土遺物（１／３）

55 号ピット全景（南から）

55 号ピットセクション（南から）

56 号ピット・57 号ピット

遺　　構（第 180 図）

［位　　置］X=-19437.5,Y=-24179。

［構　　造］**平面形**：56 号ピット、不整形。57 号ピット、楕円形。**規模**：56 号ピット、39×28 ㎝・深さ 74 ㎝を測る。57 号ピット、36×30 ㎝、深さ 56 ㎝を測る。

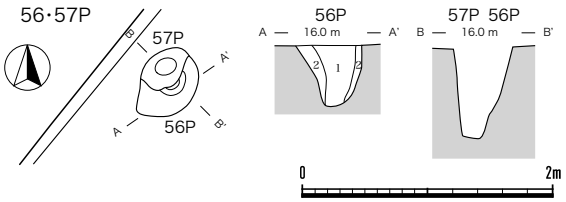
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ３式期。

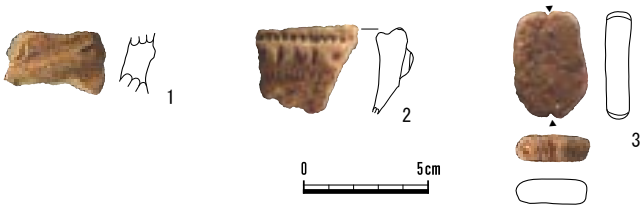
遺　　物（第 181 図、第 41・43 表）

阿玉台式（１）、勝坂式（２）、土器片錘（３）を図示した。



56P
1 暗褐色土（10YR3/4）　径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量、径５～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

第 180 図　56・57 号ピット（１／60）



第 181 図　56・57 号ピット出土遺物（１／３）

56 号ピット（上）・57 号ピット（下）全景（西から）

56 号ピットセクション（西から）

69 号ピット

遺　　構（第 182 図）

［位　　置］X=-19445,Y=-24156.5。

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形。**規模**：30×25 ㎝・深さ 34 ㎝を測る。

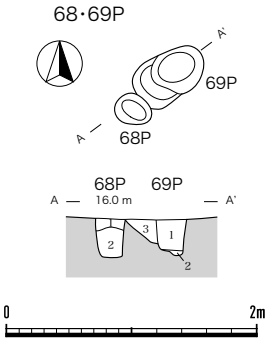
［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］勝坂２式期。

遺　　物（第 183 図、第 39 表）

勝坂式（１）を図示した。



68P
1 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～15㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

69P
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒・径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

第 182 図　69 号ピット（１／60）

第 183 図　69 号ピット出土遺物（１／３）

68 号ピット（左）・69 号ピット（右）全景（東より）

69 号ピットセクション（東より）

71 号ピット

遺　　構（第 184 図）

［位　　置］X=-19442,Y=-24170.3。

［構　　造］平面形：楕円形。規模：38×36 ㎝・深さ 70 ㎝を測る。

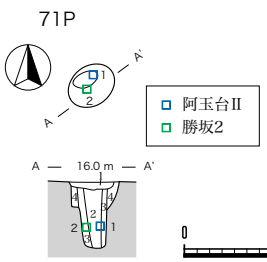
［覆　　土］４層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］勝坂式期。

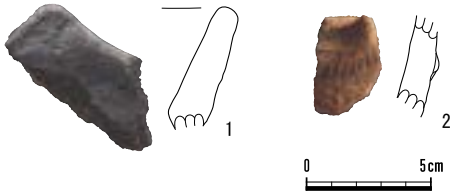
遺　　物（第 185 図、第 41 表）

阿玉台式（１）、勝坂式（２）を図示した。



71P
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
4 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒・径５～15㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

第 184 図　71 号ピット（１／60）



第 185 図　71 号ピット出土遺物（１／３）

71 号ピット全景（東から）

71 号ピットセクション（東から）

87 号ピット

遺　　構（第 186 図）

［位　　置］X= -19441.5,Y=-24166.5

［構　　造］**平面形：**不整円形。**規模：**58×43 ㎝・深さ 15 ㎝を測る。

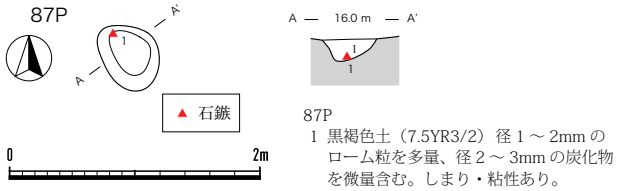
［覆　　土］1 層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］縄文時代。

遺　　物（第 187 図、第 49 表）

石鏃（1）を図示した。



第 186 図　87 号ピット（1／60）

第 187 図　87 号ピット出土遺物（2／3）

87 号ピット全景（東から）

87 号ピットセクション（東から）

89 号ピット

遺　　構（第 188 図）

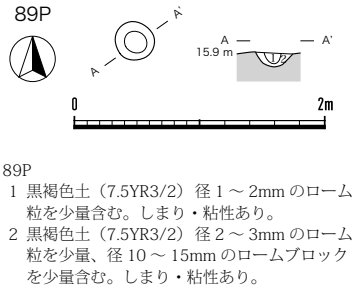
［位　　置］X=-19444,Y=-24175.5。

［構　　造］**平面形：**円形。**規模：**31×30 ㎝・深さ 13 ㎝を測る。

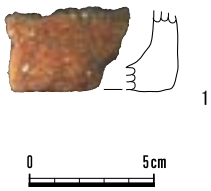
［覆　　土］2 層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］阿玉台式期。



第 188 図　89 号ピット（1／60）



第 189 図　89 号ピット出土遺物（1／3）

遺　　物（第 189 図、第 41 表）

阿玉台式（１）を図示した。

89 号ピット全景（東より）

89 号ピットセクション（西から）

98 号ピット

遺　　構（第 190 図）

［位　　置］X=-19451.5,Y=-24178.5。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**39×36 ㎝・深さ 30 ㎝を測る。

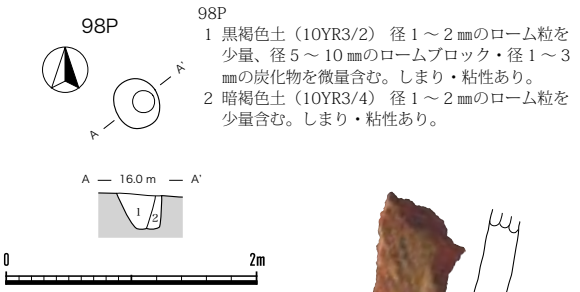
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

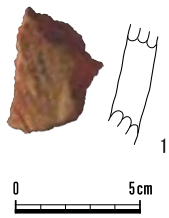
［時　　期］加曽利Ｅ２～３式期。

遺　　物（第 191 図、第 41 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。



第 190 図　98 号ピット（１／60）



第 191 図　98 号ピット出土遺物（１／３）

98 号ピット全景（東より）

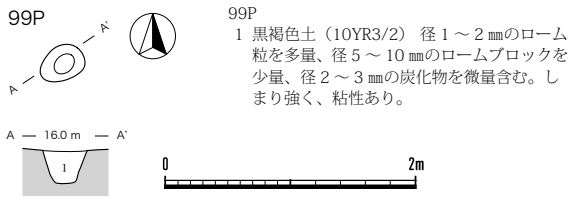
98 号ピットセクション（東より）

99 号ピット

遺　　構（第 192 図）

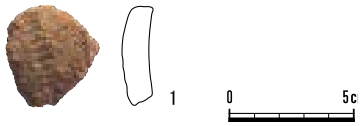
［位　　置］X=-19450,Y=-24176。

［構　　造］**平面形：**不整円形。**規模：**37×27 ㎝・深さ 35 ㎝を測る。



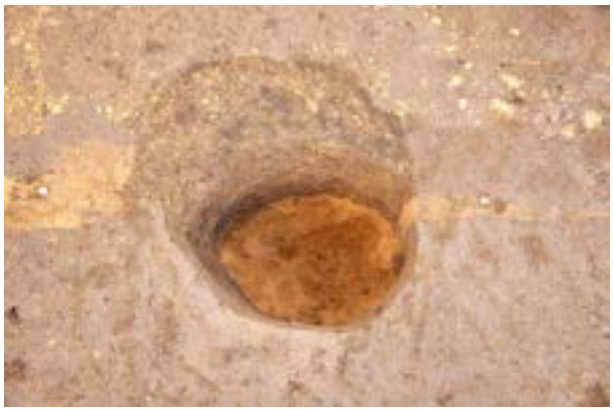
第 192 図　99 号ピット（１／60）

［覆　　土］１層。
［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。
［時　　期］中期。
遺　　物（第 193 図、第 43 表）
土製円盤（１）を図示した。



第 193 図　99 号ピット出土遺物（１／３）

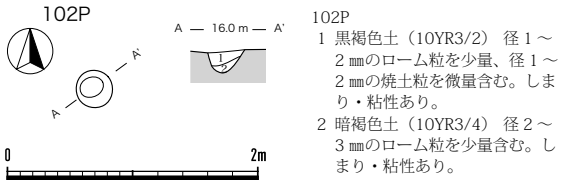
99 号ピット全景（東より）



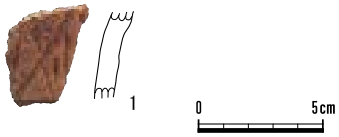
99 号ピットセクション（西より）

102 号ピット

遺　　構（第 194 図）
［位　　置］X=-19447.5,Y=-24176.5。
［構　　造］**平面形：**円形。**規模：**30×29 ㎝・深さ 17 ㎝を測る。
［覆　　土］２層。
［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。
［時　　期］加曽利Ｅ式期。
遺　　物（第 195 図、第 41 表）
曽利式（１）を図示した。



第 194 図　102 号ピット（１／60）



第 195 図　102 号ピット出土遺物（１／３）

102 号ピット全景（東より）

102 号ピットセクション（東より）

104 号ピット

遺　　構（第 196 図）

［位　　置］X=-19446.5,Y=-24182.5。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：32×26 ㎝・深さ 25 ㎝を測る。

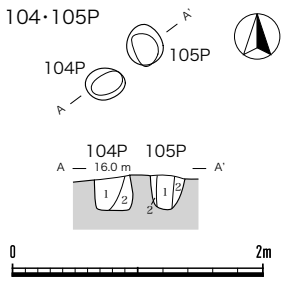
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 197 図、第 41 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。



104P・105P
1 黒褐色土（10YR3/2） 径１～２㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒・炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/4） 径１～２㎜のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

第 196 図　104・105 号ピット（１／60）

105 号ピット

遺　　構（第 196 図）

［位　　置］X=-19446.5,Y=-24182。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：32×28 ㎝・深さ 26 ㎝を測る。

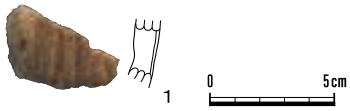
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

［時　　期］加曽利Ｅ３～４式期。

遺　　物（第 198 図、第 41 表）

加曽利Ｅ式（１）を図示した。



第 197 図　104 号ピット
出土遺物（１／３）

第 198 図　105 号ピット
出土遺物（１／３）

104 号ピット（左）・105 号ピット（右）全景（東より）

104 号ピット（左）・105 号ピット（右）
セクション（東より）

106 号ピット

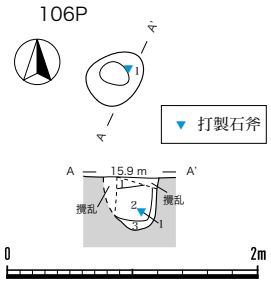
遺　　構（第 199 図）

［位　　置］X=-19445.5,Y=-24175。

［構　　造］**平面形**：不整円形。**規模**：48×39 ㎝・深さ 44 ㎝を測る。

［覆　　土］３層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。



106P
1 暗褐色土（10YR3/3） 径２～３㎜のローム粒を少量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/1） 径２～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量しまり強く、粘性あり。含む。
3 黒褐色土（10YR3/2） 径２～３㎜のローム粒を少量、径 20 ㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

第 199 図　106 号ピット（１／60）

［時　　期］加曽利Ｅ式期。

遺　　物（第 200 図、第 49 表）

打製石斧（１）を図示した。

第 200 図　106 号ピット出土遺物（１／３）

106 号ピット全景（西から）

106 号ピットセクション（西から）

109 号ピット

遺　　構（第 201 図）

［位　　置］X=-19448.5,Y=-24178。

［構　　造］平面形：不整円形。規模：47×41 ㎝・深さ 52 ㎝を測る。

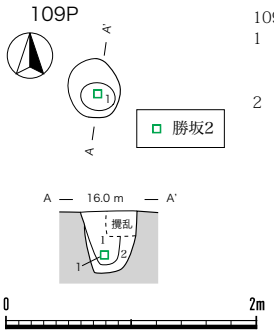
［覆　　土］２層。

［遺　　物］覆土中から僅かに出土した。

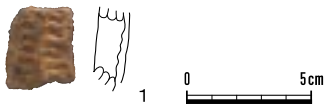
［時　　期］勝坂式期。

遺　　物（第 202 図、第 41 表）

勝坂式（１）を図示した。



109P
1　黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒・焼土粒を多量、径２～３㎜の炭化物を少量含む。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土（10YR3/3）径２～３㎜のローム粒を多量、径 10 ～ 15 ㎜のロームブロックを少量、径１～２㎜の焼土粒・径２～３㎜の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。



第 201 図　109 号ピット（１／60）

第 202 図　109 号ピット出土遺物（１／３）

109 号ピット全景（西から）

109 号ピットセクション（西から）

遺構名	位置		時期	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ（cm）	長軸方位	備考
650D	X= -19451	Y= -24184	加曽利Ｅ３式期	楕円形	1.3	1.14	37	N－48°－E	
651D	X= -19450	Y= -24182	加曽利Ｅ式期	楕円形	1.19	0.86	15	N－18°－W	
652D	X= -19452	Y= -24181	加曽利Ｅ２～３式期	不整円形	1.23	0.92	15	N－11°－E	
653D	X= -19439	Y= -24163.5	不明	不明	不明		28	N－23?°－E	
654D	X= -19447	Y= -24151	阿玉台式期	楕円形か	1.58	不明	39	N－46°－E	
655D	X= -19448	Y= -24152	加曽利Ｅ式期	楕円形か	1.05	不明	19	N－50°－E	
656D	X= -19446	Y= -24151.5	加曽利Ｅ式期	隅丸長方形	0.66	0.46	19	N－31°－W	
657D	X= -19450.1	Y= -24154	加曽利Ｅ式期	楕円形	不明	0.86	21	N－42?°－W	
658D	X= -19451.5	Y= -24156	縄文時代	円形	0.66	0.55	15	N－83°－E	
659D	X= -19430	Y= -24167	中期	隅丸長方形	不明	1.07	21	N－50°－E	
660D	X= -19431	Y= -24173	中期	円形	1.25	1.16	31	N－37°－E	
661D	X= -19437	Y= -24164	縄文時代	楕円形	0.73	0.6	17	N－38°－W	
662D	X= -19439	Y= -24168	縄文時代	楕円形	1.04	0.73	16	N－40°－E	
663D	X= -19433.5	Y= -24175	中期	楕円形	1.13	0.67	13	N－86°－W	
664D	X= -19437	Y= -24171	縄文時代	楕円形	0.8	0.54	19	N－46°－E	
665D	X= -19437	Y= -24165	加曽利Ｅ式期	楕円形	1.56	1.17	20	N－38°－E	
666D	X= -19440.5	Y= -24169	縄文時代	円形	0.68	0.62	13	N－55°－E	
667D	X= -19447.5	Y= -24158.5	加曽利Ｅ式期	不整形	0.79	0.67	56	N－29°－W	
668D	X= -19448	Y= -24157	勝坂３期	不整円形	1.47	1.18	15	N－53°－E	
669D	X= -19431.5	Y= -24173	加曽利Ｅ式期	楕円形	0.88	0.41	16	N－54°－E	
670D	X= -19432	Y= -24173	加曽利Ｅ式期	不明	不明		23	N－58?°－W	
671D	X= -19431.5	Y= -24172.5	加曽利Ｅ式期	隅丸長方形	0.71	不明	14	N－57°－E	
672D	X= -19435	Y= -24176	加曽利Ｅ式期	楕円形	2.08	1.47	23	N－24°－W	
673D	X= -19441	Y= -24177	中期	不整円形	0.7	0.63	26	N－59°－W	
674D	X= -19442	Y= -24174	加曽利Ｅ式期	隅丸長方形	0.9	0.54	18	N－22°－W	
675D	X= -19439	Y= -24176	加曽利Ｅ２式期	隅丸長方形	1.14	0.52	19	N－52°－E	
676D	X= -19441	Y= -24178	加曽利Ｅ２式期	円形	1.19	1.08	14	N－7°－E	
677D	X= -19440.5	Y= -24176.5	縄文時代	円形	0.52	0.47	16	N－77°－E	
678D	X= -19440	Y= -24180	加曽利Ｅ３式期	不整形	1.3	0.93	15	N－22°－E	
679D	X= -19438	Y= -24163.5	縄文時代	不整楕円形か	1.18	不明	19	N－47°－E	
680D	X= -19442	Y= -24181.5	中期	不整円形	0.7	0.64	39	N－26°－E	
681D	X= -19441	Y= -24182	加曽利Ｅ式期	不整楕円形	不明	0.92	12	N－34°－W	
682D	X= -19446	Y= -24160	中期	円形	1.07	1.02	21	N－54°－E	
683D	X= -19441.5	Y= -24171	縄文時代	楕円形	0.71	0.5	20	N－63°－E	
684D	X= -19445	Y= -24165	中期	円形	1.04	0.95	16	N－6°－W	
685D	X= -19444	Y= -24173.5	縄文時代	不整円形	0.87	0.73	42	N－60°－E	
686D	X= -19448.5	Y= -24168	加曽利Ｅ式期	不整円形	0.81	0.77	29	N－2°－E	
687D	X= -19448	Y= -24165.5	加曽利Ｅ２式期	楕円形	0.75	0.58	10	N－51°－E	
688D	X= -19446	Y= -24166	縄文時代	不整円形か	不明		6	不明	
689D	X= -19446	Y= -24165.5	縄文時代	不整円形	0.83	0.72	9	N－68°－E	
690D	X= -19446	Y= -24170	縄文時代	不整楕円形	1.22	0.92	37	N－61°－W	
691D	X= -19452	Y= -24176	加曽利Ｅ式期	不整楕円形	0.84	0.52	15	N－54°－E	
692D	X= -19451.5	Y= -24177	縄文時代	不整楕円形	0.73	0.33	18	N－45°－E	
693D	X= -19447	Y= -24175	中期	隅丸長方形	2.53	1.48	22	N－55°－E	

第５表　土坑一覧表

遺構名	位置		時期	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備考
37P	X= -19446.8	Y= -24185.3	縄文時代	楕円形	33	23	16	
38P	X= -19446.5	Y= -24184.5	縄文時代	円形	39	37	7	
39P	X= -19448.5	Y= -24182	縄文時代	楕円形	41	33	39	
40P	X= -19454	Y= -24177.5	縄文時代	楕円形	44	36	28	
41P	X= -19448.5	Y= -24183.5	縄文時代中期	楕円形か	不明	50	23	
42P	X= -19446.5	Y= -24181	縄文時代	不整円形	30	29	17	
43P	X= -19454.5	Y= -24157.5	勝坂３式期	不整円形	37	32	68	
44P	X= -19437.5	Y= -24169	縄文時代	楕円形	53	46	77	
45P	X= -19438.8	Y= -24171.5	縄文時代	不整円形	35	27	25	
46P	X= -19439.3	Y= -24171.5	縄文時代	楕円形	39	37	34	
47P	X= -19438	Y= -24170.5	縄文時代	楕円形	41	36	38	
48P	X= -19439	Y= -24170.5	縄文時代	楕円形	54	40	42	

第６表　ピット一覧表（１）

遺構名	位置		時期	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備考
49P	X= -19441	Y= -24170	縄文時代	楕円形	51	41	14	
50P	X= -19432.5	Y= -24173	縄文時代	不整円形	34	31	28	
51P	X= -19432.2	Y= -24172.5	縄文時代	楕円形	21	15	29	
52P	X= -19441	Y= -24172.5	縄文時代	不整形	33	18	19	
53P	X= -19431.2	Y= -24172.5	中期	不整形	40	26	49	
54P	X= -19437	Y= -24177.5	縄文時代	不整円形	35	30	30	
55P	X= -19436.5	Y= -24178.5	加曽利Ｅ３式期	隅丸長方形か	不明	38	29	
56P	X= -19437.5	Y= -24179	中期	不整形	60	46	51	
57P	X= -19437.5	Y= -24179	中期	不整形	39	28	74	
58P	X= -19433	Y= -24174.5	勝坂式期	楕円形	36	30	56	
59P	X= -19433	Y= -24175	加曽利Ｅ式期	不整円形	44	34	38	
60P	X= -19439	Y= -24180.5	縄文時代	円形	35	33	32	
61P	X= -19436.5	Y= -24176	縄文時代	円形	51	47	29	
62P	X= -19442.5	Y= -24180	縄文時代	楕円形	50	39	21	
63P	X= -19436.8	Y= -24166	縄文時代	楕円形	34	27	19	
64P	X= -19438	Y= -24165	勝坂式期	楕円形	48	38	24	
65P	X= -19438.5	Y= -24166	縄文時代	不整円形	44	43	77	
66P	X= -19438	Y= -24166.6	縄文時代	楕円形	35	23	21	
67P	X= -19440.5	Y= -24167	縄文時代	隅丸長方形	49	43	17	
68P	X= -19441.5	Y= -24167	縄文時代	不整円形	30	25	31	
69P	X= -19441	Y= -24166.5	勝坂２式期	隅丸長方形	61	36	34	
70P	X= -19441.5	Y= -24169.5	縄文時代	楕円形	44	36	28	
71P	X= -19442	Y= -24170.3	勝坂式期	楕円形	38	36	70	
72P	X= -19442.8	Y= -24171.2	縄文時代	円形	31	36	40	
73P	X= -19442.5	Y= -24177.5	縄文時代	不整円形	30	27	19	
74P	X= -19445	Y= -24177	縄文時代	円形	33	32	23	
75P	X= -19444.5	Y= -24164.5	縄文時代	円形	35	32	32	
76P	X= -19443.5	Y= -24165.3	縄文時代	楕円形	38	29	30	
77P	X= -19443.5	Y= -24173.5	縄文時代	円形か	不明		11	
78P	X= -19446	Y= -24175.5	縄文時代	楕円形	48	34	33	
79P	X= -19443.5	Y= -24170.7	阿玉台式期	円形	37	35	29	
80P	X= -19444	Y= -24171	縄文時代	円形	41	37	56	
81P	X= -19441.2	Y= -24176.5	縄文時代	楕円形か	不明	25	18	
82P	X= -19445.7	Y= -24168.3	縄文時代	楕円形	30	22	17	
83P	X= -19450.5	Y= -24166	縄文時代	楕円形	38	29	19	
84P	X= -19452	Y= -24166.5	縄文時代	円形	41	37	37	
85P	X= -19454.8	Y= -24166.5	縄文時代	不整形	56	38	64	
86P	X= -19446.5	Y= -24163.5	縄文時代	不整円形	59	55	22	
87P	X= -19441.5	Y= -24166.5	縄文時代	不整円形	58	43	15	
88P	X= -19437	Y= -24174.5	縄文時代	不整円形	51	42	20	
89P	X= -19444	Y= -24175.5	阿玉台式期	円形	31	30	13	
90P	X= -19442.5	Y= -24166.5	縄文時代	円形	26	23	12	
91P	X= -19443	Y= -24167	縄文時代	円形	38	37	70	
92P	X= -19443	Y= -24167.5	縄文時代	不整円形	36	23	37	
93P	X= -19445	Y= -24181.5	縄文時代	円形	44	43	49	
94P	X= -19443.5	Y= -24181.5	縄文時代	円形	32	29	14	
95P	X= -19444	Y= -24183.5	縄文時代	楕円形	36	32	44	
96P	X= -19446.5	Y= -24182.5	加曽利Ｅ式期	円形	40	38	44	
97P	X= -19450.3	Y= -24179.5	加曽利Ｅ式期	円形	38	38	19	
98P	X= -19451.5	Y= -24178.5	加曽利Ｅ２～３式期	楕円形	39	36	30	
99P	X= -19450	Y= -24176	中期	不整円形	37	27	35	
100P	X= -19446	Y= -24183	加曽利Ｅ式期	楕円形か	不明	38	25	
101P	X= -19451.3	Y= -24177.5	縄文時代	楕円形	44	38	52	
102P	X= -19447.5	Y= -24176.5	加曽利Ｅ式期	円形	30	29	17	
103P	X= -19453.5	Y= -24174.5	縄文時代	不整円形	38	31	23	
104P	X= -19446.5	Y= -24182.5	加曽利Ｅ式期	楕円形	32	26	25	
105P	X= -19446.5	Y= -24182	加曽利Ｅ３～４式期	楕円形	32	28	26	
106P	X= -19445.5	Y= -24175	加曽利Ｅ式期	不整円形	48	39	44	
107P	X= -19447.5	Y= -24174.5	縄文時代	不整円形	27	25	32	

第７表　ピット一覧表（２）

遺構名	位置		時期	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備考
108P	X= -19447.5	Y= -24177.5	縄文時代	不整円形	37	27	22	
109P	X= -19448.5	Y= -24178	勝坂式期	不整円形	47	41	52	
110P	X= -19445.5	Y= -24183	縄文時代	不整円形	43	41	45	
111P	X= -19438.5	Y= -24168	縄文時代	不整円形	39	36	36	
112P	X= -19433	Y= -24170.5	縄文時代	円形	38	37	20	
113P	X= -19432.5	Y= -24170.3	縄文時代	円形	36	33	26	
114P	X= -19430.3	Y= -24170	縄文時代	円形	39	37	11	
115P	X= -19430	Y= -24170	縄文時代	不整形	42	37	90	
116P	X= -19449.7	Y= -24139.3	縄文時代	円形	37	34	15	
117P	X= -19448.3	Y= -24174	縄文時代	楕円形	32	27	20	
118P	X= -19447	Y= -24180.5	縄文時代	不整形	38	34	11	
119P	X= -19479.3	Y= -24179	縄文時代	不整形	62	31	14	
120P	X= -19450	Y= -24179.8	縄文時代	不整円形	35	31	79	
121P	X= -19448	Y= -24178.5	縄文時代	不整形	24	21	23	
122P	X= -19446.8	Y= -24179	縄文時代	楕円形	49	30	6	
123P	X= -19445.3	Y= -24179.5	縄文時代	不整円形	25	24	32	

第８表　ピット一覧表（３）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 11 図 1	勝坂３	深鉢	胴部	－	－	－	三角押文、爪形文が施される。	明赤褐色	にぶい黄褐色	
第 11 図 2	勝坂３	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	連続爪形文が施される。	橙色	にぶい黄褐色	
第 11 図 3	加曽利 E1	深鉢	口縁部～頸部	撚糸文 L	隆帯が「∞」字状に貼付される。	－	－	明黄褐色～にぶい黄褐色	－	
第 11 図 4	加曽利 E1	深鉢	口縁部～頸部	撚糸文 L	隆帯によって区画を作る。	－	－	黒褐色	－	
第 11 図 5	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯で渦巻文を貼付される。	－	－	橙色	褐灰色	
第 11 図 6	加曽利 E1～２	深鉢	胴部～底部	－	－	撚糸文 L	隆帯が貼付される。	にぶい黄褐色	－	
第 11 図 7	加曽利 E1～２	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	沈線で渦巻文を描かれる。	橙色	－	
第 12 図 8	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯が貼付される。	褐色	－	
第 12 図 9	加曽利 E1～２	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	隆帯が貼付される。	－	－	暗褐色	暗灰黄色	
第 12 図 10	連弧文	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	沈線が横位に巡る。	暗褐色	暗灰黄色	

第９表　90 号住居跡出土土器一覧

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 30 図 1	五領ヶ台１～２	深鉢	胴部	－	－	沈線	２列の三角文が施される。	にぶい褐色	－	
第 30 図 2	阿玉台Ⅰ	深鉢	口縁部	－	内面に２列の刺突文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 3	阿玉台Ⅰ	深鉢	胴部	－	粘土を貼付し、縁に刻みが施される。	－	－	にぶい褐色	－	
第 30 図 4	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	隆帯により楕円形の区画を作り、区画内に連続爪形文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 5	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口縁部に沿って１列の幅広角押文が施される。	－	－	褐色	－	
第 30 図 6	阿玉台Ⅱ	深鉢	突起	－	突起から隆帯を垂下させ区画が作られる。区画内は沈線を巡らせるもの、沈線を充填するものがある。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 7	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口唇部上面、口縁部上部に２列の角押文が施される。また、外面の角押文の下に隆帯が貼付される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 8	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯により区画を作り、角押文が施される。一方の区画にはさらに２列の角押文、もう一方の区画には沈線をそれぞれ加えられる。	にぶい褐色	－	
第 30 図 9	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、上部に三角押文が施される。隆帯の下には三角押文が加えられる。	黒褐色	褐色	
第 30 図 10	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、隆帯に沿って２列の角押文、波状沈線が施される。	にぶい黄褐色	－	

第 10 表　174 号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 30 図 11	阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	把手	－	「C」字状を呈する把手を貼付する。縁に沿って刻みが施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 30 図 13	阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線により区画を作り、押引文が充填される。３条の平行する沈線が加えられる。	灰黄褐色	－	
第 30 図 14	阿玉台Ⅲ	深鉢	口縁部	－	口唇部に単節斜縄文 LR が縦方向に施される。	－	－	黒褐色	－	
第 30 図 15	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を垂下させ、２列の角押文が施される。角押文の中心に沈線が加えられる。	灰黄褐色	－	
第 30 図 16	勝坂 1	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し三角形の区画を作り幅広角押文が施される。区画内には波状沈線を引き、下部に沈線でさらに三角形の区画が作られる。三角形の区画内には縦位の沈線を集合させる。	橙色	－	
第 30 図 17	勝坂 1 ～ 2	深鉢	口縁部	－	口唇部下に連続爪形文と２条の波状沈線が施される。	－	－	黒褐色	－	
第 30 図 18	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	口縁部に無文帯を設け、平行沈線により半円形の区画が作られる。区画内は連続爪形文で充填し、波状沈線が施される。	－	－	黒褐色	褐色	
第 30 図 19	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	無文帯を設け、下部に区画が作られる。隆帯上には連続爪形文が加わえられ、区画に沿って三角押引が巡る。区画内には波状の三角押引、半円形の刺突文が加えられる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 30 図 21	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	隆帯で三角形の区画を作り、隆帯に沿って幅広角押文が施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 30 図 22	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	内面に円形の凹みを作る。外面には隆帯による区画を作り、隆帯に沿って幅広角押文が施される。更に蛇行沈線、三角押文を加える部分がみられる。口縁部の波状部分の中央に円形刺突が加えられる。また、口唇部と隆帯上に角押文が施される。	－	－	にぶい褐色	－	
第 30 図 23	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	全面に赤彩が施される。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 30 図 24	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	口縁に沿って三角押文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 25	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	先端を内側に折り返して成形される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 30 図 26	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文か	隆帯によって区画を作り、隆帯上には連続する刻みが施される。区画内に三叉文、刻みが加えられる。	灰褐色	－	
第 30 図 27	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって三角形の区画を作り、隆帯上には角押文が加えられる。区画内には沈線が充填される。	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 28	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって三角形の区画が作られる。隆帯上に刻み、沈線が施される。区画内は沈線により文様が描かれる。	褐灰色	－	
第 30 図 29	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、連続爪形文が施される。区画外には隆帯に沿って連続爪形文と波状沈線が巡る。	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 30	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画が作られる。隆帯上には幅広角押文、交互刺突を施し、隆帯の側面にも一部三角押文が加えられる。	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 31	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、隆帯上に連続爪形文が施される。区画内には沈線で文様を描き、角押文が加えられる。	灰黄褐色	－	
第 30 図 32	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、平行沈線、幅広角押文が施される。幅広角押文に隣接して波状沈線を引く。	にぶい黄褐色	－	

第 11 表　174 号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 30 図 33	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって三角形の区画が作られ、隆帯上には刻みが加えられる。区画によって文様が異なる。	にぶい黄褐色	－	
第 30 図 34	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	3 重の沈線を巡らせ三角形の区画が作られる。内側の区画を連続爪形文で充填し、中央に三叉文が施される。	にぶい褐色	－	
第 30 図 35	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯で波状の文様が施される。内側には三角押文を施し、外側には幅広角押文を巡らせ、その外側に沈線と幅広角押文が施される。	橙色	褐色	
第 30 図 40	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	横位と縦位の隆帯を施し、隆帯に沿って角押文が加えられる。また、隆帯にそって波状沈線がみえる。	にぶい赤褐色	黒褐色	
第 30 図 41	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を垂下させ、平行沈線を引く。平行沈線に沿って 2 列の連続爪形文が施される。	にぶい赤褐色	－	
第 31 図 42	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	2 条一対の沈線で弧状の文様が描かれる。	灰褐色	にぶい褐色	
第 31 図 43	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線で区画を作り、区画内に円形の隆帯を貼付し中央に刺突文が施される。	黄灰色	－	
第 31 図 44	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線によって区画を作り、区画内は斜位の沈線が充填される。	灰褐色	－	
第 31 図 45	勝坂 2	深鉢	突起	－	2 つの孔が開く眼鏡状に成形される。	－	－	にぶい褐色	－	
第 31 図 46	勝坂 2	深鉢	底部付近	－	－	－	三角押文の内側に刻みを施し区画が作られる。区画内には区画に沿って角押文がみられる。	橙色	－	
第 31 図 47	勝坂 2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	赤彩が施される。	－	－	橙色	－	
第 31 図 48	勝坂 2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	口縁部下部に沈線が巡る。	－	－	灰黄褐色	－	
第 31 図 49	勝坂 2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	口唇部の外側に隆帯を貼付し刻みが加えられる。隆帯によって連続する三角形の区画を作り、区画に沿って外側に沈線を巡らせる。区画内には連続爪形文を施し、中央に三叉文が加えられる。また、区画外には沈線を充填させる。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 31 図 50	勝坂 2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	隆帯によって三角形の区画を作り、隆帯上に刻みが加えられる。区画内は縦位の沈線が充填される。また、区画外には三角押文を施す部分と沈線で区画を描き区画内に横位の沈線を引く部分がある。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 31 図 51	勝坂 2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	隆帯によって半円形の区画を作り、隆帯上に矢羽根状刺突文が加えられる。区画内には幅広角押文を充填し、その上に三叉文上に三角押文が加えられる。	－	－	にぶい褐色	－	
第 31 図 52	勝坂 2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	波状口縁の頂点部から隆帯が垂下し、隆帯上に角押文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 31 図 53	勝坂 2 ～ 3	深鉢	把手	－	形状は丸みを帯び、上部は波状になろうか。外面に平行沈線を引き、間に角押文が施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 31 図 55	勝坂 2 ～ 3	深鉢	突起	－	「C」字状を呈し、刻みが加えられる。	－	－	明赤褐色	－	
第 31 図 56	勝坂 2 ～ 3	深鉢	把手	－	「つ」字状に成形される。両面に同様の文様が施される。突起の中央に沈線を引き、上部に連続する刻みが加えられる。	－	－	にぶい橙色	－	
第 31 図 57	勝坂 2 ～ 3	深鉢	把手	－	「つ」字状に成形する。表面に 1 条、裏面に 2 条の沈線を引き、縁付近に刻みが施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 31 図 58	勝坂 2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	孔を開け楕円状の突起が口縁部に貼付される。隆帯上に刻みが施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	

第 12 表　174 号住居跡出土土器一覧（3）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 31 図 59	勝坂 2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	沈線	隆帯を貼付し、先端を渦巻状に作る。隆帯上には幅広角押文が施される。	にぶい褐色	－	
第 31 図 60	勝坂 2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作られ、交互刺突、角押文が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 31 図 61	勝坂 2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を「つ」字状に貼付し、周囲に角押文を施す。内側には連続爪形文が加えられる。	にぶい褐色	－	
第 31 図 62	勝坂 2 ～ 3	浅鉢	口縁部	－	折り返した口唇部の先端を波状に成形し、その上に幅広角押文が施される。	－	上部と下部に幅広角押文を 1 列施し、間に交互刺突が加えられる。	にぶい褐色	－	
第 31 図 63	勝坂 2 ～ 3	浅鉢	口縁部	－	ミニチュアの浅鉢であろうか。口唇部の直下に交互刺突を施し、その下部に角押文が施される。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 31 図 64	勝坂 3	深鉢	口縁部	－	口縁部の折り返した部分に沈線を施し、間に刻みが施される。	－	－	にぶい黄橙	－	
第 31 図 65	勝坂 3	深鉢	口縁部	－	隆帯によって区画を作り、隆帯上に刻みが加えられる。区画内は縦位の沈線が充填される。	－	－	灰黄褐	－	
第 31 図 66	勝坂 3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口縁部に円形の文様を連続してが描かれる。中央は凸状に膨らむ。	－	－	灰黄褐色	－	
第 31 図 70	勝坂 3	深鉢	口縁部	－	隆帯を巡らせ、隆帯上に交互刺突が施される。また、赤彩が施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 31 図 71	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって四角形の区画を作り、隆帯上に刻みを施す。区画内は沈線が充填される。	灰黄褐色	－	
第 31 図 72	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、区画内は沈線が充填される。	にぶい黄褐色	－	
第 31 図 73	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、隆帯上に連続爪形文が加えられる。また、隆帯の下部に沈線で「W」字状の文様が描かれる。	灰黄褐色	－	
第 31 図 76	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって、楕円形の区画が作られる。曲線部分を強調して貼付され、区画内には縦位の沈線が充填される。	黒褐色	－	
第 31 図 77	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を巡らせ、その上に隆帯を楕円状に貼付し区画が作られる。区画内は沈線で充填する。	にぶい黄褐色	－	
第 32 図 78	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を巡らせ、その下部に弧状に隆帯が貼付される。隆帯上には刻みが加えられる。	灰黄褐色	－	
第 32 図 79	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、隆帯上に矢羽根状刺突文が施される。	にぶい褐色	－	
第 32 図 80	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって三角形の区画が作られる。隆帯上に矢羽根状刺突文が加えられる。	にぶい黄褐色	－	
第 32 図 81	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	隆帯と沈線によって区画を作り、隆帯に沿って平行沈線を引き区画内に角押文が施される。	にぶい黄橙色	－	
第 32 図 82	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯によって区画を作り、隆帯上に幅広角押文が加えられる。区画内には三角押文が施される。	にぶい赤褐色	－	土器片錘
第 32 図 83	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	横位の沈線を引き、上に沈線で渦巻文を加える。渦巻文の一部に三角押引が施される。	にぶい赤褐色	－	
第 32 図 84	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、隆帯上に押捺を加える。区画内に三叉文状の文様が施される。	にぶい褐色	－	
第 32 図 85	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線によって区画が作られる。区画内は幅広角押文が施される。	にぶい褐色	－	
第 32 図 86	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、区画内に沈線で円形の文様が施される。円形の文様の中心に刻みが加えられる。	暗褐色	黒褐色	

第 13 表　174 号住居跡出土土器一覧（4）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 32 図 87	勝坂３	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって三角形の区画を作り、区画に沿って連続刺突を巡らせる。区画内には連続刺突を施し、隆帯上には押捺が加えられる。	暗褐色	－	
第 32 図 88	勝坂３	深鉢	把手	－	２つの孔が開けられ眼鏡状に成形される。２つの孔に沿って沈線が引かれ、更に沈線の外側に角押文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 32 図 89	勝坂か	深鉢	口縁部	－	口縁に沿って隆帯が貼付される。また、隆帯によって区画が作られる。	－	－	黒褐色	－	
第 32 図 90	勝坂か	深鉢	口縁部	－	口唇部が幅広く成形される。	－	－	橙色	－	
第 32 図 91	勝坂か	深鉢	口縁部	無節斜縄文 L	口縁部に無文部分を設け、下部に波状沈線と沈線が施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 32 図 92	勝坂か	深鉢	口縁部	－	口縁部に沿って隆帯を貼付し、刻みが加えられる。隆帯の下部に平行沈線を垂下させる。また楕円形の受け皿状を呈する突起が施される。	－	－	橙色	－	
第 32 図 93	勝坂か	浅鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、刻みが施される。	褐色	－	
第 32 図 94	勝坂か	香炉形土器	把手	－	中央に円形の孔が開こうか。表側には隆帯で波状に成形し、裏側は縁に隆帯が貼付される。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 32 図 95	勝坂か	深鉢	底部	－	－	－	ミニチュアの底部である。平底で内側は黒いが赤彩も残る。	灰黄褐色	－	
第 32 図 96	勝坂か	深鉢	底部	－	－	－	ミニチュアの平底の底部である。	灰褐色	－	
第 32 図 97	勝坂か	深鉢	底部	－	－	－	平底の底部である。内側に赤彩が残る。	にぶい黄橙色	－	
第 32 図 98	曽利Ⅰ～Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	上部に隆帯を貼付け、交互刺突を施す。下部には平行沈線が引かれる。	にぶい褐色	－	
第 32 図 99	曽利Ⅰ～Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線によって区画を作り、それぞれの平行沈線に交互刺突を施す。区画内には沈線が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 32 図 100	曽利Ⅰ～Ⅱか	深鉢	胴部	－	－	沈線	隆帯を巡らせ、隆帯の下に沈線で楕円形の区画が作られる。	黒褐色	－	
第 32 図 101	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口縁部は無文で、頸部に隆帯が貼付される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 33 図 102	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部		口縁部付近まで撚糸文を施すが、上から磨いて擦り消し、無文にしている。	撚糸文 L	沈線を巡らせ、そこから２本一対の沈線と１本の蛇行する沈線を垂下させる。	にぶい黄橙色	－	
第 33 図 103	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部～胴部	－	炉２の炉体土器である。無文帯を設ける。口縁部との境に波状の隆帯が貼付される。	撚糸文 L	２本一対の隆帯と波状の隆帯を１組とし、垂下させる。また、２本一対の隆帯の上部には粘土粒が貼付される。文様の単位は７単位確認できる。	にぶい橙色	－	
第 33 図 104	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	大きく開く無文の口縁である。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 33 図 105	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	下部に波状の隆帯が貼付される。	－	－	褐灰色	－	
第 33 図 107	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口縁部は無文で、口縁部下に隆帯が巡る。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 33 図 108	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口縁部は無文で、頸部から沈線を垂下させ、その上に平行沈線が巡る。隆帯上には刺突文が加えられる。	－	－	灰褐色	－	
第 34 図 109	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線を巡らせ、平行沈線上に蛇行する隆帯が貼付される。	灰黄褐色	－	
第 34 図 110	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	－	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 34 図 111	曽利Ⅱ	深鉢	頸部	－	隆帯によって区画が作られる。隆帯で「凸」字状や渦巻文を作出する。右上から左下へ斜行する沈線上に左上から右下へ斜行する隆帯が貼付される。その下部に２本の横位の隆帯が巡る。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 34 図 112	曽利Ⅱ	深鉢	頸部	－	隆帯によって区画を作る。右上から左下へ斜行する沈線上に左上から右下へ斜行する隆帯を貼付する。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 34 図 113	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	左上から斜行する沈線を施され、その上に右上から隆帯を貼付される。	－	－	にぶい黄褐色	－	

第 14 表　174 号住居跡出土土器一覧（５）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 34 図 114	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部～胴部	－	－	沈線、撚糸文 L	無文帯を設けた下部に「∞」字状に粘土帯を貼付し、空白部分には縦位の沈線を充填する。「∞」字状の下部には２本一対の隆帯を渦巻状に貼付する。渦巻状の隆帯は２本の横位の隆帯で繋がれる、また蛇行する隆帯を垂下させる。	にぶい黄橙色	－	
第 34 図 115	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	沈線	２列の蛇行する隆帯上に隆帯が施される。	黒褐色	橙色	
第 34 図 117	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を波状に貼付する。隆帯の下の一部分に刻みが施される。	褐色	－	
第 34 図 118	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	蛇行する隆帯が貼付される。	にぶい黄褐色	－	
第 34 図 119	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	波状の隆帯が貼付される。	黒褐色	－	
第 34 図 121	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	沈線を巡らせ、沈線上に 2.2 ㎝程度の粘土が貼付される。	灰黄褐色	－	
第 34 図 122	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	沈線	隆帯を貼付け、縦位の蛇行する隆帯を加える。	灰黄褐色	橙色	
第 34 図 123	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	沈線	平行沈線を施し、波状の隆帯を貼付する。波状の隆帯から蛇行する隆帯を垂下する。	灰褐色	－	
第 34 図 124	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	蛇行する隆帯を垂下させる。	にぶい褐色	－	
第 34 図 126	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を巡らせ、隆帯上に円形刺突が施される。	にぶい褐色	－	
第 34 図 127	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線	２本の隆帯を巡らせ、隆帯上に交互刺突が施される。	黒褐色	にぶい褐色	
第 34 図 129	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	横位、斜位に平行沈線を引き、一部を押引文で引かれる。	灰黄褐色	－	
第 34 図 130	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線	隆帯を渦巻状に貼付し、隆帯の中央に沈線が施される。	にぶい褐色	－	
第 35 図 131	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	－	平行沈線によって重弧文が施される。山状の部分と谷状の部分に口縁部から蛇行する隆帯を垂下させる。また、頸部との境には横位の蛇行する隆帯が貼付される。平行沈線を頸部に施し、その上に２本一対の粘土紐が貼付される。文様の単位は３単位以上と考えられる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 35 図 132	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	－	平行沈線によって重弧文が施される。重弧文の中心部と円が接する部分から蛇行する隆帯が垂下される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 35 図 133	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	－	平行沈線によっ重弧文が施される。重弧文の中心部から蛇行する隆帯を垂下させる。	－	－	にぶい褐色	－	
第 35 図 134	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	－	平行沈線で重弧文を施し、その上に波状の隆帯を垂下させる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 35 図 135	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	－	沈線で重弧文を描き、口縁部の内側にも外面と同じ方向に沈線を引く。	－	－	にぶい橙色	－	
第 35 図 136	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	－	口唇部から口縁部に向かって沈線が斜位に施される。	－	－	にぶい褐色	－	
第 35 図 137	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線で重弧文を施し、その上に波状隆帯が貼付される。	にぶい黄褐色	－	
第 35 図 138	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線	２本一対の３㎝程度の隆帯と蛇行する隆帯を交互に貼付する。	にぶい黄褐色	－	
第 35 図 141	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線を施し、その上に 2.2 ㎝程度の粘土紐が貼付される。	黒褐色	にぶい黄褐色	
第 35 図 142	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	櫛描条線８条・1.8 ㎝	－	－	0.8 ㎝程度の粘土紐を雨垂れ状に貼付する。	にぶい褐色	黒褐色	
第 35 図 143	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	1.0 ㎝程度の粘土紐が貼付される。	にぶい褐色	黒褐色	
第 35 図 145	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	波状の隆帯を垂下させ、短い粘土紐が貼付される。	灰黄褐色	－	
第 35 図 146	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	波状の隆帯が巡る。また、隆帯を垂下させ隆帯上に円形刺突が加えられる。隆帯の間には沈線で連弧文状の文様が描かれる。	灰黄褐色	にぶい褐色	

第 15 表　174 号住居跡出土土器一覧（６）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 36 図 147	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	隆帯を貼付し、隆帯の上部から横位の波状の隆帯を巡らせる。	灰黄褐色	－	
第 36 図 148	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線	2 本一対の隆帯を縦位に貼付する。	にぶい黄橙色	黒褐色	
第 36 図 150	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	隆帯によって三角形状の区画を作り、区画内に隆帯が貼付される。	にぶい赤褐色	－	
第 36 図 151	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	複節斜縄文 RLR	1 本の波状の隆帯が垂下する。	灰黄褐色	－	
第 36 図 152	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線	蛇行する沈線を 1 本垂下させる。	にぶい橙色	黒褐色	
第 36 図 153	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線	蛇行する沈線を垂下させる。	橙色	灰褐色	
第 36 図 154	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	頸部～胴部	－	斜行文が施される。横位の隆帯を巡らせ、交互刺突が施される。	平行沈線	蛇行する隆帯を垂下させる。また、直径 0.7 ㎝程度の粘土粒が 2 つ貼付される。	にぶい黄褐色	－	
第 36 図 155	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線	1 条の蛇行する沈線を垂下させる。	橙色	黒褐色	
第 36 図 156	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	沈線	全体に沈線が施される。	にぶい褐色	－	
第 36 図 157	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	沈線	蛇行する隆帯を垂下させる。	にぶい赤褐色	－	
第 36 図 158	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線	蛇行する隆帯と直線的な隆帯を交互に垂下させる。	浅黄橙色	－	
第 36 図 159	曽利Ⅲ	深鉢	口縁部	－	沈線で渦巻文が施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 36 図 160	曽利Ⅲ	深鉢	口縁部		口縁部の内側から斜行文が施され、胴部まで続く。頸部に横位の波状の隆帯が貼付される。	平行沈線	－	灰黄褐色	－	
第 36 図 161	曽利Ⅲ	深鉢	口縁部～胴部		口縁部の内側から外側へ口縁部全体に斜行文が施される。横位の波状の隆帯が 2 本巡る。	平行沈線	波状の隆帯が垂下する。	にぶい赤褐色	－	
第 36 図 162	曽利Ⅲ	深鉢	口縁部	－	口縁部の内側に沈線が引かれる。隆帯によって区画と渦巻文が作られる。下部の隆帯が渦巻き文を作り、渦巻文を繋ぐように上部の隆帯が貼付される。区画内は左上からの斜位の沈線が充填される。	－	沈線を垂下させ、沈線に向かって「V」字状の文様を縦位に連続して描く。また、蛇行する隆帯を垂下させる。	灰黄褐色	－	
第 37 図 163	曽利Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線 9 条・2.0 ㎝	隆帯による円形の文様、「し」字状に貼付された隆帯から蛇行する隆帯が垂下する。	にぶい褐色	－	
第 37 図 164	曽利Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	平行沈線、沈線	沈線、平行沈線の境に波状の隆帯が貼付される。	灰黄褐色	－	
第 37 図 165	曽利Ⅲ～Ⅳ	深鉢	胴部	－	－	－	円形刺突文が施される。	灰黄褐色	－	
第 37 図 166	曽利か	有孔鍔付？	鍔部？	－	三角形に成形された粘土帯に孔開けられる。有孔鍔付土器の鍔であろうか。	－	－	黒褐色	－	
第 37 図 167	曽利か	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線結節文を施し、上部に平行沈線による渦巻文、押引文が加えられる。また下部には平行沈線を横位に巡らせ、その上に波状の隆帯を貼付する。	にぶい黄褐色	－	
第 37 図 168	曽利か	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線によって楕円形の区画を作り、区画内、区画外共に平行沈線が充填される。	にぶい褐色	にぶい黄褐色	
第 37 図 169	曽利か	深鉢	胴部	単節斜縄文 RL	－	－	楕円形の粘土を貼付、上部の縁を波状に成形する。また、側面に隆帯が加えられる。	にぶい黄褐色	－	
第 37 図 170	曽利か	深鉢	口縁部	－	無文帯を設ける。横位の沈線が引かれ、2 条一対の沈線で文様が描かれる。	撚糸文 L	－	にぶい黄橙色	－	
第 37 図 171	曽利か	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	沈線によって渦巻状の文様が描かれる。	にぶい黄褐色	－	
第 37 図 172	曽利か	深鉢	胴部	－	－	－	沈線によって区画を作り、区画内を弧状の沈線で充填する。	にぶい橙色	－	
第 37 図 173	曽利か	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	隆帯を貼付し、隆帯上には円形刺突文が施される。0.7 ㎝程の間隔で沈線を横位に引く。	橙色	－	
第 37 図 174	曽利か	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	隆帯を貼付し、隆帯上には円形刺突文が施される。0.7 ㎝程の間隔で沈線を横位に引く。	橙色	－	

第 16 表　174 号住居跡出土土器一覧（7）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 37 図 175	曽利か	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	隆帯が縦位に貼付され、隆帯から横位の沈線が引かれる。	にぶい褐色	にぶい褐色	
第 38 図 176	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯を貼付し、隆帯上に連続する刻みが加えられる。	にぶい黄橙色	－	
第 38 図 177	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	無節斜縄文 R	隆帯を貼付し、隆帯上に斜めの刻みが加えられる。	にぶい黄褐色	－	
第 38 図 178	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯を貼付し、隆帯上に連続爪形文が施される。	にぶい赤褐色	－	
第 38 図 179	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	横位の隆帯が巡る。	－	－	にぶい褐色	－	
第 38 図 180	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって区画が作られる。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 38 図 181	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって長方形の区画が作られる。区画内は撚糸文で充填される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 38 図 182	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって、区画と渦巻文が作られる。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 38 図 183	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯によって区画を作り、区画内に蛇行する隆帯が貼付される。	褐灰色	－	
第 38 図 184	加曽利 E1	深鉢	口縁部～頸部	撚糸文 L	弧状の平行する隆帯が貼付される。頸部は無文帯である。	－	－	褐色	－	
第 38 図 185	加曽利 E1	深鉢	口縁部～胴部	撚糸文 L	2 本一対の隆帯で区画を作り、更に区画内に半円状の区画、楕円形の区画を作り区画内は撚糸文が充填される。頸部は無文帯である。文様の単位は 6 単位以上と考えられる。	撚糸文 L	2 本一対の隆帯と蛇行する隆帯を 1 組として垂下させる。	灰黄褐色	－	
第 38 図 186	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	隆帯によって区画と渦巻文が作られる。	－	－	橙色	－	
第 38 図 187	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	隆帯を貼付し、渦巻文が作られる。	－	－	にぶい褐色	－	
第 38 図 188	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 R	隆帯を貼付し、渦巻文が作られる。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 38 図 189	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって、区画と渦巻文が作られる。	－	－	灰褐色	－	
第 39 図 190	加曽利 E1	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	隆帯によって区画を作り、区画の端と中央に渦巻文が作られる。区画内は縄文が充填される。また、口唇部の内側に渦巻文と沈線が施される。	－	－	橙色	－	
第 39 図 191	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	横位の平行な隆帯と口唇部から貼付された縦位の隆帯によって区画を作り、区画内に隆帯で渦巻状の文様が加えられる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 39 図 192	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 R	2 本の横位に巡る隆帯の間に半円状の隆帯を貼付け、楕円形の区画が作られる。区画内に撚糸文が充填される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 39 図 193	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	隆帯によって区画が作られる。区画内には隆帯を円形に貼付し、隣接して長方形の区画を設けられる。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 39 図 194	加曽利 E1	深鉢	口縁部	前々段多条 RL	横位の沈線を巡らせ、隆帯が貼付される。	－	－	黒褐色	－	
第 39 図 195	加曽利 E1	深鉢	胴部	撚糸文 L	横位の隆帯を巡らせ、そこから隆帯を垂下させる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 39 図 196	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 R	横位の隆帯が巡る。	－	－	黒褐色	－	
第 39 図 197	加曽利 E1	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	隆帯を貼付し、細長い楕円形の区画が作られる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 39 図 198	加曽利 E1	深鉢	口縁部	前々段多条 RL	口唇部直下に隆帯が貼付される。	－	－	明赤褐色	－	
第 39 図 199	加曽利 E1	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	波状口縁であろうか。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 40 図 201	加曽利 E1	器台	脚部	－	－	－	円形の孔が開けられる。	にぶい褐色	－	
第 40 図 202	加曽利 E1	器台	把手	－	円形の孔が開けられる。	－		にぶい黄褐色	－	
第 40 図 203	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	口縁部から橋状の突起が作り出されようか。	－	－	にぶい褐色	－	
第 40 図 204	加曽利 E1	深鉢	突起	－	高さ 1.3 ㎝程で円筒状に成形される。上部が深く窪んでいる。外面には隆帯で渦巻文が施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 40 図 205	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	隆帯によって渦巻文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 40 図 206	加曽利 E1	浅鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって、楕円形の区画を作り、区画の端に渦巻文が施される。撚糸文 L が充填される。	橙色	－	

第 17 表　174 号住居跡出土土器一覧（8）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 40 図 207	加曽利 E1	浅鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	隆帯によって楕円形の区画を作り、区画内は縄文が充填される。区画の横に沈線で円形の文様が描かれる。	にぶい黄褐色	黒色	
第 40 図 208	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	2 本の隆帯を貼付け、区画が作られようか。	にぶい褐色	－	
第 40 図 209	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯によって楕円状の区画が作られる。	灰褐色	－	
第 40 図 210	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯によって渦巻状の文様が貼付される。	橙色	にぶい黄褐色	
第 40 図 211	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	無節斜縄文 R	直線的な隆帯と蛇行する隆帯を垂下させる。	橙色	黒褐色	
第 40 図 212	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	無節斜縄文 L	隆帯を貼付し、隆帯上にも胴部と同様の縄文が施される。	灰褐色	褐灰色	
第 40 図 213	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	無節斜縄文 R	隆帯によって、区画が作られる。隆帯上には幅広角押文を加え、区画内は沈線による渦巻状の文様が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 40 図 215	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	波状部分の内側に渦巻文がが施される。	－	－	にぶい橙色	－	
第 40 図 216	加曽利 E1	浅鉢	胴部	－	－	－	内側に渦巻文の赤彩が施される。	にぶい黄橙色	－	
第 40 図 217	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって区画を作り、区画内は撚糸文が充填される。また、隆帯で区画内に渦巻文が作られる。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 40 図 218	加曽利 E1 ～ 2	浅鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画と渦巻文が施される。区画内は縦位の沈線が充填される。	にぶい橙	黒褐色	
第 40 図 219	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画と渦巻文を作出し、区画内は沈線が充填される。	にぶい黄橙	－	
第 40 図 220	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯により区画を作り、区画の端に隆帯で渦巻文が加えられる。	にぶい黄橙色	－	
第 41 図 221	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	胴部	－		撚糸文 L	2 本の隆帯で渦巻文を作り、渦巻文に繋がる沈線上に円形刺突文が加えられる。	にぶい褐色	黒褐色	
第 41 図 222	加曽利 E1 ～ 2	浅鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、隆帯上に刻みが加えられる。区画内には沈線を充填し、区画の隆帯に沿って沈線を引く。	明黄褐色	黒褐色	
第 41 図 223	加曽利 E1 ～ 2	浅鉢	肩部	－	連続した刻みが施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 41 図 224	加曽利 E1 ～ 2	浅鉢	肩部	－	沈線によって楕円形の文様が描かれる。下端部に短い沈線による刻み状の文様を横位に連続してが加えられる。	－	－	にぶい褐色	－	
第 41 図 225	加曽利 E1 ～ 2	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線によって楕円形の区画が施される。	灰黄褐色	－	
第 41 図 227	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	2 本の隆帯が巡る。1 本の隆帯を弧状に貼付し、そこから短い隆帯を 4 本垂下させる。	黒褐色	にぶい褐色	
第 41 図 228	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	口縁部	撚糸文 R	－	－	－	灰褐色	－	
第 41 図 229	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	口縁部	0 段多条斜行縄文 RLR	口唇部付近に隆帯を巡らせ、その下に波状沈線が施される。	－	－	黒褐色	－	
第 41 図 230	加曽利 E2	深鉢	口縁部～胴部	単節斜縄文 LR	隆帯によって区画を作り、区画内は縄文が充填される。また、隆帯で渦巻状の文様が貼付される。	単節斜縄文 LR	3 条一組の沈線と 1 条の蛇行する沈線を 1 組として垂下させる。文様の単位は 4 単位以上と考えられる。	灰黄褐色	－	
第 42 図 231	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	隆帯によって長方形の区画を作り、区画内は沈線が充填される。長方形の区画外には縄文が充填される。区画の端に隆帯で渦巻文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 42 図 232	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	隆帯によって区画を作り、2 本一対の弧状の隆帯が貼付される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 42 図 233	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	隆帯によって区画を作り、区画内は縄文が充填される。また、区画の端に隆帯で渦巻文が施される。	－	－	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
第 42 図 234	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	隆帯によって区画と渦巻文が作られる。区画内は縄文が充填される。	－	－	灰黄褐色	－	

第 18 表　174 号住居跡出土土器一覧（9）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 42 図 240	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	隆帯によって楕円形の区画を作り、区画内は縄文が充填される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 42 図 241	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口唇部下に隆帯を貼付し、隆帯による渦巻文が加えられる。	－	－	橙色	－	
第 42 図 242	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	隆帯によって楕円形の区画が施される。	－	－	黒褐色	にぶい橙色	
第 42 図 243	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	隆帯によって区画を作り、区画内に渦巻文が施される。	－	－	橙色	－	
第 42 図 244	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	隆帯を貼付し、渦巻文が施される。	－	－	褐色	－	
第 42 図 245	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	沈線によって渦巻文が施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 42 図 246	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって区画を作り、渦巻文が施される。区画内は撚糸文が充填される。	－	－	褐色	－	
第 42 図 247	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって区画を作り、区画内は撚糸文が充填される。	－	－	灰褐色	－	
第 42 図 248	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口縁部上部に横位の隆帯を、また、2 本一対の隆帯が弧状に貼付される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 42 図 254	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって区画を作り、区画内に 2 本一対の隆帯が「∞」字状に貼付される。区画内は撚糸文が充填される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 42 図 255	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文か	隆帯によって区画が作られる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 42 図 256	加曽利 E2	深鉢	口縁部	沈線	2 本一対の隆帯を弧状に貼付し、区画が作られる。区画内は沈線が充填される。	－	－	にぶい褐色	－	
第 42 図 257	加曽利 E2	深鉢	口縁部	沈線	隆帯によって区画を作り、区画の端に渦巻文が施される。区画内は沈線が充填される。	－	－	褐灰色	－	
第 42 図 258	加曽利 E2	深鉢	口縁部	沈線	隆帯によっ楕円形の区画を作り、区画内は沈線が充填される。また、区画の下部に隆帯が巡る。	－	－	灰黄褐色	－	
第 42 図 259	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 R	隆帯によって区画を作り、渦巻文が施される。	－	－	黒褐色	にぶい橙色	
第 42 図 262	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 R	横位の隆帯を 2 本貼付し、間は撚糸文が充填される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 42 図 263	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって長方形の区画を作り、区画の端に渦巻文が施される。	－	－	黒褐色	－	
第 42 図 264	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	隆帯によって区画を作り、区画内に渦巻文を施し、沈線が充填される。	－	－	黒褐色	－	
第 42 図 265	加曽利 E2	深鉢	口縁部	沈線	2 本一対の弧状の隆帯によって区画を作り、区画内は沈線が充填される。	－	－	黒褐色	－	
第 42 図 266	加曽利 E2	深鉢	口縁部	沈線	隆帯によって区画を作り、沈線が充填される。	－	－	褐色	－	
第 42 図 268	加曽利 E2	深鉢	口縁部	沈線	2 本の隆帯が弧状に貼付される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 42 図 269	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって区画と渦巻文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 42 図 270	加曽利 E2	深鉢	口縁部付近	－	沈線で渦巻状の文様が描かれる。外面に更に胎土を貼り、渦巻状の文様の中心部が凸状に膨らむように成形される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 42 図 271	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	外面に粘土を貼付け厚さを持たせ、その上に沈線で渦巻状の文様が描かれる。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 42 図 272	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	隆帯によって楕円形の区画が作られる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 43 図 273	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	「8」字状に貼付された隆帯から、2 本の隆帯が垂下される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 43 図 274	加曽利 E2	深鉢	胴部	単節斜縄文 RL	隆帯によって区画を作り、区画内には縄文を充填し、渦巻文が施される。	－	－	にぶい褐色	黒色	
第 43 図 275	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	蛇行する隆帯によって区画を作り、区画内に渦巻文が施される。渦巻文の横に 3 条の沈線が引かれる。	にぶい褐色	灰褐色	
第 43 図 276	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって渦巻文が施される。	浅黄色	黄灰色	

第 19 表　174 号住居跡出土土器一覧（10）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 43 図 277	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を渦巻状に貼付し、一部に刻みが加えられる。隆帯を垂下させる。	灰黄褐色	－	
第 43 図 278	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	隆帯によって区画が作られる。区画内に渦巻文を施し、縦位の沈線が充填される。	－	－	褐色	－	
第 43 図 279	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	沈線	隆帯によって区画と渦巻文が作られる。区画内には沈線が充填される。	橙色	－	
第 43 図 280	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって渦巻文が施される。	にぶい黄橙色	褐灰色	
第 43 図 281	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	－	同心円状に沈線が引かれる。	にぶい黄橙色	－	
第 43 図 282	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	２本一対の隆帯と蛇行する隆帯を１組として垂下させる。文様の単位は４単位以上と短が得られる。	灰黄褐色	－	
第 44 図 283	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	２条一対の沈線で「く」字状の文様が描かれる。	黒褐色	－	
第 44 図 284	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	蛇行する隆帯を垂下させる。	にぶい黄橙色	－	
第 44 図 285	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	平行沈線を引き、その下から蛇行する平行沈線が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 44 図 286	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	平行沈線によって区画を作り、区画内は縄文が充填される。	にぶい褐色	－	
第 44 図 287	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	縦位の隆帯と蛇行する隆帯が交互に垂下する。	にぶい褐色	黒褐色	
第 44 図 288	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	２本の隆帯を垂下させる。	にぶい褐色	－	
第 44 図 289	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	隆帯によって円形の文様を作り、隆帯を垂下させる。	灰黄褐色	－	
第 44 図 291	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	２本一対の隆帯を巡らせ、区画が作られる。区画内は撚糸文が充填される。	にぶい黄褐色	－	
第 44 図 292	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯を横位に貼付し、そこから蛇行する隆帯を垂下させる。	にぶい褐色	黒褐色	
第 44 図 293	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	２本一対の隆帯を横位に巡らせ、そこから２本一対の隆帯と蛇行する隆帯を交互に垂下させる。	にぶい黄褐色	－	
第 44 図 294	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	１条の沈線によって楕円形の区画が施される。	にぶい黄橙	－	
第 44 図 296	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯が横位に巡る。隆帯によって区画を作る。区画内には撚糸文が充填される。	黒褐色	－	
第 44 図 297	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	３本一組の隆帯が横位に巡る。	にぶい褐色	－	
第 44 図 298	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	２条一対の垂下する沈線と１条の蛇行する沈線を１組として縦位に施す。文様の単位は５単位以上と考えられる。	にぶい赤褐色	－	
第 44 図 299	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 R	２条一対の沈線を蛇行しながら垂下させる。	にぶい褐色	－	
第 44 図 300	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 R	２条一対の沈線と蛇行する沈線を交互に垂下させる。	褐色	黒褐色	
第 44 図 301	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	２条一対の沈線と蛇行する沈線を垂下させる。	黒褐色	にぶい褐色	
第 44 図 302	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線７条以上・1.5 ㎝	２本一対の隆帯が巡り、そこから縦位の隆帯を垂下させる。	灰黄褐色	－	
第 44 図 303	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	横位の隆帯を２本巡らせ、そこから隆帯を垂下させる。	灰黄褐色	にぶい橙色	
第 44 図 304	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	条線	２本の隆帯が弧状に貼付される。	橙色	－	
第 44 図 305	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	２本の平行する隆帯を垂下させる。	橙色	にぶい橙色	
第 44 図 307	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	前々段反撚 RLL	２条一対の垂下する沈線と蛇行する沈線を交互に引く。	にぶい褐色	－	
第 44 図 308	加曽利 E2	深鉢	底部付近	－	－	単節斜縄文 LR	平行沈線を垂下させ、区画が作られる。	にぶい黄褐色	－	
第 44 図 309	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	平行沈線を垂下させ、区画が作られる。	灰黄褐色	－	
第 45 図 310	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	２本一対の隆帯を垂下させる。	にぶい黄褐色	－	
第 45 図 311	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文	２本一対の隆帯を垂下させる。	にぶい橙色	－	

第 20 表　174 号住居跡出土土器一覧（11）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 45 図 312	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	反撚斜行縄文 LL	2 本の平行沈線を垂下させる。	にぶい赤褐色	灰黄褐色	
第 45 図 313	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	単節斜縄文 LR	蛇行する隆帯を 1 本垂下させる。	橙色	黒褐色	
第 45 図 315	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	単節斜縄文 LR	平行沈線を垂下させる。	にぶい黄橙色	－	
第 45 図 316	加曽利 E2	深鉢	胴部～底部	－	－	単節斜縄文 RL	2 条一対の沈線を垂下させる。	橙色	－	
第 45 図 317	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	櫛描条線	1 本の隆帯を垂下させる。	橙色	－	
第 45 図 318	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	櫛描条線 7 条・1.5 cm	1 本の隆帯を垂下させる。	にぶい褐色	灰黄褐色	
第 45 図 319	加曽利 E2	深鉢	底部付近	－	－	櫛描条線 7 条・1.5 cm	2 条一対の沈線を垂下させる。	にぶい褐色	－	
第 45 図 321	加曽利 E2	深鉢	底部付近	－	－	撚糸文 L	1 本の隆帯を垂下させる。	にぶい赤褐色	灰褐色	
第 45 図 322	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	櫛描条線 6 条・1.1 cm	－	にぶい褐色	黒褐色	
第 45 図 323	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	－	2 条一対の沈線を垂下させる。	にぶい黄褐色	－	
第 45 図 324	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	櫛描条線 5 条・0.9 cm	－	明赤褐色	暗褐色	
第 45 図 325	加曽利 E2	浅鉢	肩部	－	沈線によって楕円形の区画を作り、区画内は縄文が充填される。区画の横には縦位の沈線が加えられる。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 45 図 327	加曽利 E2	浅鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	隆帯で渦巻文を施し、沈線で楕円形の区画を作る。区画内は縄文が充填される。	橙色	にぶい黄褐色	
第 45 図 328	加曽利 E2	浅鉢	口縁部	－	口縁部は無文で直下に横位の隆帯を巡らせ、隆帯で渦巻文が施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 45 図 329	加曽利 E2	浅鉢	肩部	－	沈線で区画を作り、区画内は縦位の沈線が充填される。また、区画の下部に隆帯を貼付し沈線で渦巻状の文様が描かれる。	－	－	にぶい褐色	黒褐色	
第 45 図 330	加曽利 E2	浅鉢	口縁部	－	隆帯によって区画が作られる。下端部の隆帯は突起に繋がり、突起の上面に沈線で渦巻文が加えられる。	撚糸文 L	－	にぶい黄褐色	－	
第 45 図 331	加曽利 E2	浅鉢	口縁部	－	口縁部から中心に円形の孔があく把手が貼付されようか。把手部分に沈線で渦巻文が施される。	撚糸文 L	2 条一対の沈線が縦位に引かれる。	灰黄褐色	－	
第 46 図 332	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	口縁部下に沈線を 1 条巡らせる。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 46 図 333	加曽利 E2	浅鉢	口縁部	－	－	－	－	にぶい褐色	黒褐色	
第 46 図 334	加曽利 E2 か	深鉢	口縁部	撚糸文 R	3 条の沈線を巡らせ、下部に沈線で楕円状の区画が作られる。区画内は撚糸文が充填される。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 46 図 335	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL・LR	沈線を巡らせ、間に円形刺突が施される。また、2 条一対の沈線が垂下する。	－	－	黄灰色	－	
第 46 図 338	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	2 本の隆帯が巡る。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 46 図 339	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	口縁部～胴部	－	幅の広い無文帯にする。	単節斜縄文 RL	無文帯との境に平行沈線を巡らせ、そこから直線の平行沈線と蛇行する平行沈線を垂下させる。	灰黄褐色	－	
第 46 図 340	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	平行沈線を巡らせ、そこから平行沈線と蛇行する平行沈線を垂下させる。	灰黄褐色	－	
第 46 図 341	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線 10 条以上	2 本一対の隆帯と蛇行する隆帯を 1 組として垂下させる。文様の単位は 8 単位確認できる。	にぶい赤褐色	－	
第 47 図 342	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	2 条一対の蛇行する沈線と 3 条一組の沈線を垂下させる。	にぶい褐色	灰黄褐色	
第 47 図 343	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	縦位の沈線を引き、その上に沈線で渦巻状の文様が描かれる。	褐色	灰黄褐色	
第 47 図 344	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	沈線	2 本一対の隆帯を垂下させ、隆帯上に押捺を加える。	褐色	にぶい黄褐色	
第 47 図 345	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって楕円形の区画が作られる。隆帯上に刻みを加えるもの、隆帯に沿って内側に沈線を巡らせるものがみられる。	にぶい赤褐色	－	
第 47 図 346	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	2 条の沈線を垂下させ、沈線の間の縄文を磨り消す。	にぶい黄褐色	－	
第 47 図 347	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	底部	－	－	単節斜縄文 RL	磨消懸垂文が施される。	にぶい褐色	－	

第 21 表　174 号住居跡出土土器一覧（12）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 47 図 348	加曽利 E2 ～ 3	浅鉢	口縁部～胴部	―	―	―	―	にぶい褐色	―	
第 47 図 349	加曽利 E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	上部を隆帯、下部を沈線で楕円形の区画が作られる。上部の隆帯で区画内に渦巻文を作出し、区画内は縄文が充填される。楕円区画の下から２条の沈線が垂下する。	―	―	橙色	―	
第 48 図 350	加曽利 E3	深鉢	口縁部	―	隆帯によって楕円形の区画が作られる。区画内を２条一対の沈線が２重に巡る。	―	―	にぶい褐色	―	
第 48 図 351	加曽利 E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	上部に無文帯を設ける。	―	―	にぶい黄橙色	―	
第 48 図 352	加曽利 E3	台付土器	脚部	―	―	―	半円状の隆帯が貼付される。	灰黄褐色	黒褐色	
第 48 図 353	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	―	―	―	にぶい赤褐色	―	
第 48 図 354	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	―	―	―	褐色	―	
第 48 図 355	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	―	―	―	褐色	―	
第 48 図 356	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	横位の沈線が巡る。	―	―	にぶい褐色	―	
第 48 図 357	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	平行沈線を垂下させる。	―	―	にぶい黄褐色	―	
第 48 図 358	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	櫛描条線６条・1.3 ㎝	―	―	―	褐灰色	―	
第 48 図 360	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	―	２列の円形刺突文が施される。	―	―	褐色	―	
第 48 図 361	加曽利 E3 ～ 4	浅鉢	肩部	―	隆帯が「つ」字状に貼付される。赤彩が施される。	―	―	にぶい黄橙色	褐灰色	
第 48 図 362	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	胴部	―	―	櫛描条線か	２条一対の「U」字状の沈線が施される。	橙色	灰黄褐色	
第 48 図 363	加曽利 E4	深鉢	口縁部	櫛描条線	横位の沈線が巡る。	―	―	灰黄褐色	―	
第 48 図 364	加曽利 E か	深鉢	口縁部	―	赤彩が施される。	―	―	黒色	―	
第 48 図 365	加曽利 E か	深鉢	把手	―	橋状の把手が貼付される。赤彩が施される。	―	―	にぶい橙色	―	
第 48 図 366	加曽利 E か	深鉢	口縁部	―	赤彩が施される。	―	―	にぶい黄橙色	―	
第 48 図 368	加曽利 E か	浅鉢	口縁部	―	赤彩が施される。	―	―	にぶい赤褐色	―	
第 48 図 369	加曽利 E か	深鉢	口縁部	―	赤彩が施される。	―	―	橙色	褐灰色	
第 48 図 370	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄橙色	黒褐色	
第 48 図 371	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	―	
第 48 図 372	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	外面に渦巻状の文様が赤彩で描かれようか。	にぶい黄橙色	―	
第 48 図 373	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄橙色	―	
第 48 図 374	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	―	
第 49 図 375	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	―	
第 49 図 376	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄橙	―	
第 49 図 377	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	黄灰色	にぶい黄橙	
第 49 図 378	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄橙	―	
第 49 図 379	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	―	
第 49 図 380	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	灰黄褐色	―	
第 49 図 381	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	黒褐色	―	
第 49 図 382	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄橙	黄灰色	
第 49 図 383	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい褐色	―	
第 49 図 384	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	―	
第 49 図 385	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	にぶい黄橙	―	
第 49 図 386	加曽利 E か	浅鉢	胴部	―	―	―	赤彩が施される。	黒褐色		
第 49 図 388	加曽利 E か	浅鉢	底部	―	―	―	平底の底部である。	にぶい黄褐色	―	
第 49 図 389	加曽利 E か	浅鉢	底部	―	―	―	平底の底部である。	褐色	―	

第 22 表　174 号住居跡出土土器一覧（13）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 49 図 392	加曽利 E か	深鉢	底部	―	―	―	平底の底部である。	橙色		
第 49 図 393	加曽利 E か	深鉢	底部	―	―	―	平底の底部である。	にぶい黄褐色	黒褐色	
第 49 図 394	連弧文 1	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	2 条の沈線が巡る。	―	―	灰黄褐色	―	
第 49 図 395	連弧文 1	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口縁部下に平行沈線を引く。その下に平行沈線で波状の文様が施される。	―	―	橙色	―	
第 49 図 396	連弧文 1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口縁部に沿って沈線が施される。口縁部の波状部分で上部の沈線は渦巻文を描く。また、2 条一対の沈線で連弧文が施される。	―	―	灰黄褐色	―	
第 49 図 397	連弧文 1	深鉢	胴部	―	―	反撚斜行縄文 LL	沈線により、円形、弧状の文様を描き、4 本の沈線を垂下させる。	にぶい黄褐色	―	
第 49 図 398	連弧文 1	深鉢	胴部	―	―	単節斜縄文 RL	3 条の沈線で弧状の文様が描かれる。	橙色	黒褐色	
第 49 図 399	連弧文 1	深鉢	口縁部	前々段多条 RL	横位の平行沈線が巡る。	―	―	にぶい黄褐色	―	
第 49 図 401	連弧文 1 か	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	弧状の沈線を引き、沈線の交点に円を描く。中央に円形刺突文が施される。	にぶい褐色	灰黄褐色	
第 49 図 402	連弧文 1 ～ 2	深鉢	口縁部～胴部	単節斜縄文 LR	口縁部上部に平行沈線が巡る。また、その下部に 3 条一組の沈線で連弧文が描かれる。文様の単位は 8 単位確認できる。	―	3 条一組の沈線が横位に巡る。	黒褐色	―	
第 49 図 403	連弧文 2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口縁部に平行な 3 条の沈線が巡る。	―	―	暗赤褐色	―	
第 49 図 404	連弧文 2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	横位の平行沈線を 3 重に巡らせる。	―	―	褐灰色	にぶい褐色	
第 50 図 405	連弧文 2	深鉢	口縁部	無節斜縄文 L	口縁部上部に 2 条の沈線を巡らせ、その下部に沈線で楕円形の文様が施される。また、3 条一組の沈線で連弧文が描かれる。	―	―	にぶい黄褐色	―	
第 50 図 406	連弧文 2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口唇部付近に平行沈線を施し、間に交互刺突文が加えられる。	―	―	にぶい黄橙色	―	
第 50 図 407	連弧文 2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口唇部付近に円形刺突文を 2 列が施される。	―	―	黒褐色	―	
第 50 図 409	連弧文 2	深鉢	胴部	―	―	単節斜縄文 LR	3 条一組の沈線で連弧文が描かれる。	にぶい黄褐色	―	
第 50 図 410	連弧文 2	深鉢	口縁部～胴部	撚糸文 L	3 条一組の沈線を口縁部上部に巡らせる。その下部に 2 条一対の沈線で連弧文が描かれる。文様の単位は 3 単位以上と考えられる。	―	3 条一組の沈線で連弧文を施し、下の 1 条は連弧文の波頂部で渦巻文が描く。	黒褐色	―	
第 50 図 411	連弧文 2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	2 条一対の沈線で連弧文が 2 段が描かれる。	暗赤褐色	―	
第 50 図 412	連弧文 2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	2 条一対の沈線で連弧文を描き、その下部に 2 本の沈線を巡らせる。	灰黄褐色	―	
第 50 図 413	連弧文 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口唇部付近に沈線を巡らせ、3 条の沈線で連弧文が描かれる。	―	―	灰黄褐色	―	
第 50 図 414	連弧文 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口唇部下に口縁部に平行な 2 条の沈線が引かれる。	―	―	褐色	―	
第 50 図 415	連弧文 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口唇部直下に 2 条一対の沈線が巡る。沈線の間に半円形の刺突文が加えられる。2 条一対の沈線により連弧文が描かれる。	―	―	にぶい黄褐色	―	
第 50 図 416	連弧文 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口唇部直下に 2 条の沈線を引き、沈線上に刺突文が施される。刺突文の下部に沈線による連弧文が描かれる。	―	―	灰褐色	―	
第 50 図 417	連弧文 2	深鉢	口縁部～胴部	櫛描条線 14 条以上・2.8 ㎝	口縁部上部に円形刺突文が巡る。また、5 条一組の沈線によって連弧文が描かれる。連弧文の波頂部の下に 1 条または 2 条の沈線で 1 単位の連弧文を重ねる部分もある。頸部に直線の沈線と細かい波状沈線を交互に 5 条横位に巡らせる。文様の単位は 6 単位確認できる。	櫛描条線 14 条以上・2.8 ㎝	頸部の沈線から 2 条一対の沈線の間に波状の沈線を挟んだ文様を垂下させる。文様の単位は 6 単位確認できる。	にぶい黄橙色	―	
第 52 図 418	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線	口唇部直下に 2 条の沈線を施し、沈線の下部に 2 条の沈線で連弧文が描かれる。	―	―	橙色	―	
第 52 図 419	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線	口唇部下に 3 条の沈線を引く。また、沈線により連弧文が描かれる。	―	―	にぶい黄褐色	―	

第 23 表　174 号住居跡出土土器一覧（14）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 52 図 420	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線 8 条・1.4 ㎝	口縁部上部に 2 条の沈線が巡る。4 条一組の連弧文が描かれ、頸部に 3 条の沈線が巡る。	－	－	褐色	－	
第 52 図 423	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線	口縁部の上部に沈線を巡らせ、その下部に 2 条一対の沈線で連弧文が描かれる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 52 図 424	連弧文 2	深鉢	口縁部～胴部	撚糸文 L	口縁部上部に 2 条一対の沈線が巡る。頸部に 3 条一組の沈線が巡る。	－	2 条一対の沈線で連弧文が描かれる。	黒褐色	－	
第 52 図 425	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線か	口縁部上部に沈線を巡らせ、間に円形刺突文が加えられる。その下部に 3 条一組の沈線で連弧文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 52 図 426	連弧文 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	沈線を巡らせ、間に交互刺突が施される。その下には沈線で連弧文が描かれる。	－	－	黒褐色	暗褐色	
第 52 図 427	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線か	平行沈線を巡らせ、間に交互刺突が施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 52 図 428	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線 7 条・1.3 ㎝	口唇部付近に沈線を引き、沈線状に円形刺突文が施される。また、2 条一対の沈線で連弧文が描かれる。	－	－	褐灰色	－	
第 52 図 429	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	沈線で 3 重の連弧文が施される。連弧文の下部に沈線が巡る。	にぶい褐色	－	
第 52 図 430	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	3 条の沈線で連弧文が描かれる。	にぶい褐色	黒褐色	
第 52 図 431	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	沈線によって連弧文が描かれる。また、その下にも連弧文の一部が確認できる。	黒褐色	－	
第 52 図 432	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 R	平行沈線によって 3 重の連弧文が描かれる。	にぶい黄橙色	－	
第 52 図 433	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	2 条一対の沈線で連弧文を描き、波頂部から蛇行する沈線が垂下する。	にぶい褐色	黒褐色	
第 53 図 434	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	地文の上に幅 2.2 ㎝、8 条の櫛描条線が施される。さらに蛇行する沈線が加えられる。	にぶい褐色	－	
第 53 図 435	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線 9 条・1.6 ㎝	沈線を巡らせ、沈線上にさらに波状沈線を施す。	にぶい黄褐色	－	
第 53 図 436	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線 7 条 1.5 ㎝	2 条の沈線が巡る。	にぶい赤褐色	－	
第 53 図 437	連弧文 2 ～ 3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口縁部上部に 2 条の沈線が巡る。2 本の沈線で連弧文を描き、その下部に沈線が巡る。	－	－	灰黄褐色	－	
第 53 図 438	連弧文 2 ～ 3	深鉢	頸部～胴部	－	上部に 1 条以上、下部に 3 条一組の沈線を横位が巡る。	撚糸文 L	3 条一組の沈線を波状に施す。	灰黄褐色	－	
第 54 図 439	連弧文 2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線 6 条以上・1.1 ㎝	括れ部に 2 条一対の沈線が巡り、そこから沈線が垂下される。また、横位の沈線の上部には LR と思われる縄文がみられる。	灰黄褐色	－	
第 54 図 440	連弧文 2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線 7 条・1.4 ㎝	くびれ部に 3 条の沈線が巡る。	褐色	－	
第 54 図 441	連弧文 3	深鉢	口縁部	櫛描条線 9 条・1.7 ㎝	口唇部下部に 2 条の沈線が巡る。	－	－	暗褐色	－	
第 54 図 442	連弧文 3	深鉢	口縁部	櫛描条線 7 条・1.4 ㎝	口縁部上部に 2 条の沈線を巡らせ、そこから平行沈線を垂下させる。平行沈線の間に 4 条 1 組の連弧文が描かれる。	－	－	にぶい褐色	－	
第 54 図 443	連弧文 3	深鉢	口縁部	櫛描条線 8 条・1.6 ㎝	2 条一対の沈線で連弧文を描き、その下部に沈線が巡る。	－	－	灰黄褐色	－	
第 54 図 444	連弧文 3	深鉢	口縁部	撚糸文 R	－	－	－	黒褐色	－	
第 54 図 445	連弧文 3	深鉢	口縁部	櫛描条線 6 条・1.2 ㎝	沈線により連弧文が描かれようか。	－	－	黒褐色	－	
第 54 図 446	連弧文 3	深鉢	口縁部	羽状縄文 RL	2 条一対の沈線により連弧文が描かれる。	－	－	黒褐色	－	
第 54 図 447	連弧文 3	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	2 条一組の沈線による連弧文が施される。	にぶい褐色	－	
第 54 図 448	連弧文 3	深鉢	口縁部	櫛描条線 9 条・1.6 ㎝	口唇部付近に沈線が巡る。半円形の粘土を貼付し、そこから隆帯を垂下させる。隆帯の間には平行沈線で連弧文が描かれる。	－	－	にぶい黄褐色	－	

第 24 表　174 号住居跡出土土器一覧（15）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 54 図 449	連弧文 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線 9 条・1.6 ㎝	半円形の粘土を貼付し、そこから隆帯を垂下させる。隆帯の間には平行沈線で連弧文が描かれる。	にぶい黄褐色	－	
第 54 図 450	連弧文 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線 9 条・1.6 ㎝	隆帯を垂下させ、隆帯の間には平行沈線で連弧文が描かれる。	にぶい褐色	黒褐色	
第 54 図 451	称名寺か	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	沈線によって区画を作り、区画内は縄文が充填される。	黄灰色	浅黄色	

第 25 表　174 号住居跡出土土器一覧（16）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 69 図 1	阿玉台Ⅰ	深鉢	口縁部	－	1 列のにより「∩」字状の文様が施される。	－	－	橙色	－	
第 69 図 2	阿玉台Ⅰ～Ⅱ	深鉢	口縁部	－	ヒダ状圧痕が見られる。	－	－	橙色	－	
第 69 図 3	阿玉台Ⅲ～Ⅳ	深鉢	口縁部	－	口唇部直下に 2 列の三角押引文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 69 図 4	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯の両側に幅広押引文が施される。	にぶい赤褐色	－	
第 69 図 5	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯に沿って両側に幅広角押文が加えられる。また、隆帯が集合する部分に円形の粘土が貼付される。	褐色	－	
第 69 図 6	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯・沈線により区画され、区画内には幅広押引文、三叉文が施される。	明赤褐色	－	
第 69 図 7	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	三角形の区画を作り区画内を沈線で充填、隆帯上には綾杉状刺突文が施される。	橙色	－	
第 69 図 8	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	角押文による波状の文様が施される。	黒褐色	にぶい黄褐色	
第 69 図 9	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	橋状の把手が貼付され、両側から円形の穴があけられる。	黒褐色	－	
第 69 図 10	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯により区画を作り、区画内に蛇行する隆帯が貼付される。	黄橙色	－	
第 69 図 11	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	隆帯上に刻みを施す。その上から一部再び縄文を施文する。	橙色	－	
第 69 図 12	勝坂か	深鉢	底部	－	－	－	ミニチュアの土器の底部であろうか。	褐灰色	－	
第 69 図 13	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	無文の口縁部である。	－	－	にぶい黄褐色	黒色	
第 69 図 14	加曽利 E1～2	深鉢	頸部	－	－	－	2 本一対の隆帯が横位に貼付される。	にぶい橙色	－	
第 69 図 15	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	2 本の平行する隆帯が弧状に貼付され、1 本の隆帯が垂下する。	黒褐色	浅黄橙色	
第 69 図 16	加曽利 E2	浅鉢	肩部	－	－	－	隆帯が平行にが貼付される。	明黄褐色	－	
第 69 図 17	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	－	－	にぶい黄褐色	黒	
第 69 図 18	加曽利 E か	浅鉢	口縁部	－	全面に赤彩が施される。	－	－	黄灰色	－	
第 69 図 19	加曽利 E か	浅鉢	胴部	－	一部に赤彩が施される。	－	－	鈍い黄褐色～黄灰色	－	
第 69 図 20	加曽利 E か	深鉢	底部	－	－	－	－	明褐色	黒色	

第 26 表　176 号住居跡出土土器一覧

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 76 図 1	阿玉台Ⅱ～Ⅳ	深鉢	口縁部	－	上面に角押文が施される。	－	－	橙色	－	
第 76 図 2	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	隆帯を縦位に貼付し、頂部から波状に蛇行しながら垂下させる。刻み、交互刺突が加えられる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 76 図 3	勝坂 2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯上に押引文が施される。	にぶい褐色	－	
第 76 図 4	勝坂か	浅鉢	口縁部～底部	－	－	－	2 個もしくは 4 個 1 単位の突起がが作られる。	橙色	－	
第 76 図 5	勝坂 3	深鉢	口縁部～胴部	－	口縁部に沿って隆帯を巡らせ、波頂部に隆帯と沈線で渦巻文が描かれる。また、口縁部は右上からの斜位の沈線が充填される。一部文様が異なる。	－	2 本一対の隆帯によって三角形の区画を作り、渦巻文が施される。また、区画内は沈線で充填される。	橙色～赤色	－	
第 76 図 6	曽利Ⅰ～Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	沈線を地文とし隆帯が貼付される。	にぶい黄色～黒色	－	
第 76 図 7	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口縁部は無文で外側に大きく広がる。	－	－	暗灰色	－	
第 76 図 8	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口縁部は無文で外側に広がる。	－	－	にぶい黄色	－	
第 76 図 9	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	沈線により口縁部の内側から重弧文が施される。	－	－	橙色～黒色	－	
第 76 図 10	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	平行沈線により、口縁部の内側から重弧文を施される。	－	－	にぶい黄色	－	
第 76 図 11	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	平行沈線により、口縁部の内側から重弧文を施される。	－	－	暗褐色	－	
第 76 図 12	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	沈線により重弧文を描き、口深部から波状の隆帯を垂下させる。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 76 図 13	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	沈線により、口縁部の内側から重弧文が施される。また、口縁部の上部、頸部に波状の隆帯が貼付される。	－	－	黒褐色	－	
第 76 図 14	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	－	口唇部に突起が貼付される。口縁部の文様は沈線による重弧文状になろうか。	－	－	赤褐色	－	
第 76 図 15	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	胴部	単節斜縄文 RL	口唇部直下に僅かな無文帯を設け、隆帯により三角形の文様が貼付される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 76 図 16	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	口縁部	－	赤彩が施される。	－	－	灰黄色	－	
第 76 図 17	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	1 本隆帯が貼付される。	明黄褐色	－	
第 77 図 18	加曽利 E2	深鉢	底部付近	－	－	撚糸文 L	1 本隆帯が貼付される。	明黄褐色	オリーブ黒色	
第 77 図 19	加曽利 E2	深鉢	口縁部	複節斜縄文 RLR	RLR の複節斜縄文を地文とし、隆帯で渦巻文が貼付される。	－	－	褐灰色	にぶい黄橙色	
第 77 図 20	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文か L	沈線で同心円状の文様が描かれる。	－	－	にぶい褐色～褐灰色	－	
第 77 図 21	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	2 本の隆帯が平行に貼付される。	淡黄色	－	
第 77 図 22	加曽利 E2	深鉢	底部付近	－	－	単節斜縄文 LR	2 本の隆帯が平行に貼付される。	淡黄色	－	
第 77 図 23	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	口縁部～胴部	櫛描条線	炉 2 の炉体土器で上半部が埋設されていた。12 ㎝幅の櫛描条線が全体に施される。	－	－	橙色	－	炉体土器
第 77 図 24	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	櫛描条線を地文とし隆帯が貼付される。	明褐色	－	
第 77 図 25	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	－	横位の隆帯が巡り、その下部に弧状の沈線が加えられる。	浅黄色	－	
第 77 図 26	加曽利 E2 ～ 3	浅鉢	口縁部	－	赤彩が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 77 図 27	加曽利 E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	区画内が単節縄文で充填される。左側区画は斜行、右区画は縦に施される。	－	－	黒褐色	にぶい褐色	
第 77 図 28	加曽利 E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	楕円区画内が縄文で充填される。	－	－	暗赤褐色	－	
第 77 図 29	加曽利 E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口縁部に沿って 1 条の沈線を引き、その下部に沈線で二重の円、もしくは渦巻状の文様が描かれる。	－	－	黒褐色	－	
第 77 図 30	加曽利 E4	深鉢	口縁部	複節斜縄文 RLR	区画内が複節斜縄文で充填される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 77 図 31	加曽利 E4	深鉢	把手	－	橋状に貼付され、縄文が施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 77 図 32	加曽利 E か	浅鉢か	底部	－	－	－	－	暗灰黄色	－	
第 77 図 33	連弧文 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口唇部下の 3 条の平行沈線のうち上部 2 条の上にそれぞれ円形刺突が施される。3 条の沈線が垂下する。	－	－	褐灰色	－	

第 27 表　177 号住居跡出土土器一覧（1）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 77 図 34	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線	口唇部直下に平行な 2 条の沈線が引かれ、沈線の間に円形刺突が施される。2 条一対の沈線により連弧文が描かれる。	－	－	黄橙色	－	
第 77 図 35	連弧文 2	深鉢	胴部	単節斜縄文 RL	口唇部直下に円形刺突が施される。その下に沈線がひかれ、下の 1 条上に円形刺突が施される。	－	－	黒褐色	－	
第 77 図 36	連弧文 2	深鉢	口縁部	単節斜縄文か	口縁部上部に 2 条の沈線を巡らせ、その下部に 1 条の沈線で連弧文が描かれる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 77 図 37	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線	口唇部直下に口縁部と平行な沈線が 2 条引かれる。	－	－	明黄褐色～黒褐色	－	
第 77 図 38	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線	口唇部直下に僅かな無文帯があり、その下部に口縁部に平行な 1 条の沈線が引かれる。	－		明褐色	－	
第 78 図 39	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	横位の 3 条の沈線が巡り、その下部に 1 条の沈線による連弧文が描かれる。	橙色	－	
第 78 図 40	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	横位の 3 条の沈線が引かれる。	にぶい黄褐色	－	
第 78 図 41	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	横位の 3 条の沈線が巡り、その下部に連弧文が描かれる。	暗赤褐色	－	
第 78 図 42	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	1.0 ㎝幅の櫛描条線が施される。	暗褐色	－	

第 28 表　177 号住居跡出土土器一覧（2）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 86 図 1	阿玉台Ⅲ	深鉢	口縁部	－	口唇部に押引文、三角押引文が施される。	－	－	明褐色～黄灰色	にぶい黄橙色	
第 86 図 2	勝坂 1	深鉢	口縁部	－	隆帯によって三角形の区画を作り幅広押引文が施される。区画内は三角押引文、波状沈線が加えられる。	－	－	褐灰色	－	
第 86 図 3	勝坂 1 ～ 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、隆帯の両側に幅広押引文が施される。	黒褐色	－	
第 86 図 4	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作る。隆帯上、さらに隆帯にそって連続爪形文が充填される。	にぶい赤褐色	－	
第 86 図 5	勝坂 2 ～ 3	深鉢	口縁部	－	口唇部直下に幅広押引文が施される。半円状の隆帯が貼付され、隆帯に沿って幅広押引文が巡る。	－	－	褐色	－	
第 86 図 6	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	深く引かれた平行沈線に交互刺突、隆帯に交互刺突が施される。円形の粘土を貼付し縁に刻みが加えられる。	黒褐色	－	
第 86 図 7	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口縁部と頸部の境目付近を僅かに盛り上げ、その上に刻みが加えられる。	－	－	明黄褐色	－	
第 87 図 8	加曽利 E1	深鉢	口縁部～底部	－	隆帯で 3 単位の楕円形の区画が作られる。	単節斜縄文 LR	LR の単節斜縄文を地文とする。	橙色	－	
第 88 図 9	加曽利 E1	深鉢	口縁部～頸部	撚糸文 L	口縁部は波状になる部分と半円形に窪む部分が対になろうか。隆帯によって区画が作られ、また、渦巻状の文様や隆帯を縦位に貼付する区画もみられる。頸部は無文帯になる。	－	－	明褐色	－	
第 88 図 10	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	無文帯の下部に隆帯によって区画を作り、「∞」字状の 2 本の隆帯が貼付されようか。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 88 図 11	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	隆帯によって区画が作られる。区画中央に沈線で渦巻状の文様が描かれるが、外側にいくにつれて「コ」字状を呈する。	－	－	極暗褐色	－	
第 88 図 12	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって区画が作られる。区画の端に隆帯で渦巻文を貼付し、渦巻文から 2 本の隆帯が垂下する。	－	－	灰黄褐色	－	

第 29 表　178 号住居跡出土土器一覧（1）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 88 図 13	加曽利 E1	深鉢	口縁部	－	－	－	返しを貼付ける際、隆帯を貼付け補強している。隆帯によって区画を作り、区画内に縦位の沈線が充填される。	にぶい黄橙色	－	
第 88 図 14	加曽利 E1	深鉢	把手	－	隆帯で 4 つの円形の穴の開いた把手が付けられている。内側と外側には沈線により渦巻文が描かれる。	－	－	明黄褐色	－	
第 88 図 15	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	2 本の隆帯が弧状に貼付され、そこから 1 本の隆帯が垂下する。	明黄褐色	－	
第 88 図 16	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	平行な 2 本の隆帯と 2 本の隆帯による渦巻文が貼付される。	橙色	－	
第 88 図 17	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	平行な 2 本の隆体と蛇行する 1 本の隆帯が垂下される。	にぶい黄褐色	－	
第 89 図 18	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	口縁部	撚糸文 R	隆帯によって半円形の区画を作り、区画内は撚糸文が充填される。	－	－	赤褐色	－	
第 89 図 19	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって半円形の区画が作られようか。隆帯の頂点で渦巻文が描かれる。	－	－	暗褐色	－	
第 89 図 20	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口唇部直下に隆帯によって区画が作られる。	－	－	黒褐色	－	
第 89 図 21	加曽利 E1	深鉢	口縁部～頸部	撚糸文 R	隆帯によって区画を作り、区画内を撚糸文が充填される。隆帯が渦巻状、もしくは「∞」字状に貼付される。。	－	－	10YR3/3	－	
第 89 図 22	加曽利 E2	深鉢	口縁部	直前段反撚 LLR	2 本の隆帯が貼付され、中央に円形の刺突を施した文様が施される。円形の文様からは 2 本の隆帯がのびようか。	－	－	明褐色～黒褐色	－	
第 89 図 23	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	横位の隆帯を貼付し、そこから 1 本の隆帯を垂下させる。	黒褐色	－	
第 89 図 24	加曽利 E2	深鉢	胴部～底部	－	－	単節斜縄文 LR	1 本の隆帯、1 本の蛇行する隆帯、2 本の隆帯がそれぞれ垂下する。	明赤褐色	－	
第 89 図 25	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	2 本の隆帯が横位に巡り、そこから 2 本の平行な隆帯と 1 本の蛇行する隆帯が垂下する。	褐色	黒褐色	
第 89 図 26	加曽利 E2	深鉢	胴部～底部		－	撚糸文 L	2 本の平行な隆帯と蛇行する隆帯が交互に垂下し、その間に 1 本の隆帯が垂下する。	明赤褐色	黒色	
第 89 図 27	加曽利 E2	深鉢	胴部～底部		－	撚糸文 L	2 本の直線的な隆帯と蛇行する隆帯が交互に垂下し、これらの組み合わせが 4 単位確認できる。	明黄褐色	－	

第 30 表　178 号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 97 図 1	黒浜	深鉢	胴部	－	－	無節斜縄文 L	内側に化粧土が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 97 図 2	勝坂 3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口唇部から隆帯上に縄文が施される。区画内は隆帯にそって三角押文を施し、内側は三角押文が充填される。	－	－	黒褐色	褐色	
第 97 図 3	勝坂 3	深鉢	口縁部	－	口唇部下に無文部分を設ける。隆帯上に連続する刻みが施され、直下に縦位の沈線が引かれる。	－	－	橙色	－	
第 97 図 4	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、条線が充填される。「⊃、⊂」字状の沈線を組み合わせ文様が描かれる。	にぶい黄橙色	－	
第 97 図 5	曽利Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	沈線で反時計回りの渦巻文が描かれる。	明褐色～暗褐色	－	
第 97 図 6	曽利Ⅲ～Ⅳ	深鉢	胴部	－	－	－	縦の沈線で区画が作られ、区画内に刺突文を「V」字状にが充填される。	黄灰色	－	
第 97 図 7	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	橋状の把手が貼付される。隆帯により渦巻文、あるいは区画が作られようか。	－	－	黒褐色	－	
第 97 図 8	加曽利 E1	深鉢	口縁部	撚糸文 L	－	－	隆帯によって区画を作り、隆帯の接する頂点部に渦巻文様が作られる。	褐色	－	

第 31 表　179 号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 97 図 9	加曽利 E1	深鉢	把手	－	山状の把手で、中央に直径 3.3 ㎝程の孔が開く。頂上部から隆帯が伸び、沈線で渦巻文が描かれる。	－	－	黒褐色	－	
第 97 図 10	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 R	横位の隆帯の下部に、長方形状の区画が縦方向に作られる。	赤褐色～黒褐色	－	
第 97 図 11	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 R	長方形状の区画が縦方向に作られる。	赤褐色～黒褐色	－	
第 98 図 12	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	横位の隆帯を貼付し、そこから隆帯を垂下させる。	暗褐色	－	
第 98 図 13	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	横位の隆帯の下部に隆帯で渦巻文が貼付される。	黒褐色	明褐色	
第 98 図 14	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	底部	－	－	撚糸文 L	蛇行する隆帯と直線的な隆帯が底部付近まで垂下される。	橙色	黒褐色	
第 98 図 15	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	撚糸文 R	2 本一対の隆帯を垂下させる。	にぶい黄橙色	黒褐色色	
第 98 図 16	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	口唇部直下に僅かな無文部分があり、その下部に横位の隆帯が貼付される。	－	－	黒褐色	－	
第 98 図 17	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	2 本 1 組の弧状の隆帯と直線的な隆帯が貼付され、蛇行する隆帯が垂下する。	にぶい黄褐色	明褐色	
第 98 図 18	加曽利 E1	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	弧状に貼付けられた隆帯から 2 本の隆帯を垂下させる。	橙色	－	
第 98 図 19	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	2 本の隆帯を横位に貼付し、そこから隆帯を垂下させる。	黒褐色	－	
第 98 図 20	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	頸部	－	－	－	－	灰黄褐色	－	
第 98 図 21	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	横位の隆帯がされ貼付、その下部に隆帯で渦巻文が描かれる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 98 図 22	加曽利 E2	深鉢	口縁部	－	隆帯によって区画を作り、区画内は平行沈線が充填される。	－	－	暗褐色	－	
第 98 図 23	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	隆帯によって区画を作り、平行沈線が充填される。隆帯の頂点部で渦巻文が作られる。	－	－	暗褐色	－	
第 98 図 24	加曽利 E か	深鉢	口縁部	－	大きく開く無文の口縁部である。	－	－	暗褐色	－	

第 32 表　179 号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 104 図 1	阿玉台Ⅰ	深鉢	胴部	－	－	－	ヒダ状痕が施される。	明褐色	－	
第 104 図 2	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口唇部下部に連続爪形文が施される。	－	－	黒褐色	－	
第 104 図 3	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口唇部下部に幅広角押文が施され、その下に隆帯で区画が作られようか。区画内には幅広角押文がみえる。	－	－	褐灰色	－	
第 104 図 4	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	1 列の連続した刻みが施される。	にぶい黄褐色	－	
第 104 図 5	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	1 本の隆帯が貼付される。	にぶい褐色	－	
第 104 図 6	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	1 列の連続した刻みが施される。	橙色	－	
第 104 図 7	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって三角形と思われる区画が作られる。	にぶい黄褐色	－	
第 104 図 8	阿玉台Ⅰ ～Ⅱか	深鉢	底部	－	－	－	－	灰褐色	－	
第 104 図 9	阿玉台Ⅲ	深鉢	突起	－	－	－	隆帯が「⊂」字状に貼付される。	にぶい黄褐色	－	
第 104 図 10	阿玉台Ⅲ	深鉢	口縁部	－	口唇部に隆帯を貼付し、下部には 2 列の三角押文が施される。「C」字状の突起が作られる。	－	－	黒褐色	－	
第 104 図 11	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、両脇に押引文が 2 列が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 104 図 12	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、片側に幅広角引文が施される。隣接して幅広角押文で区画が作られる。	にぶい黄褐色	－	
第 104 図 13	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、両側に角押文をが施される。	褐色	－	

第 33 表　180 号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 104 図 14	阿玉台Ⅲ～Ⅳ	深鉢	口縁部	－	口縁部内側に２列の角押文、口縁部直下に１列の角押文が施される。	－	－	褐色	－	
第 104 図 15	阿玉台Ⅲ～Ⅳ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、両端に２列の連続刺突文が施される。また、区画内には蛇行する沈線が引かれる。	にぶい黄褐色	－	
第 104 図 16	勝坂１	深鉢	胴部	－	口縁部付近の突起の両端に２列の連続爪形文を施し、口唇部直下にも２列の連続爪形文が見られる。	－	－	赤褐色	－	
第 104 図 17	勝坂１	深鉢	胴部	－	－	－	１本の隆帯を貼付し、両側に連続爪形文が施される。	赤褐色	－	
第 104 図 18	勝坂１	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯の一端が接するように貼付し、隆帯の両側に連続爪形文が施される。	暗褐色	－	
第 104 図 19	勝坂２	深鉢	口縁部	－	「く」字状に口縁部が外側に屈曲する。	－	－	明赤褐色	－	
第 104 図 20	勝坂２	深鉢	口縁部～頸部	－	炉体土器であろうか。隆帯によって半円状の区画を作り、隆帯に沿って１列ないし２列の三角押引文が施される。口縁部を４等分した内の３カ所に突起が貼付される。また頸部との境には１本の隆帯を横位に貼付し、隆帯の上側に2列、下側に１列の三角押引文が施される。	－	渦巻状の隆帯、直線的な隆帯が貼付され、隆体に沿って１列ないし２列の三角押引文が施される。渦巻状の隆帯の先端には「U」字状もしくは「∩」字状の粘土帯が貼付される。	赤褐色	－	
第 105 図 21	勝坂２	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、両側に幅広角押文が施される。区画内に三角押文が巡る。	灰黄褐色	－	
第 105 図 22	勝坂２	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線により区画され、連続爪形文が充填される。	赤褐色	－	
第 105 図 23	勝坂２	深鉢	胴部	－	－	－	角押文が波状に施される。	赤褐色	－	
第 105 図 24	勝坂２～３	深鉢	口縁部	－	両面に文様がつけられる。内側は蛇行する隆帯が貼付され、隆帯に沿って三角押文が施される。外側は口唇部に沿って貼付された隆帯により区画が作られ、内側に三角押文が加えられる。	－	－	黒褐色	－	
第 105 図 25	勝坂２～３	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯により三角形の区画が作られ、隆帯の両側に連続爪形文が施される。	橙色	－	
第 105 図 26	勝坂２～３	深鉢	胴部	－	－	－	３条の平行沈線が引かれ、隆帯状になった部分に連続爪形文が施される。	褐色	－	

第 34 表　180 号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 111 図 1	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口唇部から外側に貼付された隆帯に沿って幅広角押文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 111 図 2	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	三叉文状に隆帯を貼付し、隆帯の間に幅広角押文が施される。	橙色	－	
第 111 図 3	阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	－	２列の連続する刺突文で楕円形の区画が作られる。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 111 図 4	阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を三叉文状に貼付し、沈線、または２列の連続刺突文が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 111 図 5	阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯により楕円形の区画が作られる。	灰黄褐色	－	
第 111 図 6	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	連続爪形文を２列施される。	灰黄褐色	－	
第 111 図 7	勝坂１～２	深鉢	口縁部	－	隆帯を楕円状に貼付し区画が作られる。区画内は隆帯に沿って角押文をが施される。	－	－	にぶい褐色	－	
第 111 図 8	勝坂２	深鉢	口縁部	－	隆帯により楕円形の区画を作り、連続爪形文、平行沈線を巡らせる。区画中央付近には三叉文が描かれる。	－	－	橙色	－	
第 111 図 9	勝坂２	深鉢	口縁部	－	幅広角押文と波状沈線によって区画が作られようか。	－	－	褐色	－	
第 111 図 10	勝坂２	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯にそって幅広角押文が施される。胴部には沈線２条と波状の沈線２本が交互に引かれる。	褐色	－	

第 35 表　181 号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 111 図 11	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって三角形と思われる区画を作り、隆体に沿って幅広押引文が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 111 図 12	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	口縁部縁に沿って隆体が貼付され区画が作られる。隆帯上には連続爪形文が施される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 112 図 13	勝坂 2	深鉢	口縁部	－	口縁部は強く内湾し、無文部分の下部には隆帯が貼付される。	－	－	にぶい褐色	－	
第 112 図 14	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、平行沈線が充填される。	にぶい黄褐色	－	
第 112 図 15	勝坂 2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって三角形、あるいは四角形の区画を作り、平行沈線が充填される。隆帯の頂点部分に刻みが施される。	にぶい黄褐色	－	
第 112 図 16	勝坂か	深鉢	底部	－	－	－	－	明赤褐色	－	

第 36 表　181 号住居跡出土土器一覧（2）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 116 図 1	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	蛇行した隆帯を貼付し、隆帯の内側に横位の沈線が充填される。	褐色	にぶい黄褐色	
第 116 図 2	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	隆帯によって区画を作り、区画内は縄文が充填される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 116 図 3	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文か	隆帯によって区画を作り、区画内は縄文でが充填される。	にぶい褐色	－	
第 116 図 4	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	平行沈線を垂下させる。	褐灰色	にぶい黄褐色	
第 116 図 5	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	2 本の平行な沈線を垂下する。	褐色	－	
第 116 図 6	連弧文 2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口唇部を折り返した部分に沈線を巡らせる。	－	－	黒褐色	－	
第 116 図 7	連弧文 2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	口縁部上部に 2 条一対の沈線を巡らせ、沈線の間に交互刺突が加えられる。	－	－	灰黄褐色	－	

第 37 表　182 号住居跡出土土器一覧

挿図番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 118 図 1	650D	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	複節斜縄文 LRL	1 条の沈線を横位に巡らせ、そこから 2 条一対の沈線を垂下させる。	にぶい褐色	－	
第 118 図 2	650D	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	複節斜縄文 RLR	2 条一対の沈線を垂下させ、一部間の縄文を磨り消す。	褐色	－	
第 118 図 3	650D	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	無節斜縄文 L	2 条の沈線を垂下させ沈線の間の縄文を磨り消す。	橙色	にぶい黄橙色	
第 118 図 4	650D	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	沈線を垂下させ、縄文を磨り消す。	にぶい褐色	－	
第 118 図 5	650D	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	2 条の沈線を垂下させ沈線の間の縄文を磨消す。	灰黄褐色	－	
第 118 図 6	650D	加曽利 E か	深鉢	底部	－	－	－	平底の底部である。	橙色	－	
第 120 図 1	651D	加曽利 E	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	蛇行する隆帯を垂下させる。	にぶい褐色	－	
第 122 図 1	652D	曽利Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	1 本の波状の隆帯が横位に巡る。	暗褐色	－	
第 122 図 2	652D	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	2 本一対の隆帯を垂下させる。	黒褐色	褐色	
第 122 図 3	652D	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	－	沈線を垂下させ、間を磨り消す。	にぶい黄褐色	－	
第 122 図 4	652D	連弧文 2	深鉢	口縁部	櫛描条線	口唇部付近に 2 条一対の沈線を巡らせ、その下部に沈線で連弧文が描かれる。	－	－	黒褐色	－	
第 122 図 5	652D	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	2 条一対の沈線で連弧文が描かれる。	暗褐色	－	

第 38 表　土坑・ピット出土土器一覧（1）

挿図番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 124 図 1	654D	阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、隆帯の両脇に幅広角押文が加えられる。	にぶい橙色	－	
第 126 図 1	655D	加曽利 E か	深鉢	口縁部	撚糸文 L	ミニチュアの口縁部であろうか。口縁部上部に狭い無文帯を設ける。	－	－	にぶい褐色	－	
第 128 図 1	656D	加曽利 E か	深鉢	口縁部～底部	櫛描条線	ミニチュアであろうか。	櫛描条線	－	にぶい褐色	－	
第 130 図 1	657D	加曽利 E か	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	－	橙色	－	
第 130 図 2	657D	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	2 条一対の沈線で連弧文が描かれる。	にぶい黄褐色	－	
第 130 図 3	657D	連弧文 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	くびれ部に沈線が巡る。胴部に 2 条一対の沈線で連弧文を描くが、一部連弧文の波頂部が長く伸び半円形の文様を描く。	橙色	－	
第 132 図 1	659D	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口縁部上部に角押文を施し、下部に波状の沈線を加える。また、口縁部の内側にも 1 列の角押文が施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 132 図 2	659D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	押引文が横位に施される。	黒褐色	にぶい赤褐色	
第 132 図 3	659D	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	2 条一対の沈線を垂下させ、その間の縄文を磨り消す。	にぶい黄橙色	－	
第 134 図 1	660D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	三叉文状の文様になろうか。	灰黄褐色	－	
第 134 図 2	660D	勝坂 3	深鉢	口縁部	－	上面を平らに成形し、内側に三角形に張り出す。また、外側に先端を折り返した様に成形される。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 134 図 3	660D	加曽利 E2	深鉢	突起	－	四角形を呈し、上面は平らで円形に成形される。上面に沈線で渦巻文が施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 134 図 4	660D	加曽利 E か	浅鉢	口縁部	－	赤彩を施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 137 図 1	665D	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	口縁部上部に 2 列の角押文を施す。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 137 図 2	665D	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	隆帯を 1 本横位に巡らせる。隆帯の上から縄文が施される。	褐灰色	にぶい赤褐色	
第 137 図 3	665D	加曽利 E1～2	浅鉢	肩部	－	横位の沈線が引かれる。	－	－	にぶい黄橙色	灰褐色	
第 137 図 4	665D	加曽利 E1～2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯を横位に巡らせる。	灰黄褐色	－	
第 137 図 5	665D	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	2 本一対の隆帯を弧状に貼付し、そこから隆帯を垂下させる。	橙色	－	
第 137 図 6	665D	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	沈線か	2 本一対の隆帯を垂下させる。	橙色	－	
第 139 図 1	667D	加曽利 E か	深鉢	胴部	－	－	－	－	黒色	灰黄褐色	
第 139 図 2	667D	加曽利 E か	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	－	灰褐色	－	
第 141 図 1	668D	勝坂 3	深鉢	胴部	－	上面を平らに成形する。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 141 図 2	668D	勝坂 3	深鉢	胴部	－	上面を平らに成形し、先端を内側へ折り返す。	－	－	灰黄褐色	－	
第 141 図 3	668D	勝坂 3	有孔鍔付	胴部	－	－	－	鍔部分の下部に 2 条一対の沈線を巡らせ、沈線の間に「U」字状の沈線と「∩」字状の沈線を組み合わせた文様を施す。また、円形の孔が開いた装飾がとれたと思われる痕が残る。	橙色	－	
第 141 図 4	668D	勝坂 3	有孔鍔付	胴部	－	－	－	2 条一対の沈線によって幅 5.0 ㎝程度の蛇行する文様を描く。	灰黄褐色	－	
第 141 図 5	668D	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	隆帯を横位に貼付し、隆帯上に交互刺突を加える。沈線で三角形状の文様を描き、先端は渦巻文になろうか。沈線の下部は縄文を磨り消している。	灰黄褐色	－	
第 141 図 6	668D	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	口縁部に沿ってやや凹みがみられる。	－	－	暗褐色	－	
第 141 図 7	668D	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	横位の沈線が巡る。	灰黄褐色	－	
第 135 図 1	669D	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	沈線を垂下させ、間の縄文を磨り消す。	黒褐色	－	
第 143 図 1	670D	加曽利 E か	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文か	－	黒褐色	－	

第 39 表　土坑・ピット出土土器一覧（2）

挿図番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 144 図 1	671D	加曽利 E か	不明	不明	―	―	単節斜縄文か	―	灰褐色	―	
第 146 図 1	672D	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	―	無文の大きく開く口縁部である。	―	―	にぶい黄褐色	黒色	
第 146 図 2	672D	加曽利 E2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文か	2 本一対の隆帯を横位に巡らせ、そこから隆帯を垂下させる。	橙色	―	
第 146 図 3	672D	加曽利 E2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	2 条一対の沈線を垂下させる。	橙色	―	
第 148 図 1	673D	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	―	―	―	隆帯を貼付し、その上に隆帯によって楕円形の区画が作られる。区画内は縦位の沈線が充填される。	暗褐色	―	
第 150 図 1	674D	連弧文 2	深鉢	胴部	―	―	―	2 条一対の沈線が横位に巡る。	にぶい赤褐色	―	
第 154 図 1	675D	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	口縁部～胴部	―	隆帯によって渦巻文が施される。	単節斜縄文か	―	灰黄褐色	―	
第 156 図 1	676D	勝坂か	有孔鍔付	口縁部	―	口縁部の下部に 0.6 ㎝程度の孔が開けられる。	―	―	にぶい黄橙色	―	
第 156 図 2	676D	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	―	―	櫛描条線	蛇行する隆帯を垂下させる。	にぶい黄褐色	―	
第 156 図 3	676D	連弧文 2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	2 条の沈線を横位に巡らせ、その上部に沈線で連弧文が描かれる。	灰褐色	―	
第 156 図 4	676D	連弧文 2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	3 条一組の沈線で弧状の文様を描き、そこから沈線を垂下させる。	明赤褐色	にぶい黄橙色	
第 156 図 5	676D	連弧文 2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	3 条一組の沈線で連弧文が描かれる。	黒褐色	―	
第 158 図 1	678D	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口縁部に無文帯を設けるが、上部に 1 条の沈線が巡る。	―	―	にぶい黄橙色	―	
第 158 図 2	678D	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	胴部	―	―	櫛描条線	櫛描条線で蛇行する文様を描く。	にぶい黄橙色	―	
第 160 図 1	680D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	―	―	―	爪形文状の刻みを横位に施す。	黒褐色	―	
第 160 図 2	680D	加曽利 E3	深鉢	胴部	―	―	無節斜縄文 L	沈線を縦位に引き、間の縄文を磨り消す。	にぶい黄橙色	―	
第 161 図 1	681D	勝坂 2	深鉢	胴部	―	―	―	平行沈線によって区画を作り、区画内に三角形状の文様を施す。	褐色	―	
第 161 図 2	681D	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	―	―	―	沈線によって渦巻文を作出する。	灰黄褐色	―	
第 161 図 3	681D	加曽利 E3	深鉢	胴部	―	―	単節斜縄文か	沈線によって区画を作り、また、沈線を垂下させる。	にぶい橙色	―	
第 163 図 1	682D	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	―	口縁部上部に刻みが施される。	―	―	灰黄褐色	―	
第 163 図 2	682D	勝坂 1 ～ 2	深鉢	胴部	―	―	―	三角押文を縦位に施す。	黒褐色	―	
第 163 図 3	682D	勝坂 2	深鉢	胴部	―	中心に孔の開いた円形の粘土を貼付する。	―	―	黒褐色	―	
第 163 図 4	682D	勝坂 2	深鉢	胴部	―	―	―	隆帯を縦位に貼付し、隆帯上に刻みが加えられる。横位の沈線を引き、間に短い縦位の沈線を施す。また、下部に縦位の三角押文を加える。	灰褐色	黒褐色	
第 163 図 5	682D	勝坂 3	深鉢	胴部	―	―	―	沈線を巡らせ、その下部に沈線を交互に施す。	灰黄褐色	―	
第 163 図 6	682D	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	―	口縁部上部に交互刺突を施す。	―	―	黒褐色	―	
第 163 図 7	682D	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	―	口唇部は三角形に成形され、口縁部は無文である。	―	―	明赤褐色	―	
第 163 図 8	682D	加曽利 E か	深鉢	底部	―	―	―	平底の底部である。	にぶい褐色	黒褐色	
第 165 図 1	684D	勝坂 2	深鉢	口縁部	―	隆帯によって区画を作り、隆帯に沿って幅広角押文が施される。その内部にも押引文が加えられる。	―	―	にぶい赤褐色	―	
第 165 図 2	684D	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	―	口縁部と胴部の境に横位の隆帯が巡る。	―	―	橙色	―	
第 165 図 3	684D	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	―	―	―	左上から斜位に沈線を引き、その上に 2 本一対の隆帯巡る。さらにその上に右上から斜位に隆帯が貼付される。	黒色	―	
第 165 図 4	684D	加曽利 E2	深鉢	胴部	―	―	単節斜縄文 LR	2 本一対の隆帯を垂下させる。	にぶい黄褐色	黒褐色	
第 165 図 5	684D	加曽利 E2	深鉢	把手	―	三又文状でそれぞれの中央に沈線が引かれる。	―	―	灰黄褐色	―	
第 167 図 1	686D	加曽利 E か	深鉢	胴部	―	―	単節斜縄文 LR	―	にぶい褐色	黒色	

第 40 表　土坑・ピット出土土器一覧（3）

挿図番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 169 図 1	687D	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L	隆帯を横位に貼付し、区画を作る。	にぶい黄橙色	－	
第 173 図 1	691D	勝坂か	深鉢	胴部	－	－	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 151 図 1	693D	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を横位、縦位に貼付し、隆帯上には刻みが加えられる。隆帯によって作られた区画内は沈線が充填される。	黒褐色	－	
第 151 図 2	693D	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	－	－	－	縦位の平行沈線を集合させ、上部に横位の平行沈線が巡る。また、縦位の平行沈線上には波状の隆帯が貼付される。	灰黄褐色	－	
第 152 図 3	693D	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	撚糸文 L か	隆帯を横位に貼付し、区画を作る。	にぶい黄橙色	－	
第 152 図 4	693D	加曽利 E か	深鉢	突起	－	直径 2.6 ㎝、高さ 3.7 ㎝を測る円筒形に成形される。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 152 図 5	693D	加曽利 E か	深鉢	底部	－	－	－	平底の底部である。	にぶい橙色	－	
第 177 図 1	43P	勝坂 3	深鉢	胴部	－	－	－	横位の隆帯を貼付し、隆帯に沿って押引文が施される。	にぶい黄褐色	－	
第 179 図 1	55P	加曽利 E3	深鉢	胴部	－		単節斜縄文か	縦位の沈線を垂下させる。	褐灰色	－	
第 181 図 1	56P・57P	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	－	－	－	横位の隆帯が貼付される。	橙色	黒褐色	
第 181 図 2	56P・57P	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、隆帯上に刻みが加わえられる。また、隆帯に沿って上部に 1 列の角押文、下部に 2 列の三角押文が施される。	にぶい褐色	－	
第 183 図 1	69P	勝坂 2	深鉢	胴部	－	隆帯を三叉文状に貼付し、隆帯に沿って 1 列の三角押文と 1 列の角押文が施される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 185 図 1	71P	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	－	山形に成形される。	－	－	黒色	－	
第 185 図 2	71P	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯によって区画を作り、隆帯の外側に沿って角引文が施される。	にぶい褐色	灰褐色	
第 189 図 1	89P	阿玉台	深鉢	底部	－	－	－	平底の底部である。	にぶい赤褐色	－	
第 191 図 1	98P	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	蛇行する隆帯を貼付する。	にぶい赤褐色	－	
第 195 図 1	102P	曽利か	深鉢	胴部	－	－	－	沈線で「X」字状の文様が描かれる。また、縦位の沈線もみられる。	にぶい赤褐色	－	
第 197 図 1	104P	加曽利 E2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	2 条一対の沈線を垂下させる。	にぶい褐色	黒褐色	
第 198 図 1	105P	加曽利 E3 ～ 4	深鉢	口縁部	－	無文帯を設け、口縁部下部に横位の沈線が巡る。	－	－	橙色	－	
第 202 図 1	109P	勝坂 2	深鉢	胴部	－	－	－	隆帯を貼付し、隆帯に沿って角押文が施される。	橙色	－	

第 41 表　土坑・ピット出土土器一覧（4）

挿図番号	遺構名	器種	形状	長さ	幅	重さ	外面色調	内面色調	備考
第 12 図 11	90J	土製円盤	円形	4.2 ㎝	4.1 ㎝	24.2g	にぶい黄褐色	黒褐色	
第 55 図 452	174J	土器片錘	隅丸長方形	9.1 ㎝	6.6 ㎝	93.5g	にぶい黄橙色	褐灰色	
第 55 図 453	174J	土器片錘	隅丸長方形	8.1 ㎝	5.8 ㎝	77.1g	にぶい黄褐色	－	
第 55 図 454	174J	土器片錘	楕円形	5.3 ㎝	4.0 ㎝	23.0g	黒褐色	－	
第 55 図 455	174J	土器片錘	楕円形	4.5 ㎝	3.3 ㎝	17.7g	にぶい黄橙色	－	
第 55 図 456	174J	土器片錘	四角形	4.9 ㎝	4.0 ㎝	20.1g	にぶい黄褐色	黒褐色	
第 55 図 457	174J	土器片錘	楕円形	4.4 ㎝	3.4 ㎝	16.3g	にぶい黄褐色	－	
第 55 図 458	174J	土器片錘	不整円形	3.6 ㎝	3.3 ㎝	15.6g	にぶい褐色	褐灰色	
第 55 図 459	174J	土器片錘	不整円形	4.2 ㎝	3.5 ㎝	19.5g	にぶい黄橙色	－	
第 55 図 460	174J	土器片錘	楕円形か	(3.0) ㎝	3.4 ㎝	15.4g	灰黄褐色	－	
第 55 図 461	174J	土器片錘	不整円形	3.1 ㎝	3.0 ㎝	12.6g	にぶい黄橙色	－	
第 55 図 462	174J	土器片錘	不整円形	3.9 ㎝	3.1 ㎝	20.8g	にぶい黄褐色	－	
第 55 図 463	174J	土器片錘	四角形	3.7 ㎝	3.7 ㎝	13.4g	にぶい黄色	－	
第 55 図 464	174J	土器片錘	楕円形	3.7 ㎝	3.1 ㎝	11.4g	にぶい黄橙色	－	
第 55 図 465	174J	土器片錘	楕円形	3.9 ㎝	3.1 ㎝	14.8g	灰黄褐色	－	
第 55 図 466	174J	土製円盤	四角形	5.3 ㎝	5.1 ㎝	42.1g	黒褐色	－	
第 55 図 467	174J	土製円盤	四角形	4.7 ㎝	4.2 ㎝	29.2g	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
第 55 図 468	174J	土製円盤	－	4.7 ㎝	(2.4) ㎝	14.8g	灰黄褐色	－	
第 55 図 469	174J	土製円盤	不整円形	3.7 ㎝	3.2 ㎝	14.0g	にぶい黄橙色	－	
第 55 図 470	174J	土製円盤	不整円形	3.6 ㎝	3.5 ㎝	19.8g	にぶい褐色	黒褐色	
第 55 図 471	174J	土製円盤	不整円形	3.7 ㎝	3.6 ㎝	17.9g	にぶい黄褐色	－	
第 55 図 472	174J	土製円盤	不整円形	3.6 ㎝	3.4 ㎝	11.6g	褐灰色	－	
第 55 図 473	174J	土製円盤	不整円形	3.1 ㎝	3.1 ㎝	11.4g	橙色	黒褐色	

第 42 表　出土土製品一覧（1）

挿図番号	遺構名	器種	形状	長さ	幅	重さ	外面色調	内面色調	備考
第 55 図 474	174J	土製円盤	不整円形	3.0 ㎝	2.5 ㎝	13.6g	にぶい橙色	―	
第 55 図 475	174J	土製円盤	円形	3.0 ㎝	2.6 ㎝	9.9g	にぶい黄橙色	灰黄色	
第 55 図 476	174J	土製円盤	不整形	6.5 ㎝	5.0 ㎝	33.4g	にぶい橙色	にぶい黄褐色	
第 55 図 477	174J	土製円盤	不整形	5.3 ㎝	4.0 ㎝	23.0g	灰褐色	―	
第 55 図 478	174J	土製円盤	―	5.8 ㎝	(3.5) ㎝	20.9g	にぶい黄橙色	―	
第 55 図 479	174J	土製円盤	楕円形か	(3.6) ㎝	3.8 ㎝	20.5g	橙色	灰黄褐色	
第 55 図 480	174J	土製円盤	不整円形	3.8 ㎝	3.4 ㎝	19.3g	浅黄色	―	
第 55 図 481	174J	土製円盤	楕円形か	5.3 ㎝	(3.0) ㎝	21.7g	にぶい黄橙色	―	
第 55 図 482	174J	土製円盤	不整円形	4.0 ㎝	3.8 ㎝	16.6g	にぶい黄橙色	―	
第 55 図 483	174J	土製円盤	不整円形	4.3 ㎝	3.6 ㎝	16.2g	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
第 55 図 484	174J	土製円盤	不整円形	3.8 ㎝	3.6 ㎝	15.8g	にぶい黄色	―	
第 55 図 485	174J	土製円盤	楕円形	3.8 ㎝	3.2 ㎝	13.5g	にぶい黄橙色	―	
第 55 図 486	174J	土製円盤	不整円形	3.4 ㎝	3.6 ㎝	11.0g	にぶい黄橙色	―	
第 55 図 487	174J	土製円盤	不整円形	3.5 ㎝	2.8 ㎝	12.8g	にぶい褐色	黒褐色	
第 55 図 488	174J	土製円盤	―	4.2 ㎝	(2.3) ㎝	11.0g	にぶい黄橙色	―	
第 55 図 489	174J	土製円盤	楕円形	(2.8) ㎝	3.7 ㎝	9.6g	黄灰色	灰黄褐色	
第 55 図 490	174J	土製円盤	不整円形	3.3 ㎝	2.8 ㎝	10.7g	にぶい橙色	―	
第 55 図 491	174J	土製円盤	不整円形	3.6 ㎝	3.1 ㎝	15.4g	灰黄褐色	―	
第 55 図 492	174J	土製円盤	不整円形	3.1 ㎝	2.7 ㎝	9.0g	橙色	灰黄褐色	
第 55 図 493	174J	土製円盤	楕円形か	(3.2) ㎝	2.8 ㎝	11.3g	橙色	黒褐色	
第 55 図 494	174J	土製円盤	不整円形	3.2 ㎝	2.6 ㎝	6.6g	にぶい橙色	―	
第 55 図 495	174J	土製円盤	楕円形	2.7 ㎝	2.4 ㎝	10.5g	にぶい褐色	―	
第 55 図 496	174J	土製円盤	不整円形	3.0 ㎝	3.0 ㎝	8.7g	灰黄褐色	―	
第 55 図 497	174J	土製円盤	不整円形	3.0 ㎝	(2.1) ㎝	6.2g	にぶい褐色	―	
第 55 図 498	174J	土製円盤	―	3.1 ㎝	(2.4) ㎝	7.9g	黒褐色	―	
第 55 図 499	174J	土製円盤	楕円形	3.0 ㎝	2.9 ㎝	8.3g	にぶい褐色	―	
第 55 図 500	174J	土製円盤	円形	2.3 ㎝	2.3 ㎝	5.2g	にぶい褐色	―	
第 55 図 501	174J	土製円盤	楕円形か	(2.9) ㎝	2.5 ㎝	5.0g	にぶい黄橙色	―	
第 55 図 502	174J	不明土製品	「⊃」字状	(3.5) ㎝	1.7 ㎝	9.0g	にぶい黄褐色	―	
第 55 図 503	174J	不明土製品	「⊃」字状	2.0 ㎝	0.8 ㎝	1.6g	にぶい褐色	―	
第 69 図 21	176JP19	土器片錘	隅丸長方形	4.4 ㎝	3.0 ㎝	22.5g	明赤褐色	黒色	
第 69 図 22	176JP19	土器片錘	隅丸長方形	2.9 ㎝	2.1 ㎝	7.8g	灰黄褐色	黒色	
第 78 図 43	177J	土器片錘	不整円形	3.3 ㎝	2.7 ㎝	11.6g	にぶい褐	にぶい黄橙色	
第 98 図 25	179J	土器片錘	円形	2.9 ㎝	2.8 ㎝	7.9g	鈍い黄褐色	―	
第 105 図 27	180J	粘土塊	不整形	―	―	42.5g	にぶい黄褐色	灰褐色	
第 112 図 17	181J	土器片錘	不整円形	2.4 ㎝	2.4 ㎝	42.5g	にぶい黄褐色	灰褐色	
第 126 図 2	655D	土製円盤	不整円形	4.5 ㎝	4.4 ㎝	23.2g	にぶい黄橙色	―	
第 141 図 8	668D	土製円盤	不整円形	5.8 ㎝	5.3 ㎝	45.3g	にぶい橙色	黒褐色	
第 163 図 9	682D	土製円盤	円形	5.0 ㎝	4.7 ㎝	26.9g	にぶい褐色	―	
第 181 図 3	56P・57P	土器片錘	楕円形	4.3 ㎝	2.8 ㎝	15.6g	にぶい赤褐色	―	
第 193 図 1	99P	土製円盤	不整円形	3.9 ㎝	3.4 ㎝	15.5g	にぶい赤褐色	黒褐色	

第 43 表　出土土製品一覧（２）

挿図番号	遺構名	器種	石材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	大分類	備考
第 12 図 12	90J	打製石斧	凝灰岩	61.2	44.4	15.1	50.3	打製石斧系	
第 12 図 13	90J	打製石斧	ホルンフェルス	50.0	56.0	21.2	66.7	打製石斧系	
第 12 図 14	90J	石皿	安山岩	159.3	110.5	46.2	1098.3	礫石器系	扁平石皿 / 稜敲打（破損部）
第 56 図 504	174J	石鏃	ガラス質黒色安山岩	28.5	15.0	3.7	1.1	剥片石器系	無茎凹基
第 56 図 505	174J	石鏃	黒曜石	8.5	6.8	2.1	0.1	剥片石器系	脚部
第 56 図 506	174J	石鏃未製品	黒曜石	15.8	16.2	4.5	1.2	剥片石器系	
第 56 図 507	174J	石錐	チャート	39.9	41.7	11.8	17.1	剥片石器系	
第 56 図 508	174J	楔形石器	チャート	47.5	45.2	17.6	34.2	剥片石器系	エッジ × エッジ
第 56 図 509	174J	楔形石器	黒曜石	16.8	14.0	6.1	1.1	剥片石器系	エッジ × エッジ
第 56 図 510	174J	楔形石器	黒曜石	15.7	8.6	7.9	0.8	剥片石器系	エッジ × エッジ
第 56 図 511	174J	楔形石器	黒曜石	10.6	6.8	5.0	0.4	剥片石器系	平坦 × エッジ
第 56 図 512	174J	楔形石器	黒曜石	15.8	6.1	3.6	0.4	剥片石器系	エッジ × エッジ
第 56 図 513	174J	楔形石器	黒曜石	22.3	13.8	12.6	3.4	剥片石器系	平坦 × エッジ
第 56 図 514	174J	楔形石器	黒曜石	20.3	10.5	8.5	1.5	剥片石器系	エッジ × エッジ
第 56 図 515	174J	楔形石器	黒曜石	13.7	9.6	6.3	0.5	剥片石器系	エッジ × エッジ
第 56 図 516	174J	楔形石器	黒曜石	16.9	26.9	10.6	3.1	剥片石器系	エッジ × エッジ
第 56 図 517	174J	楔形石器	黒曜石	15.3	9.1	6.1	0.5	剥片石器系	
第 56 図 518	174J	楔形石器	黒曜石	20.5	9.7	7.2	1.1	剥片石器系	平 × エッジ
第 56 図 519	174J	両極剥片	黒曜石	16.8	11.0	3.1	0.5	剥片石器系	
第 56 図 520	174J	二次的剥離のある剥片	黒曜石	14.2	15.9	4.7	1.1	剥片石器系	
第 56 図 521	174J	二次的剥離のある剥片	黒曜石	15.5	15.8	4.9	1.2	剥片石器系	
第 56 図 522	174J	二次的剥離のある剥片	チャート	29.7	40.8	7.6	8.8	剥片石器系	
第 56 図 523	174J	二次的剥離のある剥片	チャート	27.1	27.3	8.3	7.6	剥片石器系	スクレイパー状

第 44 表　出土石器一覧（１）

挿図番号	遺構名	器種	石材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	大分類	備考
第 56 図 524	174J	不規則剥離のある剥片	黒曜石	17.5	19.0	6.9	1.7	剥片石器系	
第 56 図 525	174J	不規則剥離のある剥片	黒曜石	39.3	10.3	6.7	2.5	剥片石器系	
第 56 図 526	174J	不規則剥離のある剥片	黒曜石	14.2	15.6	3.0	0.5	剥片石器系	
第 56 図 527	174J	不規則剥離のある剥片	硬質頁岩	27.6	39.6	6.3	5.8	剥片石器系	
第 56 図 528	174J	剥片	チャート	34.7	24.2	7.3	6.6	剥片石器系	
第 56 図 529	174J	剥片	チャート	35.8	51.1	10.4	13.8	剥片石器系	
第 56 図 530	174J	石核	黒曜石	24.3	25.0	11.6	4.7	剥片石器系	
第 56 図 531	174J	石核	チャート	55.8	45.2	28.0	56.4	剥片石器系	
第 56 図 532	174J	石核	チャート	45.7	60.6	19.0	42.5	剥片石器系	剥片素材
第 56 図 533	174J	打製石斧	凝灰岩	119.2	43.8	17.1	131.0	打製石斧系	短冊形（側面敲打か）
第 56 図 534	174J	打製石斧	ホルンフェルス	80.5	32.4	9.5	24.0	打製石斧系	短冊形
第 56 図 535	174J	打製石斧	砂岩	84.0	47.1	17.5	77.0	打製石斧系	短冊形
第 56 図 536	174J	打製石斧	砂岩	108.0	51.6	17.1	131.7	打製石斧系	短冊形
第 56 図 537	174J	打製石斧	砂岩	86.4	30.8	12.4	45.4	打製石斧系	短冊形
第 56 図 538	174J	打製石斧	砂岩	108.0	41.9	19.3	93.8	打製石斧系	撥形
第 56 図 539	174J	打製石斧	ホルンフェルス	99.2	41.5	19.4	97.5	打製石斧系	短冊形
第 56 図 540	174J	打製石斧	ホルンフェルス	87.9	45.1	19.2	102.8	打製石斧系	撥形
第 56 図 541	174J	打製石斧	ホルンフェルス	113.4	50.5	24.5	152.5	打製石斧系	撥形
第 56 図 542	174J	打製石斧	ホルンフェルス	97.7	46.9	15.2	79.1	打製石斧系	撥形
第 56 図 543	174J	打製石斧	ホルンフェルス	69.7	33.6	10.7	34.0	打製石斧系	短冊形
第 56 図 544	174J	打製石斧	ホルンフェルス	76.1	43.4	19.4	78.5	打製石斧系	短冊形
第 56 図 545	174J	打製石斧	砂岩	83.7	55.3	16.4	98.0	打製石斧系	撥形
第 56 図 546	174J	打製石斧	ホルンフェルス	76.6	37.3	16.6	43.7	打製石斧系	短冊形
第 56 図 547	174J	打製石斧	ホルンフェルス	108.9	46.2	18.4	120.1	打製石斧系	短冊形
第 56 図 548	174J	打製石斧	ホルンフェルス	112.3	41.0	22.0	112.7	打製石斧系	短冊形
第 56 図 549	174J	打製石斧	砂岩	114.3	49.3	21.2	138.8	打製石斧系	撥形
第 56 図 550	174J	打製石斧	砂岩	89.8	45.8	18.5	82.2	打製石斧系	短冊形
第 56 図 551	174J	打製石斧	ホルンフェルス	91.8	41.8	14.0	66.7	打製石斧系	短冊形
第 56 図 552	174J	打製石斧	砂岩	98.0	46.6	23.9	144.4	打製石斧系	短冊形
第 56 図 553	174J	打製石斧	ホルンフェルス	103.4	36.8	22.4	98.5	打製石斧系	短冊形
第 56 図 554	174J	打製石斧	ホルンフェルス	85.5	42.7	12.6	51.2	打製石斧系	短冊形
第 56 図 555	174J	打製石斧	砂岩	109.3	59.7	17.5	133.8	打製石斧系	撥形
第 56 図 556	174J	打製石斧	砂岩	107.9	45.7	26.0	126.4	打製石斧系	撥形
第 57 図 557	174J	打製石斧	ホルンフェルス	125.0	51.1	17.9	129.4	打製石斧系	撥形
第 57 図 558	174J	打製石斧	ホルンフェルス	101.4	47.2	12.8	81.3	打製石斧系	短冊形
第 57 図 559	174J	打製石斧	ホルンフェルス	93.7	45.2	22.3	100.6	打製石斧系	撥形
第 57 図 560	174J	打製石斧	砂岩	105.3	63.6	16.9	98.8	打製石斧系	撥形
第 57 図 561	174J	打製石斧	ホルンフェルス	98.8	48.5	10.4	56.1	打製石斧系	短冊形
第 57 図 562	174J	打製石斧	砂岩	94.0	54.8	17.9	110.1	打製石斧系	撥形
第 57 図 563	174J	打製石斧	砂岩	88.5	57.3	23.2	100.3	打製石斧系	撥形
第 57 図 564	174J	打製石斧	ホルンフェルス	93.9	49.8	13.2	68.3	打製石斧系	撥形
第 57 図 565	174J	打製石斧	砂岩	85.4	57.0	23.9	146.6	打製石斧系	撥形
第 57 図 566	174J	打製石斧	砂岩	99.5	65.7	26.8	186.2	打製石斧系	撥形
第 57 図 567	174J	打製石斧	砂岩	94.6	63.0	17.9	103.0	打製石斧系	撥形
第 57 図 568	174J	打製石斧	砂岩	79.4	44.9	14.5	50.7	打製石斧系	両側縁抉り
第 57 図 569	174J	打製石斧	砂岩	71.4	57.7	10.5	53.9	打製石斧系	撥形
第 57 図 570	174J	打製石斧	砂岩	87.2	48.7	18.9	99.4	打製石斧系	不整形
第 57 図 571	174J	打製石斧	砂岩	103.2	49.4	20.5	95.8	打製石斧系	撥形
第 57 図 572	174J	打製石斧	凝灰岩	76.8	37.5	11.9	33.6	打製石斧系	形態不明
第 57 図 573	174J	打製石斧	ホルンフェルス	61.1	50.7	13.7	55.7	打製石斧系	形態不明
第 57 図 574	174J	打製石斧	砂岩	59.7	49.8	18.3	54.0	打製石斧系	形態不明
第 57 図 575	174J	打製石斧	砂岩	53.2	47.9	18.9	60.3	打製石斧系	形態不明
第 57 図 576	174J	打製石斧	ホルンフェルス	46.7	39.4	13.1	28.1	打製石斧系	形態不明
第 57 図 577	174J	打製石斧	砂岩	47.0	45.9	19.3	35.0	打製石斧系	形態不明
第 57 図 578	174J	打製石斧	砂岩	30.3	40.7	10.7	18.8	打製石斧系	破片
第 57 図 579	174J	打製石斧	砂岩	43.2	40.4	15.0	35.5	打製石斧系	形態不明
第 57 図 580	174J	打製石斧	砂岩	46.2	41.0	18.5	47.6	打製石斧系	形態不明
第 57 図 581	174J	打製石斧	砂岩	44.1	26.9	11.4	17.4	打製石斧系	形態不明（小型）
第 57 図 582	174J	打製石斧	砂岩	64.9	32.7	13.9	41.0	打製石斧系	形態不明（破損）
第 57 図 583	174J	打製石斧	砂岩	52.2	35.5	14.5	28.4	打製石斧系	形態不明
第 57 図 584	174J	打製石斧	砂岩	61.8	42.7	17.1	41.1	打製石斧系	形態不明
第 57 図 585	174J	打製石斧	砂岩	51.9	50.3	17.1	57.1	打製石斧系	撥形
第 57 図 586	174J	打製石斧	砂岩	79.2	44.7	19.2	60.7	打製石斧系	短冊形
第 57 図 587	174J	打製石斧	砂岩	48.9	35.1	18.4	35.8	打製石斧系	形態不明
第 57 図 588	174J	打製石斧	砂岩	53.9	46.2	17.5	43.3	打製石斧系	形態不明
第 57 図 589	174J	打製石斧	砂岩	64.0	44.3	16.7	56.6	打製石斧系	片縁抉り
第 57 図 590	174J	打製石斧	砂岩	48.6	74.4	18.0	83.1	打製石斧系	破片
第 57 図 591	174J	打製石斧	砂岩	53.1	53.0	16.6	51.2	打製石斧系	形態不明
第 57 図 592	174J	打製石斧	ホルンフェルス	40.9	57.2	13.8	34.2	打製石斧系	破片
第 57 図 593	174J	打製石斧	砂岩	44.0	59.3	15.2	36.0	打製石斧系	形態不明
第 57 図 594	174J	打製石斧	砂岩	38.1	50.0	15.0	36.9	打製石斧系	形態不明

第 45 表　出土石器一覧（２）

挿図番号	遺構名	器種	石材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	大分類	備考
第 57 図 595	174J	打製石斧	砂岩	30.3	47.3	12.6	19.3	打製石斧系	破片
第 57 図 596	174J	打製石斧	砂岩	82.2	51.9	14.7	78.9	打製石斧系	短冊形
第 57 図 597	174J	打製石斧	砂岩	90.5	62.4	16.4	131.3	打製石斧系	短冊形
第 57 図 598	174J	打製石斧	凝灰岩	69.8	42.9	16.9	62.7	打製石斧系	短冊形
第 57 図 599	174J	打製石斧	ホルンフェルス	77.2	55.2	12.4	66.7	打製石斧系	撥形
第 57 図 600	174J	打製石斧	ホルンフェルス	53.7	55.7	14.8	45.2	打製石斧系	形態不明
第 57 図 601	174J	打製石斧	砂岩	74.4	47.5	16.5	59.8	打製石斧系	撥形
第 57 図 602	174J	打製石斧	ホルンフェルス	63.2	39.4	22.4	53.7	打製石斧系	短冊形
第 57 図 603	174J	打製石斧	砂岩	66.9	71.6	17.0	95.7	打製石斧系	撥形
第 57 図 604	174J	打製石斧	砂岩	79.1	66.0	23.3	147.9	打製石斧系	撥形
第 57 図 605	174J	打製石斧	ホルンフェルス	59.7	45.6	12.4	39.9	打製石斧系	不整形（撥形）
第 57 図 606	174J	打製石斧	砂岩	49.9	42.7	16.1	47.1	打製石斧系	短冊形
第 57 図 607	174J	打製石斧	砂岩	42.5	43.5	16.3	31.6	打製石斧系	短冊形
第 57 図 608	174J	打製石斧	砂岩	38.6	46.9	19.6	31.3	打製石斧系	形態不明
第 57 図 609	174J	打製石斧	砂岩	39.0	44.3	14.5	29.4	打製石斧系	形態不明
第 57 図 610	174J	打製石斧	砂岩	26.8	35.0	9.8	9.6	打製石斧系	小型打製石斧：破片
第 57 図 611	174J	打製石斧	砂岩	17.1	61.9	11.6	13.2	打製石斧系	破片
第 58 図 612	174J	横刃形石器	頁岩	53.3	93.1	13.8	67.5	打製石斧系	
第 58 図 613	174J	横刃形石器	ホルンフェルス	42.3	59.1	7.9	26.3	打製石斧系	
第 58 図 614	174J	横刃形石器	砂岩	54.1	87.6	13.9	68.0	打製石斧系	
第 58 図 615	174J	二次的剥離のある剥片	砂岩	62.4	48.4	14.1	54.9	打製石斧系	スクレイパー状
第 58 図 616	174J	二次的剥離のある剥片	ホルンフェルス	60.5	52.7	17.8	69.6	打製石斧系	
第 58 図 617	174J	二次的剥離のある剥片	ホルンフェルス	101.5	73.4	57.4	353.3	打製石斧系	
第 58 図 618	174J	二次的剥離のある剥片	砂岩	59.5	36.6	22.0	39.8	打製石斧系	
第 58 図 619	174J	二次的剥離のある剥片	ホルンフェルス	84.1	63.8	20.8	125.8	打製石斧系	
第 58 図 620	174J	二次的剥離のある剥片	ホルンフェルス	38.3	49.1	16.6	33.8	打製石斧系	
第 58 図 621	174J	二次的剥離のある剥片	砂岩	80.2	39.5	25.6	66.2	打製石斧系	側縁両極敲打
第 58 図 622	174J	二次的剥離のある剥片	ホルンフェルス	79.7	57.0	24.9	101.2	打製石斧系	
第 58 図 623	174J	不規則剥離のある剥片	ホルンフェルス	51.2	78.5	10.7	42.3	打製石斧系	
第 58 図 624	174J	二次的剥離のある剥片	ホルンフェルス	49.9	66.0	9.6	31.2	打製石斧系	
第 58 図 625	174J	剥片	ホルンフェルス	68.0	73.8	18.2	86.0	打製石斧系	
第 58 図 626	174J	剥片	ホルンフェルス	59.6	67.4	13.1	26.3	打製石斧系	
第 58 図 627	174J	不規則剥離のある剥片	ホルンフェルス	51.7	48.6	13.6	39.8	打製石斧系	
第 58 図 628	174J	剥片	砂岩	45.8	62.9	12.5	35.2	打製石斧系	
第 58 図 629	174J	剥片	砂岩	22.7	51.7	8.7	9.7	打製石斧系	
第 58 図 630	174J	磨製石斧	緑色岩	97.4	46.2	26.0	169.1	磨製石斧系	不整形
第 58 図 631	174J	磨製石斧	砂岩	49.6	51.5	28.4	92.4	磨製石斧系	乳棒状（折れ面に若干の稜敲打）
第 58 図 632	174J	調整剥片	ホルンフェルス	37.6	44.1	7.0	12.1	磨製石斧系	磨製石斧刃部再生
第 58 図 633	174J	剥片	細粒凝灰岩	27.3	55.2	6.5	10.7	磨製石斧系	磨製石斧再生剥片
第 58 図 634	174J	磨製石斧	砂岩	25.9	38.3	31.8	30.9	磨製石斧系	基部破片（乳棒状）
第 58 図 635	174J	砕片	凝灰岩	44.1	33.2	10.2	13.2	磨製石斧系	磨製石斧破片（原形不明）
第 58 図 636	174J	砕片	凝灰岩	37.7	16.2	33.6	19.7	磨製石斧系	磨製石斧破片（乳棒状）
第 58 図 637	174J	磨石	閃緑岩	58.8	50.2	23.5	114.7	礫石器系	石鹸状（薄手）
第 58 図 638	174J	磨石	安山岩	61.9	80.6	33.1	216.8	礫石器系	石鹸状（薄手）
第 58 図 639	174J	磨石	安山岩	49.3	82.9	50.8	211.8	礫石器系	被熱・剥落
第 58 図 640	174J	磨石	砂岩	64.3	59.7	30.7	173.7	礫石器系	石鹸状
第 58 図 641	174J	磨石	ハンレイ岩	28.1	67.1	36.8	90.5	礫石器系	石鹸状
第 58 図 642	174J	磨石	安山岩	30.1	36.7	23.5	22.3	礫石器系	形態不明
第 58 図 643	174J	磨石	安山岩	55.3	39.8	44.4	113.3	礫石器系	
第 58 図 644	174J	磨石	安山岩	40.7	50.3	38.6	111.6	礫石器系	凹付（複数 / 両面）
第 58 図 645	174J	敲石	砂岩	153.7	63.2	46.8	479.8	礫石器系	端部敲打（両端）
第 58 図 646	174J	敲石	砂岩	135.0	50.5	35.8	343.7	礫石器系	側面敲打（特殊磨石）
第 58 図 647	174J	敲石	凝灰岩	118.2	45.2	30.5	220.5	礫石器系	側面敲打（部分）= 横敲き
第 58 図 648	174J	敲石	凝灰岩	163.0	48.7	20.7	190.3	礫石器系	側面敲打：右，側縁稜敲打：左
第 58 図 649	174J	敲石	砂岩	146.5	45.6	28.4	285.5	礫石器系	側面敲打（細かい）
第 58 図 650	174J	敲石	砂岩	127.2	41.3	32.2	272.8	礫石器系	側面敲打 + 端部敲打
第 58 図 651	174J	敲石	砂岩	129.4	38.0	26.5	169.0	礫石器系	側面敲打：粗い敲打（剥離を伴う）
第 58 図 652	174J	敲石	緑泥片岩	114.6	32.9	26.1	112.0	片岩製石器系	側面敲打 + 上下端敲打 + 磨痕　磨製石斧転用
第 58 図 653	174J	敲石	砂岩	120.2	53.2	24.2	177.9	礫石器系	側縁敲打（稜敲打）+ 端部敲打
第 58 図 654	174J	敲石	砂岩	126.8	62.1	23.4	228.4	礫石器系	側面敲打（両側面）
第 58 図 655	174J	敲石	砂岩	123.4	74.4	31.2	354.0	礫石器系	側面敲打
第 58 図 656	174J	敲石	砂岩	136.6	62.6	37.9	491.5	礫石器系	側面敲打（特殊磨石状）

第 46 表　出土石器一覧（３）

挿図番号	遺構名	器種	石材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	大分類	備考
第 58 図 657	174J	敲石	砂岩	87.1	50.2	40.0	203.7	礫石器系	側面敲打＋端部敲打
第 58 図 658	174J	敲石	砂岩	96.2	52.8	32.1	224.6	礫石器系	側面敲打＋稜敲打
第 58 図 659	174J	敲石	ホルンフェルス	126.9	63.8	35.3	518.7	礫石器系	側面敲打＋端部敲打＋稜敲打（破損部）
第 59 図 660	174J	敲石	ホルンフェルス	113.7	59.2	29.3	258.5	礫石器系	側面敲打（特殊磨石状）
第 59 図 661	174J	敲石	砂岩	121.1	42.4	23.0	201.4	礫石器系	側面敲打（特殊磨石状）
第 59 図 662	174J	敲石	片状砂岩	128.9	58.1	31.8	234.6	礫石器系	両側面敲打＋稜敲打（打製石斧未製品か）
第 59 図 663	174J	敲石	ホルンフェルス	86.5	60.9	23.6	136.6	礫石器系	側縁稜敲打（打製石斧未製品か）
第 59 図 664	174J	敲石	砂岩	109.7	47.7	25.6	177.2	礫石器系	側面敲打（部分）
第 59 図 665	174J	敲石	砂岩	110.8	54.6	24.3	167.0	礫石器系	稜敲打（破損面）
第 59 図 666	174J	敲石	砂岩	54.9	52.1	21.1	65.5	礫石器系	側面敲打
第 59 図 667	174J	敲石	砂岩	84.0	44.6	23.2	145.6	礫石器系	側面敲打（粗）
第 59 図 668	174J	敲石	砂岩	70.3	41.5	23.7	102.4	礫石器系	側面敲打
第 59 図 669	174J	敲石	砂岩	70.2	48.8	26.3	171.7	礫石器系	側面敲打（特磨状）
第 59 図 670	174J	敲石	チャート	49.8	64.0	36.9	145.1	礫石器系	側面敲打＋端部面敲打
第 59 図 671	174J	敲石	砂岩	100.6	89.2	38.2	447.7	礫石器系	側面敲打（特磨）＋稜敲打（折れ）
第 59 図 672	174J	敲石	砂岩	30.4	49.2	19.3	24.5	礫石器系	側面敲打
第 59 図 673	174J	敲石	凝灰岩	53.8	36.1	17.3	44.6	礫石器系	側縁敲打（粗い：剥離を伴う）
第 59 図 674	174J	敲石	砂岩	49.1	48.5	28.9	107.0	礫石器系	側面敲打（特殊磨石状）
第 59 図 675	174J	敲石	砂岩	37.7	38.9	22.8	55.4	礫石器系	側面敲打（特殊磨石状）
第 59 図 676	174J	敲石	チャート	107.8	46.5	46.6	323.0	礫石器系	端部敲打＋スタンプ状
第 59 図 677	174J	敲石	砂岩	99.7	40.9	35.6	223.6	礫石器系	側面敲打（SM）＋端部敲打（スタンプ状）＋稜敲打（折れ）
第 59 図 678	174J	敲石	砂岩	58.4	25.1	21.9	41.9	礫石器系	端部敲打（稜）＋側面敲打（散漫）
第 59 図 679	174J	敲石	砂岩	78.8	38.8	41.9	163.5	礫石器系	稜敲打（折れ）＋スタンプ状
第 59 図 680	174J	敲石	凝灰岩	72.0	42.8	32.7	170.8	礫石器系	側面敲打（特磨）
第 59 図 681	174J	敲石	砂岩	71.2	44.9	26.9	110.4	礫石器系	側面敲打
第 59 図 682	174J	敲石	砂岩	101.4	32.4	27.0	110.5	礫石器系	側面敲打（細かい）
第 59 図 683	174J	敲石	砂岩	96.4	31.1	27.5	92.9	礫石器系	側面敲打＋端部敲打
第 59 図 684	174J	敲石	砂岩	89.6	55.8	22.6	149.8	礫石器系	側縁稜敲打
第 59 図 685	174J	敲石	砂岩	66.4	42.8	30.1	122.4	礫石器系	側面敲打（特磨状）
第 59 図 686	174J	敲石	砂岩	69.4	44.1	31.1	139.0	礫石器系	側面敲打
第 59 図 687	174J	敲石	砂岩	82.0	43.4	26.7	98.8	礫石器系	側面敲打（部分）
第 59 図 688	174J	敲石	砂岩	104.6	31.0	31.3	119.4	礫石器系	側縁稜敲打（細）
第 59 図 689	174J	敲石	砂岩	100.4	42.0	35.5	184.6	礫石器系	稜敲打：折れ面
第 59 図 690	174J	敲石	砂岩	79.9	39.7	31.2	125.5	礫石器系	端部敲打
第 59 図 691	174J	敲石	砂岩	74.6	34.4	24.9	65.8	礫石器系	端部敲打＋稜敲打（折れ）
第 59 図 692	174J	敲石	砂岩	71.0	46.9	36.4	132.9	礫石器系	端部敲打（希薄）
第 59 図 693	174J	敲石	砂岩	44.7	36.1	28.0	47.7	礫石器系	稜敲打
第 59 図 694	174J	敲石	砂岩	53.6	34.4	33.2	93.3	礫石器系	側縁稜敲打
第 59 図 695	174J	敲石	砂岩	53.2	25.7	21.8	41.6	礫石器系	側縁稜敲打
第 59 図 696	174J	敲石	チャート	59.7	42.0	38.4	102.4	礫石器系	端部面敲打
第 59 図 697	174J	敲石	砂岩	61.0	26.2	29.0	54.9	礫石器系	端部敲打
第 59 図 698	174J	敲石	砂岩	72.0	46.8	36.5	136.7	礫石器系	端部敲打＋稜敲打（破損面）
第 59 図 699	174J	敲石	砂岩	68.3	39.0	41.6	86.1	礫石器系	端部敲打
第 59 図 700	174J	敲石	砂岩	50.0	63.6	23.9	102.9	礫石器系	端部敲打＋稜敲打（折れ面）
第 59 図 701	174J	敲石	ホルンフェルス	85.7	68.6	31.3	298.6	礫石器系	端部：スタンプ状＋側面敲打＋全面痘痕状
第 59 図 702	174J	敲石	砂岩	100.2	56.2	24.1	188.0	礫石器系	側面敲打＋稜敲打
第 59 図 703	174J	敲石	砂岩	72.2	49.9	30.3	124.5	礫石器系	側面敲打（特殊磨石状）
第 59 図 704	174J	敲石	砂岩	79.4	51.6	28.6	149.1	礫石器系	側面敲打
第 59 図 705	174J	敲石	砂岩	62.9	36.6	15.2	33.6	礫石器系	側面敲打（細かい）
第 59 図 706	174J	敲石	安山岩	67.7	60.8	44.9	219.2	礫石器系	稜敲打（折れ面）
第 59 図 707	174J	敲石	チャート	92.2	51.3	30.4	184.5	礫石器系	端部敲打＋側縁敲打＋稜敲打（折れ）
第 59 図 708	174J	敲石	砂岩	94.9	52.1	32.3	197.1	礫石器系	側面敲打
第 60 図 709	174J	敲石	砂岩	82.3	57.8	24.2	84.6	礫石器系	側縁稜敲打
第 60 図 710	174J	敲石	砂岩	63.7	54.5	44.5	195.7	礫石器系	側縁稜敲打＋稜敲打（折れ）
第 60 図 711	174J	敲石	砂岩	118.2	86.9	31.5	351.4	礫石器系	側縁稜敲打＋端部稜敲打
第 60 図 712	174J	敲石	砂岩	141.3	86.5	43.6	587.2	礫石器系	稜敲打（破損面）
第 60 図 713	174J	敲石	砂岩	106.9	83.3	75.6	710.8	礫石器系	稜敲打
第 60 図 714	174J	敲石	砂岩	101.1	48.4	33.4	228.9	礫石器系	端部敲打／稜敲打
第 60 図 715	174J	敲石	砂岩	54.3	27.9	26.5	41.5	礫石器系	稜敲打（折れ：側面）
第 60 図 716	174J	敲石	砂岩	57.3	54.8	19.1	94.9	礫石器系	端部敲打（磨製石斧転用）
第 60 図 717	174J	敲石	緑色岩	60.6	38.1	30.2	106.0	礫石器系	端部敲打＋稜敲打（折れ）＋側面敲打（細）磨製石斧転用
第 60 図 718	174J	敲石	砂岩	48.9	48.8	33.2	129.7	礫石器系	稜敲打（折れ面）　磨製石斧転用
第 60 図 719	174J	敲石	凝灰岩	69.9	45.7	33.4	127.4	礫石器系	端部（スタンプ状）＋側面（極細）　磨製石斧転用
第 60 図 720	174J	敲石	砂岩	96.6	37.4	27.0	158.1	礫石器系	乳棒状磨製石斧転用：側面敲打（細）　磨製石斧転用
第 60 図 721	174J	砥石	凝灰岩	127.4	53.0	22.7	199.7	礫石器系	表面（広い凹状）

第 47 表　出土石器一覧（４）

挿図番号	遺構名	器種	石材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	大分類	備考
第 60 図 722	174J	砥石	砂岩	41.1	42.2	24.3	51.6	礫石器系	両面
第 60 図 723	174J	石皿	閃緑岩	234.1	199.3	51.2	3843.3	礫石器系	扁平石皿 / 裏面に凹み(多孔)
第 60 図 724	174J	石皿	安山岩	54.2	49.5	50.2	94.4	礫石器系	破片（多孔質）
第 60 図 725	174J	石皿	安山岩	51.1	47.6	40.7	77.0	礫石器系	破片（多孔質）
第 60 図 726	174J	軽石	安山岩質火山弾	82.6	58.3	65.0	49.4	礫石器系	中央やや凹み
第 60 図 727	174J	軽石	軽石（流紋岩系？）	48.9	37.5	51.8	13.4	礫石器系	
第 60 図 728	174J	凹石	砂岩	62.1	53.5	24.7	101.7	礫石器系	表面（平坦面に広く浅い椀状凹）
第 60 図 729	174J	線刻礫	砂岩	76.8	53.7	19.0	94.3	礫石器系	石製品か
第 60 図 730	174J	凹石	結晶片岩	54.2	56.4	17.6	65.2	片岩製石器系	片岩製石器
第 60 図 731	174J	片岩製石器	緑泥片岩	98.3	41.8	17.0	104.0	片岩製石器系	打製石斧状：側縁の一部に両縁とも抉り
第 60 図 732	174J	片岩製石器	結晶片岩	64.3	39.0	12.5	36.7	片岩製石器系	打製石斧状
第 60 図 733	174J	片岩製石器	結晶片岩	67.1	38.7	13.9	57.2	片岩製石器系	敲石状：側面に敲打痕に似る痕跡
第 60 図 734	174J	片岩製石器	緑泥片岩	242.9	95.5	26.9	737.6	片岩製石器系	砥石状
第 60 図 735	174J	片岩製石器	緑泥片岩	183.4	99.5	23.9	695.2	片岩製石器系	敲石状痕跡
第 60 図 736	174J	石皿	緑泥片岩	82.1	104.9	27.4	362.3	片岩製石器系	表：皿，裏：砥
第 60 図 737	174J	片岩製石器	緑泥片岩	91.2	37.4	9.1	42.7	片岩製石器系	打製石斧状
第 60 図 738	174J	片岩製石器	緑泥片岩	95.2	54.9	15.2	116.0	片岩製石器系	打製石斧状
第 60 図 739	174J	片岩製石器	緑泥片岩	113.3	36.4	15.8	65.1	片岩製石器系	側面敲打状：棒状
第 69 図 23	176J	楔形石器	黒曜石	11.5	14.8	4.5	0.8	剥片石器系	
第 69 図 24	176J	不規則剥離のある剥片	チャート	48.0	32.2	10.0	12.3	剥片石器系	
第 69 図 25	176J	打製石斧	ホルンフェルス	97.0	45.1	22.7	105.8	打製石斧系	
第 69 図 26	176J	打製石斧	砂岩	87.0	33.4	14.7	55.7	打製石斧系	短冊形
第 69 図 27	176J	打製石斧	砂岩	93.7	69.4	15.8	111.5	打製石斧系	撥形
第 69 図 28	176J	打製石斧	砂岩	60.2	38.2	14.0	33.7	打製石斧系	
第 69 図 29	176J	打製石斧	ホルンフェルス	34.2	30.8	10.9	12.2	打製石斧系	形態不明（裂片）
第 69 図 30	176J	打製石斧	ホルンフェルス	43.1	50.4	25.0	42.1	打製石斧系	形態不明（裂片）
第 69 図 31	176J	横刃形石器	砂岩	80.0	103.8	24.7	201.4	打製石斧系	
第 69 図 32	176J	磨製石斧	凝灰岩	68.3	38.5	32.1	74.1	磨製石斧系	端部面敲打 + 若干の稜敲打（破損面）
第 69 図 33	176J	敲石	砂岩	154.2	80.2	33.9	644.1	礫石器系	側面敲打 + 端部部分敲打
第 69 図 34	176J	敲石	砂岩	124.4	55.0	25.5	156.6	礫石器系	側縁稜敲打（両側：打製石斧未製品？）+ 端部稜敲打
第 69 図 35	176J	敲石	砂質片岩	109.1	54.8	28.4	191.0	礫石器系	側面敲打 + 側縁稜敲打 + 端部稜敲打
第 69 図 36	176J	敲石	砂岩	87.7	68.1	15.9	147.7	礫石器系	側縁稜敲打 + 端部稜敲打
第 69 図 37	176J	敲石	砂岩	71.9	53.1	29.5	153.5	礫石器系	部分敲打
第 69 図 38	176J	砥石	砂岩	53.8	42.7	32.3	78.4	礫石器系	破片
第 69 図 39	176J	片岩製石器	緑泥片岩	72.0	34.6	14.6	50.5	片岩製石器系	打製石斧状
第 69 図 40	176J	凹石	緑泥片岩	124.5	97.8	29.1	418.9	片岩製石器系	円錐状凹み：回転系
第 78 図 44	177J	楔形石器	チャート	29.0	21.2	8.5	6.9	剥片石器系	石鏃未製品か
第 78 図 45	177J	打製石斧	ホルンフェルス	108.2	42.2	10.9	54.4	打製石斧系	
第 78 図 46	177J	打製石斧	砂岩	95.2	53.9	15.2	75.6	打製石斧系	
第 78 図 47	177J	打製石斧	ホルンフェルス	91.9	48.3	12.9	69.0	打製石斧系	撥形
第 78 図 48	177J	打製石斧	砂岩	83.0	54.4	18.3[	96.2	打製石斧系	
第 78 図 49	177J	打製石斧	緑泥片岩	81.4	35.4	7.4	32.9	打製石斧系	短冊形
第 78 図 50	177J	打製石斧	ホルンフェルス	73.7	22.7	8.2	20.5	打製石斧系	小型
第 78 図 51	177J	打製石斧	砂岩	50.4	41.5	21.5	51.7	打製石斧系	形態不明
第 78 図 52	177J	打製石斧	ホルンフェルス	28.4	50.9	16.1	27.2	打製石斧系	形態不明
第 78 図 53	177J	打製石斧調整剥片	砂岩	19.0	44.4	6.2	4.9	打製石斧系	
第 78 図 54	177J	打製石斧調整剥片	砂岩	29.1	25.5	7.7	4.9	打製石斧系	
第 78 図 55	177J	打製石斧調整剥片	砂岩	62.7	38.1	10.2	26.6	打製石斧系	
第 78 図 56	177J	敲石	砂岩	100.8	47.6	23.7	138.8	礫石器系	側面敲打
第 78 図 57	177J	磨製石斧	凝灰岩	113.0	44.0	39.4	233.9	磨製石斧系	
第 78 図 58	177J	敲石	砂岩	109.3	30.6	45.3	187.1	礫石器系	稜敲打
第 78 図 59	177J	敲石	砂岩	82.3	39.9	31.2	131.6	礫石器系	端部敲打 / 稜敲打
第 78 図 60	177J	敲石	砂岩	79.3	36.1	36.9	124.3	礫石器系	稜敲打 / 端部敲打
第 78 図 61	177J	敲石	砂岩	63.7	46.4	36.0	186.3	礫石器系	側面敲打
第 78 図 62	177J	石皿	砂岩	109.4	110.5	81.9	738.0	礫石器系	
第 78 図 63	177J	石皿	砂岩	53.4	40.2	55.5	157.9	礫石器系	
第 90 図 28	178J	楔形石器	黒曜石	11.0	9.0	2.7	0.2	剥片石器系	
第 90 図 29	178J	打製石斧	ホルンフェルス	82.5	36.9	14.2	54.5	打製石斧系	短冊形
第 90 図 30	178J	打製石斧	ホルンフェルス	86.7	37.7	20.8	70.6	打製石斧系	短冊形
第 90 図 31	178J	打製石斧	ホルンフェルス	79.5	48.5	21.9	77.9	打製石斧系	
第 90 図 32	178J	打製石斧	ホルンフェルス	37.9	37.3	12.4	20.9	打製石斧系	
第 90 図 33	178J	磨製石斧	凝灰岩	61.2	49.6	24.6	80.1	磨製石斧系	刃部片
第 90 図 34	178J	敲石	砂岩	158.6	47.0	30.4	210.4	礫石器系	側面敲打
第 90 図 35	178J	敲石	砂岩	103.7	39.6	26.3	123.8	礫石器系	縁辺敲打（側縁、破損面）
第 90 図 36	178J	敲石	砂岩	78.9	54.8	27.4	139.4	礫石器系	側面敲打（特殊磨石状）
第 90 図 37	178J	敲石	砂岩	60.0	45.3	27.9	92.8	礫石器系	側面敲打 / 稜敲打

第 48 表　出土石器一覧（５）

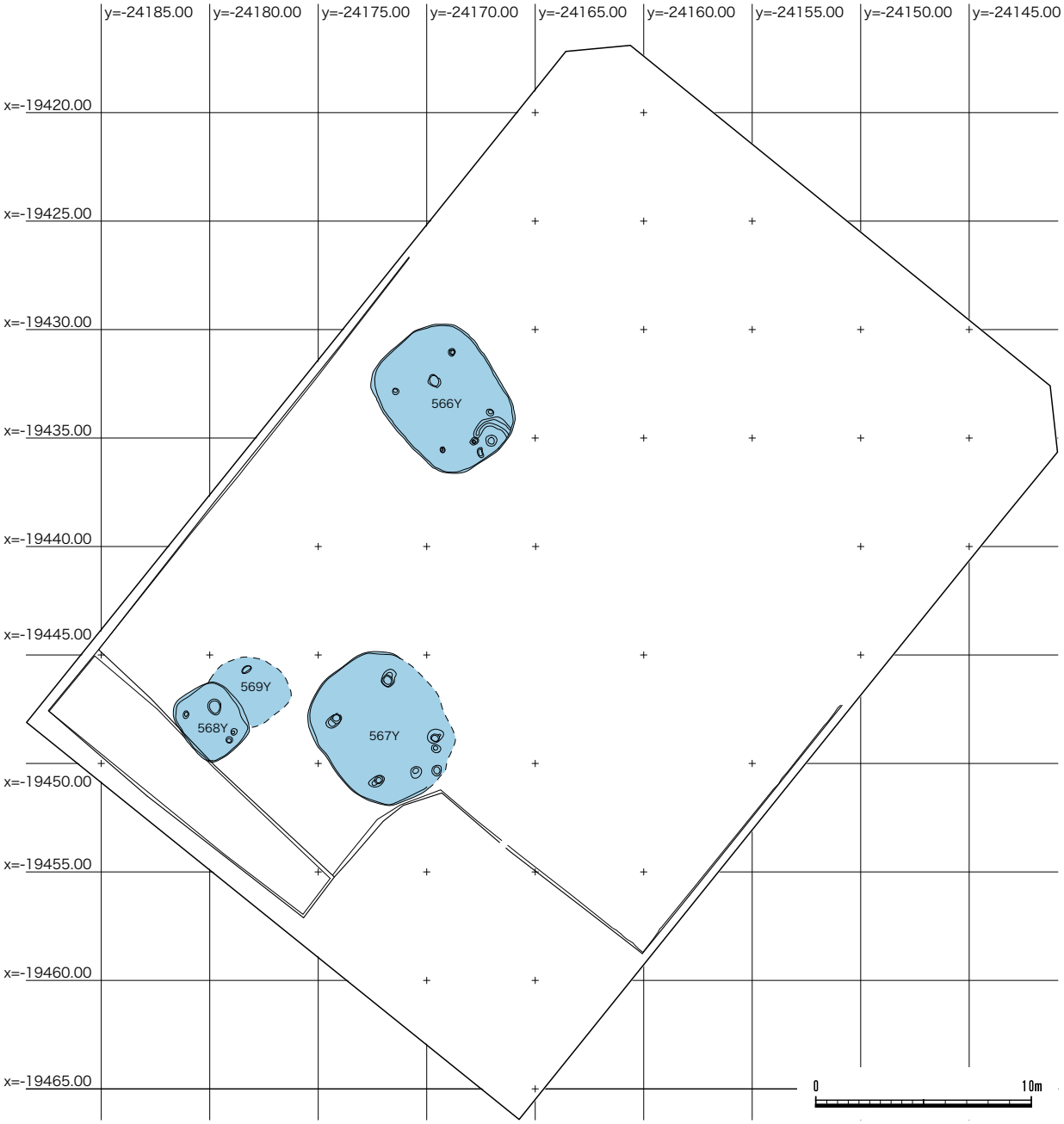
挿図番号	遺構名	器種	石材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	大分類	備考
第 90 図 38	178J	片岩製石器	緑泥片岩	111.3	38.6	15.2	111.0	片岩製石器系	打製石斧状
第 90 図 39	178J	片岩製石器	結晶片岩	115.4	58.3	11.1	84.5	片岩製石器系	板状
第 90 図 40	178J	片岩製石器	砂質片岩	60.2	49.0	17.4	65.0	片岩製石器系	打製石斧状
第 98 図 26	179J	石鏃	黒曜石	21.8	15.5	5.7	1.3	剥片石器系	
第 98 図 27	179J	楔形石器	黒曜石	11.0	7.5	3.2	0.3	剥片石器系	
第 98 図 28	179J	剥片	黒曜石	14.5	7.7	4.7	0.4	剥片石器系	
第 98 図 29	179J	剥片	黒曜石	16.5	22.3	5.5	1.3	剥片石器系	
第 98 図 30	179J	打製石斧	ホルンフェルス	138.2	55.3	18.6	165.9	打製石斧系	撥形？
第 98 図 31	179J	打製石斧	凝灰岩	99.7	40.2	16.9	96.1	打製石斧系	表面ほぼ全面敲打（磨製石斧未製品の転用か）
第 98 図 32	179J	打製石斧	片状砂岩	57.7	55.5	21.7	89.7	打製石斧系	形態不明
第 98 図 33	179J	打製石斧	砂岩	57.9	37.0	17.9	35.8	打製石斧系	
第 98 図 34	179J	打製石斧	ホルンフェルス	49.8	48.8	13.1	48.6	打製石斧系	形態不明
第 98 図 35	179J	打製石斧	砂岩	58.4	41.1	24.3	78.5	打製石斧系	
第 98 図 36	179J	磨石類	閃緑岩	34.9	51.4	40.7	72.0	礫石器系	石鹸状
第 98 図 37	179J	磨石類	ホルンフェルス	75.3	49.1	27.0	128.9	礫石器系	特殊磨石状
第 98 図 38	179J	敲石	砂岩	96.4	46.6	42.1	213.4	礫石器系	側面敲打 / 端部敲打
第 98 図 39	179J	敲石	砂岩	93.6	38.4	25.6	124.9	礫石器系	側面敲打 + 端部面敲打 + 稜敲打（破損面）
第 98 図 40	179J	敲石	砂岩	59.2	42.1	22.0	71.2	礫石器系	側面敲打（弱）
第 98 図 41	179J	敲石	砂岩	33.5	51.8	36.2	70.9	礫石器系	端部面敲打 + 側面敲打
第 98 図 42	179J	片岩製石器	緑泥片岩	66.1	15.7	7.8	8.0	片岩製石器系	棒状
第 105 図 28	180J	磨石	砂岩	60.3	52.7	39.8	163.7	礫石器系	石鹸状
第 105 図 29	180J	石皿	安山岩	65.2	122.6	45.2	575.6	礫石器系	扁平石皿 / 縁辺敲打（破損部）
第 112 図 18	181J	石鏃	黒曜石	21.4	15.6	3.3	0.8	剥片石器系	無茎凹基
第 112 図 19	181J	剥片	黒曜石	14.9	28.0	5.9	2.1	剥片石器系	
第 112 図 20	181J	剥片	黒曜石	32.4	30.8	5.3	3.5	剥片石器系	
第 112 図 21	181J	剥片	黒曜石	13.8	11.3	5.9	1.0	剥片石器系	
第 112 図 22	181J	打製石斧	ホルンフェルス	59.4	44.4	7.0	23.9	打製石斧系	
第 112 図 23	181J	二次的剥離のある剥片	ホルンフェルス	22.6	86.3	13.9	33.2	打製石斧系	
第 112 図 24	181J	調整剥片	砂岩	19.5	34.1	9.1	4.9	打製石斧系	
第 112 図 25	181J	敲石	砂岩	137.7	47.1	35.6	365.9	礫石器系	端部敲打 + 側面敲打（細）
第 116 図 8	182J	打製石斧	ホルンフェルス	97.0	44.3	25.4	147.6	打製石斧系	短冊形 / 両側面細かい敲打
第 116 図 9	182J	敲石	ホルンフェルス	74.2	45.3	30.8	111.8	礫石器系	稜敲打（側縁、破損面）
第 118 図 7	650D	打製石斧	ホルンフェルス	85.2	50.8	13.0	60.5	打製石斧系	
第 132 図 4	659D	楔形石器	黒曜石	27.1	19.7	10.5	4.8	剥片石器系	エッジ × エッジ
第 135 図 5	660D	石皿	閃緑岩	63.1	43.6	54.8	176.2	礫石器系	
第 163 図 10	682D	打製石斧	凝灰岩	56.3	43.6	20.4	71.4	打製石斧系	
第 171 図 1	690D	打製石斧	ホルンフェルス	67.2	42.8	12.9	39.3	打製石斧系	
第 152 図 6	693D	敲石	砂岩	105.7	53.6	21.5	188.3	礫石器系	磨製石斧転用：端部敲打
第 152 図 7	693D	打製石斧	ホルンフェルス	105.5	36.6	11.3	55.4	打製石斧系	
第 152 図 8	693D	敲石	砂岩	87.9	48.7	16.0	87.2	礫石器系	側面敲打（希薄）
第 187 図 1	87P	石鏃	黒曜石	15.9	12.7	2.6	0.4	剥片石器系	無茎凹基
第 200 図 1	106P	打製石斧	ホルンフェルス	61.6	48.7	16.8	59.1	打製石斧系	

第 49 表　出土石器一覧（6）

第２節　弥生時代後期から古墳時代前期

（1）概　要

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は住居跡４軒が検出された。住居跡は縄文集落の西側に分布している。出土遺物から、いずれも弥生時代後期から古墳時代前期に帰属すると思われる。最も遺存の良い 566 号住居跡は、床面の一部から被熱痕、また床面直上からは炭化材が検出されていることから焼失住居と思われる。出土位置が判明している土器は 72 点であり、壺 26 点、甕 41 点、高坏４点、広口壺１点である。



第 203 図　弥生時代後期から古墳時代前期遺構分布図（１／300）

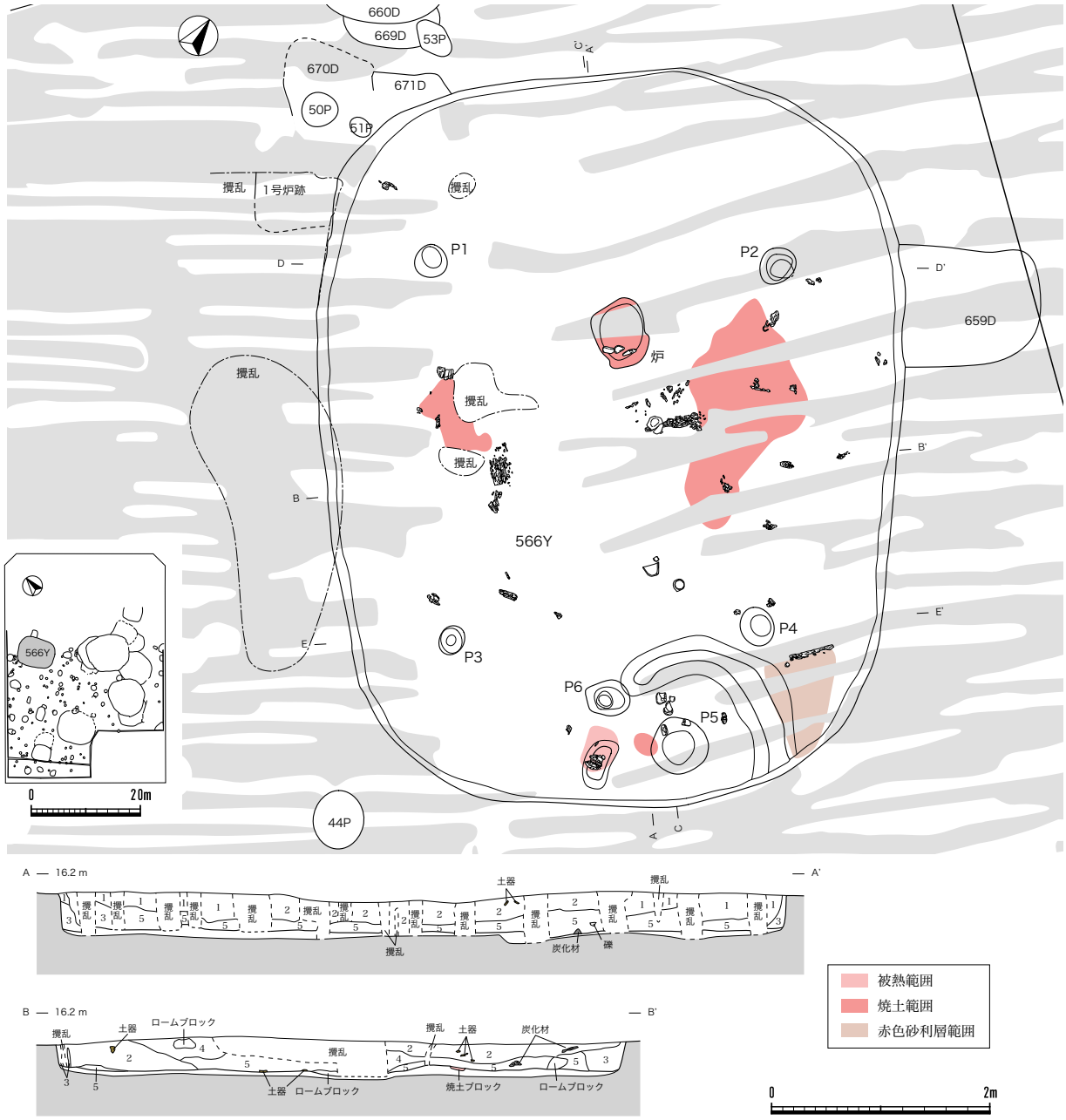
（２）住居跡

566 号住居跡

遺　　構（第 204 ～ 207 図）

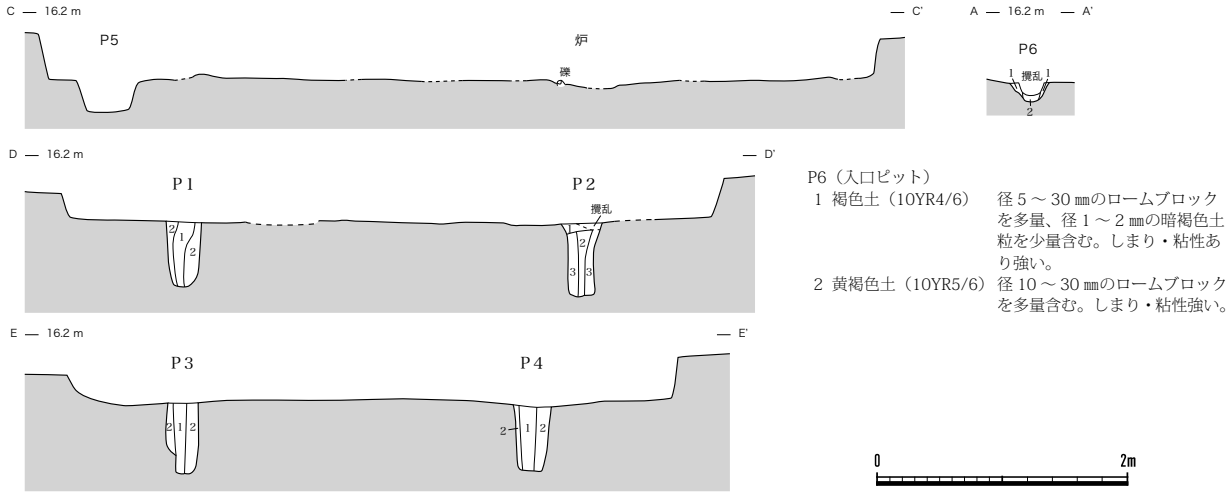
［位　　置］X=-19433,Y=-24169。

［構　　造］659D・671D・１号炉跡を切る。住居床面に焼土範囲が確認され、炭化材が多く出土していることから、焼失住居の可能性が高い。**平面形**：隅丸長方形。**規模**：6.71×5.31m。**主軸方位**：N－



1 暗褐色土（10YR3/3）径１～２㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量含む。しまりあり、粘性弱い。
2 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量含む。しまりあり、粘性弱い。
3 暗褐色土（10YR3/4）径２～３㎜のローム粒を多量、径 30 ㎜のロームブロックを少量含む。しまりあり、粘性弱い。
4 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を少量、径 10 ～ 15 ㎜のロームブロックを微量含む。しまりあり、粘性弱い。
5 黒色土（10YR2/1）　径２～３㎜のローム粒を多量、径３～４㎜の焼土粒を少量含む。しまりあり、粘性弱い。

第 204 図　566 号住居跡１（１／60）

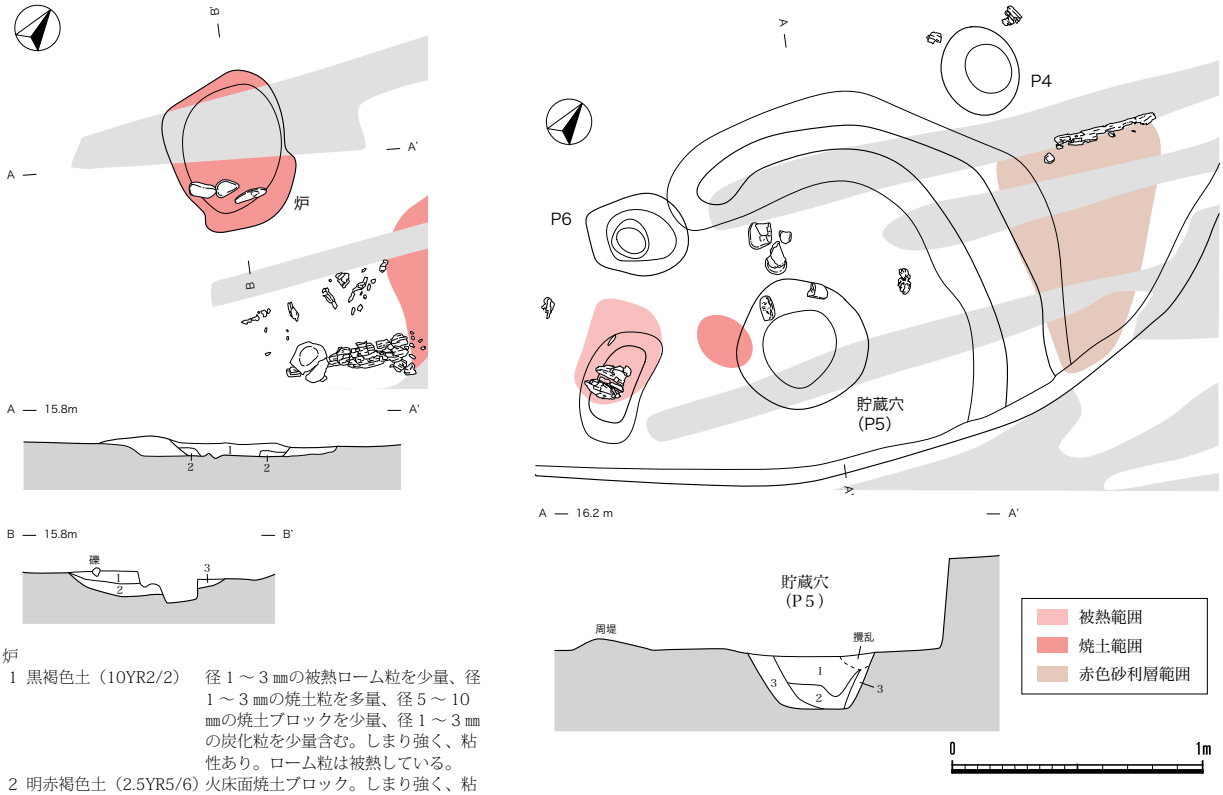


P6（入口ピット）
1 褐色土（10YR4/6）　径５～30㎜のロームブロックを多量、径１～２㎜の暗褐色土粒を少量含む。しまり・粘性あり強い。
2 黄褐色土（10YR5/6）径10～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

P1・P3・P4
1 黒色土（10YR2/1）　径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/1）径２～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径２㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P2
1 黒褐色土（10YR3/1）径２～３㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を少量、径３～５㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性強い。
3 褐色土（10YR4/4）　径２～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性強い。

第 205 図　566 号住居跡２（１／60）



炉
1 黒褐色土（10YR2/2）　径１～３㎜の被熱ローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を多量、径５～10㎜の焼土ブロックを少量、径１～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。ローム粒は被熱している。
2 明赤褐色土（2.5YR5/6）火床面焼土ブロック。しまり強く、粘性なし。
3 褐色土（10YR4/4）　径１～３㎜のローム粒を多量、径５～15㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

赤色砂利層
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を微量、径１～２㎜の白色粒を少量、径１㎜の礫を微量含む。しまり強く、粘性あり。暗褐色土粒中に赤褐色土が混じる。最大４㎝厚。

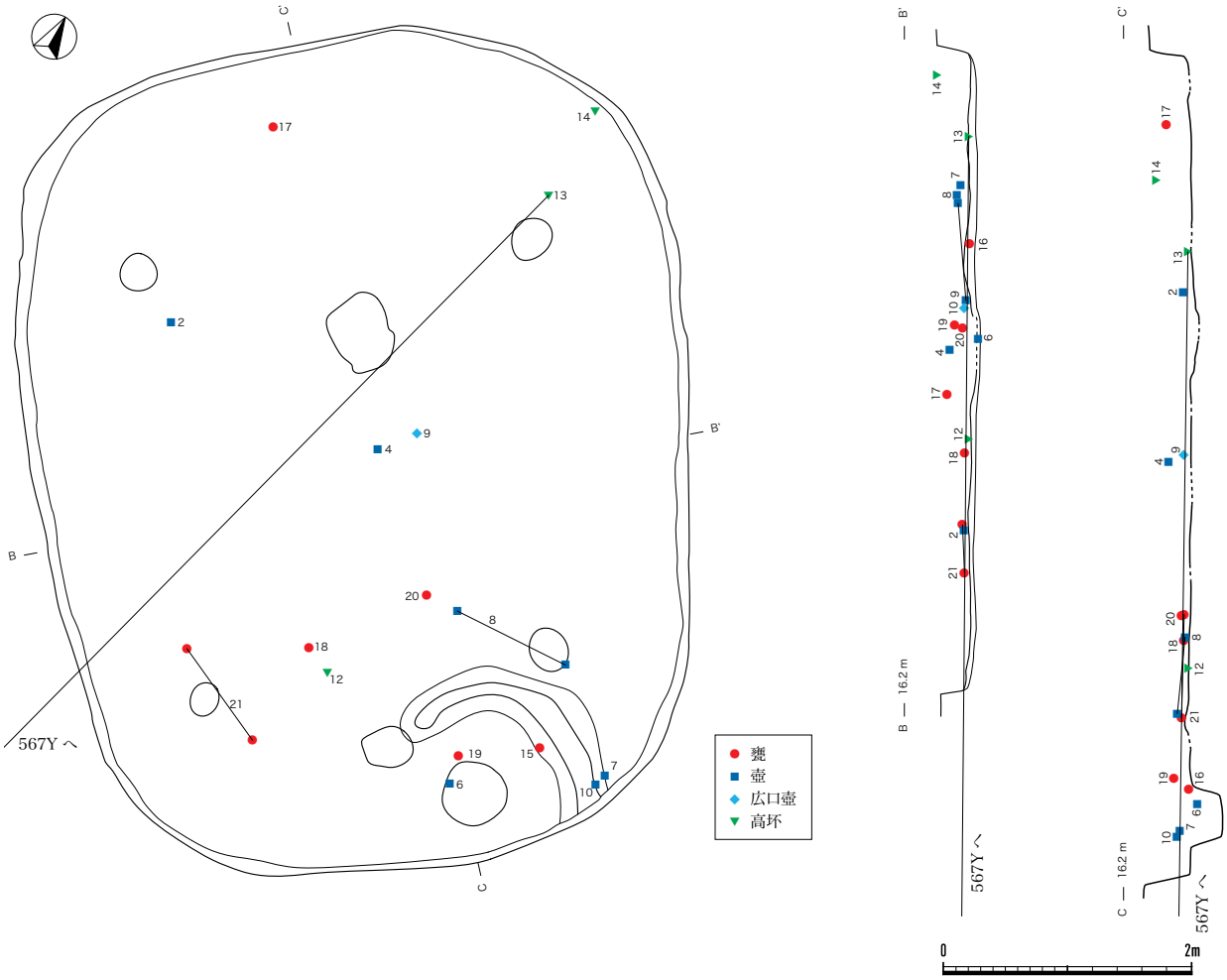
貯蔵穴（P5）
1 黒褐色土（10YR2/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～２㎜の焼土粒を少量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～２㎜の焼土粒を少量含む。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを少量、径１㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

第 206 図　566 号住居跡炉・貯蔵穴（１／30）

30°－W。**壁高**：21.0 ～ 34.4 ㎝を測り、90°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：攪乱が著しいが、住居中央部を中心に硬化面が認められ、東寄り、西寄りにそれぞれ 213.5×112.2 ㎝、不明 ×43.4 ㎝の不整形の焼土範囲、また、住居南東側に不明 ×59.9 ㎝の赤色砂利層がある。住居掘り方は 22.0 ～ 37.4 ㎝、貼床の厚さは 1.4 ～ 8.4 ㎝を測る。**炉**：住居中央よりやや北寄りに位置する。不明 ×40.1 ㎝の被熱範囲が確認できる。62.7×45.4 ㎝、深さ 5.1 ～ 10.0 ㎝の不整円形の掘り込みを持つ地床炉である。**柱穴**：P1 ～ 4 が主柱穴と思われる。**貯蔵穴**：住居南側の壁際に位置する、P5 が

566 号住居跡全景（東より）

566 号住居跡全景（南より）



第 207 図　566 号住居跡遺物出土状態（1 ／ 60）

566 号住居跡 A セクション東側（南より）

566 号住居跡 A セクション西側（南より）

566 号住居跡 B セクション（東より）

566 号住居跡炉検出状況（南より）

566 号住居跡炉全景（西より）

566 号住居跡炉 A セクション（北より）

566 号住居跡炉 B セクション（南より）

566 号住居跡炉掘り方全景（西より）

566 号住居跡炉掘り方 A セクション（南より）

566 号住居跡炉掘り方 B セクション（南より）

566 号住居跡遺物出土状態（東より）

566 号住居跡掘り方全景（東より）

566 号住居跡掘り方 A セクション西側（南より）

566 号住居跡掘り方 A セクション東側（南より）

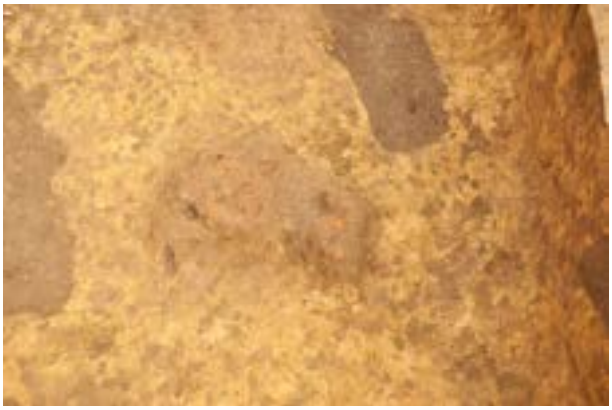
566 号住居跡掘り方 B セクション南側（東より）

566 号住居跡掘り方 B セクション北側（東より）

566 号住居跡赤色砂利層

566 号住居跡赤色砂利層

566 号住居跡焼土範囲１（南より）

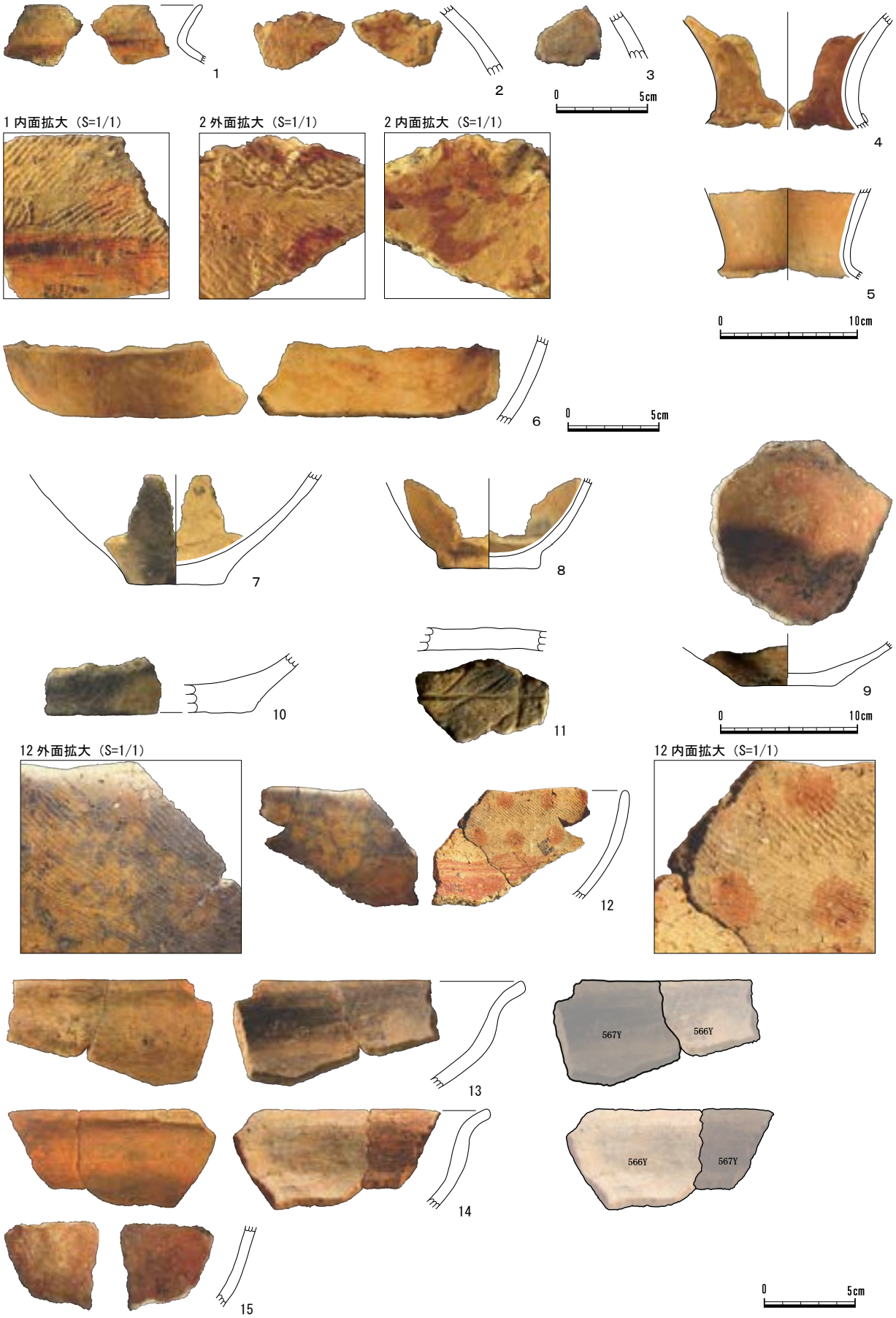

566 号住居跡焼土範囲２（南より）

566 号住居跡焼土範囲３（南より）

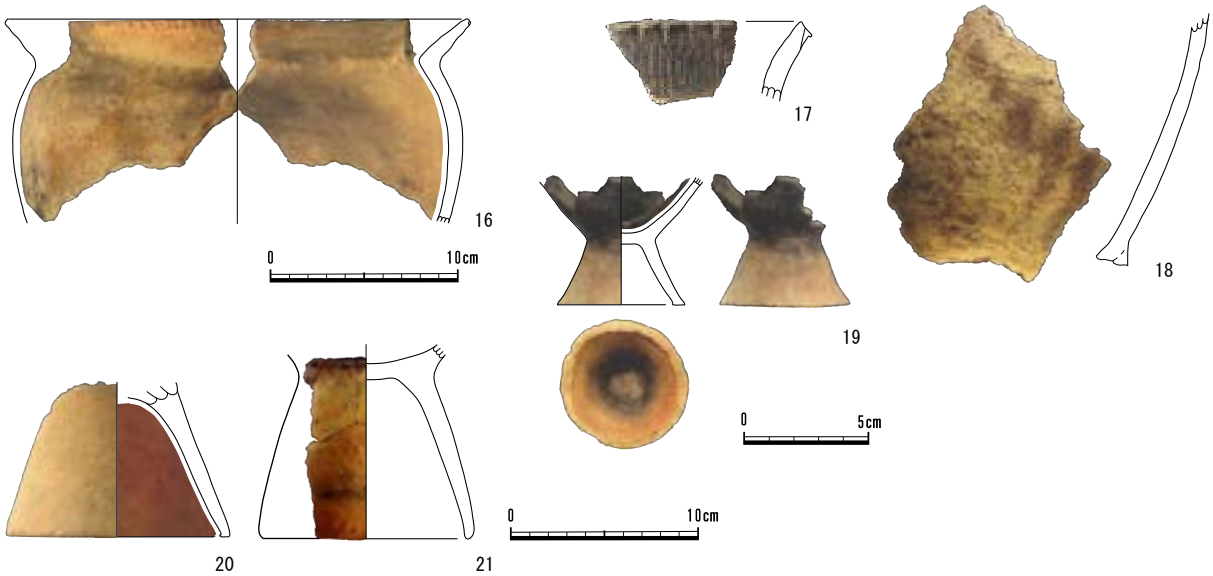
566 号住居跡焼土範囲３（南より）

566 号住居跡貯蔵穴（Ｐ５）セクション（南より）

566 号住居跡貯蔵穴（Ｐ５）遺物出土状態（北より）



第 208 図　566 号住居跡出土土器１（１／４・１／３）



第 209 図　566 号住居跡出土土器２（１／４・１／３）

それにあたる。52.2×50.7 ㎝、深さ 25.3 ㎝の掘り込みを持ち、不整円形を呈する。一部途切れるものの、壁際から P5 を囲む様に上幅 23.8 ～ 51.6 ㎝高さ 0.9 ㎝～ 7.0 ㎝の弧状の凸堤が確認される。また、周堤の一部に 42.1×30.0 ㎝の被熱範囲が確認された。

［覆　　土］５層。

［遺　　物］覆土中から多量出土した。

［時　　期］弥生時代後期から古墳時代前期。

［備　　考］P6 は入口ピットにあたる。

遺　　物（第 208・209 図・第 50 表）

１～ 11 が壺形土器、12 ～ 15 が高杯形土器、16 ～ 21 が甕形土器で、18 ～ 21 は台付甕形土器である。13、14 は 567 号住居跡と遺構間接合している。

567 号住居跡

遺　　構（第 210 ～ 212 図）

［位　　置］X=-19448,Y=-24172。

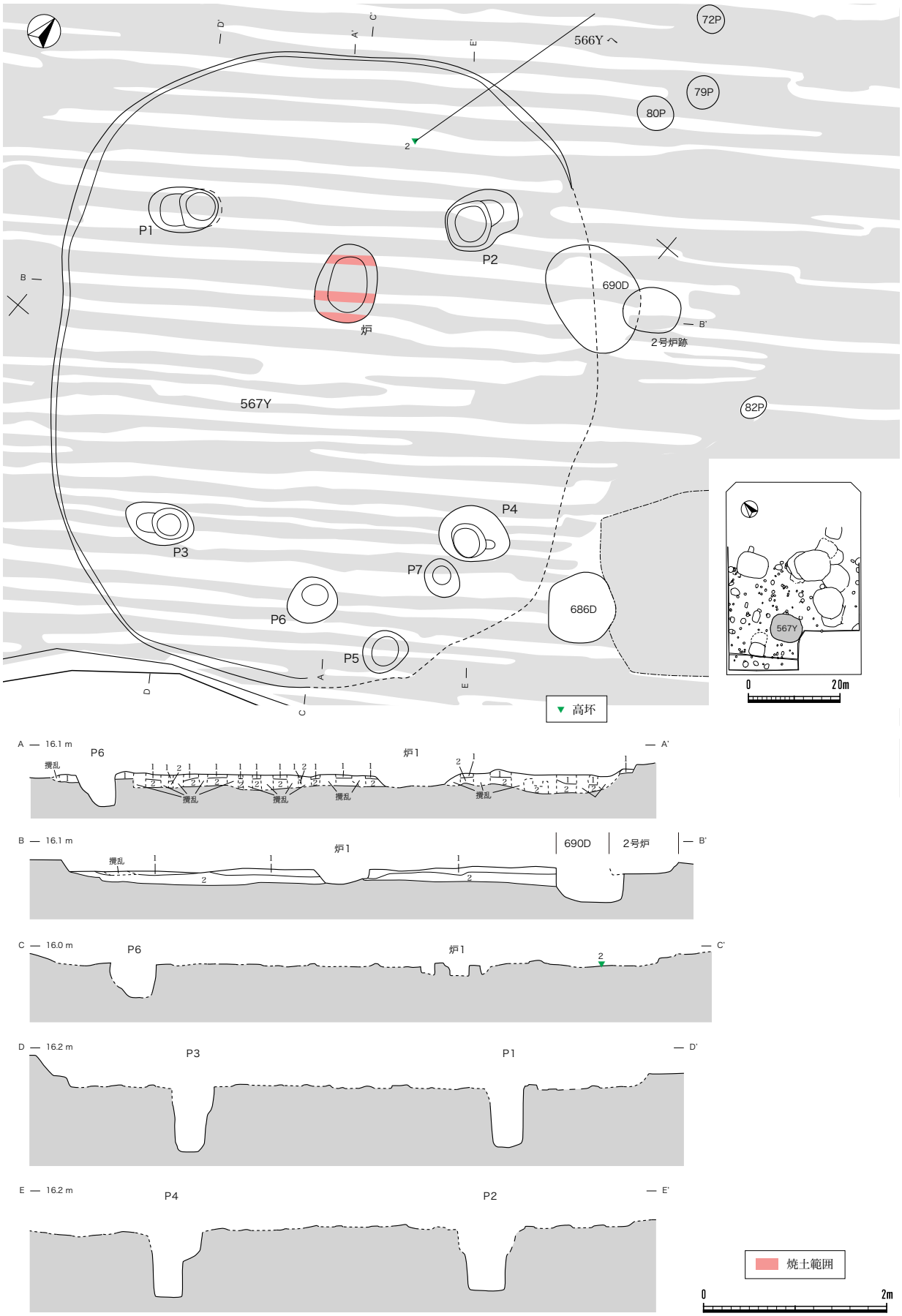
［構　　造］住居東側を欠き、690D に切られる。

平面形：不整円形。

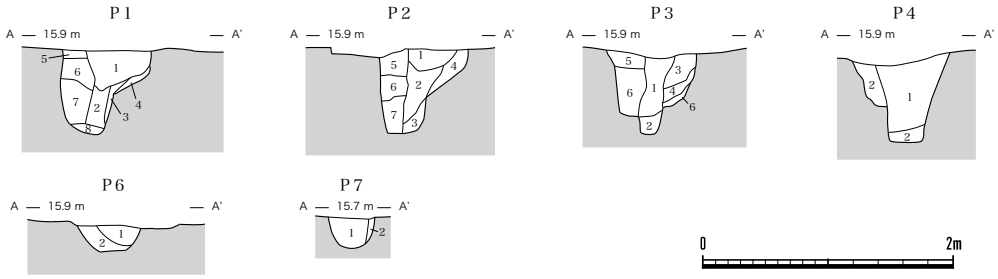
規模：6.86×5.63m。**主軸方位**：N－ 40°－W。**壁高**：0.1 ～ 12.8 ㎝を測り、30°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：攪乱が著しいが、住居南側のピット付近以外に広く硬化面が確認できる。**炉**：住居中央よりやや北寄りに位置し、62.8×42.5 ㎝の被熱範囲が確認できる。粘土板炉の下には、84.9×65.0 ㎝、深さ 13.6 ㎝の不整円形の掘り込みを持つ地床炉が認められるが、明確な焼土は検出できなかった。**柱穴**：P1 ～ 4 が主柱穴と思われる。**貯蔵穴**：住居南側の壁際に位置する、P5 がそれにあたる。50.0×43.2 ㎝、深さ 11.5 ㎝の掘り込みを持ち、不整円形を呈する。

［覆　　土］掘り方２層。

［遺　　物］覆土中から少量出土した。



第 210 図　567 号住居跡 1 ・遺物出土状態（1 ／ 60）



1 暗褐色土（10YR3/3）貼床。径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径５～20㎜の暗褐色土ブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。掘り方。
2 褐色土（10YR4/6）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～40㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。掘り方。

P1
1 黒褐色土（10YR3/2）P2の１層と同等。
2 黒褐色土（10YR3/2）P3の１層と同等。
3 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～30㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
4 褐色土（10YR4/6）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
5 床硬質面。
6 暗褐色土（10YR3/4）P3の５層と同等。
7 褐色土（10YR4/4）P2の６層と同等。
8 褐色土（10YR4/6）ロームブロック。しまり・粘性あり強い。

P2
1 黒褐色土（10YR3/2）P3の１層に似るが径10～50㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）P3の１層と同等。しまり・粘性あり。
3 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/4）P3の５層と同等。しまり強く、粘性あり。
6 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径10～40㎜のロームブロックを少量含む。しまりあり、粘性強い。
7 褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

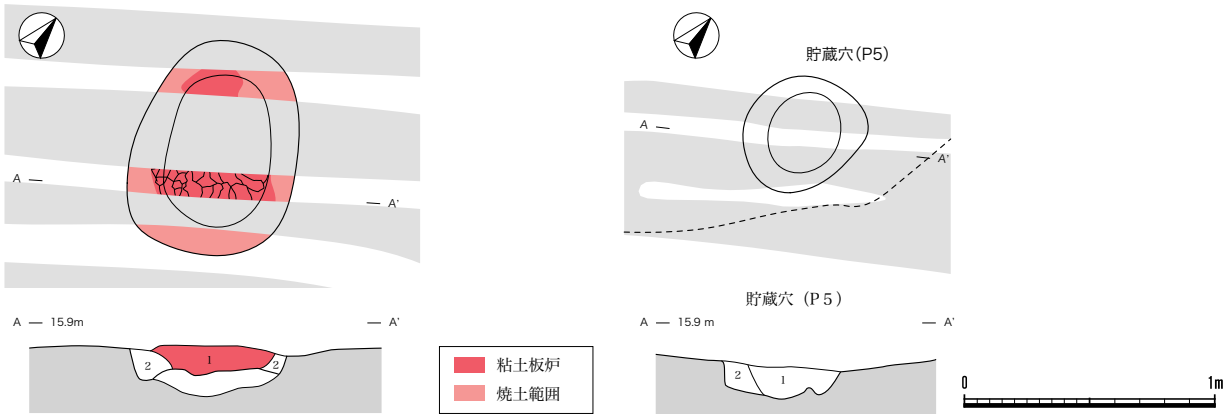
P3
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径10～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
3 黒褐色土（10YR2/3）径１～３㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
4 暗褐色土（10YR3/3）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～30㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
5 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
6 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～20㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

P4
1 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～50㎜のロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/6）ロームブロックが多量混入。しまり・粘性強い。

P6（入口ピット）
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～30㎜のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

P7
1 黒褐色土（10YR3/2）径１～２㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土（10YR3/3）径１～２㎜のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。

第 211 図　567 号住居跡２（１／60）



炉
1 橙色土（2.5YR6/8）径１～２㎜の焼土粒を多量含む。しまり・粘性強い。灰白色粘土（粘土板炉）を含む。上部は被熱している。
2 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～２㎜の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性弱い。
3 黒褐色土（10YR2/3）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～50㎜のロームブロックを多量、径１～２㎜の焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性弱い。ロームは被熱している。炉掘り方。

貯蔵穴（P5）
1 暗褐色土（10YR3/4）径１～３㎜のローム粒を少量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
2 褐色土（10YR4/4）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

第 212 図　567 号住居跡炉・貯蔵穴（１／30）

567 号住居跡全景（東より）

567 号住居跡全景（南より）

567 号住居跡炉セクション（東より）

567 号住居跡炉掘り方全景（東より）

567 号住居跡掘り方 A セクション西側（南より）

567 号住居跡掘り方 A セクション東側（南より）

567 号住居跡掘り方 B セクション南側（東より）

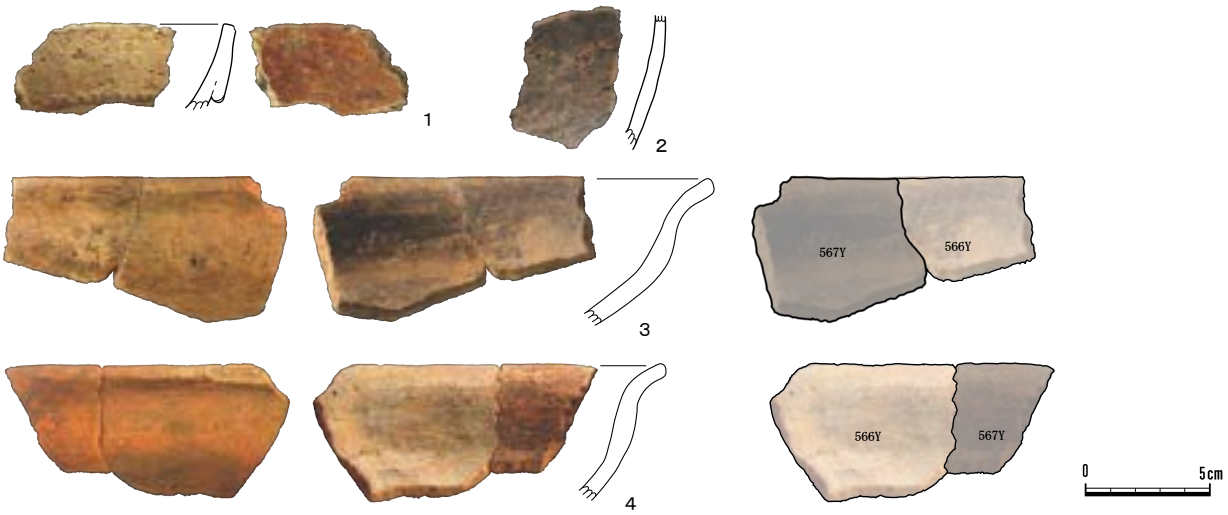
567 号住居跡掘り方 B セクション北側（東より）

567 号住居跡掘り方全景（東より）

567 号住居跡遺物出土状態（東より）

567 号住居跡貯蔵穴（P5）セクション（西より）

567 号住居跡貯蔵穴（P5）全景（東より）



第 213 図　567 号住居跡出土土器（1／3）

［時　　期］弥生時代後期から古墳時代前期。

［備　　考］P6 は入り口ピットにあたる。P7 は床面下のピットである。

遺　　物（第 213 図・第 51 表）

1 が壺形土器、2 が甕形土器、3（566 号住居跡 13）、4（566 号住居跡 14）は、566 号住居跡と遺構間接合している高杯形土器である。

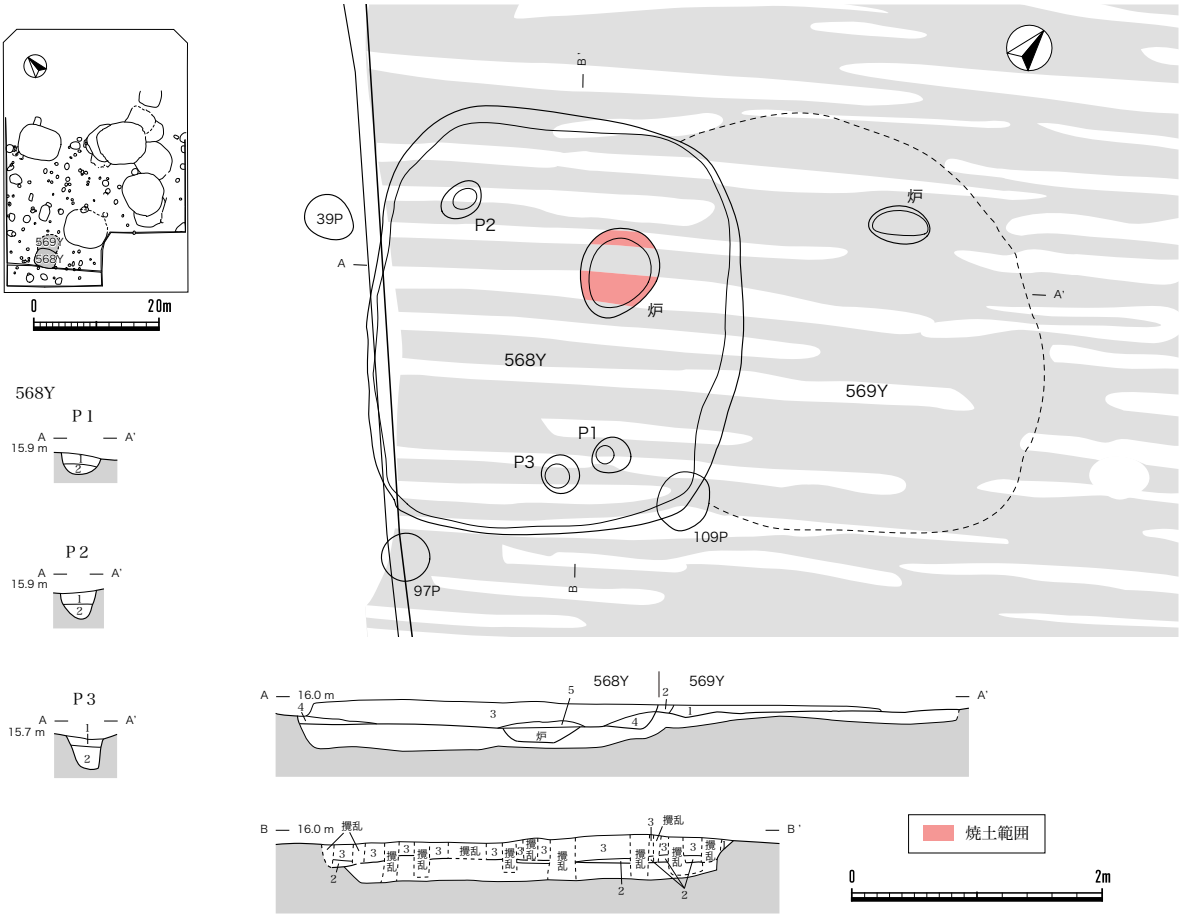
568 号住居跡

遺　　構（第 214・215 図）

［位　　置］X=-19448,Y=-24180。

［構　　造］569D を切る。**平面形**：隅丸長方形。**規模**：3.34×2.99m。**主軸方位**：N － 40°－W。**壁高**：14.7 ～ 22.7 ㎝を測り、60°前後の角度で立ち上がる。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：攪乱が著しいが、住居中央部を中心に硬化面が確認できる。**炉**：住居中央よりやや北西よりに位置する。73.6×61.4 ㎝、深さ 11.6 ㎝の不整円形の掘り込みを持つ地床炉である。**柱穴**：不規則な配列で主柱穴は確認できなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。

［覆　　土］５層。



1 黒褐色土（10YR3/1）径１～２㎜のローム粒を多量、径５～７㎜のロームブロックを少量、径１～３㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）径２～３㎜のローム粒を多量、径５～７㎜のロームブロックを少量、径２～３㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
3 黒褐色土（10YR3/1）径１～３㎜のローム粒を多量、径１～３㎜の焼土粒を少量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。569Y の掘り方と同層。
4 黒褐色土（10YR3/2）径１～３㎜のローム粒を多量、径５～10㎜のロームブロックを微量、径１～２㎜の焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。569Y の掘り方と同層。
5 黒褐色土（10YR3/1）径１～２㎜のローム粒を少量、径１～３㎜の焼土粒を多量、径１～２㎜の炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性弱い。炉か？

568Y
P1・P2
1 黒褐色土（10YR3/1）径１～２㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の焼土粒を微量、径３～５㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/1）径１～２㎜のローム粒を多量、径10～30㎜のロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

P3
1 黒褐色土（10YR3/2）径２～５㎜のローム粒を多量、径10㎜のロームブロックを少量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土（10YR3/2）径２～５㎜のローム粒を多量、径２～３㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

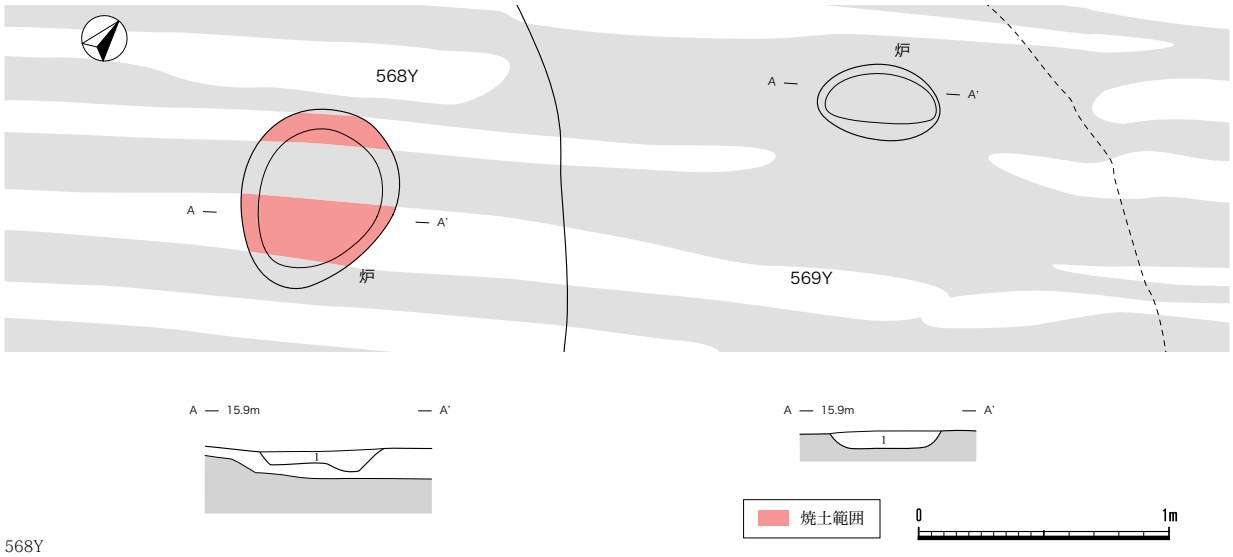
第 214 図　568・569 号住居跡（１／60）

［遺　　物］覆土中から少量出土した。

［時　　期］弥生時代後期から古墳時代前期。

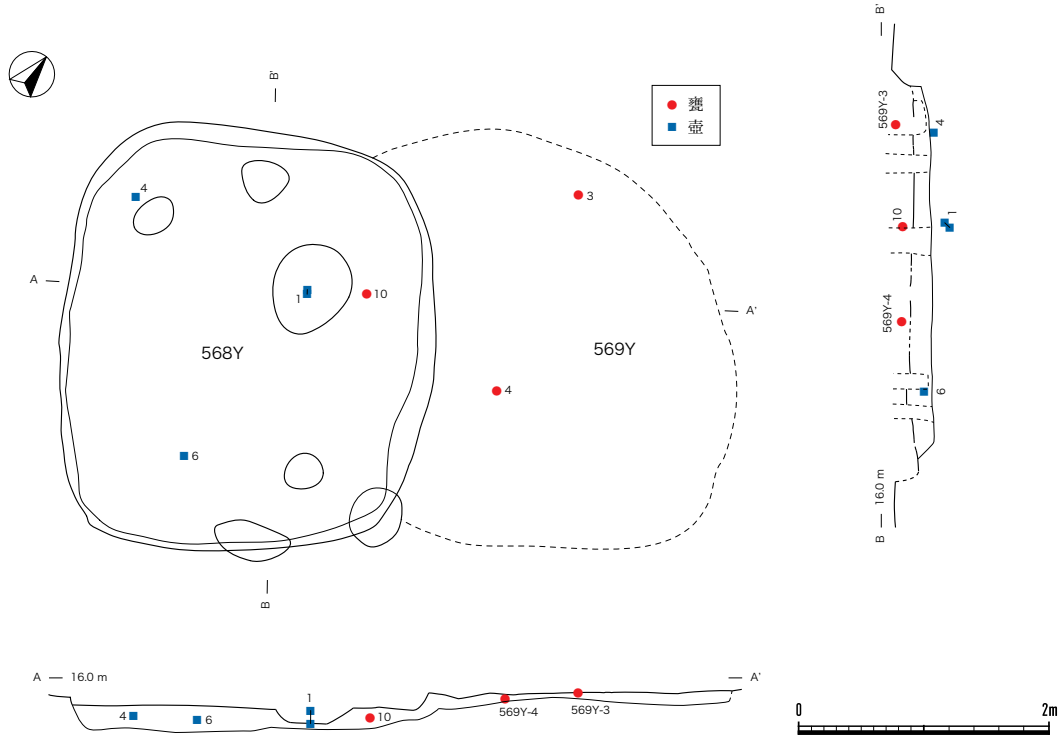
遺　　物（第 216 図・第 52 表）

1 ～ 6 が壺形土器、7 ～ 10 が甕形土器で、9、10 は台付甕形土器である。



568Y
炉
1 黒褐色土（10YR3/1）径 1 ～ 2 ㎜のローム粒を多量、径 3 ～ 5 ㎜の焼土粒を多量、径 20 ～ 30 ㎜の焼土ブロックを多量、径 1 ～ 2 ㎜の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱い。

569Y
炉
1 赤褐色土（5YR4/8）　径 2 ～ 3 ㎜のローム粒を多量、径 2 ～ 3 ㎜の焼土粒を多量、径 10 ㎜の焼土ブロックを少量、径 2 ～ 3 ㎜の炭化粒を少量含む。しまり・粘性弱い。



第 215 図　568・569 号住居跡炉・遺物出土状態（1 ／ 60）

568 号住居跡全景（東より）

568・569 号住居跡掘り方全景（東より）

568 号住居跡 A セクション（東より）

568 号住居跡 B セクション（北より）

568 号住居跡炉全景（東より）

568 号住居跡炉検出状況（東より）

568 号住居跡炉 A セクション（東より）

568 号住居跡炉掘り方 A セクション（東より）

568 号住居跡炉掘り方全景（東より）

568 号住居跡掘り方 A セクション（東より）

568 号住居跡掘り方 B セクション（北より）

569 号住居跡 A セクション（東より）

569 号住居跡掘り方 A セクション（東より）

569 号住居跡炉 A セクション（西より）

569 号住居跡炉全景（西より）

569 号住居跡炉検出状況（南より）

569 号住居跡

遺　　構（第 214・215 図）

［位　　置］X=-19446,Y=-24179。

［構　　造］568 号住居跡に切られる。**平面形**：不明。破線は掘り方痕跡の範囲であるが、遺存状況が非常に悪く、本来の住居形状を示すものではない。**規模**：不明 ×3.33m。**主軸方位**：不明。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：一部貼床は認められるが、攪乱のため明確な硬化面は確認できない。**炉**：掘り方のみしか確認できなかったが、住居中央より北寄りに位置すると思われる。48.7×29.9 ㎝、深さ 5.2 ㎝の楕円形の掘り込みを持つ地床炉である。**柱穴**：柱穴は確認できなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。

［覆　　土］４層。

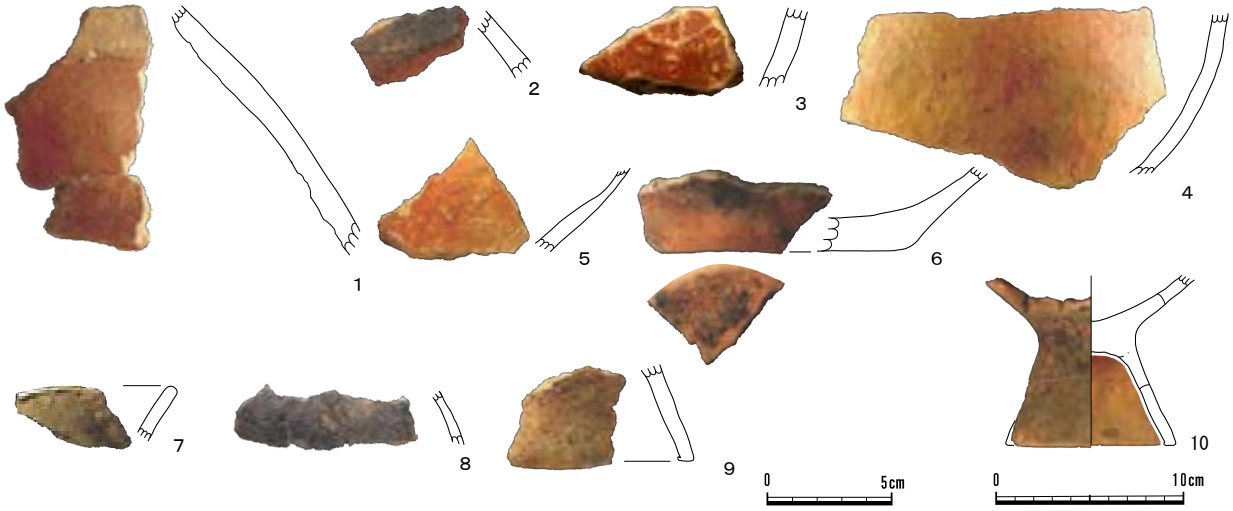
［遺　　物］覆土中から少量出土した。

［時　　期］弥生時代後期から古墳時代前期。

［備　　考］住居、ピット共に掘り方のみの検出で、上端、下端は確認できなかった。

遺　　物（第 217 図・第 53 表）

１が壺形土器、２～５が甕形土器である。



第 216 図　568 号住居跡出土土器（１／４・１／３）

第 217 図　569 号住居跡出土土器（１／３）

挿図番号	器種	部位	器高	口径	接合部径	脚台部径	底径	残存率	胎土	焼成	色調	文様等	備考
第 208 図 1	壺	口縁部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	「く」字状に外傾する口縁部内面と口縁端面に単節縄文 LR が横位に施文された上、直径 1 ㎝程度の円形赤彩文が施され、縄文施文部分以外は内外面共に赤彩が施される	
第 208 図 2	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	内外面とも一部に赤彩が見られ、外面は無節縄文 R が 2 段と S 字状結節文の S が 1 段施文され、円形朱彩文がみられる	
第 208 図 3	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	にぶい黄橙色	外面に単節縄文 LR を縦位と横位に施文した羽状縄文が 4 段以上と一部に赤彩がみられる	
第 208 図 4	壺	頸部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	内外面とも頸部の弯曲部に横ナデが見られ、上位部分は縦磨きがなされる　弯曲部に円形貼付文が 6 個残存し、その下位に無節縄文 R が横位に施文される	
第 208 図 5	壺	頸部	—	—	—	—	—	—	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい褐色	内外面とも縦磨きがなされる	
第 208 図 6	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい橙色	外面は縦ナデのち縦磨き、内面は横ナデされる	
第 208 図 7	壺	胴部～底部	(8.2) ㎝	—	—	—	(7.0) ㎝	底部 1/6	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は横ナデ、内面は縦ハケ目のち横磨きがなされる	
第 208 図 8	壺	底部	(6.6) ㎝	—	—	—	6.8 ㎝	底部 1/1	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は縦磨き、内面は横ナデされる	
第 208 図 9	広口壺	底部	(2.8) ㎝	—	—	—	6.9 ㎝	底部 1/1	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は横磨き、内面は横ナデで、内外面に赤彩が施される	底面付近を中心に被熱による剥落が見られる
第 208 図 10	壺	底部	(3.2) ㎝	—	—	—	(10.0) ㎝	底部 1/4	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は縦ハケ目のち横磨き、内面は横ナデされる	
第 208 図 11	壺	底部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	灰黄褐色 / にぶい黄橙色	底面に木葉痕あり	
第 208 図 12	高坏	口縁部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒色 / にぶい黄橙色	内外面とも口縁部には 2 段の無節縄文 R の下に S 字状結節文が 1 段施文された上に、2 段の円形朱彩文が施され、体部外面は横磨き、体部内面は横ナデで赤彩される	
第 208 図 13	高坏	口縁部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい褐色	口縁部は「く」の字状に外傾し、体部は内弯しながら大きく開く　内外面とも横ナデのち横磨きが施される	567Y と遺構間接合
第 208 図 14	高坏	口縁部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい赤褐色	口縁部は「く」の字状に外傾し、体部は内弯しながら開く　内外面とも横ナデのち横磨きが施される	567Y と遺構間接合
第 208 図 15	高坏	胴部	—	—	—	—	—	—	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	内外面共にナデのち磨き、赤彩が施される	
第 209 図 16	甕	口縁部	(10.9) ㎝	(23.7) ㎝	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	「く」字状に外に開く口縁部の丸みを帯びた口唇部にハケ具による刻みが施され、外面はハケ目のちナデ、内面は横位のナデのち一部に磨きがみられる	
第 209 図 17	甕	口縁部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒褐色 / にぶい黄褐色	口縁端面、内面は横、外面は縦ハケ目、口唇部にハケ具による刻みが施される	
第 209 図 18	台付甕	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は縦ナデ、内面は横ハケ目がなされる	
第 209 図 19	台付甕	脚部	(6.2) ㎝	—	3.2 ㎝	6.8 ㎝	—	接続部、脚部 1/1	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は縦ナデ、内面は横ナデされる	
第 209 図 20	台付甕	脚部	(8.1) ㎝	—	—	(12.0) ㎝	—	脚部 1/2	白色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	内外面とも横ナデされる	外面に工具痕か？
第 209 図 21	台付甕	脚部	(10.3) ㎝	—	3.1 ㎝	(10.8) ㎝	—	接続部 1/1、脚部 1/8	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は縦のち横ナデ、内面は横ナデされる	

第 50 表　566 号住居跡出土遺物一覧

挿図番号	器種	部位	器高	口径	接合部径	脚台部径	底径	残存率	胎土	焼成	色調	文様等	備考
第 213 図 1	壺	口縁部	—	—	—	—	—	—	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は横ハケ目のち単節縄文 LR と RL を横位に施文した羽状縄文で、口縁帯下端にハケ具による刻みと赤彩の痕跡が認められ、内面は横磨きで赤彩が施される	
第 213 図 2	甕	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	灰褐色	外面は横ハケ目、内面は横ナデされる	
第 213 図 3	高坏	口縁部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい褐色	口縁部は「く」の字状に外傾し、体部は内弯しながら大きく開く　内外面とも横ナデのち横磨きが施される	566Y と遺構間接合
第 213 図 4	高坏	口縁部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい赤褐色	口縁部は「く」の字状に外傾し、体部は内弯しながら開く　内外面とも横ナデのち横磨きが施される	566Y と遺構間接合

第 51 表　567 号住居跡出土遺物一覧

挿図番号	器種	部位	器高	口径	接合部径	脚台部径	底径	残存率	胎土	焼成	色調	文様等	備考
第 216 図 1	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色 / にぶい赤褐色	単節縄文 LR が 1 段と端末結束の S 字状結節文の Z が 1 段横位に施文され、胴部には縦磨きで赤彩、内面は横ナデされる	
第 216 図 2	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	砂礫を含む	良好	灰褐色 / 明赤褐色	単節縄文 LR が 1 段と端末結束の S 字状結節文の Z が 1 段横位に施文され、胴部には縦磨きで赤彩、内面は横ナデされる	
第 216 図 3	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は横磨きに赤彩、内面は横ナデされる	
第 216 図 4	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は右下がりのハケ目のち縦磨きで赤彩され、内面は横ナデされる	
第 216 図 5	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色 / 黄灰色	外面は赤彩され、ハケ目のち磨き、内面は横ナデされる	
第 216 図 6	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい赤褐色 / 暗灰黄色	外面は胴部、底面とも磨き、赤彩され、内面は横ナデされる	
第 216 図 7	甕	口縁部	—	—	—	—	—	—	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	灰黄褐色	内外面とも横ナデされる	
第 216 図 8	甕	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒色	外面は横ハケ目、内面は横ナデされる	
第 216 図 9	台付甕	脚部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は縦ナデ、内面は横ハケ目がなされる	
第 216 図 10	台付甕	脚部	(9.0) cm	—	4.7 cm	(9.0) cm	—	接続部 1/1、脚部 1/3	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は縦ナデ、内面は横ナデされる	

第 52 表　568 号住居跡出土遺物一覧

挿図番号	器種	部位	器高	口径	接合部径	脚台部径	底径	残存率	胎土	焼成	色調	文様等	備考
第 217 図 1	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	にぶい黄橙色	外面は縦磨き、内面は横ナデされ、外面に赤彩が施される	
第 217 図 2	甕	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ハケ目のち横磨き、内面は横ナデされる	
第 217 図 3	甕	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒色 / にぶい黄橙色	外面は縦ハケ目、内面は横ナデされる	
第 217 図 4	甕	胴部	—	—	—	—	—	—	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	橙色	外面は縦ハケ目、内面は横ナデされる	
第 217 図 5	甕	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	灰褐色	内外面とも横ナデされる	

第 53 表　569 号住居跡出土遺物一覧

第３節　遺構外出土遺物

（１）縄文時代遺物（第 218 ～ 222 図、第 54 ～ 56・58・59 表）

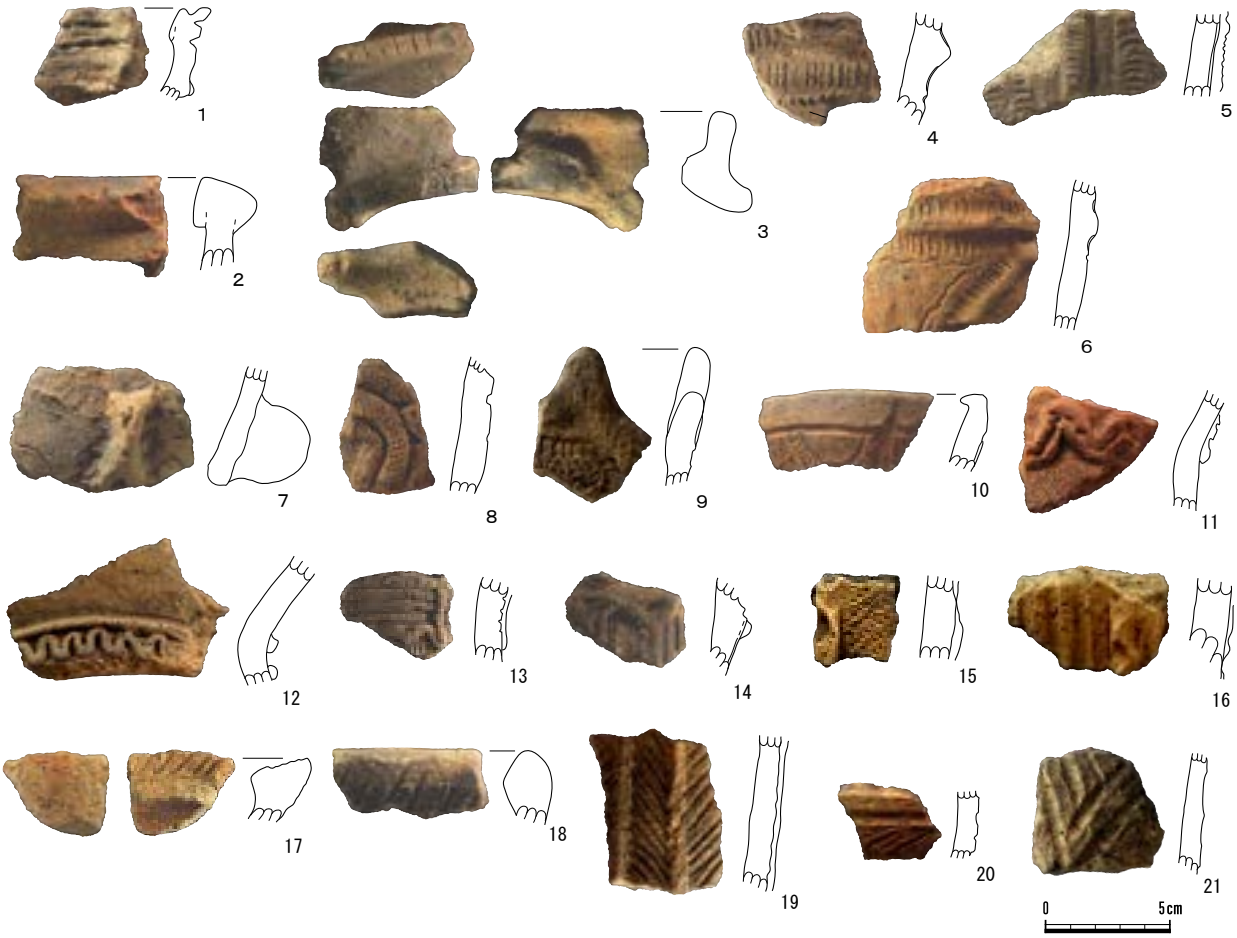
阿玉台式（１～３）、勝坂式（４～ 11）、曽利式（12 ～ 21）、加曽利Ｅ式（22 ～ 61）、連弧文（62 ～ 64）、称名寺式（65 ～ 66）、堀之内式（67 ～ 70）、土器片錘（71 ～ 73）、土製円盤（74 ～ 82）、ナイフ形石器（90）、石鏃（91・92）、楔形石器（93・94）、二次的剥離のある剥片（95）、不規則剥離のある剥片（96 ～ 98）、剥片（99 ～ 108）、打製石斧（109 ～ 134・170）、二次的剥離のある剥片（135）、磨製石斧（136・137）、磨石類（138 ～ 140）、敲石（141 ～ 158）、石皿（159 ～ 161）、砕片（162）、凹石（163）、片岩製石器（164 ～ 169・171 ～ 174）を図示した。

（２）弥生時代後期から古墳時代前期遺物（第 220 図、第 57 表）

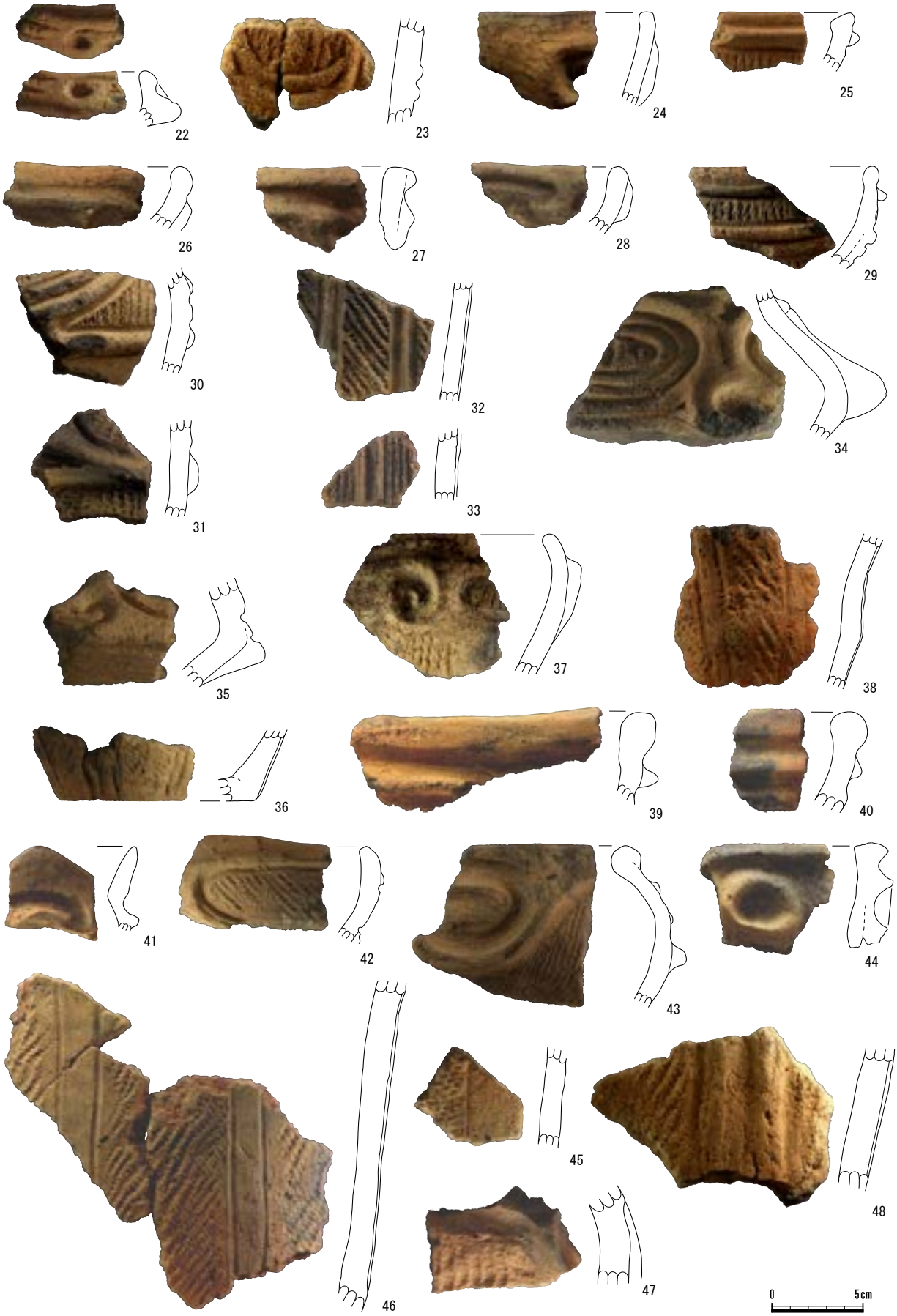
壺形土器（83 ～ 88）、鉄滓（89）を図示した。

（３）時期不明遺物（第 222 図、第 60 表）

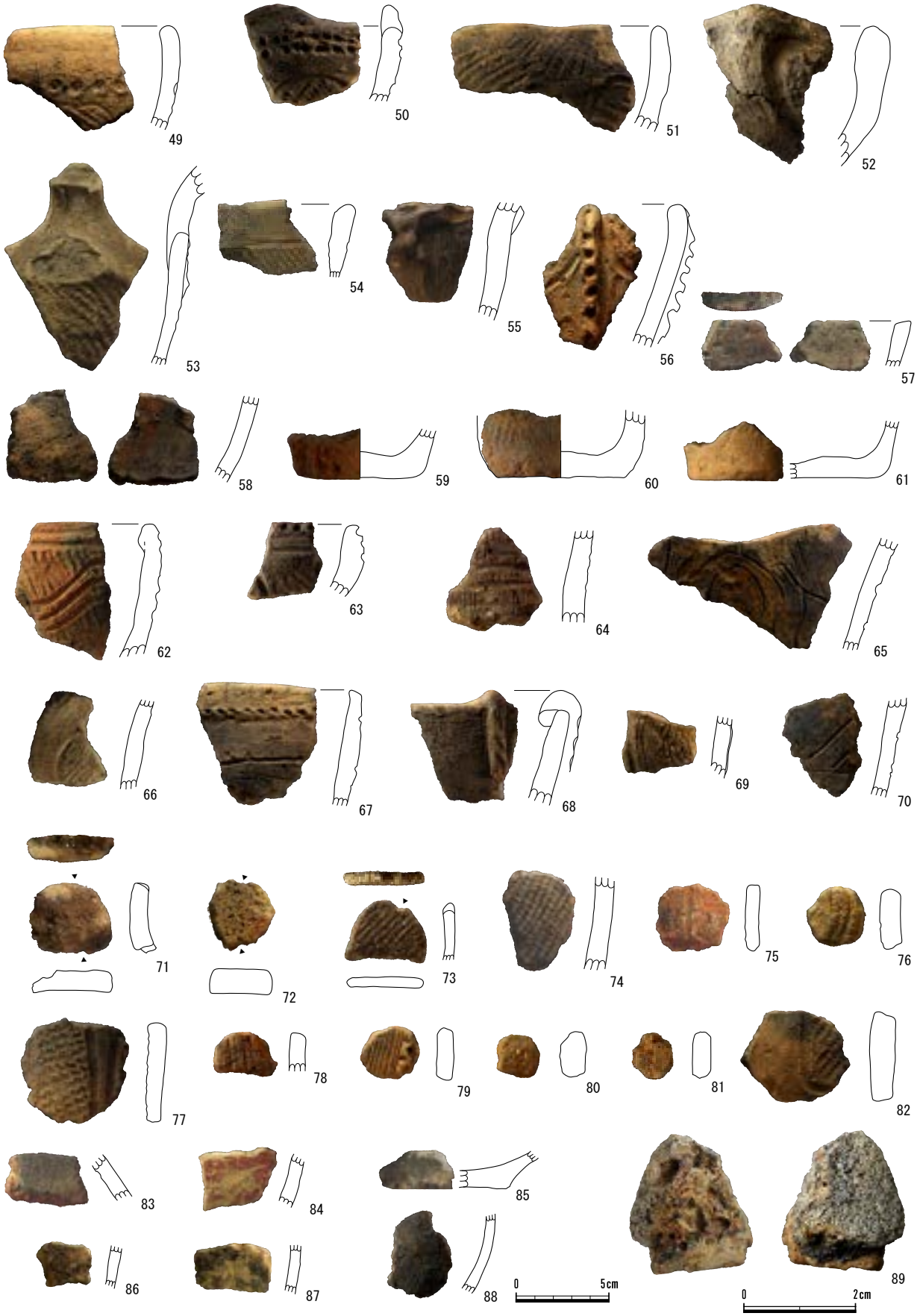
不明金属製品（175）を図示した。



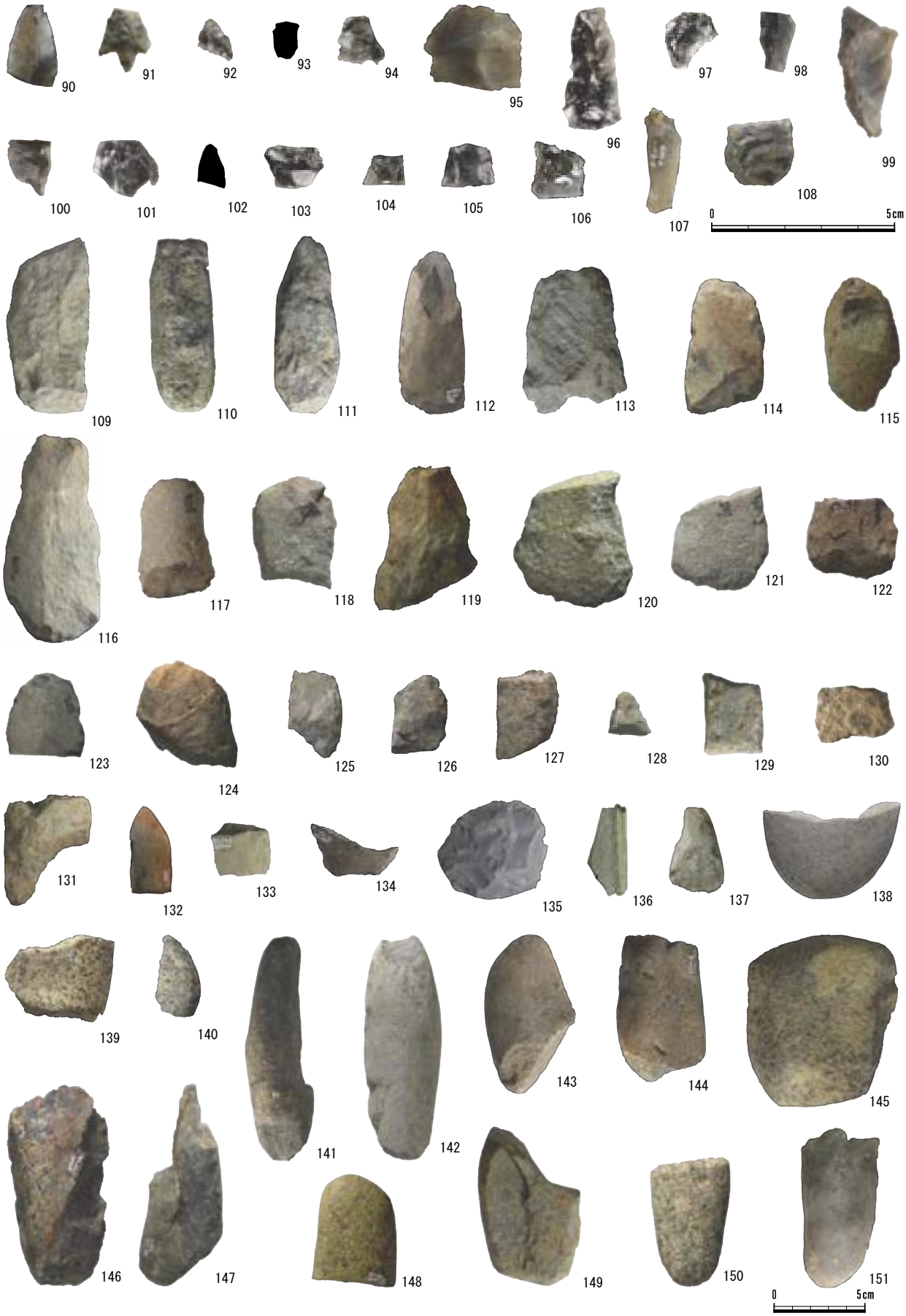
第 218 図　遺構外出土遺物１（１／３）



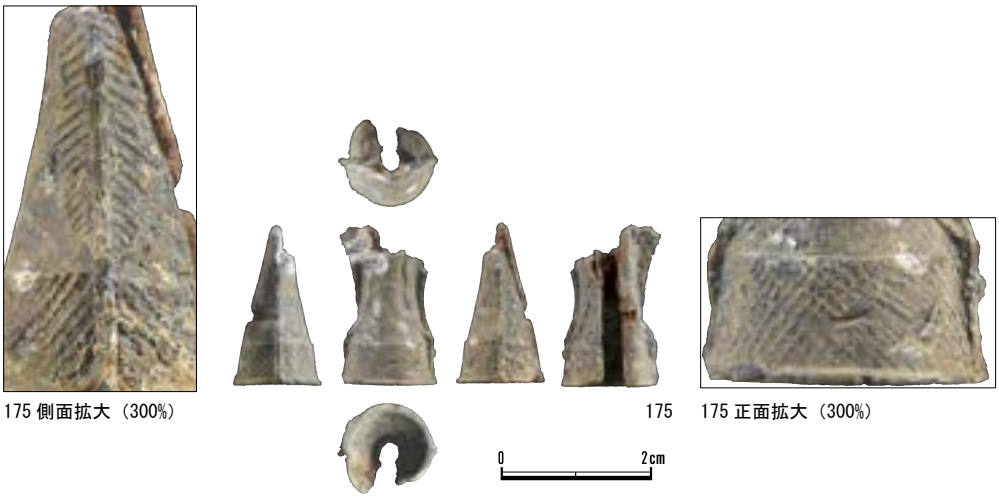
第 219 図　遺構外出土遺物２（１／３）



第 220 図　遺構外出土遺物３（１／１・１／３）



第 221 図　遺構外出土遺物４（１／２・１／３）



第 222 図　遺構外出土遺物５（１／１・１／３）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 218 図 1	阿玉台Ⅰ	深鉢	口縁部	―	粘土帯を三角形状に貼付し、刺突文が加えられる。	―	―	にぶい黄褐色	―	
第 218 図 2	阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	―	口唇部に粘土帯をかぶせる様に貼付される。	―	―	にぶい褐色	―	
第 218 図 3	阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	把手か	―	粘土帯を垂直に貼付し、1.2 ㎝程度の孔を穿孔する。	―	―	灰黄褐色	―	
第 218 図 4	勝坂 2	深鉢	胴部	―	―	―	隆帯を貼付し、両側に押引文と三角押引文が加えられる。隆帯を円形に貼付して区画が作られる。	にぶい黄褐色	灰褐色	
第 218 図 5	勝坂 2	深鉢	胴部	―	―	―	隆帯を垂下させ、連続爪形文を加える。隆帯に沿って沈線を引き、その脇に連続爪形文が施される。	黒褐色	―	
第 218 図 6	勝坂 2	深鉢	胴部	―	―	―	隆帯を三角形に貼付し幅広押引文が加えられる。区画内には波状の沈線が施される。	にぶい赤褐色	―	
第 218 図 7	勝坂 2	深鉢	把手	―	半円形の粘土が表裏合わせる形で貼付される。突起の根元に押引文が施される。	―	―	灰黄褐色	―	
第 218 図 8	勝坂 2 ～ 3	深鉢	胴部	―	―	―	沈線によって弧状の文様を描き一部に刺突文が加えられる。沈線の間に細かい角押文状の刺突文を充填する。	にぶい褐色	黒褐色	
第 218 図 9	勝坂 3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	幅広角押文で区画が作られる。区画内は縄文が充填され、波状の沈線が引かれる。	―	―	黒褐色	―	
第 218 図 10	勝坂 3	深鉢	口縁部	―	上部に無文帯を設ける。沈線で「U」字状の文様を描き、沈線の間に刻みが充填される。	―	―	褐色	―	
第 218 図 11	勝坂か？	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	隆帯を波状に貼付し、隆帯上に三角押引文が加えられる。	赤褐色	―	
第 218 図 12	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	―	―	―	隆帯を巡らせ、それに沿って波状の隆帯が貼付される。	にぶい黄褐色	―	
第 218 図 13	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	―	―	櫛描条線か	平行沈線を引き、その上に波状の隆帯が貼付される。また、縦位には直線的に貼付する。	にぶい黄褐	―	
第 218 図 14	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	―	―	―	平行沈線を施し、その上に波状の隆帯が貼付される。	灰黄褐色	―	
第 218 図 15	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	―	―	複節斜縄文 RLR	波状の隆帯を縦位に貼付する。	にぶい黄橙色	灰褐色	
第 218 図 16	曽利Ⅱ	深鉢	胴部	―	―	―	沈線が垂下し、それと平行に蛇行する隆帯が貼付される。	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
第 218 図 17	曽利Ⅱ	深鉢	口縁部	―	口縁部の内側に斜行の沈線が引かれる。外側には斜行文、もしくは重弧文が施されようか。	―	―	橙色	―	
第 218 図 18	曽利Ⅲ	深鉢	口縁部	―	斜行する沈線が引かれる。	―	―	灰黄褐色	―	
第 218 図 19	曽利Ⅲ	深鉢	胴部	―	―	―	1 本の隆帯を垂下させ、隆帯に向かって沈線で「V」字状の文様を縦位に連続して描かれる。	にぶい褐色	―	
第 218 図 20	曽利Ⅲ～Ⅲ	深鉢	胴部	―	―	―	隆帯に沿って斜位の沈線が施される。	にぶい赤褐色	―	
第 218 図 21	曽利Ⅳ	深鉢	胴部	―	―	―	沈線で「V」字状の文様を縦位に連続して施される。	灰黄褐色	―	
第 218 図 22	加曽利 E1	深鉢	口縁部	―	口唇部の上面に沈線で渦巻文を施し、沈線が巡る。	―	―	にぶい褐色	―	
第 218 図 23	加曽利 E1 ～ 2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	2 本一対の隆帯を垂下させ、また、弧状に貼付する。	橙色	―	
第 218 図 24	加曽利 E2	深鉢	口縁部	―	隆帯によって区画が作られる。	―	―	にぶい黄褐色	―	
第 218 図 25	加曽利 E2	深鉢	口縁部	―	1 本の隆帯を横位に巡る。	―	―	にぶい褐色	―	
第 219 図 26	加曽利 E2	深鉢	口縁部	―	隆帯によって区画をが作られる。区画の端に渦巻文が貼付されようか。	―	―	にぶい黄褐色	―	
第 219 図 27	加曽利 E2	深鉢	口縁部	―	隆帯によって区画が作られる。	―	―	にぶい褐色	―	
第 219 図 28	加曽利 E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文か	隆帯によって区画と渦巻文が施される。	―	―	灰黄褐色	―	
第 219 図 29	加曽利 E2	深鉢	口縁部	撚糸文 L	隆帯によって区画を作り、区画内は撚糸文が充填される。	―	―	灰黄褐色	―	
第 219 図 30	加曽利 E2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	隆帯によって区画を作り、区画内に 2 本一対の隆帯が弧状に貼付される。	にぶい黄橙色	―	
第 219 図 31	加曽利 E2	深鉢	胴部	―	―	単節斜縄文 RL	隆帯によって楕円形の区画が作られようか。	灰黄褐	―	
第 219 図 32	加曽利 E2	深鉢	胴部	―	―	複節斜縄文 LRL	2 条一対の沈線を垂下する。	灰黄褐色	―	
第 219 図 33	加曽利 E2	深鉢	胴部	―	―	撚糸文 L	2 本一対の隆帯を垂下させる。	黒褐色	―	
第 219 図 34	加曽利 E2	浅鉢	肩部	―	―	―	隆帯によって楕円形の区画と渦巻文が施される。区画内は 2 重の隆帯を巡らせ、中央には渦巻文が加えられる。	にぶい黄橙色	―	
第 219 図 35	加曽利 E2	浅鉢	肩部	―	―	―	隆帯を貼付し、区画と渦巻文が施される。	にぶい黄橙色	―	

第 54 表　遺構外出土縄文土器一覧（1）

挿図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 219 図 36	加曽利 E2	深鉢	底部	－	－	単節斜縄文 RL	2条一対の沈線を垂下させる。	にぶい黄橙色	－	
第 219 図 37	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	口縁部	撚糸文 R	隆帯により楕円形の区画を作り、撚糸文が充填される。また、区画の端に隆帯で渦巻文が施される。	撚糸文 R	2 本の隆帯を垂下させ、隆帯の間の撚糸文を磨り消す。	にぶい黄橙色	－	
第 219 図 38	加曽利 E2 ～ 3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	2 条一対の沈線を垂下し、沈線の間の縄文を磨り消す。	にぶい褐色	－	
第 219 図 39	加曽利 E3	深鉢	口縁部	－	横位に隆帯が巡る。	－	－	にぶい褐色	－	
第 219 図 40	加曽利 E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL か	隆帯を巡らせ、その下部には縄文が充填される。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 219 図 41	加曽利 E3	深鉢	口縁部	－	上部に無文帯を設け、その下部に隆帯で渦巻文が加えられる。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 219 図 42	加曽利 E3	深鉢	口縁部	直前段反撚 LLR	隆帯によって楕円形の区画が作られる。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 219 図 43	加曽利 E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	隆帯によって楕円形の区画が作られる。	－	－	にぶい黄褐色	－	
第 219 図 44	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	－	横位の隆帯を施し、下部に隆帯される貼付される。	にぶい黄褐色	－	
第 219 図 45	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	2 条一対の沈線を垂下させ、その間の縄文を磨り消す。	にぶい黄橙色	－	
第 219 図 46	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	2 条一対の沈線を垂下させ、沈線の間の縄文を磨り消す。	にぶい黄褐色	にぶい赤褐色	
第 219 図 47	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	隆帯によって楕円形の区画を作り、縄文が充填される。	にぶい赤褐色	－	
第 219 図 48	加曽利 E3	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	2 本の隆帯を垂下させる。	にぶい黄橙色	－	
第 219 図 49	加曽利 E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	口縁部に無文帯を設け、その下部に円形刺突文が巡る。また。沈線による文様の内部に縄文が充填される。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 219 図 50	加曽利 E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 RL	口縁部上部に 2 列の円形刺突を施し、その下部に沈線で楕円形の区画が施される。	－	－	黒褐色	－	
第 219 図 51	加曽利 E4	深鉢	口縁部	直前段合撚 LRR・前々段反撚 LLR	1 条の沈線で楕円形の文様が描かれる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 220 図 52	加曽利 E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	隆帯によって区画が作られ、縄文が充填される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 220 図 53	加曽利 E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	橋状の把手が貼付されようか。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 220 図 54	加曽利 E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	狭い無文帯を設け、縄文との境に沈線が巡る。	－	－	にぶい黄橙色	－	
第 220 図 55	加曽利 E4	深鉢	口縁部	櫛描条線	横位に巡る隆帯を 2 本合わせ垂下し、鎖状に貼付されようか。	－	－	黒褐色	－	
第 220 図 56	加曽利 E4 か	深鉢	口縁部	－	口唇部から隆帯を垂下させ、円形刺突文が加えられる。口縁部付近に 1 条の沈線で半円形と思われる文様が描かれる。	－	－	にぶい橙色	－	
第 220 図 57	加曽利 E か	深鉢	口縁部	－	赤彩が施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 220 図 58	加曽利 E か	浅鉢	胴部	－	－	－	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	黒褐色	
第 220 図 59	加曽利 E か	深鉢	底部	－	－	－	－	褐色	－	
第 220 図 60	加曽利 E か	深鉢	底部	－	－	－	－	にぶい褐色	－	
第 220 図 61	加曽利 E か	深鉢	底部	－	－	－	－	にぶい褐色	－	
第 220 図 62	連弧文 2	深鉢	口縁部	無節斜縄文 L	口唇部付近に沈線を巡らせ、3 条一組の沈線で連弧文が描かれる。	－	－	にぶい赤褐色	－	
第 220 図 63	連弧文 2	深鉢	口縁部	単節斜縄文 LR	口唇部付近に 1 列の円形刺突文を施し、沈線を巡らせる。その下部に沈線で連弧文が描かれる。	－	－	黒褐色	－	
第 220 図 64	連弧文 2	深鉢	胴部	－	－	櫛描条線	沈線で連弧文を描き、その下部に沈線が巡る。	暗褐色	－	
第 220 図 65	称名寺 1	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	沈線によって文様を描き、部分的に縄文が充填される。	黒褐色	にぶい褐色	
第 220 図 66	称名寺 1	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 RL	沈線によって楕円形状の区画を作り、縄文が充填される。	にぶい黄橙色	灰褐色	
第 220 図 67	堀之内 1	深鉢	口縁部	－	口縁部上部に円形刺突文を巡らせ、下部には無文帯を設ける。無文帯の下部に沈線が加えられる。	－	－	灰黄褐色	－	
第 220 図 68	堀之内 1	深鉢	口縁部	－	口縁部は広い無文帯で、隆帯が垂下される。隆帯上には刻みが施される。	－	－	灰黄褐色	－	
第 220 図 69	堀之内 1 か	深鉢	胴部	－	－	－	平行沈線を弧状に引かれる。	にぶい黄橙色	－	
第 220 図 70	堀之内 2	深鉢	胴部	－	－	単節斜縄文 LR	沈線で三角形状の文様を描き、沈線によって画された内部に縄文が充填される。	黒褐色	－	

第 55 表　遺構外出土縄文土器一覧（2）

挿図番号	器種	形状	長さ	幅	重さ	外面色調	内面色調	備考
第 220 図 71	土器片錘	不整円形	4.7 ㎝	3.7 ㎝	19.2g	灰黄褐色	―	
第 220 図 72	土器片錘	不整円形	3.6 ㎝	3.5 ㎝	18.4g	にぶい黄橙色	―	
第 220 図 73	土器片錘	楕円形	(3.2) ㎝	4.1 ㎝	10.4g	灰黄褐色	―	
第 220 図 74	土製円盤	円形	3.2 ㎝	3.2 ㎝	12.0g	にぶい黄橙色	―	
第 220 図 75	土製円盤	円形	5.7 ㎝	5.5 ㎝	39.7g	にぶい黄橙色	―	
第 220 図 76	土製円盤	―	3.4 ㎝	(2.3) ㎝	7.9g	にぶい褐色	―	
第 220 図 77	土製円盤	楕円形	3.2 ㎝	2.9 ㎝	9.9g	にぶい橙色	―	
第 220 図 78	土製円盤	円形	2.5 ㎝	2.2 ㎝	7.5g	にぶい黄橙色	―	
第 220 図 79	土製円盤	不整円形	2.5 ㎝	2.2 ㎝	5.4g	灰黄褐色	―	
第 220 図 80	土製円盤	不整円形	5.3 ㎝	4.9 ㎝	40.9g	にぶい黄橙色	―	
第 220 図 81	土製円盤	不整円形	5.3 ㎝	2.9 ㎝	26.9g	灰黄褐色	褐灰色	
第 220 図 82	土製円盤	不整円形	3.8 ㎝	3.5 ㎝	12.1g	にぶい赤褐色	灰黄褐色	

第 56 表　遺構外出土土製品一覧

挿図番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	文様等	備考
第 220 図 83	壺	胴部	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒褐色 / にぶい赤褐色	外面は縦磨き、内面は横ナデ、単節縄文 LR の下に端末結束の S 字状結節文の Z が施文され、縄文施文部分の下位に赤彩が施される	赤彩
第 220 図 84	壺	胴部	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄橙色	内外面とも横ナデされ、外面に赤彩が施される	赤彩
第 220 図 85	壺	底部	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	灰褐色 / にぶい黄橙色	底面に木葉痕あり	
第 220 図 86	甕	胴部	赤黄褐色粒子を含む	良好	褐灰色 / 明黄褐色	内外面とも横ナデされる	
第 220 図 87	甕	胴部	赤黄褐色粒子を含む	良好	褐灰色 / 明黄褐色	外面は横ハケ目、内面は横ナデされる	
第 220 図 88	甕	胴部	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	黒褐色 / 灰黄褐色	内外面とも横ナデされる	
第 220 図 89	鉄滓		長さ 2.1 ㎝、幅 1.2 ㎝、厚さ 1.1 ㎝、重さ 7.2g で、僅かにガラス状の付着物がみえる。				

第 57 表　遺構外出土弥生時代後期から古墳時代前期遺物一覧

挿図番号	器種	石材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	大分類	備考
第 221 図 90	ナイフ形石器	黒曜石	21.8	13.8	4.7	1.3	剥片石器系	旧石器：混入
第 221 図 91	石鏃	チャート	20.0	16.4	4.4	1.1	剥片石器系	有茎凹基
第 221 図 92	石鏃	黒曜石	13.8	10.2	2.0	0.2	剥片石器系	脚部・再生
第 221 図 93	楔形石器	黒曜石	11.7	8.2	5.2	0.4	剥片石器系	
第 221 図 94	楔形石器	黒曜石	15.7	14.4	2.7	0.5	剥片石器系	
第 221 図 95	二次的剥離のある剥片	チャート	25.0	29.5	9.5	7.4	剥片石器系	
第 221 図 96	不規則剥離のある剥片	黒曜石	30.0	14.6	5.1	1.5	剥片石器系	上下に楔形石器的な剥離
第 221 図 97	不規則剥離のある剥片	黒曜石	18.3	17.2	3.7	0.8	剥片石器系	
第 221 図 98	不規則剥離のある剥片	黒曜石	18.9	11.7	2.6	0.4	剥片石器系	
第 221 図 99	剥片	チャート	40.3	19.1	9.3	5.1	剥片石器系	
第 221 図 100	剥片	黒曜石	17.8	13.9	4.8	0.9	剥片石器系	
第 221 図 101	剥片	黒曜石	17.6	20.5	5.2	1.3	剥片石器系	
第 221 図 102	剥片	黒曜石	13.1	8.2	6.4	0.7	剥片石器系	
第 221 図 103	剥片	黒曜石	13.8	19.1	4.4	1.1	剥片石器系	
第 221 図 104	剥片	黒曜石	8.2	10.3	3.9	0.3	剥片石器系	
第 221 図 105	剥片	黒曜石	13.2	16.0	3.0	0.7	剥片石器系	
第 221 図 106	剥片	黒曜石	16.1	14.3	4.4	0.7	剥片石器系	
第 221 図 107	剥片	チャート	32.1	11.3	7.6	2.5	剥片石器系	
第 221 図 108	砕片	チャート	19.7	21.3	12.0	7.6	剥片石器系	
第 221 図 109	打製石斧	ホルンフェルス	99.9	47.0	16.4	113.3	打製石斧系	端部敲打
第 221 図 110	打製石斧	砂岩	101.5	37.8	23.5	127.7	打製石斧系	短冊形
第 221 図 111	打製石斧	砂質片岩	102.0	38.0	18.6	87.1	打製石斧系	
第 221 図 112	打製石斧	ホルンフェルス	93.3	38.1	13.3	53.7	打製石斧系	短冊形
第 221 図 113	打製石斧	砂岩	77.8	58.4	26.4	109.8	打製石斧系	打製石斧系
第 221 図 114	打製石斧	ホルンフェルス	78.4	47.8	22.7	113.0	打製石斧系	短冊形
第 221 図 115	打製石斧	安山岩	79.1	43.8	17.8	61.9	打製石斧系	短冊形
第 221 図 116	打製石斧	砂岩	118.6	55.6	13.9	121.1	打製石斧系	撥形
第 221 図 117	打製石斧	砂岩	69.7	44.5	14.9	56.4	打製石斧系	短冊形
第 221 図 118	打製石斧	砂岩	66.9	49.4	24.2	85.0	打製石斧系	形態不明
第 221 図 119	打製石斧	ホルンフェルス	75.8	55.4	23.9	120.2	打製石斧系	
第 221 図 120	打製石斧	砂岩	79.9	69.4	17.7	103.0	打製石斧系	撥形
第 221 図 121	打製石斧	砂岩	64.4	56.6	12.3	51.8	打製石斧系	撥形
第 221 図 122	打製石斧	砂岩	48.1	53.7	16.5	51.1	打製石斧系	撥形
第 221 図 123	打製石斧	砂岩	49.8	46.8	10.4	31.2	打製石斧系	
第 221 図 124	打製石斧	砂岩	64.0	57.5	24.3	79.4	打製石斧系	破片
第 221 図 125	打製石斧	砂岩	50.2	31.7	13.3	22.5	打製石斧系	形態不明
第 221 図 126	打製石斧	ホルンフェルス	49.0	31.8	16.6	30.4	打製石斧系	
第 221 図 127	打製石斧	砂岩	54.0	35.6	14.3	36.6	打製石斧系	
第 221 図 128	打製石斧	砂岩	28.2	26.0	11.3	6.7	打製石斧系	形態不明 / 裂片
第 221 図 129	打製石斧	片状砂岩	49.3	37.5	19.1	47.3	打製石斧系	破片
第 221 図 130	打製石斧	砂岩	33.2	46.7	14.1	25.1	打製石斧系	破片
第 221 図 131	打製石斧	砂岩	58.7	51.6	19.3	46.9	打製石斧系	

第 58 表　遺構外出土石器一覧（１）

挿図番号	器種	石材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	大分類	備考
第 221 図 132	打製石斧	砂岩	50.6	27.2	17.6	26.6	打製石斧系	形態不明 / 裂片・被熱
第 221 図 133	打製石斧	砂岩	32.2	32.4	17.6	19.6	打製石斧系	形態不明 / 裂片
第 221 図 134	打製石斧	砂岩	31.8	50.0	10.6	12.3	打製石斧系	形態不明
第 221 図 135	二次的剥離のある剥片	頁岩	56.2	64.4	14.2	61.1	剥片石器系	
第 221 図 136	磨製石斧	凝灰岩	54.2	24.2	20.3	47.1	磨製石斧系	側面敲打
第 221 図 137	磨製石斧	凝灰岩	51.0	32.5	23.8	45.0	磨製石斧系	端部敲打（粗）+ 側面敲打（細）
第 221 図 138	磨石	砂岩	57.6	77.5	36.2	182.9	礫石器系	側面敲打 + 面取り状敲打
第 221 図 139	磨石	閃緑岩	48.7	60.9	37.8	162.9	礫石器系	石皿の可能性あり
第 221 図 140	磨石類	閃緑岩	47.7	23.3	28.4	32.3	礫石器系	
第 221 図 141	敲石	砂岩	129.7	38.5	31.6	217.9	礫石器系	側面敲打 + 端部敲打
第 221 図 142	敲石	砂岩	128.6	45.4	29.8	236.6	礫石器系	側面敲打 + 端部面敲打
第 221 図 143	敲石	砂岩	88.3	51.3	31.3	154.2	礫石器系	側縁敲打 + 端部敲打
第 221 図 144	敲石	砂岩	83.8	49.8	37.7	220.7	礫石器系	側面敲打 + 稜敲打（破損面）
第 221 図 145	敲石	ホルンフェルス	99.3	85.2	43.7	495.8	礫石器系	側面敲打
第 221 図 146	敲石	チャート	114.4	58.2	46.9	349.9	礫石器系	稜敲打（破損面）+ 端部面敲打
第 221 図 147	敲石	チャート	115.4	49.1	25.5	151.0	礫石器系	側面敲打
第 221 図 148	敲石	安山岩	64.2	48.3	31.4	153.8	礫石器系	側面敲打（右）：特殊磨石状 + 端部敲打
第 221 図 149	敲石	ホルンフェルス	92.7	58.3	30.4	201.7	礫石器系	端部面敲打 + 側面敲打
第 221 図 150	敲石	安山岩	70.1	44.0	23.8	114.9	礫石器系	端部敲打 + 側面敲打 + 平坦面敲打（スタンプ状）
第 221 図 151	敲石	砂岩	92.7	45.0	30.9	162.8	礫石器系	端部敲打 / 側面敲打
第 222 図 152	敲石	安山岩	82.6	52.8	31.1	154.1	礫石器系	特殊磨石
第 222 図 153	敲石	砂岩	139.4	51.2	32.4	319.3	礫石器系	側面敲打
第 222 図 154	敲石	砂岩	89.9	49.7	23.3	187.9	礫石器系	側面敲打 + 稜敲打（破損面）
第 222 図 155	敲石	砂岩	89.5	47.9	36.3	202.5	礫石器系	側面敲打 / 断面三角形 / 特殊磨石状、破損面敲打（スタンプ状）
第 222 図 156	敲石	砂岩	79.5	46.6	30.7	178.0	礫石器系	側面敲打 + 破損面敲打（スタンプ状）
第 222 図 157	敲石	ホルンフェルス	73.7	51.8	27.6	116.5	礫石器系	側縁敲打
第 222 図 158	敲石	砂岩	62.2	49.0	36.6	125.3	礫石器系	側面敲打（部分）
第 222 図 159	石皿	閃緑岩	243.0	249.5	62.6	5994.4	礫石器系	扁平石皿 + 小さな椀状凹
第 222 図 160	石皿	砂岩（礫岩）	131.2	112.9	67.1	772.9	礫石器系	凹石（多孔：円錐）
第 222 図 161	石皿	閃緑岩	73.1	84.8	67.1	466.9	礫石器系	形態不明
第 222 図 162	砕片	閃緑岩	60.2	88.1	16.6	67.3	礫石器系	石皿裂片
第 222 図 163	凹石	緑泥片岩	121.6	57.6	21.8	227.1	礫石器系	片岩製石器、表：椀状凹浅 ×2、裏：椀状凹浅 ×1、側面敲打 + 端部敲打
第 222 図 164	片岩製石器	緑泥片岩	121.4	51.5	16.4	135.1	片岩製石器系	
第 222 図 165	片岩製石器	緑泥片岩	83.6	57.1	29.6	147.6	片岩製石器系	石塊状
第 222 図 166	片岩製石器	緑泥片岩	58.3	27.0	11.0	17.6	片岩製石器系	
第 222 図 167	片岩製石器	砂質片岩	53.1	34.1	11.2	27.3	片岩製石器系	
第 222 図 168	片岩製石器	緑泥片岩	72.9	63.6	16.2	83.0	片岩製石器系	
第 222 図 169	片岩製石器	緑泥片岩	59.2	50.8	9.0	39.6	片岩製石器系	
第 222 図 170	打製石斧	凝灰岩	60.4	46.0	12.7	39.9	打製石斧系	短冊形
第 221 図 171	片岩製石器	緑泥片岩	65.7	45.3	13.1	41.2	片岩製石器系	
第 221 図 172	片岩製石器	結晶片岩	39.9	39.5	15.6	27.9	片岩製石器系	
第 222 図 173	片岩製石器	緑泥片岩	60.7	36.2	8.2	18.0	片岩製石器系	
第 222 図 174	片岩製石器	緑泥片岩	85.5	41.8	14.6	64.4	片岩製石器系	

第 59 表　遺構外出土石器一覧（２）

挿図番号	器種	長さ	口径	厚さ	重さ	備考
第 222 図 175	不明金属製品	2.5 ㎝	2.1 ㎝	1.7 ㎝	3.8g	裏面は幅 0.3 ㎝程間が開いている。下から 0.6 ㎝の部分に段が設けられ網目状の文様が、その文様の上部には側面に斜行する文様がみえる。また、内側は円錐形を呈し、上部へいくに従って内部は細くなるが、直径 2 ㎜程の幅を保ちながら先へ続くと思われる。566Y 内の攪乱から出土した。非破壊の蛍光 X 線分析の結果、検出された元素は Fe（鉄）、Cu（銅）、Sn（錫）、Sb（アンチモン）、Pb（鉛）の 5 元素である。組成的には鉛が約 60％、アンチモンが約 35％、錫が約 3 ％、銅は約 0.14％であった。Pb-Sb-Sn 系の鉛合金と思われる。

第 60 表　遺構外出土不明金属製品一覧

第４章　調査のまとめ

第１節　縄文時代中期の住居跡について

本調査では、縄文時代中期の住居跡が 10 軒検出された。ここでは、それら住居跡の層位的関係を整理するとともに、出土遺物について検討を加え、既存の土器型式編年（黒尾 1995、黒尾・小林・中山 2004）における時間的位置付けを行う。検出された住居跡の層位的な関係を第 223 図に、時期ごとの住居跡と遺物を第 224 図に示した。

１期：阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式（181J）

181J は出土遺物が乏しいが、阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式期の土器片が出土していること、住居の掘り込みが浅く、中央に地床炉を思われる被熱痕跡が確認されていることを考慮し、当該期に比定した。

２期：勝坂２式（180J）

１は炉体土器で、単列もしくは複列の各押文列が沿う断面カマボコ状の隆帯によって、口縁部重三角文や胴部抽象文が描かれている。主文様間の空白部が目立つことや、変形した口縁部重三角文、隆帯脇に沿う角押文の押引手法など、阿玉台式的な要素を看取できる。

３期：加曽利Ｅ１ｂ式期（90J、178J、179J）

90J は、頸部に無文帯を持ち、口縁部のＳ字状文の端部が中空の把手を形成する第 11 図４をはじめ、第 11 図３、そして既調査分からの出土資料（埼玉県志木市遺跡調査会 2009）から当該期とした。

178J は、床面に近い覆土から、２や３が出土している。２は、頸部に無文帯を持ち、口縁部には撚糸Ｌ地文、幅広の隆帯に沈線を施文する描出方法、変形したＳ字状文、やや立体的な把手を持つ。３は、撚糸Ｌ地文に二本一対の直状隆帯や一本の波状隆帯が垂下する。

179J からは、同心円状文を持つ土器（第 97 図５）、中空の把手を持つ土器（第 97 図７・９）、胴部の垂下隆帯が連結するＨ字状文を持つ土器（第 97 図 10・11）が出土している。

４期：加曽利Ｅ１ｃ期（174J 旧）

174J は５段階の建替が想定されるが、土器型式編年に照らした場合、炉２に埋設された炉体土器（４）や埋甕１（５）、P27 出土土器（６）などの床下から出土した土器と、次期で述べる埋甕２や覆土出土土器との時期差を見いだせることから、174J（旧）と（新）を設定した。４は曽利系の土器で、口縁部に無文帯を持ち、胴部には撚糸Ｌを地文に、頸部の波状隆帯から二本一対の直状隆帯と一本の波状隆帯が交互に垂下する。隆帯は背が低く抑えが甘い。５・６は、加曽利Ｅ式土器で、頸部に無文帯を持ち、胴部には直状隆帯と波状隆帯が交互に垂下する。６の口縁部には、隆帯による楕円区画文や突起化した上向きの渦巻文が描かれる。

５期：加曽利Ｅ２ｃ式期（174J 新）

174J の埋甕２（７）や覆土出土の８・９・10 などを根拠に当該期を設定した。８は、口縁部に渦巻文を持ち、頸部無文帯は消失、胴部は縄文地文に三本一対の直状沈線や一本の波状沈線が垂下する。その他、７・９・10 は連弧文系の土器で、時期の特定が難しいが、波状文化した連弧文（７・９）、間隙が狭い垂下文（10）が当該期の特徴であると判断した。

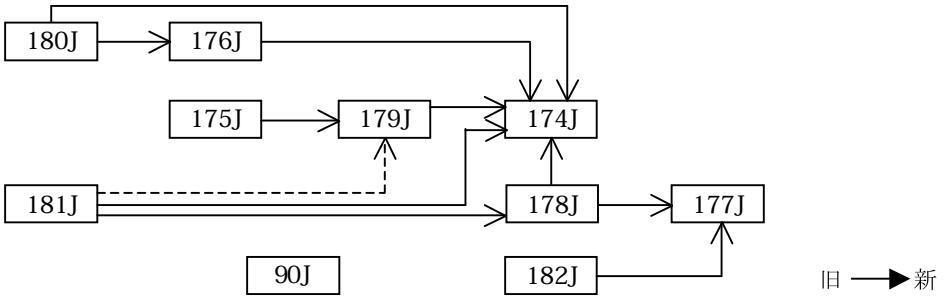
６期：加曽利Ｅ２～３式期（177J）

177J の炉体土器（11）の類例は管見に触れず、時期設定は難しいが、波状口縁の波頂部に施された

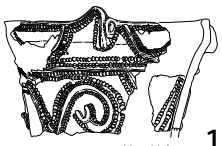
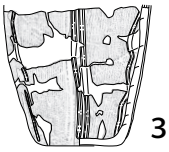
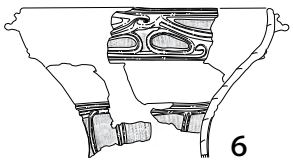
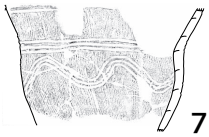
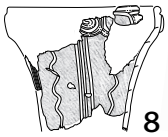
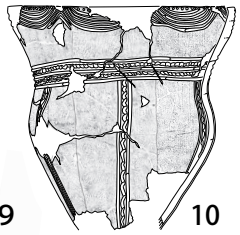
隆帯による渦巻文や、胴部に施された断面三角形の逆Ｕ字状の隆帯、そして主文様間を充填する集合沈線などの特徴から、当該期とした。おそらく曽利系の影響を強く受けた土器であろう。

その他の時期（175J、176J、182J）

出土遺物が僅少で時期設定が困難であるが、時期が判明している他住居との層位的関係から、175Jを３期以前、176Jを２～４期、182Jを６期以前と考えることができる。



第 223 図　住居跡の層位的関係

時　期	住居跡	土　　器
１期 （阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式期）	181J	
２期 （勝坂２式期）	180J	 1 180J-20（炉体）
３期 （加曽利Ｅ１ｂ式期）	90J 178J 179J	2 178J-9（炉体）  3 178J-27
４期 （加曽利Ｅ１ｃ式期）	174J （旧）	4 174J-103（炉体） 5 174J-282（埋甕１）  6 174J-185（P27）
５期 （加曽利Ｅ２ｃ式期）	174J （新）	 7 174J-438（埋甕２）  8 174J-230 9 174J-402  10 174J-417
６期 （加曽利Ｅ２～３式期）	177J	11 177J-5（炉体）

第 224 図　時期別住居跡・土器一覧

第２節　174 号住居跡の遺物出土状態について

今回調査した 174 ①地点は耕作による攪乱が著しく、遺構の遺存状態は良いものではなかった。しかし、174 号住居跡は壁高が 60cm 前後と他の住居より床面が低かったため遺存状態が良好であった。また、調査方法でも親指の第一関節程度の土器片も出土位置を記録したことにより、遺物数は 6,202 点を数え、一括で取り上げた遺物を含めるとコンテナで 30 箱分となった。174 号住居跡の主な層位は１～５層で、４層はローム粒を多量に含む層である。出土遺物はこの４層と２層の境界部分、あるいは２層から多く出土している。

174 号住居跡から出土した土器は多くが加曽利Ｅ式の土器であり、勝坂式～加曽利Ｅ２式までが中心となる。特に加曽利Ｅ２式が大部分を占め、その他に阿玉台式、勝坂式、曽利式、連弧文が含まれる。

阿玉台式は出土量が少ないが、主に４層に確認できる（第 21 図）。

勝坂式は遺構全体に広く分布している（第 21 図）。１層には勝坂１・２式が見られ、２・３層では勝坂２～３式が主体となる。４層でも同様に勝坂２～３式が主体となるが、上部に阿玉台Ⅰ・Ⅱ式も見られる。床直には勝坂３式が分布する。

曽利式は遺構全体に広く分布している（第 22 図）。１層には曽利Ⅱ～Ⅲ式が少量確認できる。２層は曽利Ⅱ・Ⅱ～Ⅲ式が集中している。３層は曽利Ⅱ～Ⅲ式が僅かに確認できる。４層はほぼ曽利Ⅱ～Ⅲ式が占め、床直にも曽利Ⅱ～Ⅲ式が分布する。

加曽利Ｅ式は遺構全体に大量に分布している（第 23 図）。１層は加曽利Ｅ２式が多く出土しているが、加曽利Ｅ１式もやや多く出土している。２層には１層と同様に加曽利Ｅ１式も出土しているが、主体となるのは加曽利 E2 式である。２層と４層の境界部分にやや集中しているようである。また、加曽利Ｅ２～３式も見られる。３・４層でも加曽利Ｅ２式が大部分を占め、４・５層の境界部分には沿う様に分布している。床直には加曽利Ｅ２が多く分布し、貼床下の閉塞されたピットの一部からは加曽利Ｅ１～２・２式の土器片が出土している。

連弧文は遺構全体に広く分布している（第 24 図）。１層からは連弧文２式が僅かに確認できる。出土した連弧文の多くは２層からの出土である。連弧文の２・２～３式が主体となるが、連弧文１式もみられる。４層は連弧文２式が僅かに出土している。また、連弧文に関しては床直からの明確な検出は確認できなかった。

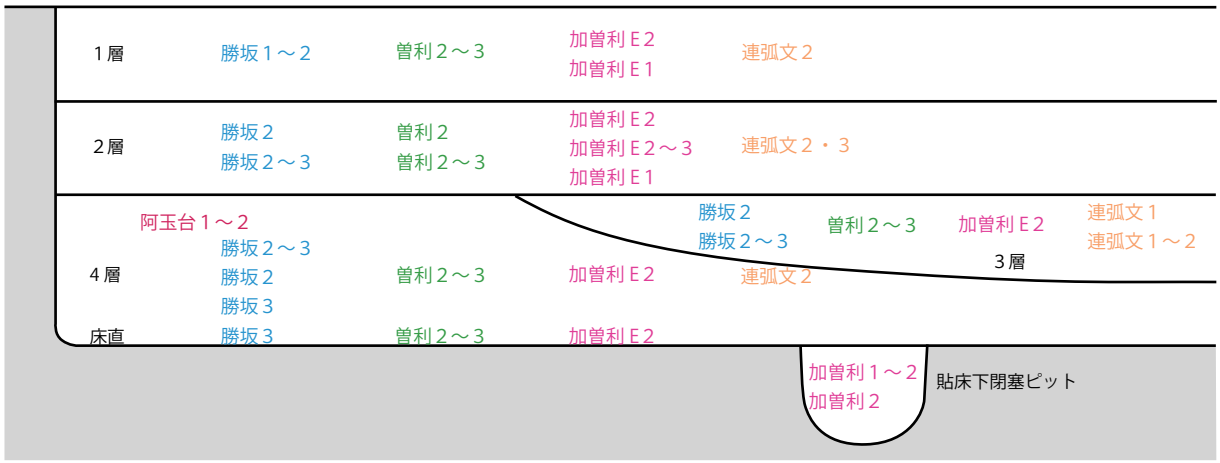
174 号住居跡からは曽利Ⅱ式の炉体土器、加曽利 E1・2 式、連弧文２～３式の埋甕が出土している。このことから、この住居は主に加曽利 E1 ～２式を中心とした住居である可能性が高いと考えられる。土器は４層と２層の境界部分から上層にかけて集中して出土しているが、加曽利 E2 式に関しては住居の１層から４層にかけて多量に分布し、更には他型式の出土が少ない４層中及び床直からも比較的多く出土している。1・2 層からも加曽利 E1・2 ～３式と共に出土している。また、加曽利Ｅ式に他の型式の土器ががそれぞれ伴うが、これらの土器も既存の編年に従って出土しているとは限らない。

床直からは主に勝坂３式と加曽利 E2 式、曽利Ⅱ～Ⅲ式が出土している。４層で勝坂２～３式、曽利Ⅱ～Ⅲ式、加曽利 E2 式、連弧文２式、３層では勝坂２・２～３式、曽利２～３式、加曽利 E2 式、連弧文１・１～２式、２層では勝坂２～３式、曽利Ⅱ式、加曽利 E2 式に加え E1・E3 式、連弧文では２・

３式が出土し、１層では勝坂１～２式、曽利Ⅱ～Ⅲ式、加曽利E1・２式、連弧文２式が出土している。勝坂式では上層程古い土器が検出される逆転現象を起こし、加曽利E式を含め他の型式でも古い段階の土器と新しい段階の土器が前後して出土している。この加曽利E1式を含め、編年に沿わない土器は174号住居に由来するものではなく、他住居の覆土の混入など人的な行為を伴うものであったのかもしれない。勝坂式に関しても、174号住居跡は176号住居跡・178号住居跡・179号住居跡・181号住居跡を切っているため、それらの住居から混入した場合、あるいは覆土に受けた攪乱の影響も考えられる。

また、174号住居の土屋根と考えらる４層において、174号住居の廃絶時期を考えた場合に４層中の土器と床直の土器に大きな時期差が見られない。このことから、土屋根が崩落するまでにそれほど長い時間が経過していない可能性が考えられる。一方で、Michael Deal、Melissa B.Hagstrum の「Ceramic Reuse Behavior among the Maya and Wanka　Implications for Archaeology」によると、民族事例として藁葺き屋根の漏水を防ぐため、割れた土器を屋根の上にのせるという土器の再利用方法が指摘されている１)。この様な住居の場合では、住居が廃絶した時に上層の土器が床面の土器と同時期、あるいは古い段階になる可能性がある。

今回の174号住居跡で見られた編年に沿わない土器の出土状態は今後の調査・研究の進展とともに引き続き検討を深めていく必要がある。



第225図　174号住居跡セクション模式図

１）　直接的に民族事例イコール考古学的事実とはならないが、現象面を情報化するための観察視点の補助になり得ると考えられる。

参考文献

今福理恵 2008「勝坂式土器」『総覧　縄文土器』小林達雄

神奈川考古同人会 1980『縄文時代中期後半の諸問題 - とくに加曽利 E 式と曽利式土器との関係について - 土器資料集成図集』神奈川考古 10 号 神奈川考古同人会

神奈川考古同人会 1980「神奈川県における縄文時代中期後半土器編年試案　第 2 版」『縄文時代中期後半の諸問題 - とくに加曽利 E 式と曽利式土器との関係について - 土器資料集成図集』神奈川考古 10 号 神奈川考古同人会

金子直行 1996「加曽利 E 式土器」『日本土器事典』大川清・鈴木公雄・工楽善通

加納　実 2008「堀之内式土器」『総覧　縄文土器』小林達雄

黒尾和久 1995「縄文中期集落遺跡の基礎的検討（1)」『論集宇津木台』第 1 集 宇津木台地区考古学研究会

小林達雄 1965「（３）遺物埋没状態及びそれに派生する問題（土器破棄処分の問題)」『米島貝塚』 庄和町文化財調査報告第 1 集

佐々木保俊・関根正明・上田寛・内野美津江・宮川幸佳 2001「第 3 章　西原大塚遺跡第 43 地点の調査」『志木市遺跡群 11』志木市の文化財第 30 集 埼玉県志木市教育委員会

佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2000『西原大塚遺跡第 45 地点発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第 6 集 埼玉県志木市遺跡調査会

埼玉県志木市遺跡調査会 2009『西原大塚遺跡Ⅰ　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第 13 集 埼玉県志木市遺跡調査会

埼玉県志木市遺跡調査会 2009『西原大塚遺跡Ⅱ　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第 13 集　埼玉県志木市遺跡調査会

縄文集落研究グループ・セツルメント研究会 2004『縄文集落研究の新地平 3- 勝坂から曽利へ - 発表要旨』 縄文集落研究グループ・セツルメント研究会

縄文集落研究グループ・セツルメント研究会 2004『縄文集落研究の新地平 3- 勝坂から曽利へ - 資料集』 縄文集落研究グループ・セツルメント研究会

中島庄一 2008「称名寺式土器」『総覧　縄文土器』小林達雄

永瀬史人 2008「連弧文土器」『総覧　縄文土器』小林達雄

中山真治 2005「縄文時代中期の彩色された浅鉢についての覚え書き - 関東地方西南部の中期集落資料を中心に -」『東京考古』23 号 東京考古談話会

細田　勝 1996「阿玉台式土器」『日本土器事典』大川清・鈴木公雄・工楽善通

Michael Deal・Melissa B.Hagstrum 1995「Ceramic Reuse Behavior among Maya and Wanka Implications for Archaeology」『Expanding Archaeology』University of Utah Press

山形真理子 1996「曽利式土器の研究 - 内的展開と外的交渉の歴史 -（上)」『東京大学考古学研究室紀要』14

山形真理子 1997「曽利式土器の研究 - 内的展開と外的交渉の歴史 -（下)」『東京大学考古学研究室紀要』15

［付　　編］

自然科学分析

付編 西原大塚遺跡 174 ①地点 174 号住居跡出土骨の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西原大塚遺跡（埼玉県志木市幸町に所在）は、柳瀬川を北西に臨む台地上に位置し、これまでの調査により旧石器時代～奈良・平安時代にかけての集落跡として知られている。今回の調査地点は西原大塚遺跡のほぼ中央部に位置し、173 次に及ぶ調査で明らかになってきた環状集落の範囲とされている。今回､縄文時代中期とされる大型住居内炉から出土した埋甕内に認められた骨片について検討した。

1．試料

試料は、174 号住居 2 号炉の埋甕内 No.1 として一括された微小、微細な骨片数十片であり、土壌中に骨片が混じる状態にあった。174 号住居跡は、平面楕円形を呈し、内部に 2 基の炉（1 号炉･2 号炉）が検出された。この内、2 号炉は、楕円形を呈する埋甕炉で、深鉢形土器の上半部が埋設されている。

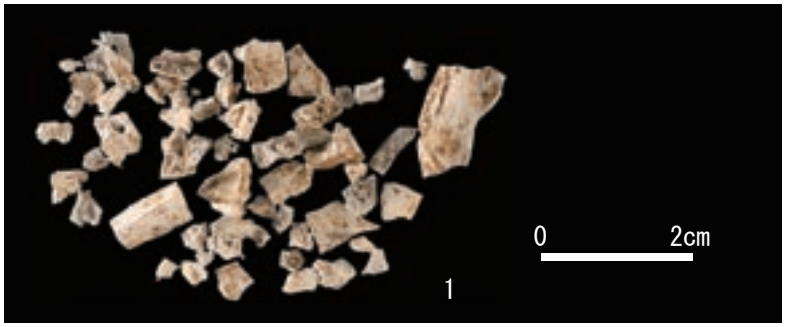
2．分析方法

土壌が乾燥している状態であり、骨が極めて脆いため水洗すると消失する可能性があった。そこで、乾燥した状態のままで試料を 2 ㎜の篩にかけ、篩上に残った中から骨片を抽出した。抽出した骨片を肉眼および実体顕微鏡にて観察し、種類を同定する。

3．結果および考察

分析試料からは、微細な骨片 61 片、および残渣 17.72 ｇである。微細な破片が多く、関節部など種類を特定するのに特徴的な部位がみられない。ただし、緻密質の厚さなどからみて哺乳類に由来する可能性がある。縄文時代においては、ニホンジカやイノシシなどが狩猟され、遺跡内から出土する事例が多い。本遺跡も同様であった可能性がある。

また、骨片は、白色～灰白色を呈し、表面にひび割れが生じ、海綿質が粉状になる等、焼骨の特徴を示す。このことから、食料残滓などが廃棄され、骨の状態で焼かれたものと思われる。埋甕炉が廃絶された後、周辺に破棄された焼骨が土壌とともに入り込んだか、意図的に入れられたことなどが考えられる。



出土骨【種類不明焼骨（174 号住居跡：２号炉埋甕内 No. １）】

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	にしはらおおつかいせきだい 174 ①ちてんまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ		
書　　名	西原大塚遺跡第 174 ①地点　埋蔵文化財発掘調査報告書		
副　書　名			
シ リ ー ズ 名	志木市の文化財	巻　　次	第 55 集
編　著　者	徳留彰紀　尾形則敏　藤波啓容　松木綾子		
編　集　機　関	埼玉県志木市教育委員会		
所　在　地	〒 353-0002　埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号　TEL 048（473）1111		
発 行 年 月 日	平成 25（2013）年 3 月 31 日		

所収遺跡名	所在地	コード		北緯（°′″）	東経（°′″）	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西原大塚遺跡（第 174 ①地点）	志木市幸町 3 丁目 7204-3 の一部	11228	09-007	35°82′50″	139°56′23″	20111019 ～ 20120113	627.54	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西原大塚遺跡（第 174 ①地点）	集落	縄文時代中期 弥生時代後期から古墳時代前期	住居跡 10 軒 土坑 44 基 ピット 87 基 炉跡 2 基 住居跡 4 軒	勝坂式土器、加曽利Ｅ１・２式土器、石器 壺形土器、甕形土器・高杯形土器・金属製品	
要　　約	西原大塚遺跡は志木市の南西端にあたる幸町 3 丁目を中心に広がる市域最大規模の遺跡である。柳瀬川を北西に望む台地上に位置し、189 地点に及ぶ調査により旧石器時代から縄文、弥生、古墳、奈良・平安時代にかけての集落遺跡として知られている。 今回の調査地点は西原大塚遺跡のほぼ中央に位置し、環状集落の範囲にあたる。検出された遺構・遺物は 174 号住居跡を中心に縄文時代中期の勝坂式～加曽利Ｅ式が主体となる。また、調査範囲の西側には弥生時代後期から古墳時代前期の住居が 4 軒検出されている。				

志木市の文化財　第 55 集

西原大塚遺跡第 174 ①地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号
発行日　平成 25（2013）年 3 月 31 日
印　刷　能登印刷株式会社